



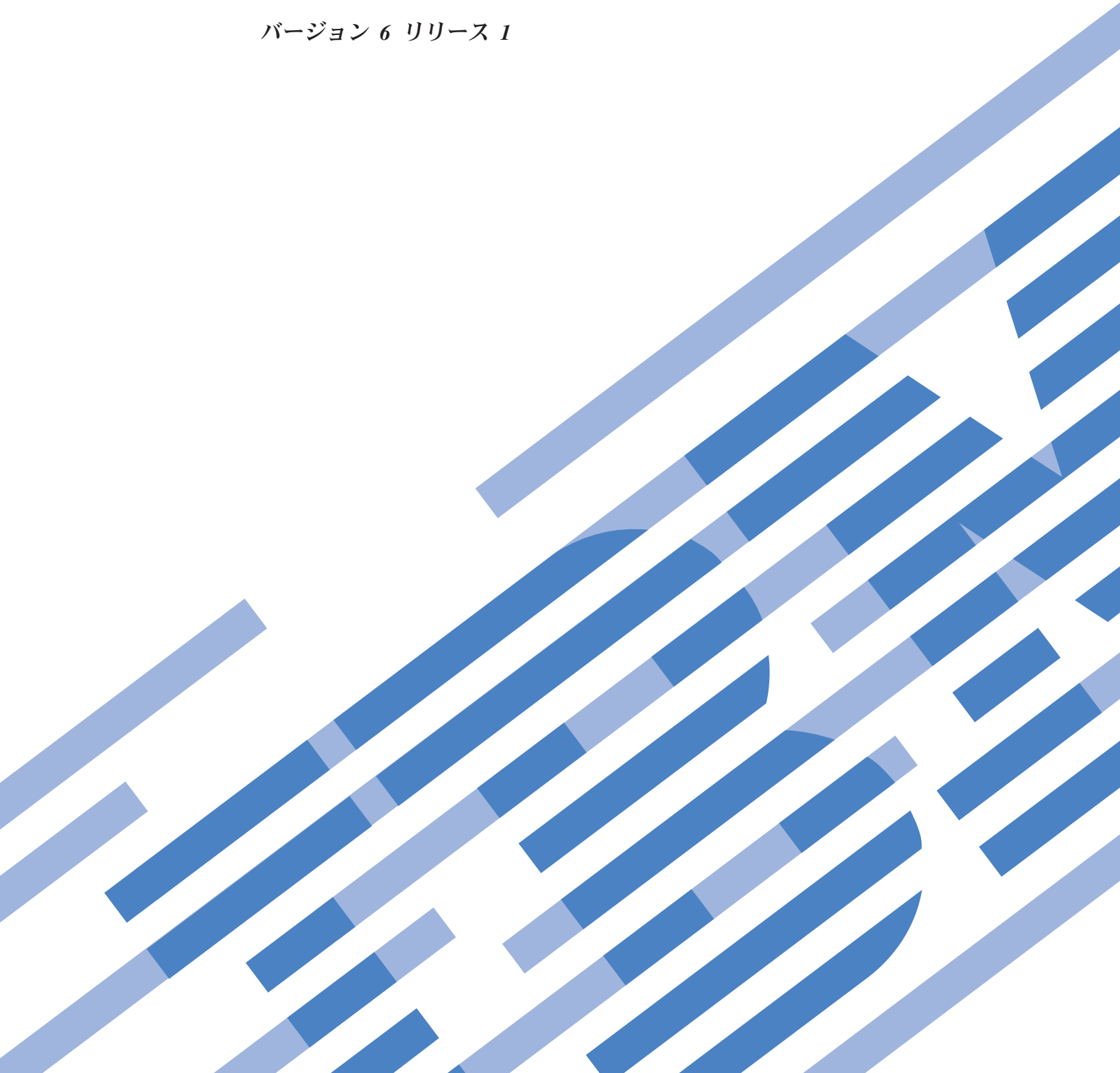
System i

プログラミング

i5/OS コマンド

DSPLIBL (ライブラリー・リスト表示) ~

バージョン 6 リリース 1







System i

プログラミング

i5/OS コマンド

DSPLIBL (ライブラリー・リスト表示) ~

バージョン 6 リリース 1

**ご注意**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、433 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (プロダクト番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i  
Programming  
i5/OS commands  
Starting with DSPLIBL (Display Library List)  
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

# 目次

<b>ライブラリー・リスト表示 (DSPLIBL)</b>	<b>1</b>
パラメーター	1
出力 (OUTPUT)	1
例	1
エラー・メッセージ	1
<b>ライセンス・キー情報の表示 (DSPLICKEY)</b>	<b>3</b>
パラメーター	3
プロダクト識別コード (PRDID)	4
ライセンス条件 (LICTRM)	4
機能 (FEATURE)	4
システム製造番号 (SERIAL)	4
出力 (OUTPUT)	5
ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)	5
ライセンス・キー・メンバー (LICKEYMBR)	6
例	6
エラー・メッセージ	6
<b>回線記述の表示 (DSPLIND)</b>	<b>7</b>
パラメーター	7
回線記述 (LIND)	7
出力 (OUTPUT)	7
オプション (OPTION)	8
例	8
エラー・メッセージ	9
<b>オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)</b>	<b>11</b>
パラメーター	11
オブジェクト (OBJ)	12
出力 (OUTPUT)	13
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	13
詳細 (DETAIL)	13
表示オプション (DSPOPT)	14
例	14
エラー・メッセージ	14
<b>ログ表示 (DSPLOG)</b>	<b>15</b>
パラメーター	15
ログ (LOG)	15
ログ出力の期間 (PERIOD)	16
出力 (OUTPUT)	17
表示するジョブ (JOB)	18
メッセージ識別コード (MSGID)	19
例	19
エラー・メッセージ	19
<b>マウントFS情報の表示 (DSPMFSINF)</b>	<b>21</b>
パラメーター	21
オブジェクト (OBJ)	21

出力 (OUTPUT)	22
例	22
エラー・メッセージ	22
<b>メニュー属性表示 (DSPMNUA)</b>	<b>23</b>
パラメーター	23
メニュー (MENU)	24
出力 (OUTPUT)	24
例	24
エラー・メッセージ	24
<b>モジュールの表示 (DSPMOD)</b>	<b>27</b>
パラメーター	27
モジュール (MODULE)	28
詳細 (DETAIL)	28
出力 (OUTPUT)	29
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	29
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	30
例	30
エラー・メッセージ	31
<b>モード記述表示 (DSPMODD)</b>	<b>33</b>
パラメーター	33
モード記述 (MODD)	33
出力 (OUTPUT)	33
例	33
エラー・メッセージ	34
<b>モジュール・ソースの表示 (DSPMODSRC)</b>	<b>35</b>
パラメーター	35
例	35
エラー・メッセージ	35
<b>モード状況表示 (DSPMODSTS)</b>	<b>37</b>
パラメーター	37
装置 (DEV)	37
モード (MODE)	37
出力 (OUTPUT)	38
例	38
エラー・メッセージ	38
<b>メッセージ表示 (DSPMSG)</b>	<b>39</b>
パラメーター	39
MSG 待ち行列 (MSGQ)	40
出力 (OUTPUT)	40
メッセージ・タイプ (MSGTYPE)	41
最初に表示するメッセージ (START)	41
重大度コード・フィルター (SEV)	42
援助レベル (ASTLVL)	42
例	43

エラー・メッセージ	43
<b>メッセージ記述表示 (DSPMSGD)</b>	<b>45</b>
パラメーター	45
メッセージ識別コードの範囲 (RANGE)	45
メッセージ・ファイル (MSGF)	46
詳細 (DETAIL)	46
メッセージ・テキストの形式 (FMTTXT)	47
出力 (OUTPUT)	47
例	47
エラー・メッセージ	48
<b>ニックネームの表示 (DSPNCK)</b>	<b>49</b>
パラメーター	49
ニックネーム (NCK)	50
ニックネームのタイプ (TYPE)	50
所有者 (OWNER)	50
出力 (OUTPUT)	51
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	51
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	52
例	52
エラー・メッセージ	53
<b>ネットワーク属性表示 (DSPNETA)</b>	<b>55</b>
パラメーター	55
出力 (OUTPUT)	55
例	55
エラー・メッセージ	55
<b>ノード・グループの表示 (DSPNODGRP)</b>	<b>57</b>
パラメーター	57
ノード・グループ(NODGRP)	57
出力 (OUTPUT)	58
例	58
エラー・メッセージ	58
<b>NETBIOS記述の表示 (DSPNTBD)</b>	<b>59</b>
パラメーター	59
NETBIOS記述 (NTBD)	59
出力 (OUTPUT)	59
例	59
エラー・メッセージ	60
<b>ネットワーク・インターフェース記述の表示 (DSPNWID)</b>	<b>61</b>
パラメーター	61
ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)	61
出力 (OUTPUT)	61
オプション (OPTION)	62
例	62
エラー・メッセージ	62
<b>NWS属性の表示 (DSPNWSA)</b>	<b>65</b>
パラメーター	65
オプション (OPTION)	65
出力 (OUTPUT)	65

例	66
エラー・メッセージ	66
<b>NWS構成の表示 (DSPNWSCFG)</b>	<b>67</b>
パラメーター	67
ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)	67
オプション (OPTION)	67
出力 (OUTPUT)	68
例	68
エラー・メッセージ	68
<b>ネットワーク・サーバー記述の表示 (DSPNWSD)</b>	<b>69</b>
パラメーター	69
ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)	69
出力 (OUTPUT)	69
オプション (OPTION)	70
例	70
エラー・メッセージ	70
<b>NWS記憶スペースの表示 (DSPNWSSTG)</b>	<b>73</b>
パラメーター	73
ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	73
出力 (OUTPUT)	73
例	73
エラー・メッセージ	74
<b>NWSユーザー属性の表示 (DSPNWSUSRA)</b>	<b>75</b>
パラメーター	75
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	75
プロファイル・タイプ (PRFTYPE)	75
オプション (OPTION)	76
出力 (OUTPUT)	76
例	76
エラー・メッセージ	76
<b>オブジェクト権限表示 (DSPOBJAUT)</b>	<b>77</b>
パラメーター	77
オブジェクト (OBJ)	79
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	79
ASP装置 (ASPDEV)	79
出力 (OUTPUT)	80
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	80
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	80
権限タイプ (AUTTYPE)	81
例	81
エラー・メッセージ	82
<b>オブジェクト記述表示 (DSPOBJD)</b>	<b>83</b>
パラメーター	84
オブジェクト (OBJ)	85
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	87
詳細 (DETAIL)	87
ASP装置 (ASPDEV)	88
出力 (OUTPUT)	89

出力を受け取るファイル (OUTFILE)	89
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	89
例	90
エラー・メッセージ	90

## OPTICONNECTリンク状況の表示

### (DSPOPCLNK) 93

パラメーター	93
出力 (OUTPUT)	93
例	93
エラー・メッセージ	94

### 光ディスク表示 (DSPOPT) 95

パラメーター	95
ボリューム識別コード (VOL)	96
光ディスク装置 (DEV)	96
データ・タイプ (DATA)	96
出力 (OUTPUT)	97
パス (PATH)	97
ユーザー・スペース (USRSPC)	98
ユーザー空間置き換え (REPLACE)	98
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	99
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	99
例	100
エラー・メッセージ	100

### 光ディスク・ロック表示 (DSPOPTLCK) 105

パラメーター	105
タイプ (TYPE)	105
ボリューム識別コード (VOL)	105
パス (PATH)	106
出力 (OUTPUT)	106
例	106
エラー・メッセージ	106

## 光ディスク・サーバー表示

### (DSPOPTSVR) 107

パラメーター	107
タイプ (TYPE)	107
出力 (OUTPUT)	107
例	108
エラー・メッセージ	108

### OSPFの表示 (DSOSPF) 109

パラメーター	109
OSPFバージョン (IPVERSION)	109
オプション (OPTION)	109
構成情報 (CONFIG)	110
状態情報 (STATE)	110
インターフェース (IFC)	110
近隣 (NGH)	110
リンク状態の公示 (LSA)	111
例	111
エラー・メッセージ	111

### 一時変更表示 (DSPOVR) 113

パラメーター	113
一時変更されるファイル名 (FILE)	113
一時変更組み合わせ (MRGOVR)	114
呼び出しレベル (LVL)	114
活動化グループ (ACTGRP)	115
出力 (OUTPUT)	115
例	115
エラー・メッセージ	116

## PDGプロファイルの表示

### (DSPPDGPRF) 117

パラメーター	117
ユーザー (USER)	117
出力 (OUTPUT)	117
例	118
エラー・メッセージ	118

### 物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM) 119

パラメーター	119
ファイル (FILE)	119
メンバー (MBR)	119
開始レコード (FROMRCD)	120
例	120
エラー・メッセージ	121

### プログラム表示 (DSPPGM) 123

パラメーター	123
プログラム (PGM)	123
出力 (OUTPUT)	124
詳細 (DETAIL)	124
例	125
エラー・メッセージ	125

### プログラム借用表示 (DSPPGMADP) 127

パラメーター	127
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	127
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	128
出力 (OUTPUT)	128
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	128
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	129
例	129
エラー・メッセージ	130

### プログラム参照表示 (DSPPGMREF) 131

パラメーター	132
プログラム (PGM)	133
出力 (OUTPUT)	134
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	134
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	135
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	135
例	136
エラー・メッセージ	136

### プログラム変数表示 (DSPPGMVAR) 139

パラメーター	139
プログラム変数 (PGMVAR)	139

出力形式 (OUTFMT) . . . . .	140
出力 (OUTPUT) . . . . .	140
プログラム (PGM). . . . .	141
文字出力開始位置 (START). . . . .	141
表示する文字数 (LEN) . . . . .	141
反復レベル (RCRLVL) . . . . .	142
例 . . . . .	142
エラー・メッセージ . . . . .	142

**問題の表示 (DSPPRB) . . . . . 143**

パラメーター . . . . .	143
問題識別コード (PRBID) . . . . .	144
状況タイプ (STATUS) . . . . .	144
重大度 (SEV) . . . . .	145
期間 (PERIOD) . . . . .	146
ハードウェア (HARDWARE) . . . . .	147
資源名 (RESOURCE) . . . . .	147
プロダクト (LICPGM) . . . . .	148
機能 (FUNCTION). . . . .	148
プログラム (PGM). . . . .	151
メッセージ識別コード (MSGID) . . . . .	151
起点 (ORIGIN) . . . . .	151
サービス番号 (SRVID) . . . . .	152
ブランチ番号 (BRANCH) . . . . .	152
国または地域番号 (COUNTRY) . . . . .	152
ユーザー割り当て (ASNUSER). . . . .	152
グループ割り当て (GROUP) . . . . .	153
問題タイプ (PRBTYPE) . . . . .	153
問題カテゴリー (PRBCGY) . . . . .	153
出力 (OUTPUT) . . . . .	153
出力を受け取るファイル (OUTFILE). . . . .	154
出力メンバー・オプション (OUTMBR) . . . . .	154
情報のタイプ (TYPE). . . . .	155
例 . . . . .	155
エラー・メッセージ . . . . .	156

**PSF構成の表示 (DSPPSFCFG) . . . . . 157**

パラメーター . . . . .	157
PSF構成 (PSFCFG) . . . . .	157
出力 (OUTPUT) . . . . .	158
例 . . . . .	158
エラー・メッセージ . . . . .	158

**プログラム一時修正表示 (DSPPTF) . . . 159**

パラメーター . . . . .	159
プロダクト (LICPGM) . . . . .	159
選択するPTF番号 (SELECT) . . . . .	160
リリース (RLS). . . . .	160
カバー・レターのみ (COVERONLY). . . . .	161
出力 (OUTPUT) . . . . .	161
出力を受け取るファイル (OUTFILE). . . . .	161
出力メンバー・オプション (OUTMBR) . . . . .	162
例 . . . . .	162
エラー・メッセージ . . . . .	162

**PTFカバー・レターの表示**

**(DSPPTFCVR) . . . . . 165**

パラメーター . . . . .	165
プロダクト (LICPGM) . . . . .	165
選択するPTF番号 (SELECT) . . . . .	165
リリース (RLS). . . . .	166
属性 (CVRATR) . . . . .	166
カバー・レター言語 (CVRLTRLNG). . . . .	167
出力 (OUTPUT) . . . . .	168
例 . . . . .	168
エラー・メッセージ . . . . .	168

**電源オン/オフ・スケジュールの表示**

**(DSPPWRSCD). . . . . 171**

パラメーター . . . . .	171
出力 (OUTPUT) . . . . .	171
開始日付 (STRDATE). . . . .	171
日数 (DAYS) . . . . .	172
例 . . . . .	172
エラー・メッセージ . . . . .	172

**レコード・ロック表示 (DSPRCDLCK) 173**

パラメーター . . . . .	173
物理ファイル (FILE) . . . . .	173
メンバー (MBR) . . . . .	174
レコード番号 (RCDNBR) . . . . .	174
出力 (OUTPUT) . . . . .	174
例 . . . . .	174
エラー・メッセージ . . . . .	174

**アクセス・パスの回復の表示**

**(DSPRCYAP). . . . . 177**

パラメーター . . . . .	177
出力 (OUTPUT) . . . . .	177
ASP装置 (ASP). . . . .	178
ASPグループ (ASPGRP). . . . .	178
例 . . . . .	178
エラー・メッセージ . . . . .	179

**RDBディレクトリー項目の表示**

**(DSPRDBDIRE). . . . . 181**

パラメーター . . . . .	181
項目 (RDB) . . . . .	181
出力 (OUTPUT) . . . . .	181
出力を受け取るファイル (OUTFILE). . . . .	182
出力メンバー・オプション (OUTMBR). . . . .	182
例 . . . . .	183
エラー・メッセージ . . . . .	183

**リモート定義の表示 (DSPRMTDFN) 185**

パラメーター . . . . .	185
システム名 (SYSTEM) . . . . .	185
出力 (OUTPUT) . . . . .	186
出力を受け取るファイル (OUTFILE). . . . .	186
出力メンバー・オプション (OUTMBR). . . . .	187



例	187	ジョブ・システム名 (JOBYSYSNAME)	210
エラー・メッセージ	187	作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	211
<b>S/36構成の表示 (DSPS36)</b>	<b>189</b>	レコードの折り返し (FOLD)	211
パラメーター	189	例	212
出力 (OUTPUT)	189	エラー・メッセージ	212
例	189	<b>サービス属性の表示 (DSPSRVA)</b>	<b>215</b>
エラー・メッセージ	189	パラメーター	215
<b>保管ファイル表示 (DSPSAVF)</b>	<b>191</b>	例	215
パラメーター	191	エラー・メッセージ	215
保管ファイル (FILE)	191	<b>サービス・エージェントの表示</b>	
出力 (OUTPUT)	192	<b>(DSPSRVAGT)</b>	<b>217</b>
例	192	パラメーター	217
エラー・メッセージ	192	タイプ (TYPE)	217
<b>サブシステム記述表示 (DSPSBSD)</b>	<b>195</b>	装置 (DEVICE)	218
パラメーター	195	カテゴリ (CATEGORY)	218
サブシステム記述 (SBSD)	195	センス・バイトの形式 (SENSEFMT)	218
出力 (OUTPUT)	196	システムまたは論理区画 (SYSNAME)	219
例	196	出力 (OUTPUT)	219
エラー・メッセージ	196	IBMサービス技術員 (SRVREP)	219
<b>機密保護属性の表示 (DSPSECA)</b>	<b>199</b>	IBMサービスの電話番号 (SRVTELNBR)	220
パラメーター	199	推奨事項 (RECOMMEND)	220
出力 (OUTPUT)	199	エラー・ログ識別コード (ERRLOGID)	220
例	200	例	220
エラー・メッセージ	200	エラー・メッセージ	220
<b>機密保護監査の表示 (DSPSECAUD)</b>	<b>201</b>	<b>サービス・プログラムの表示</b>	
パラメーター	201	<b>(DSPSRVPGM)</b>	<b>223</b>
出力 (OUTPUT)	201	パラメーター	223
例	201	サービス・プログラム (SRVPGM)	223
エラー・メッセージ	201	出力 (OUTPUT)	224
<b>ソフトウェア資源の表示</b>		詳細 (DETAIL)	224
<b>(DSPSFWRSC)</b>	<b>203</b>	例	225
パラメーター	203	エラー・メッセージ	225
出力 (OUTPUT)	203	<b>サービス状況表示 (DSPSRVSTS)</b>	<b>227</b>
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	204	パラメーター	227
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	204	ジョブ名 (JOB)	227
例	205	重複ジョブ・オプション (DUPIJOB OPT)	228
エラー・メッセージ	205	例	228
<b>制御範囲状況表示 (DSPSOCSTS)</b>	<b>207</b>	エラー・メッセージ	228
パラメーター	207	<b>保守ツール・ユーザーIDの表示</b>	
出力 (OUTPUT)	207	<b>(DSPSSTUSR)</b>	<b>229</b>
詳細 (DETAIL)	207	パラメーター	229
例	208	保守ツール・ユーザーID (USRID)	229
エラー・メッセージ	208	出力 (OUTPUT)	230
<b>スプール・ファイル表示 (DSPSPLF)</b>	<b>209</b>	出力を受け取るファイル (OUTFILE)	230
パラメーター	209	出力メンバー・オプション (OUTMBR)	230
スプール・ファイル (FILE)	209	例	231
ジョブ名 (JOB)	210	エラー・メッセージ	231
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	210	<b>サーバー認証項目の表示</b>	
		<b>(DSPSVRAUTE)</b>	<b>233</b>

パラメーター	233
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	233
出力 (OUTPUT)	233
例	234
エラー・メッセージ	234

### システム状況の表示 (DSPSYSSTS) . . . 235

パラメーター	235
出力 (OUTPUT)	235
状況統計リセット (RESET)	235
援助レベル (ASTLVL)	236
例	236
エラー・メッセージ	236

### システム値表示 (DSPSYSVAL) . . . . . 237

パラメーター	237
システム値 (SYSVAL)	238
出力 (OUTPUT)	272
例	272
エラー・メッセージ	272

### テープ表示 (DSPTAP) . . . . . 275

パラメーター	275
装置 (DEV)	275
ボリューム識別コード (VOL)	276
ファイル・ラベル (LABEL)	276
順序番号 (SEQNBR)	276
データ・タイプ (DATA)	277
出力 (OUTPUT)	277
テープ終了オプション (ENDOPT)	278
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	278
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	278
例	279
エラー・メッセージ	279

### テープ・カテゴリーの表示 (DSPTAPCGY) . . . . . 281

パラメーター	281
出力 (OUTPUT)	281
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	282
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	282
例	282
エラー・メッセージ	283

### テープ・カートリッジの表示 (DSPTAPCTG) . . . . . 285

パラメーター	285
ライブラリー装置 (DEV)	285
カートリッジID (CTG)	285
カテゴリー (CGY)	286
出力 (OUTPUT)	287
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	287
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	288
例	288
エラー・メッセージ	289

### テープ状況の表示 (DSPTAPSTS) . . . . . 291

パラメーター	291
ライブラリー装置 (DEV)	291
出力 (OUTPUT)	291
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	292
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	292
出力メンバー・オプション (OUTFILEMT)	293
例	293
エラー・メッセージ	293

### 商標の表示 (DSPTM) . . . . . 295

パラメーター	295
例	295
エラー・メッセージ	295

### トレース表示 (DSPTRC) . . . . . 297

パラメーター	297
出力 (OUTPUT)	297
プログラム (PGM)	297
例	298
エラー・メッセージ	298

### トレース・データ表示 (DSPTRCDTA) 299

パラメーター	299
出力 (OUTPUT)	299
消去 (CLEAR)	300
例	300
エラー・メッセージ	300

### ユーザー定義FSの表示 (DSPUDFS) . . . 301

パラメーター	301
ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)	301
出力 (OUTPUT)	301
例	302
エラー・メッセージ	302

### ユーザー認可表示 (DSPUSRPMN) . . . . . 303

パラメーター	303
ユーザー・プロファイル (USER)	303
認可先/認可元 (GRANTED)	303
出力 (OUTPUT)	304
例	304
エラー・メッセージ	304

### ユーザー・プロファイル表示 (DSPUSRPRF) . . . . . 307

パラメーター	307
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	308
情報のタイプ (TYPE)	308
出力 (OUTPUT)	309
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	309
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	310
例	310
エラー・メッセージ	311

<b>ユーザー印刷情報の表示 (DSPUSRPTI)</b>	<b>313</b>
パラメーター	313
ユーザー (USER)	313
出力 (OUTPUT)	313
例	314
エラー・メッセージ	314
<b>ワークステーション・ユーザーの表示 (DSPWSUSR)</b>	<b>315</b>
パラメーター	315
出力 (OUTPUT)	315
例	315
エラー・メッセージ	316
<b>光ディスク複製 (DUPOPT)</b>	<b>317</b>
パラメーター	317
FROMボリューム識別コード (FROMVOL)	317
TOボリューム識別コード (TOVOL)	318
新しいボリューム識別コード (NEWVOL)	318
消去 (CLEAR)	318
取り出し装置 (FROMDEV)	319
受け取り装置 (TODEV)	319
媒体エラーの許可 (ALWMEDERR)	319
出力 (OUTPUT)	320
FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)	320
TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)	320
例	321
エラー・メッセージ	321
<b>テープの複製 (DUPTAP)</b>	<b>325</b>
パラメーター	325
取り出し装置 (FROMDEV)	326
受け取り装置 (TODEV)	326
開始順序番号 (FROMSEQNBR)	327
終了順序番号 (TOSEQNBR)	327
FROMボリューム識別コード (FROMVOL)	327
TOボリューム識別コード (TOVOL)	328
テープ密度 (TODENSITY)	329
データ短縮 (COMPACT)	334
複製するファイル (FILES)	334
ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)	334
FROM装置終了オプション (FROMENDOPT)	335
TO装置終了オプション (TOENDOPT)	336
活動ファイルの検査 (CHECK)	336
ファイル満了日 (EXPDATE)	336
例	336
エラー・メッセージ	337
<b>権限リスト編集 (EDTAUTL)</b>	<b>339</b>
パラメーター	339
権限リスト (AUTL)	339
例	339
エラー・メッセージ	339

<b>バックアップ・リストの編集 (EDTBCKUPL)</b>	<b>341</b>
パラメーター	341
バックアップ・リスト (BCKUPL)	341
例	341
エラー・メッセージ	341
<b>CHKPND制約の編集 (EDTGPCST)</b>	<b>343</b>
パラメーター	343
例	343
エラー・メッセージ	343
<b>DLファイル属性の編集 (EDTDLFA)</b>	<b>345</b>
パラメーター	345
例	345
エラー・メッセージ	345
<b>DLO権限編集 (EDTDLOAUT)</b>	<b>347</b>
パラメーター	347
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	347
フォルダー (FLR)	348
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	348
例	348
エラー・メッセージ	348
<b>文書編集 (EDTDOC)</b>	<b>351</b>
パラメーター	351
文書 (DOC)	351
フォルダー (FLR)	351
出口表示画面 (EXITPNL)	352
例	352
エラー・メッセージ	352
<b>ファイル編集 (EDTF)</b>	<b>355</b>
パラメーター	355
ストリーム・ファイル, または (STMF)	355
データベース・ファイル (FILE)	356
ファイル・メンバー (MBR)	356
例	356
エラー・メッセージ	356
<b>DBCS変換辞書編集 (EDTIGCDCT)</b>	<b>359</b>
パラメーター	359
DBCS変換辞書 (IGCDCT)	359
辞書項目 (ENTRY)	360
例	360
エラー・メッセージ	360
<b>ライブラリー・リスト編集 (EDTLIBL)</b>	<b>363</b>
パラメーター	363
例	363
エラー・メッセージ	363
<b>オブジェクト権限編集 (EDTOBJAUT)</b>	<b>365</b>
パラメーター	365
オブジェクト (OBJ)	366

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE) . . . . .	367
ASP装置 (ASPDEV) . . . . .	367
例 . . . . .	367
エラー・メッセージ . . . . .	367

**質問・回答の編集 (EDTQST) . . . . . 369**

パラメーター . . . . .	369
Q/Aデータベース (QSTDB) . . . . .	369
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB) . . . . .	370
例 . . . . .	370
エラー・メッセージ . . . . .	370

**アクセス・パスの再作成の編集 (EDTRBDAP) . . . . . 371**

パラメーター . . . . .	371
例 . . . . .	371
エラー・メッセージ . . . . .	371

**アクセス・パスの回復の編集 (EDTRCYAP) . . . . . 373**

パラメーター . . . . .	373
例 . . . . .	374
エラー・メッセージ . . . . .	374

**S/36プログラム属性編集 (EDTS36PGMA) . . . . . 377**

パラメーター . . . . .	377
S/36プログラム (PGM) . . . . .	377
例 . . . . .	378
エラー・メッセージ . . . . .	378

**S/36プロシージャ属性編集 (EDTS36PRCA) . . . . . 379**

パラメーター . . . . .	379
S/36 プロシージャ・メンバー (MBR) . . . . .	379
ソース・ファイル (FILE) . . . . .	379
例 . . . . .	380
エラー・メッセージ . . . . .	380

**S/36ソース属性編集 (EDTS36SRCA) . . . . . 383**

パラメーター . . . . .	383
S/36ソース・メンバー (MBR) . . . . .	383
ソース・ファイル (FILE) . . . . .	383
例 . . . . .	384
エラー・メッセージ . . . . .	384

**ワークステーション・オブジェクト権限編集 (EDTWSOAUT) . . . . . 387**

パラメーター . . . . .	388
ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE) . . . . .	388
例 . . . . .	390
エラー・メッセージ . . . . .	390

**エミュレーション出力排出 (EJTEMLOUT) . . . . . 391**

パラメーター . . . . .	392
エミュレーション装置 (EMLDEV) . . . . .	392
エミュレーション・ロケーション (EMLLOC) . . . . .	392
印刷装置 (PRTDEV) . . . . .	392
例 . . . . .	393
エラー・メッセージ . . . . .	393

**要素定義 (ELEM) . . . . . 395**

パラメーター . . . . .	395
値のタイプ (TYPE) . . . . .	397
値の長さ (LEN) . . . . .	399
定数値 (CONSTANT) . . . . .	400
制約された値 (RSTD) . . . . .	400
省略時の値 (DFT) . . . . .	401
有効な値 (VALUES) . . . . .	402
比較式 (REL) . . . . .	402
値の範囲 (RANGE) . . . . .	403
特殊値 (SPCV) . . . . .	403
単一値 (SNGVAL) . . . . .	404
許される最小値 (MIN) . . . . .	405
許される最大値 (MAX) . . . . .	405
印刷不能文字使用可能 (ALWUNPRT) . . . . .	406
変数名使用可能 (ALWVAR) . . . . .	406
ELEMはプログラムである (PGM) . . . . .	406
ELEMはデータ域である (DTAARA) . . . . .	406
ファイル・パラメーターの場合の使用法 (FILE) . . . . .	407
全桁入力必須 (FULL) . . . . .	407
式の評価 (EXPR) . . . . .	407
可変の長さ (VARY) . . . . .	408
属性バイト受け渡し (PASSATR) . . . . .	408
値のケース (CASE) . . . . .	409
値のCCSID (CCSID) . . . . .	409
画面入力 (DSPINPUT) . . . . .	410
テキスト選択 (CHOICE) . . . . .	410
プログラム選択 (CHOICEPGM) . . . . .	411
初期プロンプト長 (INLPMTLEN) . . . . .	412
プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT) . . . . .	412
例 . . . . .	413
エラー・メッセージ . . . . .	413

**ELSE (ELSE) . . . . . 415**

パラメーター . . . . .	415
コマンド (CMD) . . . . .	415
例 . . . . .	416
エラー・メッセージ . . . . .	417

**印刷装置キーのエミュレート (EMLPRTKEY) . . . . . 419**

パラメーター . . . . .	419
エミュレーション装置 (EMLDEV) . . . . .	419
エミュレーション・ロケーション (EMLLOC) . . . . .	420
印刷装置 (PRTDEV) . . . . .	420

エミュレート印刷装置キー (PRTKEY) . . . . .	420
例 . . . . .	420
エラー・メッセージ . . . . .	420

**エージェント・サービスの終了**

**(ENDAGTSRV) . . . . . 421**

パラメーター . . . . .	421
設定ファイル・ディレクトリー (PREFDIR) . . . . .	421
例 . . . . .	421
エラー・メッセージ . . . . .	422

**ASPバランス化終了 (ENDASPBAL) . . . . . 423**

パラメーター . . . . .	423
ASP番号 (ASP) . . . . .	423
ASP装置 (ASPDEV) . . . . .	424
例 . . . . .	424
エラー・メッセージ . . . . .	424

**バッチ・ジョブ終了 (ENDBCHJOB) . . . . . 427**

パラメーター . . . . .	427
例 . . . . .	427
エラー・メッセージ . . . . .	427

**CHTサーバーの終了 (ENDCHTSVR) . . . . . 429**

パラメーター . . . . .	429
サーバー (SERVER) . . . . .	429
ノード (NODE) . . . . .	430
例 . . . . .	430
エラー・メッセージ . . . . .	430

**付録. 特記事項 . . . . . 433**

プログラミング・インターフェース情報 . . . . .	434
商標 . . . . .	435
使用条件 . . . . .	436
コードに関するライセンス情報および特記事項 . . . . .	436



---

## ライブラリー・リスト表示 (DSPLIBL)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ライブラリー・リスト表示(DSPLIBL)コマンドは、システム部分を含む現行スレッドのライブラリー・リストを表示し、さらにプロダクト・ライブラリー、現行ライブラリー項目、およびユーザー部分が存在していれば、それらも表示します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*、*_PRINT	オプション、定位置 1

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
\_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

### 例

DSPLIBL

現行スレッドのライブラリー・リストにあるライブラリーの名前、タイプ、補助記憶域プール(ASP)装置名、およびテキストが表示されます。

上

---

### エラー・メッセージ

\*ESCAPEメッセージ

**CPF2113**

ライブラリー&1を割り振ることができない。

**CPF2148**

\*DELETEDのマークが付けられたライブラリーは見つからない。

**CPF2176**

ライブラリー&1に損傷がある。

**CPF2179**

ライブラリーを表示することができない。

**CPF2182**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上



## ライセンス・キー情報の表示 (DSPLICKEY)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ライセンス・キー情報表示(DSPLICKEY)コマンドは、キーによる承諾付きのプロダクトのライセンス・リポジトリからソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するために使用することができます。「キーによる承諾」付きのプロダクトでは、ユーザーはライセンス情報の使用限界または満了日を変更するために、ソフトウェア販売会社からのソフトウェア・ライセンス・キーを持っている必要があります。

ライセンス・リポジトリは、固有のそれぞれのプロダクト、ライセンス条件、機能、およびシステムに対してプロダクト・ライセンス情報を記憶します。リポジトリにはシステムのライセンスを入れることができ、プロダクトを導入する必要はありません。

表示される情報には、プロセッサ・グループ、製造番号、ソフトウェア・ライセンス・キー、使用限界、満了日、および仕入れ先データが含まれます。

ライセンス・キー情報表示(DSPLICKEY)コマンドは、ライセンス・キー情報追加(ADDLICKEY)コマンドまたはライセンス・キー情報除去(RMVLICKEY)コマンドへの入力として使用できる出力ファイルを作成するためにも使用することができます。

制約事項: このコマンドは\*EXCLUDE権限を共通権限として出荷されます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRDID	プロダクト識別コード	文字値, *ALL	オプション, 定位置 1
LICTRM	ライセンス条件	文字値, *ALL	オプション, 定位置 2
FEATURE	機能	文字値, *ALL	オプション, 定位置 3
SERIAL	システム製造番号	文字値, *LOCAL, *REMOTE, *ALL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *LICKEYFILE	オプション
LICKEYFILE	ライセンス・キー・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ライセンス・キー・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LICKEYMBR	ライセンス・キー・メンバー	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

上

---

## プロダクト識別コード (PRDID)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するプロダクトの7桁のIDを指定します。

**\*ALL** すべてのプロダクトIDのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

### 総称プロダクトID\*

表示するプロダクトの総称IDを指定してください。総称プロダクトIDは、総称名と同じように指定されます。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(\*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC\*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限を持ち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

### プロダクトID

プロダクトの7桁のIDを指定してください。

上

---

## ライセンス条件 (LICTRM)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するライセンス条件を指定します。

**\*ALL** システムに見つかったすべてのライセンス条件のソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

### ライセンス条件

ライセンス条件をVX, VXRY,またはVXRYMZの形式で指定してください。この場合に、XまたはYは0から9の数字、Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

上

---

## 機能 (FEATURE)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するPRDIDパラメーターで指定したプロダクトの機能を指定します。

**\*ALL** PRDIDパラメーターで指定したプロダクトのすべての機能のソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

**機能** ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示する機能の番号を指定してください。

上

---

## システム製造番号 (SERIAL)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するシステムの製造番号を指定してください。

### **\*LOCAL**

ローカル・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

#### **\*REMOTE**

ローカル・システム以外のすべてのシステムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

**\*ALL** すべてのシステムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

#### **システム製造番号**

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するシステムの製造番号を指定してください。

上

---

## **出力 (OUTPUT)**

このコマンドからの出力を表示するか、印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定します。

**\*** 出力は、対話式ジョブで要求された場合には画面上に表示され、またバッチ・ジョブによって要求された場合にはジョブのプール出力で印刷されます。

#### **\*PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

#### **\*LICKYFILE**

ソフトウェア・ライセンス・キー情報は、出力ファイルに書き出されます。

上

---

## **ライセンス・キー・ファイル (LICKYFILE)**

ソフトウェア・ライセンス・キー情報が書き出されるファイルの修飾名を指定します。このファイルが存在しない場合には、テンプレートとしてファイルQSYS/QALZAKEYを使用して作成されます。このファイルが存在する場合には、QSYS/QALZAKEYの形式でなければなりません。

ライセンス・キー・ファイルの名前は、次のライブラリーの値の1つで修飾することができます。

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### **\*CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

#### **ライブラリー名**

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

#### **ライセンス・キー・ファイル**

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を書き出すファイルの名前を指定してください。

上

---

## ライセンス・キー・メンバー (LICKKEYMBR)

出力を書き出すデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーは次の通りに使用または作成されます。

- メンバーが存在する場合には、システムはこのパラメーターの2番目の要素を使用して新しいレコードを追加する前にそのメンバーを消去するかどうかを決定します。
- メンバーが存在しないでメンバー名も指定されていない場合には、システムはLICKKEYFILEパラメーターで指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。
- メンバーが存在しないでデータベース・ファイル・メンバー名が指定された場合には、システムはそのメンバーを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

### \*FIRST

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。

### 出力を受け取るメンバー

出力を受け取るメンバーの名前を指定してください。

指定できるメンバーに対して実行する操作の値は次の通りです。

### \*REPLACE

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 例

```
DSPLICKEY PRDID(*ALL) LICTRM(*ALL) FEATURE(*ALL)
          SERIAL(*REMOTE) OUTPUT(*LICKKEYFILE)
          LICKKEYFILE(KEYS) LICKKEYMBR(REMOTE *REPLACE)
```

このコマンドは、このシステムを除くすべてのシステムのすべてのプロダクト、機能、およびライセンス条件のソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示します。出力はファイルKEYSのメンバーREMOTEに入れます。既存のレコードは置き換えられます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF9E58

ライセンス・キー情報が見つからなかった。

上

---

## 回線記述の表示 (DSPLIND)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

回線記述の表示(DSPLIND)コマンドにより、回線記述が表示されます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *SWTNWILST, *CTL, *SWTCTLLST, *ACTSWTCTL, *SSAP, *GRPADR, *FCNADR, *EORTBL, *LGLCHLE, *APPN, *PHYCHAR, *THRESHOLD, *TMRRTY	オプション, 定位置 3

上

---

## 回線記述 (LIND)

表示される回線記述名を指定します。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## オプション (OPTION)

このパラメーターによって、情報を選択して表示することができます。すべての情報(\*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

**\*ALL** この回線と関連したすべての情報が表示されます。

**\*BASIC**

この回線タイプの基本特性だけが表示されます。

**\*SWTNWILST**

IDLC回線の作成または変更(CRT/CHGLINIDLC)コマンドの交換NWIリスト (SWTNWILST)パラメーターで指定されたネットワーク・インターフェース記述に関する情報だけが表示されます。

**\*CTL** この回線の活動状態の制御装置だけが表示されます。

**\*SWTCTLLST**

この交換回線の制御装置リストだけが表示されます。

**\*ACTSWTCTL**

この交換回線の活動状態の制御装置だけが表示されます。

**\*SSAP** この回線のソース・サービス・アクセス・ポイントに関する情報だけが表示されます。

**\*GRPADR**

ETHERNET回線のグループ化アドレスに関する情報だけが表示されます。

**\*FCNADR**

このトークンリングの機能アドレスに関する情報だけが表示されます。

**\*EORTBL**

非同期回線のレコードの終わりテーブルに関する情報だけが表示されます。

**\*LGLCHLE**

X.25回線の論理チャンネル項目だけが表示されます。

**\*APPN**

拡張対等通信ネットワーク機能に関する情報だけが表示されます。

**\*PHYCHAR**

非同期回線の物理特性に関する情報だけが表示されます。

**\*THRESHOLD**

IDLC回線のしきい値に関する情報だけが表示されます。

**\*TMRRTY**

この回線のタイマーおよび再試行オプションに関する情報だけが表示されます。

上

---

## 例

DSPLIND LIND(LINE21)

このコマンドは、LINE21という名前の回線記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが投入されたワークステーションの画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

**CPF2601**

回線記述&1が見つからない。

**CPF2625**

オブジェクト&1を割り振ることができない。

**CPF2626**

回線記述は前に削除されている。

**CPF2634**

オブジェクト&1は認可されていない。

**CPF268A**

回線&2には&1は正しくない。

**CPF2779**

回線記述&1に損傷がある。





---

## オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)コマンドは、ディレクトリー内の指定されたオブジェクトの名前とオブジェクトに関する情報を表示するためのオプションのリストを表示します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

### 制約事項:

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、System i機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	パス名, * _	オプション, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALLDIR, *ALRTBL, *AUTL, *BLKSF, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CHRSF, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DDIR, *DEVD, *DIR, *DOC, *DSTMF, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FIFO, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MBR, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SOCKET, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *STMF, *SVRSTG, *SYMLNK, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
DETAIL	詳細	*PRV, *NAME, *BASIC, *EXTENDED	オプション
DSOPT	表示オプション	*PRV, *USER, *ALL	オプション

上

## オブジェクト (OBJ)

表示するオブジェクトを指定します。

\* 現行ディレクトリーのすべてのオブジェクトが表示されます。

### オブジェクト・パス名

オブジェクトのパス名または表示するオブジェクトの名前を突き合わせるパターンを指定してください。オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(\*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスプール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

上

---

## オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示するオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

**\*ALL** 名前が**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されているパターンと一致するすべてのオブジェクトが表示されます。

### \*ALLDIR

すべてのディレクトリー・タイプ(DIR, LIB, FLR, データベースFILE)が表示されます。

### オブジェクト・タイプ

表示するオブジェクト・タイプを指定します。

上

---

## 詳細 (DETAIL)

オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)リストに表示する情報を指定します。

**\*PRV** 前にこのコマンドを実行したときに表示されたのと同じ情報が表示されます。前にこのコマンドまたはオブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)コマンドを使用していない場合には、値**\*BASIC**が使用されます。

### \*NAME

名前だけが表示されます。

### \*BASIC

名前と一緒にタイプ、タイプの属性、およびテキストが表示されます。

## \*EXTENDED

上記の基本情報に加えて、タイプ・フィールドが拡張され、シンボリック・リンクおよびハードまたはシンボリック・リンクを表示するために使用可能な追加オプションに関する情報の続きが表示されます。

上

---

## 表示オプション (DSPOPT)

PCシステムおよび隠しオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

**\*PRV** このパラメーターには、前にこのユーザーによってこのコマンドが実行された時と同じ値が使用されます。このコマンドが前に使用されていない場合には、\*USERが使用されます。

### \*USER

PCシステムおよび隠しオブジェクトは表示されません。指定されたパターンがピリオド(.)で始まっていない限り、ピリオド(.)で始まるオブジェクトは表示されません。

**\*ALL** PCシステムおよび隠しオブジェクトを含めて、すべてのオブジェクトが表示されます。ピリオド(.)で始まるオブジェクトが表示されます (パターンにはアスタリスク(\*)を指定)。これにはディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)項目が含まれます。

上

---

## 例

### 例1:オブジェクト・リンクの表示

```
DSPLNK OBJ('X/PAY')
```

このコマンドは、現行ディレクトリー内のディレクトリーXにあるオブジェクトPAYを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

#### CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

#### CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

#### CPFA0A7

パス名が長すぎる。

#### CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

上

## ログ表示 (DSPLOG)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ログ表示(DSPLOG)コマンドでは、システムのヒストリー・ログ(QHST)を示します。ヒストリー・ログには、システムおよびシステム状況の通常の操作に関する情報が含まれます。

この画面には、ログに送られたメッセージ、メッセージが送られた日付と時刻、およびメッセージを送ったジョブの名前が表示されます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LOG	ログ	<u>QHST</u>	オプション、定位置 1
PERIOD	ログ出力の期間	要素リスト	オプション、定位置 2
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
要素 2: 終了日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *END		
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *PRTWRAP, *PRTSECLVL	オプション
JOB	表示するジョブ	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション、定位置 3
	修飾子 1: 表示するジョブ	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
MSGID	メッセージ識別コード	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 名前	オプション

上

## ログ (LOG)

システム上の表示されるログを指定します。

QHST システムのヒストリー・ログQHSTが示されます。

上

---

## ログ出力の期間 (PERIOD)

ログされたメッセージ・データが示される期間を指定します。このパラメーターには、それぞれが2つの要素を持つ2つの要素リストが含まれています。後続の要素値が指定される場合には、パラメーター値順序の中でその位置を保つために、最初の要素には値または\*Nを指定する必要があります。PERIODが指定されない場合には、次の値とみなされます。

```
PERIOD((*AVAIL *CURRENT) (*AVAIL *CURRENT))
```

### 要素1:開始時刻および日付

#### 要素1:開始時刻

次の1つを使用して、その時またはそれ以後データがログされていない開始時刻を指定します。指定された日時以前にログされている項目があっても示されません。

#### \*AVAIL

指定された開始日付に使用可能な、ログされたすべてのデータが示されます。

#### 開始時刻

ログされたデータの表示を示す指定された開始日付の開始時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。時、分、および秒はそれぞれ正確に2桁としなければなりません。必要な場合には、先行ゼロを使用してください。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

#### 要素2:開始日付

次の1つを使用して、その日またはそれ以後データがログされていない開始日付を指定します。指定された日付以前にログされている項目があっても示されません。

#### \*CURRENT

本日の指定された開始時刻と終了時刻（指定されている場合）の間にログされたデータが示されます。

#### \*BEGIN

ログの始めからログされたデータが表示されます。

#### 開始日付

開始日を日付区切り文字付き/なしで指定します。この日付は、日付形式ジョブ属性で指定した通り、このジョブで使用する日付形式で入力しなければなりません。日付区切り文字を使用する場合は、日付区切り文字ジョブ属性で指定した通り、このジョブで使用する日付区切り文字と同じでなければなりません。

## 要素2:終了時刻および日付

注: 出力が表示装置で表示される場合には、終了日付および時刻に指定された値は無視されます。すなわち、指定された終了日付および時刻に関係なく、指定された開始日付および時刻以降にログ中にログされたすべてのデータが表示可能です。

### 要素1:終了時刻

次の1つを使用して、それ以前にデータがログされていない終了時刻を指定します。

#### \*AVAIL

指定された終了日付に使用可能な、ログされたすべてのデータが示されます。

#### 終了時刻

ログされたデータの印刷を判別する指定された終了日付の終了時刻を指定します。時刻を入力できる形式については、**開始時刻**を参照してください。

### 要素2:終了日付

次の1つを使用して、それ以前またはその日にデータがログされていない終了日付を指定します。

#### \*CURRENT

現行日が、ログされたデータが示される最後の日です。

**\*END** データがログされた最後の日付が、ログ・データを表示する最後の日付です。**\*END**を指定した場合には、終了時刻の**\*AVAIL**以外の値は無視されます。

#### 終了日付

終了日を日付区切り文字付き/なしで指定します。この日付は、日付形式ジョブ属性で指定した通り、このジョブで使用する日付形式で入力しなければなりません。日付区切り文字を使用する場合は、日付区切り文字ジョブ属性で指定した通り、このジョブで使用する日付区切り文字と同じでなければなりません。

注: **\*PRINT**が指定されたコマンド**DSPLOG**が実行された後で出力が受け取られていない場合には、一部のメッセージ・データの日付の順序が違っていることがあります。この場合にデータを印刷するには、次を指定してください。

```
PERIOD>(*AVAIL *BEGIN)(*AVAIL *END))
```

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元表示装置に表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
\_ 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

#### **\*PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。各メッセージごとに1行のメッセージ・テキストだけが印刷されます。これは、第1レベル・メッセージ・テキストの最初の105文字となります。

#### **\*PRTWRAP**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。メッセージが1行に収まらない場合には、第1レベル・メッセージ・テキストの最大2000文字まで収容できるように追加の行が印刷されます。

#### **\*PRTSECLVL**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。メッセージの第1と第2レベルのテキストが両方とも印刷されます。第1レベル・テキストの2000文字、および第2レベル・テキストの6000文字までが印刷されます。

出力が印刷される時には、各メッセージごとに2行以上が印刷されます。最後の行には、次の情報が含まれます。

- メッセージを送ったジョブの修飾ジョブ名。これは次の3つのフィールドから構成されます。
  - ジョブ名
  - ユーザー名
  - ジョブ番号
- メッセージが送られた日付および時刻。
- メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前。

上

---

## **表示するジョブ (JOB)**

ログの中のメッセージが表示されるジョブを指定します（ある場合）。指定されたジョブと関連したメッセージが示されるのは、このコマンドで指定された期間にログされている場合に限られます。

### **単一値**

#### **\*NONE**

ジョブ名を使用してどのメッセージが示されるかの指示はしません。

### **その他の値**

#### **修飾ジョブ名**

ログされたメッセージが示される5つまでのジョブの名前を指定してください。ジョブ名は、最大3つの要素によって修飾することができます。たとえば、次の通りです。

- ジョブ名
- ユーザー名/ジョブ名
- ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名

ジョブ名が修飾されない場合は、ログの中の指定されたジョブのすべてのメッセージが表示されることとなります。

上



---

## メッセージ識別コード (MSGID)

表示されるログされたメッセージのメッセージID (もしあれば) を最大100まで指定します。これらのメッセージが表示されるのは、それがログ出力の期間 (PERIOD)パラメーターに指定された期間内に、表示するジョブ (JOB)パラメーターに指定されたジョブの中でログされている場合だけです。

### 単一値

**\*ALL** ログされたメッセージは、前のジョブおよび時刻指定に適合している場合は、そのIDに関係なく、すべて示されます。

### その他の値

#### メッセージID

示されるメッセージのIDを指定します。

メッセージの特定の総称タイプを表示するには、メッセージ・ファイルを識別する3文字のコードと、それに続けてすべてゼロを指定します。たとえば、CPF0000は直前のパラメーターの指定を満たすすべてのCPFメッセージが表示されることを指定します。IDをPPPNN00として指定した場合には、指定された5文字(PPPNN)で始まるすべてのメッセージを示すことができます。メッセージIDの詳細については、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドのMSGIDパラメーターの説明を参照してください。

上

---

## 例

### 例1:現在日付でログされたメッセージの表示

```
DSPLLOG LOG(QHST)
```

このコマンドは、現在日付で活動記録ログ内で使用可能な、ログされたすべてのメッセージ (およびその関連するデータ) を表示します。

### 例2: 1988年9月にログされたメッセージの表示

```
DSPLLOG JOB(MYJOB) PERIOD>(*AVAIL 090199) (*AVAIL 093099)
MSGID(CPF0000)
```

このコマンドは、1999年9月中にログされた、MYJOBの活動記録ログ内のすべてのCPFメッセージを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

#### CPF2447

ログの現在のバージョンには項目が存在しない。

**CPF2478**

ログの要求したバージョンは認可されていない。

**CPF2480**

ログの要求されたバージョンに損傷がある。

**CPF2519**

メッセージIDリストの処理中に、エラーが起こった。

**CPF2537**

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

**CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

---

## マウントFS情報の表示 (DSPMFSINF)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

マウント・ファイル・システム情報表示(DSPMFSINF)コマンドは、マウント・ファイル・システムについての情報を表示します。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- STATFS

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

### 制約事項:

- パス内の各ディレクトリーに対する実行(\*X)権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

## オブジェクト (OBJ)

マウント・ファイル・システム内にあり、統計を表示するオブジェクトのパス名を指定します。マウント・ファイル・システム中のすべてのオブジェクトを指定することができます。例えば、ディレクトリー(\*DIR)またはストリーム・ファイル(\*STMF)などとすることができます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
\_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

### 例1:マウント・ファイル・システムの統計の表示

```
DSPMF5INF OBJ('/JSMITH/FILE1')
```

このコマンドは、**/JSMITH/FILE1**が入っているマウントされたファイル・システムの統計を表示します。

### 例2: QSYS.LIBファイル・システムの統計の表示

```
DSPMF5INF OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE')
```

このコマンドは、ライブラリー**MYLIB**の\*FILEオブジェクト**MYFILE**が入っている**QSYS.LIB**ファイルの統計を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

#### CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

上

---

## メニュー属性表示 (DSPMNUA)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

メニュー属性表示(DSPMNUA)コマンドは、指定されたメニューについて次の情報を表示します。

- メニュー・タイプ
- プログラム・メニューのプログラム名およびライブラリー
- 表示装置ファイル名および表示装置ファイル・メニューのライブラリー
- メッセージ・ファイル名および表示装置ファイル・メニューのライブラリー
- 表示装置ファイル・メニューに表示されるコマンド入力行のタイプ
  - \*LONG
  - \*SHORT
  - \*NONE (オプション行が使用されます)
- 表示装置ファイル・メニューに、活動状態の機能キーの説明を表示するかどうか
- 現行ライブラリー
- プロダクト・ライブラリー
- 記述テキスト

### 制約事項:

- メニューに対する使用(\*USE)権限、およびメニューが入っているライブラリーに対する\*USE権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

## メニュー (MENU)

属性が表示されるメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

### 修飾子1: メニュー

**名前** メニュー・オブジェクトの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

メニューを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

**名前** メニューが入っているライブラリーを指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPMNUA MENU(PAYROLL)

このコマンドは、名前PAYROLLのメニューの属性を表示装置に（このコマンドを対話式に実行した場合）表示します。このメニューは、ライブラリー・リスト（省略時の値\*LIBL)の検索によって見付けられます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

### CPF6ACD

&2のメニュー&1がシステムのバージョンと違っている。

**CPF7D41**

発注援助要求のロギング時にエラーが起きました。

**CPF7D42**

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

**CPF9801**

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

**CPF9802**

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

**CPF9803**

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

**CPF9807**

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

**CPF9808**

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

**CPF9810**

ライブラリー&1が見つかりません。

**CPF9811**

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

**CPF9812**

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

**CPF9814**

装置&1が見つかりません。

**CPF9820**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF9821**

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

**CPF9822**

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

**CPF9825**

装置&1は認可されていない。

**CPF9830**

ライブラリー&1を割り当てることができない。

**CPF9831**

装置&1を割り当てることができない。

**CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上



## モジュールの表示 (DSPMOD)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

モジュールの表示(DSPMOD)コマンドは、モジュールに関する情報を表示します。この表示には、コンパイラーに関する情報、モジュールを作成した元のソース、モジュールの処理属性、およびモジュールのサイズが含まれます。

### 制約事項:

- 表示しようとするモジュールに対する使用(\*USE)権限およびそのモジュールの保管先のライブラリーに対する実行(\*EXECUTE)権限が必要です。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DETAIL	詳細	単一値: *ALL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *BASIC, *SIZE, *EXPORT, *IMPORT, *PROCLIST, *REFSYSOBJ, *COPYRIGHT	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

上

---

## モジュール (MODULE)

情報を表示する対象のモジュールを指定します。

これは必須パラメーターです。

### 修飾子1: モジュール

**名前** 情報が表示されるモジュールの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 詳細 (DETAIL)

モジュールのどの情報セットを表示するかを指定します。

### 単一値

**\*ALL** 指定されたモジュールに適用可能なすべての情報が表示または印刷されます。

注: DETAIL(\*ALL)が有効となるのは、情報を表示または印刷する場合だけです。\*OUTFILEが出力(OUTPUT)パラメーターに指定する場合は、無効です。

### その他の値 (最大7個指定可能)

#### \*BASIC

モジュール基本情報、モジュール互換性セクション、およびSQL情報が表示されます。

**\*SIZE** このモジュールのサイズおよびサイズの限界が表示されます。

#### \*EXPORT

他のモジュールにエクスポートされる、このモジュールに定義された記号が表示されます。

#### \*IMPORT

このモジュールの外部的に定義された記号が表示されます。

#### \*PROCLIST

そのタイプおよび優先順位をもつプロシージャー名のリストが表示されます。

#### \*REFSYSOBJ

バインドされた1つのプログラムまたはサービス・プログラムにモジュールをバインドする時に、このモジュールによって参照されるシステム・オブジェクトのリストが表示されます。

#### \*COPYRIGHT

このモジュールの著作権情報が表示されます。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力を表示するか、印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定します。

\*  
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

### \*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: 256桁を超えるプロシージャー名が見つかって値\*OUTFILEが指定されている場合には、プロシージャー名の最後の253文字が出力ファイルに入れられて、その前に3つの不等号(<<<)文字が付けられます。この不等号(<<<)文字は、この名前が部分名のみであることを示します。ジョブ・ログには、使用可能なすべての情報が戻されていないことを示す診断メッセージCPD5D12が送られます。同じメッセージが、モニター可能なコマンド処理プログラム(CPP)の呼び出し側プログラムに、状況メッセージとして送られます。ユーザーは、モジュール情報検索(QBNRMODI)またはモジュール情報リスト(QBNLMODI) APIを使用して、このプロシージャーの完全な名前を見つけることができます。

注: DETAIL(\*ALL)が有効なのは、OUTPUT(\*OUTFILE)が指定された場合だけです。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、このテキストは「DSPMODの出力ファイル」となります。このファイルの一般ユーザー権限は、ファイルを作成するライブラリーに指定した作成権限と同じです。出力ファイルのレコード様式は、弊社提供のデータベース・ファイルで使用されるものと同じです。

注: 256桁を超えるプロシージャー名が見つかって値\*OUTFILEが指定されている場合には、プロシージャー名の最後の253文字が出力ファイルに入れられて、その前に3つの不等号(<<<)文字が付けられます。この不等号(<<<)文字は、この名前が部分名のみであることを示します。ジョブ・ログには、使用可能なすべての情報が戻されていないことを示す診断メッセージCPD5D12が送られます。同じメッセージが、モニター可能なコマンド処理プログラム(CPP)の呼び出し側プログラムに、状況メッセージとして送られます。ユーザーは、モジュール情報検索(QBNRMODI)またはモジュール情報リスト(QBNLMODI) APIを使用して、このプロシージャーの完全な名前を見つけることができます。

弊社提供データベース・ファイルおよびレコード様式は次の通りです。

明細: ファイル: レコード様式:  
\*BASIC QABNDMBA QBNDMBAS  
\*SIZE QABNDMSI QBNDMSIZ  
\*EXPORT QABNDMEX QBNDMEXP  
\*IMPORT QABNDMIM QBNDMIMP  
\*PROCLIST QABNDMPR QBNDMPRO  
\*REFSYSOBJ QABNDMRE QBNDMREF  
\*COPYRIGHT QABNDMCO QBNDMCOP

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** このコマンドの出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### **\*CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在していなくて、メンバー名を指定しない場合は、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名を指定しているが、メンバーが存在していない場合は、システムがそれを作成します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

#### **\*FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、ファイル・メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

### 要素2: レコードの置き換えまたは追加

#### **\*REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 例

```
DSPMOD MODULE(MYMOD)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストからモジュール・オブジェクトMYMODを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF5CE7

\*MODULEデータの検索中にエラーが起こった。

#### CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

#### CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

#### CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

#### CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

#### CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

#### CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

#### CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

#### CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

#### CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

### \*STATUS メッセージ

#### CPD5D12

1つまたは複数のレコードに不完全な値がある。

上



---

## モード記述表示 (DSPMODD)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

モード記述表示(DSPMODD)コマンドにより、モード記述が表示されます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MODD	モード記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

上

---

## モード記述 (MODD)

表示されるモード記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
\_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPMODD MODD(CICS2)

このコマンドは、モード記述CICS2についての情報を表示します。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF260A

モード記述&1が見つからない。

#### CPF262B

モード記述&1は前に削除されている。

#### CPF262C

モード記述&1に損傷がある。

#### CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

#### CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。



---

## モジュール・ソースの表示 (DSPMODSRC)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

モジュール・ソース表示(DSPMODSRC)コマンドによって、バインド済みプログラムをデバッグするソース・デバッグ画面を表示することができます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

---

### パラメーター

なし

上

---

### 例

DSPMODSRC

このコマンドは、デバッグされるプログラムのソース・デバッグ画面を表示します。

上

---

### エラー・メッセージ

なし

上



---

## モード状況表示 (DSPMODSTS)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

モード状況表示(DSPMODSTS)コマンドは、APPC/APPN装置記述に関連したすべてのモードの状況を表示します。画面には、APPC/APPN装置の状況、使用中のソース、ターゲット、および切り離された会話の現在の数、および操作セッションの最大値が表示されます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
MODE	モード	通信名, *ALL	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 3

上

---

## 装置 (DEV)

APPC装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

---

## モード (MODE)

状況が表示されるモードの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

**\*ALL** 指定した装置で使用されるすべてのモードが表示されます。

### モード名

指定した装置に対して状況が表示されるモードの名前（最大8文字）を指定します。

### BLANK

8個の空白文字のモード名が表示されます。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

\*  
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

```
DSPMODSTS  DEV(MINN2)  MODE(CICS2)
```

このコマンドは、装置MINN2によって使用されたモードCICS2の状況を表示します。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2625

オブジェクトを割り振ることができない。

#### CPF2634

オブジェクトは認可されていない。

#### CPF2688

装置がモード情報を受け取るための適切な状況にない。

#### CPF2698

装置にモードが見つからなかった。

#### CPF2702

装置記述が見つかりません。

#### CPF2706

装置は\*APPCタイプの装置でない。

#### CPF9850

印刷装置ファイルの一時変更は許されない。

上

## メッセージ表示 (DSPMSG)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

メッセージ表示(DSPMSG)コマンドは、指定されたメッセージ待ち行列で受け取ったメッセージを表示するために、表示装置ユーザーによって使用されます。メッセージ待ち行列がこのコマンドの入力されるジョブにも、また他のどのジョブにも割り振られていない場合には、このコマンドの処理中、このコマンドによってメッセージ待ち行列が暗黙に割り振られます。メッセージが表示される時には、ユーザーが待ち行列から1つまたは複数のメッセージを除去したり、各照会メッセージに対する応答を入力したりできるオプションも表示されます。

注: 1つまたは1グループのメッセージ記述を印刷する方法については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションにある「メッセージの処理」というタイトルを持つセクションを参照してください。

### 制約事項:

1. \*EXCLロック状態で作動するALCOBJコマンドを指定することによって別のジョブがすでにメッセージ待ち行列を割り振っている時には、DSPMSGを指定することはできません。
2. メッセージ待ち行列が別のジョブに対して\*BREAKまたは\*NOTIFYモードになっている時には、ユーザーはDSPMSGコマンドを使ってジョブのメッセージを表示できますが、除去することはできません。
3. メッセージ待ち行列が別のジョブに対して\*BREAKモードになっている時には、ユーザーが照会メッセージに回答できるかどうかは、メッセージ待ち行列の中断処理プログラムによって決まります。PGM(\*DSPMSG)が指定されている場合には、ユーザーは照会メッセージに回答できますが、PGM(ユーザー・プログラム)が指定されている場合には、照会メッセージに回答できません。
4. 複数のジョブが同じ照会メッセージを表示し、すべてのジョブがそのメッセージに回答した場合には、そのメッセージに対する最初の応答のみが有効となります。他のジョブから後続の応答があると、エラー・メッセージが出されます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *WRKUSR, *SYSOPR, *USRPRF, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 1
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *PRTWRAP	オプション
MSGTYPE	メッセージ・タイプ	*ALL, *INFO, *INQ, *COPY	オプション
START	最初に表示するメッセージ	*LAST, *FIRST	オプション
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, 0, *MSGQ	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV, *USRPRF, *BASIC, *INTERMED	オプション

---

## MSG 待ち行列 (MSGQ)

表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列を指定します。

注:このパラメーターに特殊値\*WRKSTN, \*WRKUSR, \*USRPRF,および\*SYSOPRを指定する必要があるのは、対話式ジョブを行っている時だけです。

### 単一値

#### **\*WRKUSR**

ワークステーションのメッセージ待ち行列にメッセージがある場合は、メッセージはそこから示されます。ユーザーがその画面を終了した後に、現行ユーザーのユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からメッセージが示されます。ワークステーションのメッセージ待ち行列にメッセージがない場合は、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージだけが示されます。

#### **\*SYSOPR**

システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)からのメッセージが表示されます。

#### **\*WRKSTN**

メッセージは、ワークステーション自体のメッセージ待ち行列から示されます。

#### **\*USRPRF**

現行のユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージが表示されます。

### 修飾子1: MSG 待ち行列

#### メッセージ待ち行列名

表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### **\*CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

#### ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。即時メッセージは長さを512バイトとすることができます。

#### **\*PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

#### **\*PRTWRAP**

出力はジョブのスパール出力を使用して印刷され、メッセージ・テキストをスパール出力の1行に切り捨てる\*PRINT値と比較して、切り捨ては行われません。

出力が印刷される時には、各メッセージごとに2行以上が印刷されます。最後の行には、次の情報が含まれます。

- メッセージを送ったジョブの修飾ジョブ名。これは次の3つのフィールドから構成されます。
  - ジョブ名
  - ユーザー名
  - ジョブ番号
- メッセージを送ったプログラムの名前。
- メッセージを送ったプログラム内の命令番号。非プログラム・メッセージ待ち行列の場合には、これは常にゼロです。
- メッセージが送られた日付および時刻。
- メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前。

上

---

## **メッセージ・タイプ (MSGTYPE)**

表示されるメッセージ待ち行列中のメッセージのタイプを指定します。

**\*ALL** メッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

**\*INFO** 通知メッセージ（応答を必要としないもの）だけが示されます。

**\*INQ** 照会メッセージ（応答を必要とするもの）だけが示されます。

#### **\*COPY**

他のメッセージ待ち行列に送られ、なお応答を必要とした照会メッセージのコピーが示されます。

上

---

## **最初に表示するメッセージ (START)**

最初に示されるのは、メッセージ待ち行列の中の最も新しいメッセージか最も古いメッセージかを指定します。メッセージ・リストが複数の画面を占める場合には、表示装置のユーザーは画面を上方または下方に送って他のメッセージを見ることができます。

#### **\*LAST**

中間ビュー（メッセージの表示）が表示される場合には、メッセージ待ち行列上の最後の（最も新しい）メッセージが画面の最下行に表示されます。

基本ビュー（メッセージの処理）が表示される場合には、MSGQ上の最後の（最も新しい）メッセージが画面の最上行に表示されます。表示装置のユーザーはPAGE UP（前ページ）キーを押してより古いメッセージを表示することができます。

### \*FIRST

中間ビュー（メッセージの表示）が表示される場合には、メッセージ待ち行列上の最初の（最も古い）メッセージが画面の最上行に表示されます。

基本ビュー（メッセージの処理）が表示される場合には、メッセージ待ち行列上の最初の（最も古い）メッセージが画面の最後に表示されます。表示装置のユーザーはPAGE DOWN（次ページ）キーを押してより新しいメッセージを表示することができます。

上

---

## 重大度コード・フィルター (SEV)

メッセージがもっている、中断または通知モードでユーザーに配布される最低の重大度レベルを指定します。ここで指定された重大度レベルより低い重大度レベルをもつメッセージがメッセージ待ち行列に到着した場合には、ジョブは中断されず、メッセージ待機中ライトはオンになりません。このようなメッセージはメッセージ表示(DSPMSG)コマンドによって表示されるまで、待ち行列に保留されます。

**00** 指定されたメッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

### \*MSGQ

メッセージ待ち行列に指定された重大度コードより大きいか等しい重大度コードを持つすべてのメッセージが表示されます。

### 重大度コード

メッセージが持つことができ、しかも示され得る最低の重大度コードを指定する00から99の範囲の値を指定します。

上

---

## 援助レベル (ASTLVL)

表示するユーザー・インターフェースを指定します。

**\*PRV** 使用された前のユーザー・インターフェースが表示されます。

### \*USRPRF

現行ユーザー・プロファイルに記憶されているユーザー・インターフェースが使用されます。

### \*BASIC

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

注: このユーザー・インターフェースはメッセージを次の2つのカテゴリーに分類します。(1)応答が必要なメッセージ、および(2)応答が必要でないメッセージ。新しいメッセージは各リストの先頭に表示されません。

### \*INTERMED

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

注: DSPMSGコマンドのオンライン・ヘルプ情報は、\*INTERMEDユーザー・インターフェースが表示されていると見なします。\*BASICユーザー・インターフェースが表示された場合には、メッセージ処理(WRKMSG)コマンドのオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

上



---

## 例

**例1:**ワークステーション・メッセージ待ち行列およびユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージの表示

DSPMSG

このコマンドは、要求元のワークステーション・メッセージ待ち行列のメッセージに続いて、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列のメッセージを表示します。ワークステーション待ち行列にメッセージがない場合には、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列がただちに表示されます。

**例2:**通知メッセージの表示

DSPMSG MSGQ(SMITH) MSGTYPE(\*INFO)

このコマンドは、要求元のワークステーションで、SMITHという名前のメッセージ待ち行列のすべての通知メッセージを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

#### CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

#### CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

#### CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

#### CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

#### CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

#### CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

#### CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

#### CPF2433

システム・ログ・メッセージ待ち行列&1にこの機能を使用することはできない。

#### CPF2450

ワークステーション・メッセージ待ち行列&1がジョブに割り振られていない。

#### CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

**CPF2477**

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

**CPF2513**

メッセージ待ち行列&1を表示することができない。

**CPF2537**

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

**CPF8127**

&9のメッセージ待ち行列&4に&8の損傷がある。VLICログは&7です。

**CPF8176**

装置記述&4のメッセージ待ち行列に損傷がある。

**CPF9830**

ライブラリー&1を割り当てることができない。

**CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

## メッセージ記述表示 (DSPMSGD)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

メッセージ記述表示(DSPMSGD)コマンドによって、メッセージ・ファイル中のメッセージに関する詳細な情報が表示されます。1つのメッセージ・ファイルの特定のメッセージまたはある範囲のメッセージの記述をそのIDによって指定するか、あるいは1つのメッセージ・ファイルのすべてのメッセージを指定することができます。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
RANGE	メッセージ識別コードの範囲	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 1
	要素 1: 下限値	名前, *FIRST	
	要素 2: 上限値	名前, *ONLY, *LAST	
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前, QCPFMSG	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプション
FMTTXT	メッセージ・テキストの形式	*YES, *NO	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

### メッセージ識別コードの範囲 (RANGE)

そのメッセージ記述を表示または印刷するために指定されたメッセージ・ファイル中のメッセージIDの範囲を指定します。このパラメーターに\*ALLを指定することによって、メッセージ・ファイル (MSGF)パラメーターに指定されたメッセージ・ファイル内のすべてのメッセージ記述を表示または印刷することができます。

開始メッセージIDが指定されていない場合には、メッセージ記述は指定されたメッセージ・ファイル内の最初のメッセージで始まります。

注: DETAIL(\*BASIC)がOUTPUT(\*)と一緒に指定され、メッセージIDのリストが対話式で表示される場合には、終了メッセージIDは無視されます。

#### 単一値

\*ALL 指定されたメッセージ・ファイル中のすべてのメッセージ記述が表示または印刷されます。この値はこのパラメーターの最初の要素にだけ指定することができます。

## 要素1: 下限値

このパラメーターの、開始メッセージIDと呼ばれる最初の要素は、表示または印刷する最初のメッセージ記述のメッセージIDを指定します。

### \*FIRST

メッセージ・ファイル (MSGF)パラメーターに指定されたファイル内の最初のメッセージが、その記述が表示または印刷される最初のメッセージとなります。

**下限値** 表示または印刷する最初のメッセージ記述の7文字のIDを指定してください。

## 要素2: 上限値

このパラメーターの、終了メッセージIDと呼ばれる2番目の要素は、印刷する最後のメッセージ記述のメッセージIDを指定します。OUTPUT(\*)が指定されている場合には、この値は無視されます。

### \*ONLY

開始メッセージIDとして指定されたメッセージIDの記述だけが印刷されます。

### \*LAST

ファイルの最後のメッセージの記述が、最後に印刷されるメッセージです。

**上限値** 印刷する最後のメッセージ記述の7文字のIDを指定してください。

上

---

## メッセージ・ファイル (MSGF)

表示されるメッセージ記述が入っているメッセージ・ファイルを指定します。

### 修飾子1: メッセージ・ファイル

#### QCPFMSG

メッセージ記述はメッセージ・ファイルQCPFMSGから表示されます。

**名前** 表示されるメッセージ記述が入っているメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

\*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### \*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

#### \*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

**名前** メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

---

## 詳細 (DETAIL)

表示または印刷するメッセージに関する詳細の量を指定します。

### **\*FULL**

詳細なメッセージ記述が表示または印刷されます。出力 (OUTPUT)パラメーターに\*PRINTが指定された場合には、詳細な記述が印刷されます。出力 (OUTPUT)パラメーターにアスタリスク(\*)が指定された場合には、ユーザーが表示する詳細を選択できるメニューが示されます。

### **\*BASIC**

指定されたメッセージIDのリスト、それらの重大度、および第1レベルのメッセージを表示または印刷することを指定します。

上

---

## メッセージ・テキストの形式 (FMTTXT)

メッセージおよびヘルプ情報を定様式で表示または印刷するかどうかを指定します。

**\*YES** メッセージおよびヘルプ情報は定様式で表示または印刷されます。

**\*NO** メッセージおよびヘルプ情報は不定様式で表示または印刷されます。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのspool出力で印刷するかを指定します。

\* 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのspool出力で印刷されます。

### **\*PRINT**

出力はジョブのspool出力で印刷されます。

上

---

## 例

### 例1:記述の表示または印刷

```
DSPMSGD RANGE(CPF1100 CPF3600) MSGF(QSYS/QCPFMSG)
```

このコマンドが表示装置から入力された場合には、指定されたメッセージの記述が表示装置で表示されません。このコマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、メッセージの記述はジョブのspool出力待ち行列に送られます。

### 例2:メッセージ記述の印刷

```
DSPMSGD RANGE(*FIRST IDU0571) MSGF(QIDU/QIDUMSG)
          FMTTXT(*NO) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、次の範囲にあるファイルのメッセージIDについてメッセージ記述を印刷します。QIDUMSGメッセージ・ファイルの最初のメッセージからIDがIDU0571のメッセージまで。メッセージ記述は不定様式です。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

**CPF2401**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF2407**

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

**CPF2411**

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

**CPF2483**

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

**CPF2510**

&2のメッセージ・ファイル&1に論理的な損傷がある。

**CPF2515**

メッセージIDの範囲が正しくない。

**CPF2516**

&2の表示装置または印刷装置ファイル&1をオープンすることができない。

**CPF2519**

メッセージIDリストの処理中に、エラーが起こった。

**CPF2537**

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

**CPF9807**

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

**CPF9810**

ライブラリー&1が見つかりません。

**CPF9830**

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

## ニックネームの表示 (DSPNCK)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ニックネーム表示(DSPNCK)コマンドは、システム配布ディレクトリー中のニックネームについてデータベース出力ファイルを表示、印刷、または作成するために使用されます。

ニックネームは、ディレクトリー項目または配布リスト名を短く縮めたものです。ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

このコマンドの出力は次のように送られます。

- 表示出力の場合には、省略時の値はすべてのニックネームのリストの表示です。ニックネームが指定されると、そのニックネームだけの明細情報が表示されます。
- 印刷出力またはデータベース・ファイル出力の場合には、省略時の値はユーザーがアクセスできるすべてのニックネームの書き込みです。ニックネームが指定されると、そのニックネームだけの明細情報が出力ファイルに書き込まれます。

**制約事項:** 所有者でなければ私用ニックネームを表示することはできません。自分が所有している私用ニックネームまたは共用ニックネームを表示するには特殊権限は不要です。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NCK	ニックネーム	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ニックネーム	文字値, *ALL	
	要素 2: アクセス	*PRV, *ALL, *PRIVATE, *PUBLIC	
TYPE	ニックネームのタイプ	*ALL, *USER, *LIST	オプション
OWNER	所有者	名前, *ALL, *CURRENT	オプション、位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション、位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 4
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

上

---

## ニックネーム (NCK)

表示, 印刷, またはデータベース・ファイルに書き込むニックネームを指定します。

指定できるニックネームの値は次の通りです。

**\*ALL** システム配布ディレクトリー中のすべてのニックネームが出力用に送られます。

### ニックネーム

明細情報を出力用に送るニックネームを指定してください。

指定できるニックネーム・アクセスの値は次の通りです。

**\*PRV** ニックネームを表示, 選択, または処理するために現行ユーザーによって指定された最後のアクセスが使用されます。

**\*ALL** ユーザーがアクセスできるすべてのニックネームが出力用に送られます。これには, ユーザーが所有する私用ニックネームおよびシステム配布ディレクトリー中のすべての共用ニックネームが含まれます。

### \*PRIVATE

ユーザーが所有する私用ニックネームが出力用に送られます。

### \*PUBLIC

システム配布ディレクトリー中のすべての共用ニックネームが出力用に送られます。

上

---

## ニックネームのタイプ (TYPE)

表示, 印刷, またはデータベース・ファイルに書き込むニックネームのタイプ (ユーザーまたはリスト) を指定します。

**\*ALL** ユーザーとリスト・タイプの両方のすべてのニックネームが出力用に送られます。

### \*USER

ユーザー・ニックネームが出力用に送られます。

**\*LIST** リスト・ニックネームが出力用に送られます。

上

---

## 所有者 (OWNER)

表示, 印刷, またはデータベース・ファイルに書き込むニックネームの所有者を指定します。

**\*ALL** すべてのユーザー・プロファイルが所有するニックネームが出力用に送られます。これには, ユーザーがアクセスできない私用ニックネームは含まれません。

### \*CURRENT

現行ユーザーが所有するニックネームが出力用に送られます。

### ユーザー・プロファイル名

出力用に送るニックネームを所有する所有者のユーザー・プロファイルを指定してください。

上



---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求元のワークステーションに表示するか、ジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに書き込むかを指定します。

\*  
- 対話式ジョブで要求された出力は画面上に表示されます。 コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのプール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

### \*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力が送られるデータベース・ファイルの名前を指定します。 このファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリーにこのデータベース・ファイルを作成します。 作成されたファイルのテキストは「DSPNCKの出力ファイル」で、共通権限は\*EXCLUDEです。

注: OUTPUT(\*OUTFILE)が指定された時には、このパラメーターは必須です。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

### ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

### データベース・ファイル名

出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。 このファイルが存在していない場合には、このファイルは指定されたライブラリーに作成されます。 このファイルが存在せず、ライブラリーが指定されていない場合、またはこのファイルが\*LIBLで修飾されていて、システムがこのファイルを見つけることができない場合には、このデータベース・ファイルはユーザーの省略時のライブラリーに作成されます。ユーザーの省略時のライブラリーは現行ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されます。省略時のライブラリーがユーザー・プロファイルに指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在せず、メンバー名が指定されていない場合には、システムはOUTFILEパラメーターで指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名が指定されていて、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

### \*FIRST

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

### メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR (メンバー名) を指定し、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

メンバーに対するアクションに指定できる値は次の通りです。

### \*REPLACE

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 例

### 例1: ニックネームのリストの表示

```
DSPNCK NCK(*ALL *PRIVATE)
```

このコマンドは、専用ニックネームのリストをニックネームの所有者に表示します。所有者は、表示されたニックネームの追加情報を表示または印刷するように要求することができます。

### 例2: ニックネームのリストの印刷

```
DSPNCK NCK(MANAGER *PRIVATE) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ユーザーの専用ニックネームMANAGERについての詳細情報を印刷します。

### 例3: ニックネームのデータベース・ファイルへの送信

```
DSPNCK NCK(*ALL *PUBLIC) OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(ALLNICKS)  
OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
```

このコマンドは、ディレクトリー内の共通ニックネームごとに1レコードをデータベース・ファイルALLNICKSに送ります。このソース・ファイルがライブラリー・リスト (省略時のライブラリー修飾子) に見つからない場合には、ユーザーの省略時ライブラリー・リストに、またはユーザーの省略時ライブラリーが指定されていない場合はQGPLライブラリーに作成されます。

### 例4: 所有者のニックネームのデータベース・ファイルへの送信

```
DSPNCK  NCK(*ALL *PUBLIC) OWNER(CDJONES) OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILE(NICKNAME/CDJONES)
        OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルがCDJONESであるユーザーが所有している共通ニックネームごとに1レコードをライブラリーNICKNAME内のデータベース・ファイルCDJONESに書き込みます。このソース・ファイルがライブラリーNICKNAME内に見つからない場合には、作成されます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### **CPF9A89**

ニックネーム機能が正常に実行されなかった。

#### **CPF9009**

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

#### **CPF9820**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

#### **CPF9822**

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

#### **CPF9838**

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

#### **CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

#### **CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

#### **CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

#### **CPF9850**

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

#### **CPF9851**

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

#### **CPF9860**

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上



---

## ネットワーク属性表示 (DSPNETA)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ネットワーク属性表示 (DSPNETA)コマンドは、システムのネットワーク属性を表示します。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション、定位置 1

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPNETA OUTPUT(\*)

ジョブが対話式である場合に、このコマンドは、ワークステーションのシステムのネットワーク属性を表示します。ジョブがバッチである場合には、ネットワーク属性はジョブのスパール出力を使用して印刷されません。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

**CPF9850**

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

**CPF9851**

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上

---

## ノード・グループの表示 (DSPNODGRP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ノード・グループ表示(DSPNODGRP)コマンドは、ノード・グループ内のシステムまたはノードを、そのノード・グループの区画スキームとともに表示します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NODGRP	ノード・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

### ノード・グループ(NODGRP)

表示したいノード・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

#### 修飾子1: ノード・グループ

**名前** 表示されるノード・グループの名前を指定してください。

#### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### \*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

#### \*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

---

## 例

### 例1: ノード・グループの表示

```
DSPNODGRP NODGRP(LIB1/GROUP1)
```

このコマンドは、GROUP1という名前のノード・グループにあるシステムおよびそのノード・グループに関連した区画スキームを表示します。情報はワークステーションに表示されます。

### 例2: ノード・グループの印刷

```
DSPNODGRP NODGRP(LIB1/GROUP2) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、GROUP1という名前のノード・グループおよび関連した区画スキーム中のシステムのリストが入っているスパール・ファイルを作成します。

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ\*&3に対する権限がありません。

#### CPF3166

ノード・グループ&1がライブラリー&2に見つからなかった。

#### CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

#### CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

#### CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。



---

## NETBIOS記述の表示 (DSPNTBD)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

NETBIOS記述表示(DSPNTBD)コマンドは、NETBIOS記述オブジェクトを表示します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NTBD	NETBIOS記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

上

---

### NETBIOS記述 (NTBD)

表示されるNETBIOS記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
\_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

### 例

DSPNTBD NTBD(MYNETBIOS)

このコマンドは、MYNETBIOSという名前のNETBIOS記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが入力されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから投入された場合には、コマンドからの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### **CPF26B2**

NETBIOS記述&1は前に削除された。

---

## ネットワーク・インターフェース記述の表示 (DSPNWID)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース記述表示(DSPNWID)コマンドはネットワーク・インターフェース記述を表示します。出力は、出力 (OUTPUT)パラメーターおよびジョブ・タイプによって決定される表示装置またはスプール印刷装置ファイルに転送されます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWID	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *CHLENTY, *DLCIENTRY, *LINELIST, *NETDIF, *PCLENTY, *TMRRTY	オプション

上

---

### ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)

これは必須パラメーターです。

表示するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

- \* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

#### \*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

上

---

## オプション (OPTION)

このパラメーターにより、このネットワーク・インターフェース記述に関する情報を選択して表示することができます。すべての情報(\*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。指定できる値は1つだけです。

**\*ALL** ネットワーク・インターフェース記述のすべての情報が表示されます。

**\*BASIC**

ネットワーク・インターフェース記述の基本となるパラメーターの値が表示されます。

**\*CHLENTY**

ネットワーク・インターフェース記述と関連するチャンネル項目が表示されます。この値は、デジタル総合サービス網(ISDN)が使用された時だけ有効です。

**\*DLCI** データ・リンク接続ID情報(DLCI番号、状況など) および活動または接続回線が表示されます。この値は、フレーム・リレー・ネットワーク(FR)が使用されている場合にだけ有効です。

**\*NETDIF**

ネットワーク・インターフェース記述中のネットワーク差異パラメーターの値が表示されます。この値はISDNが使用された時だけ有効です。

**\*PCLENTY**

ネットワーク・インターフェース記述のプロトコル項目を含むプロトコル固有の情報が表示されます。この値はISDNが使用された時だけ有効です。

**\*TMRRTY**

ネットワーク・インターフェース記述中のタイマーおよび再試行パラメーターの値が表示されます。

上

---

## 例

DSPNWID NWID(THISONE)

このコマンドは、THISONEという名前のネットワーク・インターフェース記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが投入されたワークステーションの画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## エラー・メッセージ

**\*ESCAPEメッセージ**

**CPD2637**

オブジェクト&1は認可されていない。

**CPF2625**

オブジェクト&1を割り振ることができない。

**CPF2634**

オブジェクト&1は認可されていない。

**CPF27AA**

ネットワーク・インターフェース&1にはこのオプションは使用できない。

**CPF27A4**

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

**CPF27A5**

ネットワーク・インターフェース記述&1に損傷がある。

**CPF27A8**

ネットワーク・インターフェース&1の&2が正しくない。

上



---

## NWS属性の表示 (DSPNWSA)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー属性表示(DSPNWSA)コマンドは、システムのネットワーク・サーバー属性を表示します。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された表示装置またはスプール印刷装置ファイルに転送されます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OPTION	オプション	*ALL, *WINDOWS, *WINDOWSNT	オプションル, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル

上

---

### オプション (OPTION)

表示される画面を指定します。

**\*ALL** すべてのサーバー・タイプに適用されるすべての画面が表示されます。

**\*WINDOWSまたは\*WINDOWSNT**

WINDOWSサーバー・タイプに適用される画面が表示されますが、詳細説明画面は表示されません。

注: \*WINDOWSはV5R4およびそれ以降のリリースで使用されていなければなりません。

\*WINDOWSNTの値は、V5R4より前のリリースとの互換性のためにサポートされています。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。

\*  
対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

**\*PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

---

## 例

DSPNWSA OUTPUT(\*)

ジョブが対話式の場合は、このコマンドはワークステーションにシステムのネットワーク・サーバー属性を表示します。ジョブがバッチの場合は、ネットワーク・サーバー属性がジョブのスプール出力と共に印刷されます。

---

## エラー・メッセージ

\*ESCAPEメッセージ

**CPFA452**

ネットワーク・サーバー属性が表示されない。



---

## NWS構成の表示 (DSPNWSCFG)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

NWS構成の表示 (DSPNWSCFG)コマンドは、ネットワーク・サーバー構成を表示します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	通信名	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *CNNSEC, *RMTSYS, *RMTIFC, *SRVPRC	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

### ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)

ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

---

### オプション (OPTION)

すべての情報(\*ALL)または特定の情報を表示するかどうかを指定します。

**\*ALL** ネットワーク・サーバー構成に関するすべての情報が表示されます。

**\*BASIC**

ネットワーク・サーバー構成の基本特性だけが表示されます。

**\*CNNSEC**

接続セキュリティのネットワーク・サーバー構成の特性だけが表示されます。

**\*RMTSYS**

リモート・システムのネットワーク・サーバー構成の特性だけが表示されます。

**\*RMTIFC**

ネットワーク・サーバー構成のリモート・インターフェース特性だけが表示されます。

**\*SRVPRC**

サービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成の特性だけが表示されます。

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

---

## 例

DSPNWSCFG NWSCFG(MYCONFIG)

このコマンドは、MYCONFIGという名前のネットワーク・サーバー構成に関する情報を表示します。オプションが指定されていないので、すべての情報が表示されます。情報は、コマンドが入力されたワークステーション画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから投入された場合には、コマンドからの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF96CB

ネットワーク・サーバー構成&1が見つかりません。

#### CPF96CC

オプション&1はネットワーク・サーバー構成&2には無効です。

#### CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

---

## ネットワーク・サーバー記述の表示 (DSPNWSD)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記述表示(DSPNWSD)コマンドは、ネットワーク・サーバー記述オブジェクトを表示します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NWSD	ネットワーク・サーバー 記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	_, *PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *PORTS, *VRTETHPTH, *VRTETHSEC, *STGLNK, *STGPTH, *STGPTHQN, *STGPTHSEC, *TCPIP, *RSTDEV, *CLUINFO	オプション

上

---

### ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)

表示されるネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
\_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## オプション (OPTION)

表示したい情報を指定します。すべての情報(\*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

**\*ALL** ネットワーク・サーバー記述に関するすべての情報が表示されます。

**\*BASIC**

ネットワーク・サーバー記述の基本特性だけが表示されます。

**\*PORTS**

接続された通信記述に関する情報だけが表示されます。

**\*VRTETHPTH**

ネットワーク・サーバー記述のISCSI仮想イーサネット・パスに関する情報だけが表示されます。

**\*VRTETHSEC**

ネットワーク・サーバー記述のISCSI仮想イーサネット・パス機密保護に関する情報だけが表示されます。

**\*STGLNK**

リンクされたクライアント記憶スペースに関する情報だけが表示されます。

**\*STGPPTH**

ネットワーク・サーバー記述のISCSI記憶域パスに関する情報だけが表示されます。

**\*STGPTHIQN**

ネットワーク・サーバー記述のISCSI記憶域パス修飾名に関する情報だけが表示されます。

**\*STGPTHSEC**

ネットワーク・サーバー記述のISCSI記憶域パス機密保護に関する情報だけが表示されます。

**\*TCPIP**

TCP/IP構成に関する情報だけが表示されます。

**\*RSTDEV**

ネットワーク・サーバー記述と関連した制限付き装置資源だけが表示されます。

**\*CLUINFO**

クラスター構成に関する情報だけが表示されます。

上

---

## 例

DSPNWSD NWSD(SERVER1)

このコマンドは、SERVER1という名前のネットワーク・サーバー記述についての情報を表示します。オプションが指定されていないので、すべての情報が表示されます。情報は、コマンドが入力されたワークステーション画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから投入された場合には、コマンドからの出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

上

---

## エラー・メッセージ

なし





---

## NWS記憶スペースの表示 (DSPNWSSTG)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶スペース表示(DSPNWSSTG)コマンドは、ネットワーク・サーバー記憶スペースを表示します。出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された表示装置またはスプール印刷装置ファイルに送られます。表示される情報には、記憶スペースの形式、そのサイズ、使用可能なフリー・スペースの容量、それが存在している補助記憶域プール、およびNWSD（ネットワーク・サーバー記述）にリンクされる際のドライブが含まれます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

### ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

表示する記憶スペースの名前を指定します。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

出力が要求したワークステーションの画面上に表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。

\*  
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

上

---

### 例

DSPNWSSTG NWSSTG(STGSPACE1)

このコマンドは、STGSPACE1という名前のネットワーク・サーバー記憶スペースを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上



---

## NWSユーザー属性の表示 (DSPNWSUSRA)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー・ユーザー属性表示(DSPNWSUSRA)コマンドは、ユーザー・プロファイルのネットワーク・サーバー・ユーザー属性を表示します。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された表示装置またはスプール印刷装置ファイルに転送されます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, *CURRENT	オプション, 定位置 1
PRFTYPE	プロファイル・タイプ	*USER, *GROUP	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *WINDOWS, *WINDOWSNT	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

### ユーザー・プロファイル (USRPRF)

ユーザーまたはグループ・プロファイルの名前を指定します。

#### \*CURRENT

現行ユーザー・プロファイルのユーザー・プロファイル属性が表示されます。

#### ユーザー名

表示するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

---

### プロファイル・タイプ (PRFTYPE)

表示される情報がユーザー・プロファイル用のものか、あるいはグループ・プロファイル用のものかを指定します。

#### \*USER

表示される情報はユーザー・プロファイル用のものです。

#### \*GROUP

表示される情報はグループ・プロファイル用のものです。

---

## オプション (OPTION)

表示される画面を指定します。

**\*ALL** すべてのサーバー・タイプに適用されるすべての画面が表示されます。

**\*WINDOWS**または**\*WINDOWSNT**

WINDOWSサーバーに適用される画面が表示されますが、詳細説明画面は表示されません。

注: \*WINDOWSはV5R4およびそれ以降のリリースで使用されていなければなりません。

\*WINDOWSNTの値は、V5R4より前のリリースとの互換性のためにサポートされています。

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのプール出力で印刷されるかを指定します。

\* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

**\*PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

---

## 例

DSPNWSUSRA USRPRF(NWSUSR1)

ジョブが対話式の場合は、このコマンドはワークステーションでユーザーNWSUSR1に定義されたネットワーク・サーバー・ユーザー属性を表示します。ジョブがバッチの場合は、ユーザーNWSUSR1のネットワーク・サーバー・ユーザー属性がジョブのプール出力と共に印刷されます。

---

## エラー・メッセージ

**\*ESCAPE**メッセージ

**CPFA453**

ネットワーク・サーバー・ユーザー属性が表示されない。

---

## オブジェクト権限表示 (DSPOBJAUT)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

オブジェクト権表示(DSPOBJAUT)コマンドは、そのオブジェクトの認可ユーザーとその割り当てられた権限のリストを表示します。オブジェクトが権限リストによって保護されている場合には、権限リストの名前も併せて表示されます。共通権限と1次グループ権限も表示されます。

このコマンドを入力中のユーザーには、オブジェクトに対するオブジェクト管理(\*OBJMGT)権限がない場合は、表示されるのはそのユーザーの名前および権限だけです。他のユーザーの名前およびオブジェクトに対するそのユーザーの権限は表示されません。オブジェクトに対応した所有者名がない場合には、そのオブジェクトに対する権限は表示されません。

指定されたオブジェクトについて、次が表示されます。

- オブジェクト名
- オブジェクトが入っているライブラリーの名前
- オブジェクト所有者の名前
- オブジェクト・タイプ
- オブジェクトの使用が認可されているすべてのユーザーのリスト
- 各ユーザーがオブジェクトに対して持っている権限
- 権限リスト名 (オブジェクトが権限リストによって保護されている場合)

制約事項: 補助記憶域プール装置を指定する場合は、それに対する使用(\*USE)権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
<b>OBJTYPE</b>	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
<b>ASPDEV</b>	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
<b>OUTPUT</b>	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 3
<b>OUTFILE</b>	出力を受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
<b>OUTMBR</b>	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
<b>AUTTYPE</b>	権限タイプ	*OBJECT, *FIELD, *ALL	オプション

上

---

## オブジェクト (OBJ)

認可ユーザーおよびその権限を表示するオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

**名前** オブジェクトの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

プログラム(\*PGM)、ファイル(\*FILE)、またはライブラリー(\*LIB)など、権限を表示するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。このコマンドのプロンプトが出されたときに、オブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付けて、F4（プロンプト）を押してください。

これは必須パラメーターです。

上

---

## ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター)を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

\* 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1)、定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32)、さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

### \*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

**名前** オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

\*  
\_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

### \*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

### \*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

**注:** 新しいファイルが作成される場合には、システムはQSYDSAUTの様式名をもつQSYSのQAOBJAUTをモデルとして使用します。

\*FILEオブジェクトにAUTTYPE(\*FIELD)が指定されていて、新しい出力ファイルが作成された場合には、システムはモデルとしてQSYDSFLDの形式名でQSYSのQAFLDAUTを使用します。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

### **\*FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

### **要素2: レコードの置き換えまたは追加**

#### **\*REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## **権限タイプ (AUTTYPE)**

オブジェクト・レベルの権限を表示するか、フィールド・レベルの権限を表示するか、あるいはオブジェクト・レベルとフィールド・レベルの両方の権限を表示するかを指定します。フィールド・レベルの権限情報のみが\*FILEオブジェクトに適用されます。

### **\*OBJECT**

オブジェクト・レベルの権限情報が表示され、スプール・ファイルに入れられ、あるいは出力ファイルに入れられます。

OUTPUT(\*)が要求されて、オブジェクトがフィールド・レベルの権限を持つファイルの場合には、F16キー（フィールド権限の表示）が画面上で使用可能になります。

### **\*FIELD**

フィールド・レベルの権限情報が表示され、スプール・ファイルに入れられ、あるいは出力ファイルに入れられます。

この値が有効となるのは、\*FILEが**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定されている場合だけです。

**\*ALL** OUTPUT(\*)が要求されている場合には、オブジェクト・レベルの権限情報が表示されます。ファイルに関連付けられたフィールド・レベルの権限がある場合には、F16キー（フィールド権限の表示）が画面上で使用可能になります。OUTPUT(\*PRINT)が要求されている場合には、スプール・ファイルにオブジェクト・レベルとフィールド・レベルの権限データが含まれます。AUTTYPE(\*ALL)はOUTPUT(\*OUTFILE)では無効です。

この値が有効となるのは、\*FILEが**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定されている場合だけです。

上

---

## **例**

### **例1: ユーザーおよび権限の表示**

DSPOBJAUT OBJ(ARLIB/PROG1) OBJTYPE(\*PGM)

このコマンドは、このコマンドを入力したユーザーに対してPROG1という名前のオブジェクトに対する許可ユーザーおよびその権限を表示します（そのユーザーにそのユーザーに対するオブジェクト管理権がある場合）。ユーザーにオブジェクト管理権限がない場合は、表示されるのは個人用権限だけです。PROG1は、ARLIBという名前のライブラリー内にあるプログラム(\*PGM)です。システムは、出力リストを表示する装置には\*を想定します。コマンドがバッチ・サブシステムに入力された場合は、出力はジョブの省略時出力待ち行列に入れられます。コマンドが対話式サブシステムに入力された場合は、出力はこのコマンドが入力された装置に表示されます。

## 例2:ユーザーのリストの印刷

```
DSPOBJAUT OBJ(ARLIB/PROG2) OBJTYPE(*PGM) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドにより、ARLIBライブラリー内のPROG2という名前のプログラムの許可ユーザーのリストが印刷されることとなります。このコマンドを入力するユーザーに、プログラムに対してオブジェクト管理権限がない場合は、印刷されるのはそのユーザーの名前および権限だけです。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

#### CPF2207

ライブラリー&3のタイプ\*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

#### CPF2208

ライブラリー&3のタイプ\*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

#### CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

#### CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ\*&2を割り振ることができない。

#### CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

#### CPF224E

ライブラリー&2のファイル&1にはAUTTYPE値\*FIELDは正しくない。

#### CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

#### CPF9843

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

#### CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上



## オブジェクト記述表示 (DSPOBJD)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドは、指定されたライブラリーの中または現行スレッドのライブラリー・リストのライブラリーの中にある指定されたオブジェクトの名前および属性を表示します。このコマンドは、ライブラリー自体の名前および属性も表示します。

各オブジェクトのオブジェクト属性のみが表示され、オブジェクト内のデータのデータ属性とオブジェクト内の実際のデータは表示されません。また、表示されているオブジェクトが損傷している（おそらくはシステム障害が原因）かどうか、あるいはロックされているためにアクセスできないのかも示されます。

\*EXCLUDE権限以外の何らかの権限をもっているオブジェクトのいずれでも、このコマンドで表示することができます。実行(\*EXECUTE)権限実行権限をもっていないライブラリーは、このコマンドに指定しても表示できません。オブジェクトを1つだけ表示する場合には、オブジェクト名、オブジェクト・タイプ、そのオブジェクトが入っているライブラリーの名前、およびそのライブラリーが入っている補助記憶域プール(ASP)装置を入力することによって、そのオブジェクトを指定することができます。指定されたライブラリー修飾子により、指定されたライブラリーで最初に見つかったオブジェクトが表示されるか、または指定されたライブラリー内にあって何らかの権限をもっているすべてのオブジェクトが表示されます。

### 注:

- 損傷しているかまたはロックされているオブジェクトの場合には、表示されるか、印刷されるか、または出力ファイルに書き込まれる情報は不完全なものです。オブジェクトの記述が表示または印刷される場合には、損傷しているかまたはロックされているオブジェクトのテキストに、損傷またはロック状況が示されます。オブジェクトの記述が出力ファイルに書き込まれる場合には、オブジェクトがロックされているか、損傷しているという指示が出力ファイルに書き込まれます。
- 表示されるライブラリー・オブジェクトのサイズには、ライブラリー内のオブジェクトのサイズは含まれません。ライブラリー内のオブジェクトのサイズを含むライブラリーの合計サイズは、OUTPUT(\*PRINT)を指定したライブラリー表示(DSPLIB)コマンドまたはライブラリー記述検索(QLIRLIBD) APIを使用して判断することができます。

### 制約事項:

1. 指定したライブラリーに対する実行(\*EXECUTE)権限が必要です。ライブラリーに対する\*EXECUTE権限がない場合には、そのオブジェクトはどれも表示されません。
2. 表示される各オブジェクトに対して\*EXCLUDE権限以外の何らかの権限が必要です。
3. オブジェクト監査フィールドで\*NOTAVL以外の値を表示するには、全オブジェクト(\*ALLOBJ)または監査(\*AUDIT)特殊権限のいずれかが必要です。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALLUSR, *IBM その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 92 回の繰り返し): *ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWSL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL0D, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL, *SERVICE	オプション, 定位置 3
ASPDEV	ASP装置	単一値: *, *ALLAVL, *CURASPGRP, *SYSBAS その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置	名前	
	要素 2: 検索タイプ	*ASP, *ASPGRP	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <b>*FIRST</b>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<b>*REPLACE</b> , <b>*ADD</b>	

上

## オブジェクト (OBJ)

ライブラリー（複数の場合もある）の中のどのオブジェクトのオブジェクト属性を表示させるかを指定します。ライブラリー（修飾子2）を指定しない場合には、**\*LIBL**と見なされ、オブジェクトを見つけるために現行スレッドのライブラリー・リストにあるすべてのライブラリーが検索されます。ライブラリー内にあって何らかの権限がないオブジェクトは、表示されません。このパラメーターは、単一値として指定することも、1つまたは2つの修飾子リストとして指定できます。

これは必須パラメーターです。

### 単一値

#### \*ALLUSR

オブジェクト名の値が**\*ALLUSR** の時には、オブジェクト・タイプは**\*LIB**でなければなりません。**ASP装置(ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが表示されます。ユーザー・ライブラリーの定義については、ライブラリー（修飾子2）の説明にある**\*ALLUSR**を参照してください。

**\*IBM** オブジェクト名の値が**\*IBM**の場合には、オブジェクト・タイプは**\*LIB**でなければなりません。**ASP装置(ASPDEV)**パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)にあるライブラリーのうち、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに**\*IBM**が指定された**SAVLIB**および**RSTLIB** CLコマンドを使用して保管および復元されたライブラリーのすべてが表示されます。

### 修飾子1: オブジェクト

**\*ALL** ライブラリー（修飾子2）で識別されるライブラリー中にあり、**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターに指定されたタイプであり、それに対して**\*EXCLUDE**権限以外の何らかの権限のあるオブジェクトがすべて表示されます。

1. ライブラリー（修飾子2）が**\*ALL**、**\*ALLUSR**、またはライブラリー名の場合には、指定されたタイプのオブジェクトのうち、指定されたライブラリーにあるすべてのオブジェクトが表示されます。
2. ライブラリー（修飾子2）が**\*USRLIBL**または**\*LIBL**で、オブジェクト名が特定名である(**\*ALL**でも、総称名でもない) 場合には、**OBJTYPE**パラメーターにはオブジェクト・タイプを1つしか(**\*ALL**以外) 指定できず、最初に見つかったオブジェクトだけが表示されます。

**総称名** 表示されるオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(\*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名は、総称オブジェクト名と同じ接頭部の名前をもち、それに対して**\*EXCLUDE**権限以外の何らかの権限をもつオブジェクトをすべて指定します。

**名前** 表示するオブジェクトの名前を指定してください。

## 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定される場合、ASPDEV(\*)が唯一の有効な値です。

### \*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、**QGPL**ライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定される場合、ASPDEV(\*)が唯一の有効な値です。

### \*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定される場合、ASPDEV(\*)が唯一の有効な値です。

**\*ALL ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*ALLUSR

**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、**Q**以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

英字**Q**で始まる名前をもつ次のライブラリーは**IBM**によって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT     QUSRISJS   QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2       QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx  QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F       QUSROND
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF   QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL   QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースの**CL**プログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用に**QUSRVXRXMX**の形式の別のライブラリー名を作成することができます。 **QUSRVXRXMX**ユーザー・ライブラリーの**VXRXMX**は弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示されるオブジェクトのタイプを指定します。このパラメーターは、単一値として指定することも、1つまたは複数のオブジェクト・タイプのリストとして指定することもできます。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

### 単一値

**\*ALL** 指定されたオブジェクト名のすべてのタイプのオブジェクトが表示されます。

### その他の値

#### オブジェクト・タイプ

表示されるオブジェクトのタイプに対する1つまたは複数の値を指定してください。指定されたライブラリーの中にあり、指定されたオブジェクト・タイプを持っているすべてのオブジェクト、およびライブラリー自体が、そのオブジェクト属性を表示されます。 **オブジェクト(OBJ)**パラメーターのライブラリー修飾子が\*USRLIBLまたは\*LIBLで、オブジェクト名修飾子が特定名である(\*ALLでも、総称名でもない) 場合には、1つのオブジェクト・タイプしか(\*ALLではなく) ここに指定できません。

上

---

## 詳細 (DETAIL)

各オブジェクトごとにどのセットの属性を表示するかを指定します。

注: 出力がデータベース・ファイルに送られる時には、このパラメーターは無視され、すべてのオブジェクト属性情報がファイルに書き込まれます。

### \*BASIC

画面またはリストには、各オブジェクトに関するオブジェクト属性の名前および基本セットが入っています。

### \*FULL

画面またはリストには、各オブジェクトに関するオブジェクト属性の名前および全セット（属性の基本セットを含む）が入っています。

### \*SERVICE

画面またはリストには、各オブジェクトに関するサービス関連の属性が入っています。

上

---

## ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクトが入っているライブラリーに記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいライブラリーが検索されるように、このパラメーターを指定しなければなりません。オブジェクト(OBJ)パラメーターに指定されたライブラリー修飾子が\*CURLIB, \*LIBL,または\*USRLIBLの時にこのパラメーターを使用する場合には、ASPDEV(\*)が唯一の有効な値です。このパラメーターは、単一値、あるいは1個または2個の要素のリストとして指定することができます。

### 単一値

\* 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

### \*ALLAVL

使用可能なすべてのASPが検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済みユーザー基本ASP (ASP 2から32),およびすべての1次および2次ASP (状況が「使用可能」となっているASP 33から255)が含まれます。

### \*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

### \*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

### 要素1: 装置

#### 名前

検索される1次または2次ASP装置の名前を指定します。1次および2次ASPは(ASP装置をオンに変更することによって)活動化されていなければならず、状況が「使用可能」になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 要素2に指定された検索タイプが\*ASPの時に、特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、その特定のASP装置に対する実行(\*EXECUTE)権限がなければなりません。

要素2に指定された検索タイプが\*ASPGRPの時に特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、そのASPグループ中の各ASP装置に対する実行(\*EXECUTE)権限がなければなりません。

### 要素2: 検索タイプ

要素1で名付けられた単一ASP装置またはASPグループ全体が検索されるかどうかを指定します。

**\*ASP** 要素1で名付けられた単一の補助記憶域プール(ASP)装置だけが検索されます。

### \*ASPGRP

要素1で名付けられた1次補助記憶域プール(ASP)装置のグループ全体が検索されます。



---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

\* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

### \*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。

注: 新しいファイルが作成される場合には、そのファイルを説明するテキストは"DSPOBJDの出力ファイル"であり、共通権限はそのファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じです。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。出力ファイルのデータベースの形式(QLIDOBJD)は、弊社提供データベース・ファイルQADSPOBJで使用されるものと同じです。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドの出力が送られるファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

\*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ファイルを見つけるために検索されるライブラリーの名前を指定してください。

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

### **\*FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

### **要素2: レコードの置き換えまたは追加**

#### **\*REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## **例**

### **例1:オブジェクトの基本記述の表示**

```
DSPOBJD OBJ(X/PAY) OBJTYPE(*ALL)
```

ライブラリーX中の何らかの権限 (除外(\*EXCLUDE)権限を除く) があるPAYという名前のすべてのオブジェクトの基本記述が表示されます。ライブラリー中の権限のないオブジェクトは表示されません。

### **例2:プログラムの全記述の表示**

```
DSPOBJD OBJ(X/PAY) OBJTYPE(*PGM) DETAIL(*FULL)
```

ライブラリーX内のPAY という名前のプログラムの全記述が表示されます。表示されるものにはプログラムのすべての属性が含まれます。

### **例3:プログラム情報の表示**

```
DSPOBJD OBJ(*USRLIBL/PAY) OBJTYPE(*PGM)
```

このコマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分に見つかるPAYという名前の最初のプログラムについての情報を表示します。

### **例4:ファイルの基本記述の表示**

```
DSPOBJD OBJ(Z/ABC*) OBJTYPE(*FILE)
```

ライブラリーZにあって何らかの権限 (除外(\*EXCLUDE)権限を除く) をもつもののうち名前がABC (総称名) で始まるすべてのファイルの基本記述が表示されます。

上

---

## **エラー・メッセージ**

### **\*ESCAPEメッセージ**



**CPF8ED**

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

**CPF2105**

&2に、タイプ\*&3のオブジェクト&1が見つからない。

**CPF2110**

ライブラリー&1が見つかりません。

**CPF2113**

ライブラリー&1を割り振ることができない。

**CPF2114**

&2のオブジェクト&1タイプ\*&3を割り振ることができない。

**CPF2115**

&2のタイプ\*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

**CPF2121**

1つまたは複数のライブラリーをアクセスすることができない。

**CPF2123**

指定した名前またはタイプのオブジェクトはライブラリー&2に存在していない。

**CPF2124**

ライブラリー&2から、指定したオブジェクトを表示することはできない。

**CPF2150**

オブジェクト情報機能に障害。

**CPF2176**

ライブラリー&1に損傷がある。

**CPF2177**

OBJTYPEの値がOBJの値と矛盾している。

**CPF218C**

&1は1次または2次ASPではない。

**CPF218D**

\*ASPGRPが指定されている時に、&1が1次ASPになっていない。

**CPF2182**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF2189**

&2のオブジェクト&1タイプ\*&3に対する権限がありません。

**CPF326B**

ライブラリー&2のファイル&1に損傷がある。

**CPF9809**

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

**CPF9814**

装置&1が見つかりません。

**CPF9825**

装置&1は認可されていない。

**CPF9827**

オブジェクト&1を作成したり&2に移動することはできない。

**CPF9833**

\*CURASPGRPまたは\*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

**CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

**CPF9850**

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

**CPF9851**

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

**CPF9860**

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

**CPF9899**

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

---

## OPTICONNECTリンク状況の表示 (DSPOPCLNK)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

OPTICONNECTリンク状況の表示(DSPOPCLNK)コマンドによって、複数システム間の光ファイバー・リンクまたは高速リンク(HSL)接続のいずれかの状態を表示することができます。高速リンクが存在するかどうかをシステムが判別してそれを表示しますが、存在しない場合は、光ファイバー・リンクが表示されます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション、定位置 1

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

光ファイバー・リンクの印刷だけが可能です。リンク状況の印刷出力が必要である場合には、この機能はハードウェア保守管理画面を介して使用できます。

\* 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

### 例

DSPOPCLNK OUTPUT(\*PRINT)

このコマンドは、OPTICONNECTによって使用できるすべての接続の状況が表示されているリストを生成します。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上

## 光ディスク表示 (DSPOPT)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

光ディスク表示(DSPOPT)コマンドは、DATAパラメーターに指定されている値に応じて、ボリューム、ディレクトリー、またはファイル属性を表示します。情報は出力ファイルに印刷、表示、または書き出すことができます。出力が出力ファイルに向けられた場合には、出力のレコード様式は次のいずれかになります。

- DATA(\*VOLATR)が指定されると、データベース・ファイルはQAMODVAという名前のレコード様式を持つこととなります。データベース内のフィールドは、ライブラリーQSYS に入っているファイル QAMODVAF内の弊社提供様式QAMODVAのフィールドと同じです。
- DATA(\*DIRATR)が指定されると、データベース・ファイルはQAMODPAという名前のレコード様式を持つこととなります。データベース内のフィールドは、ライブラリーQSYS に入っているファイル QAMODPAF内の弊社提供様式QAMODPAのフィールドと同じです。
- DATA(\*FILATR)が指定されると、データベース・ファイルはQAMODFAという名前のレコード様式を持つこととなります。データベース内のフィールドは、ライブラリーQSYS に入っているファイル QAMODFAF内の弊社提供様式QAMODFAのフィールドと同じです。

制約事項: このコマンドを使用するためには、表示されるボリュームを保護するために権限リストに対する \*USE権限が必要です。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
<b>VOL</b>	ボリューム識別コード	文字値, *ALL, *MOUNTED	必須, 定位置 1
<b>DEV</b>	光ディスク装置	名前, *ALL	オプション, 定位置 2
<b>DATA</b>	データ・タイプ	*VOLATR, *SAVRST, *FILATR, *DIRATR	オプション, 定位置 3
<b>OUTPUT</b>	出力	*, *PRINT, *OUTFILE, *USRSPC	オプション
<b>PATH</b>	パス	文字値, *ALL	オプション
<b>USRSPC</b>	ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・スペース	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
<b>REPLACE</b>	ユーザー空間置き換え	*YES, *NO	オプション
<b>OUTFILE</b>	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
<b>OUTMBR</b>	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

---

## ボリューム識別コード (VOL)

表示される情報が入っている光ディスク・ボリュームのIDを指定します。

**\*ALL** 指定された直接接続の光ディスク装置上のすべての光ディスク・ボリュームの情報(DEVパラメーター)が表示されます。

**\*MOUNTED**

指定された装置(DEVパラメーター)に装着されているボリュームの情報が表示されます。

注: この値は、直接接続の光ディスク装置だけに有効であり、ライブラリー装置には有効ではありません。

### ボリュームID

光ディスク・ボリュームのIDを指定してください。

### 総称\*ボリュームID

ボリュームIDの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(\*)を付けた文字ストリング(例えば、ABC\*など)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名によって、直接接続された光ディスク装置の、ユーザーに権限がある総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトが表示されることとなります。総称(接頭部)名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

上

---

## 光ディスク装置 (DEV)

その情報が表示される光ディスク・ボリュームが入っている、直接接続の光ディスク装置を指定します。

注: このパラメーターは、VOLパラメーターに特定のボリューム名が指定されている時には無視されます。

**\*ALL** 直接接続されたすべての光ディスク装置上の光ディスク・ボリュームのボリューム属性が表示されます。

注: この値はVOL(\*ALL)またはVOL(総称\*)が指定されている時にだけ有効です。

### 光ディスク装置

直接接続の光ディスク装置の名前を指定してください。

上

---

## データ・タイプ (DATA)

PATHパラメーターに指定されている時に表示される情報のタイプを指定します。DATA(\*SAVRST)が指定されている場合には、この情報に、光ディスク・ファイルに保管される各オブジェクトの記述および保管されたオブジェクトに関する要約情報が含まれます。表示されるボリュームに基本ストリーム・ファイル形式のデータが入るか、あるいは保管および復元形式のデータが入るかを判別するためには、DATA(\*FILATR)を指定して、リストされるデータ・ファイルIDを検査することができます。

**\*VOLATR**

指定したボリューム(1つまたは複数)のボリューム属性が表示されます。

**\*DIRATR**

指定したディレクトリー(1つまたは複数)のディレクトリー属性が表示されます。

**\*FILATR**

指定したファイル(1つまたは複数)のファイル属性が表示されます。

**\*SAVRST**

指定したファイルに保管および復元データが入ります。 コマンドおよび保管された各オブジェクトの要約情報が表示されます。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドの出力を要求元のワークステーションに表示するか、ジョブのプール出力で印刷するか、データベース・ファイルに追加するか、あるいはユーザー空間に送るかを指定します。

\*  
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。 コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのプール出力で印刷されます。

**\*PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

**\*OUTFILE**

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

**\*USRSPC**

出力はUSRSPCパラメーターに指定されたユーザー空間に追加されます。

上

---

## パス (PATH)

表示されるボリューム上のディレクトリーまたはファイルのパス名を指定します。 DATAパラメーターは、ディレクトリーまたはファイル属性が表示されるかどうかを指示します。 オブジェクト・パス名は、単一の名前か、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前にすることができます。 パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。 アスタリスク(\*)は任意の文字数に対応します。 パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフイで囲まなければなりません。

注: このパラメーターはDATA(\*VOLATR)が指定されている場合には無視されます。

**\*ALL** パラメーターDATAの指定方法によっては、\*ALLが別の意味をもつことがあります。 その組合せと意味のリストは、次の通りです。

- DATA(\*VOLATR)およびPATH(\*ALL)。PATHパラメーターは無視されます。
- DATA(\*SAVRST)およびPATH(\*ALL)。ボリューム上のすべてのディレクトリーのすべての保管／復元ファイルがリストされます。
- DATA(\*SAVRST)およびPATH(/ディレクトリー1/\*ALL)。パス／ディレクトリー1中のすべての保管／復元ファイルがリストされます。
- DATA(\*DIRATR)およびPATH(\*ALL)。ボリューム上のすべてのディレクトリーのすべてのディレクトリー属性がリストされます。

- DATA(\*DIRATR)およびPATH(/DIRECTORY1/\*ALL)。パス/DIRECTORY1中のディレクトリーのすべてのディレクトリー属性がリストされます。
- DATA(\*FILATR)およびPATH(\*ALL)。ボリュームのルート・ディレクトリー(/)中のファイルのすべてのファイル属性がリストされます。
- DATA(\*FILATR)およびPATH(/DIRECTORY1/\*ALL)。ボリュームの/DIRECTORY1中のファイルのすべてのファイル属性がリストされます。

**パス名** 属性をリストするディレクトリーまたはファイルの完全修飾名を指定してください。

#### **総称\*パス名**

パスIDの総称名を指定してください。総称名は1文字または複数文字の文字ストリングにアスタリスク(\*)を続けたものです。例えば、/DIRECTORY1/FILE\*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名によって、総称接頭部で始まり、ユーザーが権限をもっている、すべてのディレクトリー属性またはファイル属性が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

上

---

## **ユーザー・スペース (USRSPC)**

画面出力の追加先のユーザー・スペースを指定します。

注: このパラメーターはOUTPUT(\*USRSPC)が指定されている場合にのみ有効です。

#### **修飾子1: ユーザー・スペース**

##### **ユーザー空間名**

出力を受け取るユーザー空間の名前を指定してください。

#### **修飾子2: ライブラリー**

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

##### **\*CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

##### **ライブラリー名**

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## **ユーザー空間置き換え (REPLACE)**

既存のユーザー空間を置き換えるかどうかを指示します。

注: このパラメーターはOUTPUT(\*USRSPC)が指定されている場合にのみ有効で、指定されたライブラリーの中にユーザー空間が見つからない場合には無視されます。

**\*YES** ユーザー空間が見つかった場合には置き換えられます。元のユーザー空間の既存の権限は保持されますが、内容は置き換えられます。



- \*NO ユーザー空間は見つかったとしても置き換えられません。要求は終了し、ライブラリーにはすでにユーザー空間が存在していて、作成することはできないことを告げるメッセージがジョブ・ログに送られます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

\*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

### \*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

#### \*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

### 要素2: レコードの置き換えまたは追加

#### \*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

\*ADD システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

---

## 例

### 例1:すべての光ディスク・ボリュームの属性の表示

```
DSPOPT VOL(*ALL) DEV(*ALL)
```

このコマンドは、ローカル光ディスク装置およびライブラリー内のすべてのボリューム属性を表示します。

### 例2:総称検索を使用した属性の表示

```
DSPOPT VOL(PAY*) DATA(*DIRATR) PATH('//*')
```

このコマンドは、文字PAYで始まっている光ディスク・ボリュームすべてのルート・ディレクトリー内のすべてのディレクトリーの属性を表示します。

### 例3:特定ディレクトリーの属性の表示

```
DSPOPT VOL(VOL01) DEV(OPT01) DATA(*FILATR)  
PATH('/DIR1/DIR2/*')
```

このコマンドは、光ディスク・ボリュームVOL01のディレクトリー/DIR1/DIR2内のすべてのファイルのファイル属性を表示します。

### 例4:保管および復元データの表示

```
DSPOPT VOL(*MOUNTED) DEV(OPT01) DATA(*SAVRST)  
PATH('*ALL')
```

このコマンドは、装置OPT01にマウントされた光ディスク・ボリューム上に見つかったすべてのファイルの保管および復元データを表示します。

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF1247

サブシステム&1は事前開始ジョブ&2を開始することができない。

#### CPF384C

CCSIDの変換中にエラーが起こった。

#### CPF3864

&3の&2 &1は復元されなかった。

#### CPF386A

ファイルが見つからない。

#### CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

#### CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

- CPF9815**  
ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。
- CPF9845**  
ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。
- CPF9850**  
印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。
- CPF9851**  
&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。
- CPF9860**  
出力ファイルの処理中にエラーが起こった。
- OPT1115**  
ファイルが見つからない。
- OPT1125**  
ファイルが使用中。
- OPT1135**  
オープン・ファイル数が限界に達したので要求は失敗しました。
- OPT1140**  
ファイル処理中に予期しないエラーが起こった。
- OPT1185**  
保留中の光ディスク・ファイルをアクセスすることができない。
- OPT1205**  
ディレクトリーが見つからない。
- OPT1212**  
ディレクトリーが使用中です。
- OPT1224**  
パスの長さが最大値の256バイトを超えている。
- OPT1247**  
ライブラリー&2でユーザー空間&1は作成されなかった。
- OPT1255**  
ファイルが壊れている。
- OPT1317**  
ディレクトリー名が長すぎる。
- OPT1320**  
光ディスク・ボリューム&1は使用中である。
- OPT1325**  
光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。
- OPT1330**  
光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。
- OPT1331**  
光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

**OPT1340**

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

**OPT1346**

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

**OPT1360**

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

**OPT1427**

DATA値では総称または\*ALLボリューム要求は使用できません。

**OPT1460**

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

**OPT1463**

操作が完了していない。光ディスク・ボリュームが基本ボリュームではありません。

**OPT1489**

装置&1ではボリューム・パラメーターは使用できない。

**OPT1530**

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

**OPT1555**

光ディスク装置&1は使用中です。

**OPT1605**

媒体または装置エラーが起きました。

**OPT1640**

ファイルまたはディレクトリーの読み取り中にエラーが起こった。

**OPT1790**

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

**OPT1805**

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

**OPT1810**

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

**OPT1813**

予期しないエラーが起こった。

**OPT1815**

内部プログラム・エラーが起きました。

**OPT1820**

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

**OPT1821**

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

**OPT1825**

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

**OPT1860**

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

**OPT1861**

装置&1に構成された装置記述がない。

**OPT1862**

資源&1に活動状態の装置記述がない。

**OPT1863**

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

**OPT1872**

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

**OPT2040**

バックアップ制御ファイルのアクセス中にエラー。

**OPT2301**

内部システム・オブジェクトが使用中である。

**OPT2420**

光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。

**OPT2422**

ファイルまたはディレクトリーに対して許可されていません。

**OPT6713**

ボリューム明細の表示が正常に実行されなかった。

**OPT7740**

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

上



---

## 光ディスク・ロック表示 (DSPOPTLCK)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

光ディスク・ロックの表示(DSPOPTLCK)コマンドは、光ディスク・ボリューム、ディレクトリー、またはファイル上に保留されているロックのリストを表示します。TYPE(\*JOB)が指定されている場合には、このコマンドは現在光ディスク要求を実行しているすべてのジョブのリストを表示します。情報は印刷または表示することができます。

このコマンドは、リモート光ディスク・サーバーにあるボリューム、ディレクトリー、またはファイルに対するロックは識別しません。また、現在リモート光ディスク・サーバーを使用しているジョブも識別しません。遠隔光ディスク・サーバーを現在使用しているジョブがあるかどうかを判別するためには、TYPE(\*CONV)を指定した光ディスク・サーバー表示(DSPOPTSVR)コマンドを使用してください。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TYPE	タイプ	*VOL, *DIR, *FILE, *JOB	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値	オプション, 定位置 2
PATH	パス	文字値	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

### タイプ (TYPE)

表示または印刷されるロックのタイプを指定します。

- \*VOL 指定された光ディスク・ボリューム上のジョブ情報およびロックが表示または印刷されます。
- \*DIR 指定された光ディスク・ディレクトリーのジョブ情報およびロックが表示または印刷されます。
- \*FILE 指定された光ディスク・ファイルのジョブ情報およびロックが表示または印刷されます。
- \*JOB 現在光ディスク要求を実行しているすべてのジョブのジョブ情報およびロックが表示または印刷されます。

上

---

### ボリューム識別コード (VOL)

ロックがリストされている光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。

---

## パス (PATH)

ロックがリストされているボリューム上のディレクトリーまたはファイルのパス名を指定します。

注: このパラメーターはTYPE(\*DIR)またはTYPE(\*FILE)が指定されている場合にのみ有効です。

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスパール出力で印刷されるかを指定します。

\* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。 コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

---

## 例

### 例1:ファイルに対するロックの表示

```
DSPOPTLCK  TYPE(*FILE)  VOLUME(VOL001)
           PATH('/PAYROLL/JAN1995')
```

このコマンドは、VOL001ボリューム上のディレクトリー/PAYROLL内のファイルJAN1995に対して保留されたロックを表示します。

### 例2:アクティブ・ジョブのロックの表示

```
DSPOPTLCK  TYPE(*JOB)
```

このコマンドは、光ディスク要求を実行中のアクティブ・ジョブのリストを表示します。

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### OPT1318

ファイル名が長すぎる。



---

## 光ディスク・サーバー表示 (DSPOPTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

光ディスク・サーバー表示(DSPOPTSVR)コマンドは、光ディスク・サーバー追加(ADDOPTSVR)コマンドを使用して追加されたすべての光ディスク・サーバーの構成に関する情報を表示します。情報は印刷または表示することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TYPE	タイプ	*DEST, *CONV	オプションル, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル, 定位置 2

上

---

### タイプ (TYPE)

表示される情報のタイプを指定します。

#### \*DEST

宛先情報が表示されます。この情報には、階層ファイル・システム(HFS) APIを使用してアクセスできるすべての光ディスク・サーバーのリストおよび各宛先の現在の状況が含まれます。

#### \*CONV

会話情報が表示されます。この情報には、活動状態のすべての光ディスク会話のリスト、各会話の宛先、会話を使用するジョブ、および各オープン・ファイルのパスが含まれます。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスパール出力で印刷されるかを指定します。

\*  
\_ 要求されたデータは表示装置に表示されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPOPTSVR TYPE(\*DEST)

このコマンドは、開始済みの光ディスク・サーバーのすべての各宛先の現行状況を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### **CPF4101**

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

#### **CPF6A1C**

印刷機能を追加することができない。

#### **CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

#### **CPF9850**

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

#### **CPF9851**

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

#### **OPT6710**

光ディスク・サーバー・サポートが活動状態でない。

上

---

## OSPFの表示 (DSPOSPF)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

OSPF状態および構成の表示(DSPOSPF)コマンドは、現在のOSPF構成またはルーティング・プロトコルの状態を表示することができます。現在の構成情報には、OSPFインターフェース、近隣、領域、および仮想リンクが含まれます。現在の状態情報には、近隣状態、形成された隣接、リンク状態データベース・コンテンツ、およびOSPF経路が含まれます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
IPVERSION	OSPFバージョン	*IPV4, *IPV6	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*CFG, *STATE	オプション, 定位置 2
CONFIG	構成情報	*GLOBAL, *AREA, *IFC, *NBCIFC, *NGH, *VRTLNK	オプション
STATE	状態情報	*IFC, *NGH, *LSA, *RTE	オプション
IFC	インターフェース	文字値, *ALL	オプション
NGH	近隣	文字値, *ALL	オプション
LSA	リンク状態の公示	文字値, *EXTERNAL	オプション

上

---

### OSPFバージョン (IPVERSION)

表示するOSPF状態および構成情報のバージョンを指定してください。

**\*IPV4** IPv4のOSPF状態および構成を表示します。

**\*IPV6** IPv6のOSPF状態および構成を表示します。

上

---

### オプション (OPTION)

表示されるOSPF情報のタイプを指定してください。

**\*CFG** 現行のOSPF構成情報を表示します。

**\*STATE**

現行のOSPF状態情報を表示します。

上

---

## 構成情報 (CONFIG)

表示するOSPF構成オプションを指定してください。

### **\*GLOBAL**

ルーターIDなどのグローバルOSPF情報、およびOSPFルーティング・プロトコルが使用可能かどうかを表示します。

### **\*AREA**

構成済みOSPF領域を表示します。

**\*IFC** 構成済みOSPFインターフェースを表示します。

### **\*NBCIFC**

構成済みOSPFの非ブロードキャスト・インターフェースを表示します。

**\*NGH** 構成済みOSPF隣接を表示します。

### **\*VRTLNK**

構成済みOSPF仮想リンクを表示します。

上

---

## 状態情報 (STATE)

表示するOSPF状態オプションを指定してください。

**\*IFC** OSPFインターフェースの現行状態を表示します。

**\*NGH** OSPF隣接の現行状態を表示します。

**\*LSA** リンク状態データベースの内容を表示します。

**\*RTE** 他のルーターに対して生成されたOSPF経路を表示します。

上

---

## インターフェース (IFC)

OSPFインターフェースの現行状態情報を表示します。

**\*ALL** このオプションは、構成されたすべてのOSPFインターフェースの状態を表示します。

**文字値** 特定のOSPFインターフェースのインターネット・アドレスを指定してください。

IPv4インターネット・アドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*形式で指定され、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。IPv6インターネット・アドレスは、*n:n:n:n:n:n:n:n*形式で指定されました。ここで、*n*は0からX'ffff'の範囲の16進数です。値"*::*"は、1つ以上のグループの16ビットがゼロであることを示しています。

インターフェースIDは、論理インターフェースの別名になることもあります。

上

---

## 近隣 (NGH)

OSPF隣接の現行状態を表示します。

**\*ALL** 構成されたすべてのOSPF隣接の状態を表示します。

**文字値** 特定のOSPF隣接のインターネット・アドレスを指定してください。

IPv4インターネット・アドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*形式で指定され、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。IPv6インターネット・アドレスは、*n:n:n:n:n:n:n:n*形式で指定されました。ここで、*n*は0からX'ffff'の範囲の16進数です。値"*::*"は、1つ以上のグループの16ビットがゼロであることを示しています。

上

---

## リンク状態の公示 (LSA)

外部リンク状態アドバタイズメントまたは特定の領域のリンク状態データベースを表示するかどうかを指定してください。

**\*EXTERNAL**

外部のリンク状態アドバタイズメントを表示します。

**文字値** 領域のインターネット・アドレスを*a.a.a.a*形式で指定してください。ここで、*a*は1から255の10進数です。

上

---

## 例

### 例1: OSPF IPv4のグローバル情報の表示

```
DSPOSPF IPVERSION(*IPV4) OPTION(*CFG) CONFIG(*GLOBAL)
```

このコマンドは、IPv4 OSPFの現行グローバル構成パネルを表示します。このパネルには、ルーターID、OSPFプロトコルが使用可能であるかどうか、システムが自律境界ルーターとして使用可能になっているかどうかなどが表示されます。

### 例2: 現行構成済みIPv4 OSPFインターフェースの表示

```
DSPOSPF IPVERSION(*IPV4) OPTION(*CFG) CONFIG(*IFC)
```

このコマンドは、「現行構成済みIPv4 OSPFインターフェース」パネルを表示します。このパネルには、OSPFインターフェースごとに、Helloパケットの送信時間間隔およびデータベース交換プロセスの値が表示されます。

### 例3: 現在構成されているIPv4 OSPFエリアの表示

```
DSPOSPF IPVERSION(*IPV4) OPTION(*CFG) CONFIG(*AREA)
```

このコマンドは、このシステムが属している現在構成されているIPv4 OSPFエリアを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

**\*ESCAPE** メッセージ

**TCP6512**

OMPROUTEDが活動状態でないため、OSPF状態および構成を検索できません。

**TCP9999**

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

---

## 一時変更表示 (DSPOVR)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

一時変更表示(DSPOVR)コマンドは、ジョブの活動状態にある呼び出しレベルでのファイルの一時変更を表示します。すべてのファイルの一時変更、または特定のファイルに対する一時変更を表示することができます。

ファイル一時変更は、表示する前に組み合わせることができます。組合されたファイル一時変更は、呼び出しレベル1から指定の呼び出しレベルまでのファイルに対するすべての一時変更を組み合わせた結果であり、そのファイルが、指定された呼び出しレベルでオープンされる時点で適用される一時変更を意味します。

呼び出しレベルは、呼び出しスタックの各呼び出しスタック項目に対応しています。プログラムまたはプロシージャの呼び出しにより、呼び出しスタックに別の呼び出しスタック項目が追加されます。TFRCTL (制御権転送) コマンドを使用してプログラムまたはプロシージャが呼び出された時には、この呼び出しスタックは、呼び出しスタックにすでにある呼び出しスタック項目に置き換わります。新しい呼び出しレベル番号は作成されません。

注: この機能は、ジョブ処理(WRKJOB)コマンドのオプション15によってもアクセスすることができます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	一時変更されるファイル名	名前, *ALL, *PRTF	オプション1, 定位置 1
MRGOVR	一時変更組み合わせ	*YES, *NO	オプション1
LVL	呼び出しレベル	1-999, *, *JOB	オプション1
ACTGRP	活動化グループ	文字値, *	オプション1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション1

上

---

## 一時変更されるファイル名 (FILE)

すべてのファイルの一時変更を表示するか、あるいは特定のファイルに対するファイル一時変更を表示するかを指定します。

**\*ALL** 呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでのすべてのファイルの一時変更が表示されます。

#### \*PRTF

このコマンドが入力された呼び出しレベルに存在している\*PRTFファイルの一時変更が表示されません。

**名前** 呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでの表示するすべてのファイル一時変更の名前を指定してください。

上

---

## 一時変更組み合わせ (MRGOVR)

ファイル一時変更を組み合わせるかどうかを指定します。組み合わせられた一時変更用に使用された最後の一時変更のタイプと同じタイプの一時変更のパラメーターだけが、指定された呼び出しレベルでの有効な一時変更を決定するために使用されます。

**\*YES** 表示されるファイルの一時変更は組み合わせられます。

**\*NO** 表示されるファイルの一時変更は組み合わせられません。

上

---

## 呼び出しレベル (LVL)

表示されるファイル一時変更の呼び出しレベルを指定します。WRKJOBコマンドによる呼び出しスタック上に表示される呼び出しスタック項目とその呼び出しスタック項目の呼び出しレベルとの間に、1対1の対応関係があります。

呼び出しスタック上に最初に表示される呼び出しスタック項目名（リストの先頭）は、呼び出しレベル1の呼び出し先プログラムまたはプロシージャです。2番目に表示される呼び出しスタック項目名は、呼び出しレベル2のプログラムまたはプロシージャです。最後に表示される呼び出しスタック項目名は、そのジョブの最高の呼び出しレベルのプログラムまたはプロシージャです。

- 組み合わせられたファイル一時変更が表示される場合には、呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでのファイルの一時変更が、組み合わせられたファイル一時変更の作成に提供されます。
- 一時変更組み合わせ (MRGOVR)パラメーターに\*NOを指定し、一時変更中のファイル (FILE)パラメーターに\*ALLを指定した場合には、呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでのすべてのファイルの一時変更（およびそれらが見つかった呼び出しレベル）が表示されます。
- 一時変更組み合わせ (MRGOVR)パラメーターに\*NOを指定し、一時変更中のファイル (FILE)パラメーターにファイルの一時変更名を指定した場合には、呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでの指定したファイルのすべてのファイル一時変更（およびそれらが見つかった呼び出しレベル）が表示されます。

\*  
- 表示されるファイル一時変更の呼び出しレベルは、DSPOVRコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの呼び出しレベルです。このコマンドがQCMDEXCに対する呼び出しによって開始された場合には、呼び出しレベルはQCMDEXCの呼び出し元と同じ呼び出しレベルです。999より大きい呼び出しレベル番号での一時変更は表示されません。

**\*JOB** ジョブ・レベルにOVRSCOPE(\*JOB)が指定された一時変更のみが削除されます。



## 1から999

表示するファイル一時変更の特定の呼び出しレベルを指定してください。特定の呼び出しレベルは、実行中の呼び出しレベルより低い呼び出しレベルでのファイル一時変更の表示に使用されません。

上

---

## 活動化グループ (ACTGRP)

活動化グループについて表示するためにレベル一時変更を指定します。MRGOVR(\*YES)が指定された時には、活動化グループで最も古いプロシージャの呼び出しレベル以上のすべての呼び出しレベル一時変更が処理された後で、活動化グループ・レベルの一時変更が処理されます。

\* 要求元端末の活動化グループからのレベル一時変更が表示されます。

文字値 活動化グループ・レベルの一時変更を指定する活動化グループの名前を指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

### 例1:組み合わせられた一時変更の表示

```
DSPOVR FILE(REPORTS) MRGOVR(*YES) LVL(3) OUTPUT(*)
```

このコマンドは、呼び出しレベル3でファイルREPORTSで組み合わせられた一時変更を表示する画面を、各キーワードとパラメーターのテキスト記述付きで作成します。呼び出しレベル1, 2,および3での適用可能な一時変更が、組み合わせられた一時変更を形成するのに使用されます。

### 例2:ファイル一時変更の表示

```
DSPOVR FILE(REPORTS) MRGOVR(*NO) LVL(2) OUTPUT(*)
```

このコマンドは、呼び出しレベル2までのファイルREPORTSのすべてのファイル一時変更を表示します。これは、ファイル名を表示する画面、一時変更が要求された呼び出しレベル、一時変更のタイプ、および一時変更パラメーターを作成します。ファイル一時変更が指定した呼び出しレベルまでのファイルで見つからない場合には、エスケープ・メッセージCPF9842が送信されます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF180C

機能&1は使用できない。

#### CPF1892

機能&1は使用できない。

#### CPF9842

ファイル&1の一時変更が見つからない。

#### CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

#### CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

#### CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

#### CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

#### CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

#### CPF9852

ページ・サイズが&2のファイル&1には小さすぎる。

上

---

## PDGプロファイルの表示 (DSPPDGPRF)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

印刷記述子グループ・プロファイル表示(DSPPDGPRF)コマンドは、ユーザーと現在関連付けられている印刷記述子グループ(PDG)および印刷記述子名を表示します。

### 制約事項:

ユーザーのプロファイルに対して\*OBJOPR権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

上

---

## ユーザー (USER)

画面に表示するPDGプロファイルをもっているユーザーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

### \*CURRENT

現行ジョブのユーザーのユーザー・プロファイルを検査します。

### ユーザー名

表示されるPDGプロファイルをもっているユーザーを指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

\* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはスパール・ファイルに記憶されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

## \*PRINT

出力はスプール・ファイルに記憶されます。

上

---

## 例

DSPPDGPRF USER(TPDEXTER)

このコマンドは、ユーザー・プロファイルTPDEXTERの印刷記述子および印刷記述子グループを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

#### CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

#### CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

#### CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

上

---

## 物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

物理ファイル・メンバー表示(DSPPFM)コマンドは物理データベース・ファイル・メンバーを表示します。ファイルがキー順アクセス・パスであっても、レコードは到着順に表示されます。ファイルを通覧したり、レコード番号によって特定のレコードを見つけたり、レコード内の開始位置を指定したりすることができます。また、レコードの文字表示または16進表示を選択することもできます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション, 定位置 2
FROMRCD	開始レコード	符号なし整数, 1, *END, *ALLDATA	オプション

上

---

### ファイル (FILE)

表示するメンバーが入っている物理ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

#### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### \*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

### メンバー (MBR)

表示するファイル・メンバーの名前を指定します。

### \*FIRST

指定された物理ファイルの最初のメンバーが表示されます。

### \*LAST

指定された物理ファイルの最後のメンバーが表示されます。

### メンバー名

ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

---

## 開始レコード (FROMRCD)

初期画面の最上行に表示する物理ファイル中のレコードを指定します。指定したレコード番号が削除済みレコードの場合には、削除されたレコードに続く最初のレコードに画面が位置付けられます。前ページおよびPAGE DOWN（次ページ）キーを使用して必要なだけのレコードを表示することができます。

考えられる値は、次の通りです。

**1** 物理ファイルのレコード番号1,または削除済みでない最初のレコードが表示されます。ファイルが分散ファイルの場合には、これは、ローカル・メンバーの削除済みでない最初のレコードとなり、ローカル・データだけが表示されます。

**\*END** 物理ファイル中の削除済みでない最後のレコードが表示されます。\*END値は、物理ファイル中の最後のレコードが画面の終わりに表示されるように、最後の完了ページを表示します。ファイルが分散ファイルの場合には、これは、ローカル・メンバーの削除済みでない最後のレコードとなり、ローカル・データだけが表示されます。

### \*ALLDATA

分散ファイルのすべてのデータが、リモート・データも含めて表示されます。非分散ファイルに\*ALLDATAが指定された場合には、これはFROMRCD(1)と同じに扱われます。

### レコード番号

初期画面の最上行に表示するレコードの番号を指定してください。ファイルが分散ファイルの場合には、これは、ローカル・メンバーのレコード番号となり、ローカル・データだけが表示されます。

上

---

## 例

### 例1:先頭ファイル・メンバーの表示

```
DSPPFM FILE(TESTA)
```

このコマンドは、TESTAという名前の物理ファイルの先頭メンバーを表示します。ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

### 例2:ファイル・メンバーの表示

```
DSPPFM FILE(SAMPLE/TESTB) MBR(PROGRAM)
```

このコマンドは、ライブラリーSAMPLE内の物理ファイルTESTBのメンバーPROGRAMを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

#### CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

#### CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

#### CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

#### CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

#### CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

#### CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

#### CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上





---

## プログラム表示 (DSPPGM)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

プログラム表示(DSPPGM)コマンドは、プログラムに関する情報を表示します。表示されるのは、コンパイラに関する情報、そこからプログラムが作成されたソース、プログラムの特定の処理属性、プログラムのサイズ、および、プログラムを呼び出したときに渡さなければならないパラメーターの数などです。

### 制約事項:

- このコマンドを使用するためには、プログラムに対する読み取り(\*READ)権限およびライブラリーに対する実行(\*EXECUTE)権限が必要です。
- DETAIL(\*MODULE)を指定する時には、プログラムに対する使用(\*USE)権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	_, *PRINT	オプション, 定位置 2
DETAIL	詳細	単一値: *ALL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *BASIC, *SIZE, *MODULE, *ACTGRPEXP, *ACTGRPIMP, *SRVPGM, *COPYRIGHT	オプション

上

---

## プログラム (PGM)

情報が表示されるプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

### 修飾子1: プログラム

**名前** プログラムの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

プログラムを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 詳細 (DETAIL)

サービス・プログラムについて表示される情報のタイプを指定します。複数の値を指定することができますが、値のリストに\*ALLを含めないでください。\*ALLは単一値として指定しなければなりません。

注: DETAIL(\*ALL)またはDETAIL(\*BASIC)は、オリジナル・プログラム・モデル(OPM)プログラムでのみ有効な値です。\*ALLまたは\*BASIC以外のすべての値はOPMプログラムで無視されます。

**\*ALL** すべてのDETAIL情報タイプ(\*BASIC, \*SIZE, \*MODULE, \*SRVPGM, \*ACTGRPEXP, \*ACTGRPIMP, および\*COPYRIGHT)が画面に表示されます。ユーザーが画面に表示する情報を選択している場合には、それぞれのDETAILの情報をスクロールすることができますが、DETAILからDETAILに進むためには実行キー（またはPF12)を押す必要があります。

### \*BASIC

一般的なプログラム情報が表示されます。

**\*SIZE** このプログラムのサイズおよびサイズの限界が表示されます。

### \*MODULE

このプログラムによってバインドされたモジュール・オブジェクトのリストが表示されます。各モジュールに示されているライブラリーは、プログラムが最初に作成された時に入っていたライブラリーです。このモジュールが異なるライブラリーからのモジュールによって置き換えられた場合にも、このライブラリー名は、プログラムが作成された時にモジュールが入っていたライブラリーの名前のままです。モジュールの作成の元となったソースを判別するためには、オプション5=記述の表示を使用して、ソース・ファイル、ライブラリー、およびメンバー名を調べてください。

### \*SRVPGM

このプログラムによってバインドされたサービス・プログラムのリストが表示されます。

### \*ACTGRPEXP

バインド仕様のデータ・エクスポート項目に指定された活動化グループにエクスポートされたデータ項目のリストが表示されます。

### \*ACTGRPIMP

活性化グループ・ディレクトリーにエクスポートされたウィーク・エクスポートによって解決されたインポートのリストが表示されます。

### \*COPYRIGHT

このサービス・プログラムの著作権のリストが表示されます。

注: DETAIL値の\*SIZE, \*MODULE, \*SRVPGM,および\*COPYRIGHTが有効となるのは, 統合化言語環境(ILE)プログラムの場合だけです。オリジナル・プログラム・モデル(OPM)に対してこれらの値の1つを指定すると, \*BASIC情報が表示される結果となります。

上

---

## 例

### 例1:プログラム情報の表示

```
DSPPGM PGM(LIB01/PAYROLL)
```

このコマンドは, ライブラリーLIB01内にあるPAYROLLという名前のプログラムに関する情報を表示します。対話式ジョブによって要求された場合は表示装置に画面が表示され, バッチ・ジョブによって要求された場合は画面が印刷されます。

### 例2:プログラム情報の印刷

```
DSPPGM PGM(CUSINQ) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは, CUSINQという名前のプログラムに関する情報を表示します。ライブラリー・リストを使用してプログラムを見つけ, 情報は印刷されます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

#### CPF2151

&1のタイプ\*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

#### CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

#### CPF8123

ライブラリー&4のオブジェクト情報に損傷がある。

#### CPF8129

&9のプログラム&4に損傷がある。

#### CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

#### CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

**CPF9807**

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

**CPF9808**

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

**CPF9810**

ライブラリー&1が見つかりません。

**CPF9811**

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

**CPF9820**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF9821**

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

**CPF9830**

ライブラリー&1を割り当てることができない。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上

## プログラム借用表示 (DSPPGMADP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

プログラム借用状況表示(DSPPGMADP)コマンドは、指定されたユーザー・プロファイルの特殊権限および専用権限を借用するオブジェクトを表示します。これは、プログラム借用による機密保護の開示を検査する便利な方法です。

### 制約事項:

- ユーザー・プロファイルに対するオブジェクト管理(\*OBJMGT)権限が必要です。
- このコマンドの実行時には、コマンドで指定されたユーザー・プロファイルがロックされます。このロックによって、所有権を持っているオブジェクトの変更などが防止されます。このプロファイルが多数のオブジェクトを所有している場合には、長時間にわたってプロファイルをロックすることができません。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前	必須, 定位置 1
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *PGM, *SQLPKG, *SRVPGM	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

上

## ユーザー・プロファイル (USRPRF)

権限を借用するユーザー・プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

**名前** ユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザー・プロファイルから特殊および専用権限を借用するかどうかを確認するため、オブジェクトが検査されます。

---

## オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示するオブジェクトのタイプを指定します。

### 単一値

**\*ALL** ユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルを借用するすべてのオブジェクトが示されます。

### その他の値 (最大3個指定可能)

**\*PGM** 指定されたユーザー・プロファイルを借用するプログラムだけが示されます。

### \*SQLPKG

指定されたユーザー・プロファイルを借用する構造化照会言語(SQL)パッケージだけが示されます。

### \*SRVPGM

指定されたユーザー・プロファイルを借用するサービス・プログラムだけが表示されます。

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

### \*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

### \*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

#### **\*CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システム・ライブラリー(QSYS)中の様式名QSYPGMADをもつシステム・ファイルQADPGMADがモデルとして使用されます。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

#### **\*FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

### 要素2: レコードの置き換えまたは追加

#### **\*REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 例

```
DSPPGMADP USRPRF(ABC) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルABCの特殊権限および専用権限を借用するオブジェクトのすべてを印刷します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

#### CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

#### CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

#### CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

#### CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

#### CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

#### CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上



---

## プログラム参照表示 (DSPPGMREF)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

プログラム参照表示(DSPPGMREF)コマンドは、指定したプログラムによって参照されるシステム・オブジェクトのリストを提供します。次のリストは、それぞれのプログラム・タイプごとに提供されるシステム・オブジェクトを示したものです。

**BAS** \*FILE (外部記述) および\*PGM

**C** ILE C言語プログラム(CLE)を除いてC言語プログラムの情報は提供されません

**CBLLE**

\*FILE, \*PGM,および\*SRVPGM

**CLP** \*FILE, \*PGM,および\*DTAARA

**CLE** \*SRVPGM

**CLLE** \*FILE, \*PGM, \*DTAARA,および\*SRVPGM

**CBL** \*FILEおよび\*PGM (CALLコマンドのリテラル名)

**CSP** \*FILE, \*PGM, \*MSGF, \*CSPMAP,および\*CSPTBL

**PAS** PASCALプログラムの情報は提供されません

**PLI** \*FILEおよび\*PGM

**RPG** \*FILE, \*DTAARA,および\*PGM

**RPGLE**

\*FILE, \*PGM, \*DTAARA,および\*SRVPGM

**QRYDFN**

\*FILE

この情報は、表示、印刷、またはデータベース出力ファイルに入れることができます。

この情報を表示または印刷すると、各プログラムによって参照されるオブジェクトとともに、指定されたユーザー認可プログラムのリスト (ライブラリー別) が作成されます。ファイルの場合には、各ファイルの使用状況 (入力、出力、更新、無指定、またはこれら4つの組み合わせ) についての情報も表示または印刷されます。

この情報をデータベース・ファイルに書き出すと、データベース・ファイルはQWHDRPPRという名前のレコード様式となります。レコード様式QWHDRPPRのフィールドは、ライブラリーQSYSのファイルQADSPPGMにあるIBM提供様式QWHDRPPRのフィールドと同じです。データベース・ファイルには、次の情報が入ります。

- プログラムの名前およびそのテキスト記述
- プログラムが入っているライブラリーの名前
- プログラムによって参照されるオブジェクトの数
- システム・オブジェクトの修飾名

- 情報検索日付
- 参照オブジェクトのオブジェクト・タイプ

ファイルの場合には、次の追加のフィールドがレコードに入ります。

- プログラム中のファイルの名前（プログラム作成時に上書きが有効となっていた場合には、システム・オブジェクト名と異なる可能性があります）
- ファイルのプログラム使用状況(1=入力, 2=出力, 4=更新, 8=無指定, またはこれら4つの組み合わせを表す数。例えば、コード11は1, 2,および8の組み合わせであり, 入力, 出力, 無指定となります)
- 参照されるレコード様式の数（存在する場合）
- ファイルによって使用されるレコード様式の名前およびそのレコード様式レベルID
- 各様式で参照されるフィールドの数

注: このコマンドは、UPDPGMまたはUPDSRVPGMを使用してオブジェクトを作成または更新する時に参照されるオブジェクトをリストします。この情報はプログラム作成時に保管されるために、参照オブジェクト名およびリストされるライブラリーがそのオブジェクトの実際の名前と異なる場合があります。項目の追加は、UPDPGMまたはUPDSRVPGMを使用してILEプログラムまたはサービス・プログラムを更新する時に実行できますが、項目を除去することはできません。プログラムが作成されてからオブジェクトが移動された場合、あるいは作成時に上書きが有効となっていた場合には、リストされる名前が実際の名前と異なる場合があります。QUERY 定義では、このコマンドは、i5/OSコマンドのQUERYを使用してオブジェクトが作成または更新されたときにどのファイルが参照されるかをリストします。

#### 制約事項:

- そのプログラムにはオブジェクト操作(\*OBJOPR)権限が必要です。また、ライブラリー修飾子によって指定されたライブラリーについては、そのプログラムの実行(\*EXECUTE)権限を持っているライブラリーだけが検索されます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *PGM, *SQLPKG, *SRVPGM, *MODULE, *QRYDFN	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <b>*FIRST</b>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<b>*REPLACE</b> , <b>*ADD</b>	

上

## プログラム (PGM)

表示される情報のプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

### 修飾子1: プログラム

**\*ALL** 1つまたは複数のライブラリーの中のすべてのプログラムおよびQUERY 定義の情報が表示されます。

**名前** プログラムの完全な名前を指定してください。指定したプログラムの情報だけが表示されます。

**総称名** 総称プログラム名を指定してください。指定された文字で始まる名前のすべてのプログラムの情報が表示されます。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### **\*CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

#### **\*USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

#### **\*ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT     QUSRIJS    QUSRVRxMx
QGPL38     QSYS2       QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx  QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F       QUSROND
```

QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSGS
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRARS
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

**\*ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

**\*** 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合) , あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

### **\*PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

### **\*OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

上

---

## オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

情報が表示されるオブジェクト・タイプを指定します。

**\*PGM** プログラム情報だけが表示されます。

**\*ALL** プログラム情報およびSQLパッケージ情報が表示されます。

### **\*SQLPKG**

SQLパッケージ情報だけが表示されます。

### **\*SRVPGM**

サービス・プログラム情報が表示されます。

### **\*MODULE**

モジュール情報が表示されます。

### **\*QRYDFN**

QUERY 定義情報が表示されます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

### \*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 出力ファイル形式は、ライブラリーQSYSのシステム・ファイルQADSPPGMのQWHDRPPRと同じでなければなりません。OUTFILE形式の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリに示されています。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

#### **\*FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

### 要素2: レコードの置き換えまたは追加

#### **\*REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 例

### 例1:プログラムのリストの保管

```
DSPPGMREF  PGM(LIBRARY1/*ALL) OUTPUT(*OUTFILE)
            OUTFILE(LIB2/FILE2)
```

このコマンドは、LIBRARY1で見つかったすべての許可プログラムと、そのプログラムが参照するファイルおよびその他のシステム・オブジェクトのリストを作成します。ここでは、リストがLIB2のFILE2という名前のデータベース・ファイルに保管されます。

### 例2:オブジェクトのリストの印刷

```
DSPPGMREF  PGM(LIBRARY1/BILLING) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、LIBRARY1のBILLINGプログラムによって参照されるシステム・オブジェクトのリストを作成します。出力は印刷のためにスプールされます。

### 例3:QUERY 定義で使用されるファイルのリストの表示

```
DSPPGMREF  PGM(LIBRARY1/QUERY1) OBJTYPE(*QRYDFN) OUTPUT(*)
```

このコマンドは、LIBRARY1内でQUERY1 QUERY定義によって参照されるファイルのリストを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF3033

タイプ&3のライブラリー&2のオブジェクト&1が見つからない。

#### CPF3034

タイプ&3のライブラリー&2のオブジェクト&1が表示されない。

#### CPF3052

ファイル&1の記述が使用できない。

#### CPF3061

出力ファイル&1のレコード様式&3が見つからない。

#### CPF3063

&2の出力ファイル&1は物理ファイルではない。

#### CPF3064

ライブラリー&1が見つかりません。

#### CPF3066

&2の出力ファイル&1の作成中にエラー。

#### CPF3067

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

#### CPF3068

&2のファイル&1への書き出し中にエラー。

**CPF3069**

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

**CPF3070**

ファイル&1のメンバー&3の作成中にエラー。

**CPF3072**

&2のファイル&1はシステム・ファイルである。

**CPF3074**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF3075**

ライブラリー&1が使用できない。

**CPF3076**

画面上でエラーが起こった。

**CPF3077**

表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。

**CPF3084**

ファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

上





## プログラム変数表示 (DSPPGMVAR)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

プログラム変数表示(DSPPGMVAR)コマンドは、デバッグ中のプログラムの1つまたは複数のプログラム変数の現在の値を表示します。変数は、変数名または機械語命令のオブジェクト定義テーブル・ベクトル(MI ODV)番号によって指定することができます。最大10個の変数を指定することができます。

### 制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- 別のジョブをサービス中で、そのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、あるいは保留、延期、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
- このコマンドを使用して、バインド済みプログラムの変数を表示することはできません。
- ユーザーに\*SERVICE特殊権限がない場合には、このコマンドを使用して、システム・ドメイン内の変数を表示することはできません。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PGMVAR	プログラム変数	値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: プログラム変数	文字値, *CHAR	
	要素 2: 基底ポインター変数	値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値	
OUTFMT	出力形式	*CHAR, *HEX	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
PGM	プログラム	名前, *DFTPGM	オプション
START	文字出力開始位置	整数, 1	オプション, 定位置 2
LEN	表示する文字数	整数, *DCL	オプション
RCRLVL	反復レベル	整数, *LAST	オプション

上

## プログラム変数 (PGMVAR)

値が表示されるプログラム変数を10個まで指定します。その変数は、高水準言語(HLL)または機械語命令(MI)プログラムに入れることができます。

これは必須パラメーターです。

### 要素1: プログラム変数

## \*CHAR

基底ポインタを指定した場合には、この特殊値を変数名の代わりに指定することができます。これは基底付変数を使用せずに示されるポインタの文字ビューを示します。

**文字値** 表示されるプログラム変数の名前を指定してください。特殊文字が入っている場合には、名前をアポストロフィで囲まなければなりません。

プログラム変数が配列の場合には、配列中の要素を表す添え字を指定することができます。添え字なしで配列名を指定した場合には、すべての配列要素が記録されます。また、単次元クロスセクションも指定することができます。このプログラム変数項目には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、空白、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、マシン・インターフェースのオブジェクト定義テーブル・ベクトル(MI ODV)番号、アスタリスク（単次元クロスセクション）、または数値変数名を指定することができます。

## 要素2: 基底ポインタ変数

**文字値** 基底ポインタ変数の名前を指定してください。一部の言語では、プログラム変数はポインタ変数を基礎とすることができます。このような値の組み合わせを用いることにより、記録される変数の基底ポインタを明示的に指定することができます。特殊文字を含む基底ポインタ名の場合には、各基底ポインタ名はアポストロフィで囲まなければなりません。

基底ポインタが配列である場合には、配列内の要素を表わす添え字を指定しなければなりません。基底ポインタ名には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込み空白、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、MI ODV番号、または数値変数名を指定することができます。

上

---

## 出力形式 (OUTFMT)

プログラム変数の値をどの形式で表示するかを指定します。変数のタイプによっては、変数値のほかに、補足の記述情報が、システムによってあらかじめ定められている形式で表示されることがあります。

### \*CHAR

プログラム変数は文字形式で表示されます。

**\*HEX** プログラム変数16進数形式で表示されます。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

---

## プログラム (PGM)

表示するプログラム変数の入っているプログラムの名前を指定します。

### \*DFTPGM

表示する変数は、前に省略時のプログラムとして指定されているプログラムに入っています。

**名前** 表示したいプログラム変数の入っているプログラムの名前を指定してください。

---

## 文字出力開始位置 (START)

文字列変数の場合にだけ、変数の値が表示される文字列の開始位置を指定します。**プログラム変数 (PGMVAR)**パラメーターに複数の文字列変数を指定した場合には、それぞれに同じ開始位置の値が使用されます。ビット・文字列の場合には、値は開始ビット位置を指定し、文字文字列の場合には、値は開始文字位置を指定します。

**1** 変数は、最初の桁から表示する文字数 (**LEN**)パラメーターに指定された長さまで表示されます。

**整数** 表示される文字列の最初の桁を指定してください。**文字出力開始位置 (START)**パラメーターに指定する値は、指定した変数のどれかの最大文字列長を超えるものであってはなりません。ただし、文字列の最大長がゼロである場合には、**START**パラメーターに**1**の値を指定することができます。**LEN**パラメーターに指定した値に**START**パラメーターに指定した値を加え、それから**1**を引いた値が、最大文字列長を超えてはなりません。これらの検査は、**PGMVAR**パラメーターに指定した各文字列変数について行われます。

---

## 表示する文字数 (LEN)

文字列変数の場合にだけ、停止点に達した時に、**文字出力開始位置 (START)**パラメーターによって指定された位置から順に示される文字列の長さを指定します。**プログラム変数 (PGMVAR)**パラメーターに複数の文字列変数を指定した場合には、それぞれに同じ値が使用されます。この値は、ビット・文字列の場合には表示されるビット数を示し、文字文字列の場合には表示される文字数を示します。

**\*DCL** 文字列変数は、文字列の終わりまであるいは200バイトのいずれか少ない方の文字数だけ表示されます。文字列変数の最大長がゼロである場合には、**LEN**パラメーターに使用できる唯一の値は**\*DCL**です。

**整数** 表示されるデータの長さを指定してください。**START**パラメーターおよび**LEN**パラメーターの値の組み合わせの場合と同様に、この桁数も、**PGMVAR**パラメーターによって指定された最も短い文字列の桁数を超えるものであってはなりません。

---

## 反復レベル (RCRLVL)

値が表示される変数が、プログラムのどの反復レベルに入っているかを指定します。反復レベル1はプログラムの最初の（最も早い）呼び出しであり、反復レベル2 はプログラムの2番目の呼び出しです。同様に、スタック内の最後の（最新の）反復レベルまで番号が付けられます。たとえば、プログラムAがプログラムBを呼び出し、プログラムBが再びプログラムAを呼び出すとすれば、プログラムAの新しい反復レベルが形成されます。表示される変数がプログラムAの最初の呼び出しに含まれているのであれば、**反復レベル (RCRLVL)**パラメーターには1の値を指定しなければなりません。高水準言語によっては、再帰的プロシージャが使用できるものもあります。

### \*LAST

指定したプログラムの最後の（最新の）呼び出しでの、指定した変数の値が表示されます。

**整数** 値が表示される変数の入っているプログラムの反復レベルを指定してください。

上

---

## 例

### 例1: プログラム変数の表示

```
DSPPGMVAR PGMVAR('&QUANT') PGM(MYPROG)
```

プログラムMYPROGがデバッグ・モードにあるとすると、このコマンドは、&QUANTと呼ばれるCL変数の名前と現行値を表示します。そのタイプおよび長さも表示されます。

### 例2: プログラム変数の表示

```
DSPPGMVAR PGMVAR(TOTSALES MANHRS) PGM(REGION) RCRLVL(1)
```

このコマンドは、プログラムREGIONの最初の呼び出しのプログラム変数TOTSALESおよびMANHRSを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

上

## 問題の表示 (DSPPRB)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

問題表示(DSPPRB)コマンドによって、ハードウェアまたはソフトウェアのメンテナンスの実行に関連した保守情報を表示または印刷することができます。問題ログ項目に入っている保守情報はDSPPRB表示画面に表示するか、ジョブの出力と一緒に印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに記憶します。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRBID	問題識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 定位置 1
STATUS	状況タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 6 回の繰り返し): *OPENED, *READY, *PREPARED, *SENT, *ANSWERED, *VERIFIED, *CLOSED	オプション
SEV	重大度	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 1, 2, 3, 4	オプション
PERIOD	期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*BEGIN</u> , <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
HARDWARE	ハードウェア	要素リスト	オプション
	要素 1: 装置タイプ	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 2: 型式番号	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 3: 製造番号	文字値, <u>*ALL</u>	
RESOURCE	資源名	名前, <u>*ALL</u>	オプション
LICPGM	プロダクト	要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 2: リリース	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 3: モディフィケーション・レベル	文字値, <u>*ALL</u>	
FUNCTION	機能	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
PGM	プログラム	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
MSGID	メッセージ識別コード	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ORIGIN	起点	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, <u>*ALL</u> , *NETATR	
	要素 2: 制御点名	通信名, <u>*ALL</u> , *NETATR	
SRVID	サービス番号	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
BRANCH	ブランチ番号	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
COUNTRY	国または地域番号	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
ASNUSER	ユーザー割り当て	単純名, <u>*ALL</u>	オプション
GROUP	グループ割り当て	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
PRBTYPE	問題タイプ	<u>*ALL</u> , 1, 2, 3, 4, 5, 6	オプション
PRBCGY	問題カテゴリー	<u>*ALL</u> , *REPORT, *CRITICAL, *LOGONLY	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
TYPE	情報のタイプ	<u>*BASIC</u> , *CAUSE, *FIX, *USRTXT, *SPTDTA	オプション

上

## 問題識別コード (PRBID)

選択される問題の ID を指定します。異なる起点システムをもつ問題が同じ ID をもつ場合があります。このパラメーターと一緒に **起点 (ORIGIN)** パラメーターを指定すると、1つの問題だけが選択されるものとみなされます。

\*ALL 他の選択基準に一致するすべての問題が選択されます。

### 問題ID

選択される問題の10文字の問題IDを指定してください。

上

## 状況タイプ (STATUS)

問題ログ項目の状況を指定します。次の7つのタイプの状況があります。

### \*OPENED

問題はオープンされた状況になっています。問題が識別されていて、問題レコードは作成されました。

**\*READY**

問題は送信可能状況になっています。 問題分析情報が問題レコードに追加されました。

**\*PREPARED**

問題は準備完了状況になっています。 問題を報告する準備が完了しました。

**\*SENT**

問題は送信状況になっています。 問題がサービス提供元に送信されましたが、応答が戻ってきません。

**\*ANSWERED**

問題が回答状況になっています。 サービス提供元によって応答が戻されたか、システムの操作員によって追加されました。

**\*VERIFIED**

問題が検査状況になっています。 問題は解決し、システム操作員はプログラムが正しいことを検査しました。

**\*CLOSED**

問題がクローズされました。

**単一値**

**\*ALL** 問題ログ項目のすべてのタイプの状況が表示されます。

その他の値（最大6個指定可能）

**状況タイプ**

表示する状況のタイプを指定してください。

上

---

## 重大度 (SEV)

問題の重大度レベルを指定します。 重大度レベルは、問題の報告準備がととのった時に、ユーザーによって割り当てられます。次の4つの重大度レベルがあります。

- 1 高
- 2 中
- 3 低
- 4 なし

**単一値**

**\*ALL** すべての問題ログ項目が表示されます。

その他の値（最大3個指定可能）

**重大度** 表示する問題ログ項目の重大度のレベルを指定してください。

上



---

## 期間 (PERIOD)

問題データが選択される時間を指定します。日付および時刻は、問題ログ項目がいつ作成されたかを示します。

### 要素1: 開始時刻および日付

#### 要素1: 開始時刻

##### \*AVAIL

指定した開始日に作成された問題項目が表示されます。

**時刻** 組み込む最初のデータ・レコードの作成時刻（指定した日付の）を指定してください。

この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング（HHMMまたはHHMMSS）を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。時、分、および秒はそれぞれ正確に2桁としなければなりません（必要な場合には、先行ゼロを使用してください）。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

#### 要素2: 開始日付

##### \*BEGIN

ログの始めの使用可能な問題が表示されます。

注: \*BEGINを指定した場合には、開始時刻の\*AVAIL以外の時刻値は無視されます。

##### \*CURRENT

現在日の指定した開始時刻から終了時刻（指定した場合）までに作成された問題ログ項目が表示されます。

**日付** 問題ログ項目を表示することができるようになる日付を指定してください。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

### 要素2: 終了時刻および日付

#### 要素1: 終了時刻

##### \*AVAIL

指定した終了日に作成された問題ログ項目が表示されます。

**時刻** 作成された問題ログ項目が表示されなくなる時刻を指定してください。時刻の指定方法の詳細については、このパラメーターの説明の中の開始時刻の項を参照してください。



### 要素2: 終了日付

**\*END** 問題ログ項目が作成された最後の日が、問題ログ項目が表示される最後の日となります。

注: \*ENDを指定した場合には、\*AVAIL以外の終了時刻値はすべて無視されます。

### \*CURRENT

表示する最後に提示された問題の日付として現在の日付が使用されます。

**日付** その後に問題ログ項目を表示できない日付を指定してください。日付の指定方法の詳細については、このパラメーターの開始日の説明を参照してください。

上

---

## ハードウェア (HARDWARE)

指定された障害のあるハードウェアを識別する問題ログ項目だけが表示されることを指定します。

### 要素1: 装置タイプ

**\*ALL** どのハードウェアが障害として識別されたかに関係なく、すべての項目が表示されます。

注: \*ALLを指定した場合には、モデルおよび製造番号の\*ALL以外の値はすべて無視されます。

**タイプ** ハードウェアの4文字のタイプ・コードを指定してください。

### 要素2: 型式番号

**\*ALL** 指定したタイプの障害のあるハードウェアを識別するすべての項目が表示されます。

注: \*ALLを指定した場合には、製造番号の\*ALL以外の値は無視されます。

**型式** ハードウェアの3文字の型式番号を指定してください。

### 要素3: 製造番号

**\*ALL** 指定した機種型式の障害のあるハードウェアを識別するすべての項目が表示されます。

#### 製造番号

次の形式の1つで、ハードウェアの製造番号を指定してください(nは、任意の英字または数字)。

- NNNNN
- NNNNNNN
- NN-NNNNN
- NN-NNNNNNN
- nnnnnnnnnnn

上

---

## 資源名 (RESOURCE)

指定された障害のある資源名を識別する問題ログ項目だけを表示することを指定します。

**\*ALL** 問題によって識別される資源名（ある場合）に関係なく、すべての項目が表示されます。

**名前** 資源名を指定してください。

上

---

## プロダクト (LICPGM)

指定した障害のあるソフトウェアを識別する問題ログ項目が表示されることを指定します。

### 要素1: プログラム識別コード

**\*ALL** ソフトウェアの障害が識別されるかどうかに関係なく、すべての項目が表示されます。

注: \*ALLを指定した場合には、リリースおよびモディフィケーションの\*ALL以外の値は無視されます。

**文字値** ライセンス・プログラムの識別番号を指定してください。

### 要素2: リリース

**\*ALL** 指定されたライセンス・プログラムから障害のあるソフトウェアを識別するすべての項目が表示されます。

注: \*ALLを指定した場合には、モディフィケーションの\*ALL以外の値は無視されます。

**文字値** ライセンス・プログラムのリリース・レベルを指定してください。

### 要素3: モディフィケーション・レベル

**\*ALL** 指定されたライセンス・プログラムおよびリリースから障害のあるソフトウェアを識別するすべての項目が表示されます。

**文字値** リリースのモディフィケーション番号を指定してください。

上

---

## 機能 (FUNCTION)

指定した機能を識別する問題ログ項目だけが表示されることを指定します。機能は、ユーザー検出の問題ログ項目だけに入れられ、主要な機能域またはプロダクトを示します。

**\*ALL** 識別される機能ID（ある場合）に関係なく、すべての項目が表示されます。

### 総称機能ID

総称機能IDを指定してください。総称IDは、機能IDの先頭部分の1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスク(\*)からなる文字ストリングです。途中で空白が入っている場合には、文字ストリングをアポストロフィ(')で囲まなければなりません。

### 機能ID

機能ID全体を指定してください。途中で空白が入っている場合には、文字ストリングをアポストロフィ(')で囲まなければなりません。

機能IDの有効な値は次の通りです。

**ID** 説明

**ALRT** 警報

**APF** 拡張印刷機能  
**APPC** 拡張プログラム間通信機能  
**APPN** 拡張分散ネットワーク機能  
**APS** 多機能印刷サポート・ユーティリティー  
**ASYNC**  
非同期通信  
**BAS** BASICコンパイラー  
**BGU** ビジネス・グラフィックス・ユーティリティー(BGU)  
**BSC** 2進データ同期通信  
**CBL** COBOLコンパイラー  
**CGU** 文字作成ユーティリティー  
**CL** 制御言語  
**CSM** 通信およびシステム管理機能  
**C400** Cコンパイラー  
**DDM** 分散データ管理機能(DDM)  
**DFU** データ・ファイル・ユーティリティー  
**DHCF** 分散ホスト・コマンド機能  
**DICT** 言語辞書  
**DSNX** 分散システム・ノード管理機能  
**ECS** エレクトロニック支援  
**FINANCE**  
金融機関用通信  
**FTN** FORTRANコンパイラー  
**FTS** ファイル転送サポート  
**GDDM**  
グラフィック・データ表示管理プログラム  
**ICF** システム間通信機能  
**IDU** 対話式データ定義ユーティリティー(IDDU)  
**INTRA**  
システム内通信  
**IPDS** 高機能印刷装置データ・ストリーム  
**ITF** 端末対話機能  
**LPDA** リンク問題判別および分析  
**MIA** MIアセンブラー  
**MIGR** 移行  
**OBJD** オブジェクト配布  
**OCL** S/36操作員制御言語(OCL)

**OFC** OFFICEVISION  
**OSP** I5/OS  
**PAS** Pascalコンパイラー  
**PASSTHRU**  
パススルー  
**PC400** クライアント・アクセスWindows用  
**PDM** プログラム開発管理機能  
**PL1** PL/Iコンパイラー  
**POSCOM**  
POS通信ユーティリティー  
**QRY** QUERY  
**RETAIL**  
小売業通信  
**REXX** REXXインタプリター  
**RJE** リモート・ジョブ入力  
**RLU** 報告書設計ユーティリティー  
**RPFT** パフォーマンス・ツール  
**RPG** RPGコンパイラー  
**RSCS** リモート・スプール通信サブシステム  
**RWS** リモート・ワークステーション  
**SDA** 画面設計機能  
**SDLC** 同期データ・リンク制御  
**SEU** ソース・ステートメント入力ユーティリティー  
**SMU** IBM SYSTEM MANAGER FOR I5/OS  
**SNADS**  
SNA配布サービス  
**SNUF** SNAアップライン機能  
**SORT** ソート・ユーティリティー  
**SQL** SQL  
**SUU** システム拡張ユーティリティー  
**TCPIP** TCP/IP通信ユーティリティー  
**TRLAN**  
トークンリング・ネットワーク  
**TXT38**  
システム/38互換テキスト管理機能  
**VMC** i5/OSライセンス内部コード  
**VNET** RSCS/PROFS

- WRD ワード処理
- X21 X.21公衆データ・ネットワーク
- X25 X.25パケット交換データ・ネットワーク
- 3270EM  
3270装置エミュレーション
- 802.3 イーサネット

上

---

## プログラム (PGM)

指定した障害のあるプログラムを識別する問題ログ項目だけが表示されるかどうかを指定します。機械が検出した問題の場合には、障害のあるプログラムがあれば、最も考えられる原因によって識別されます。

**\*ALL** プログラムが識別されるかどうかに関係なく、すべての項目が表示されます。

**総称名** 総称プログラム名を指定してください。総称名はアスタリスク（\*）が後に続く1つまたは複数の文字を含む文字ストリングです。

**名前** プログラム名を指定してください。

上

---

## メッセージ識別コード (MSGID)

指定したメッセージを識別する問題ログ項目だけが表示されるかどうかを指定します。

**\*ALL** どのメッセージIDが問題と関連したかに関係なく、すべての項目が表示されます。

**総称名** 総称メッセージIDを指定してください。総称IDはアスタリスク（\*）が後に続く1つまたは複数の文字を含む文字ストリングです。

**名前** メッセージIDを指定してください。

上

---

## 起点 (ORIGIN)

指定したシステムを起点とする問題ログ項目だけが表示されることを指定します。

### 要素1: ネットワーク識別コード

**\*ALL** 起点システムのネットワークIDと関係なく、すべての項目が表示されます。

### \*NETATR

このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じローカル・ネットワークIDのシステムで始まっている項目だけが表示されます。

**通信名** ネットワークIDを指定してください。このローカル・ネットワークIDのシステムで始まっている項目だけが表示されます。

## 要素2: 制御点名

**\*ALL** 指定されたネットワーク ID のシステムで始まるすべての項目が表示されます。

### **\*NETATR**

このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じローカル制御点名のシステムで始まっている項目だけが表示されます。

**通信名** 制御点名を指定してください。

上

---

## サービス番号 (SRVID)

指定された保守割り当て番号をもつ問題ログ項目だけを表示するかどうかを指定します。この番号は、問題が弊社保守サポートに報告された時に割り当てられます。

**\*ALL** 保守割り当て番号に関係なくすべての項目が表示されます（それがあった場合）。

**文字値** 保守割り当て番号を指定してください。

上

---

## ブランチ番号 (BRANCH)

指定された分岐番号をもつ問題ログ項目だけを表示するかどうかを指定します。この番号は、問題が弊社保守サポートに報告された時に割り当てられます。

**\*ALL** 分岐番号に関係なくすべての項目が表示されます（それがあった場合）。

**文字値** 問題ログ項目の3桁の分岐番号を指定してください。3桁の文字をすべて指定しなければなりません。

上

---

## 国または地域番号 (COUNTRY)

指定された国または地域番号をもつ問題ログ項目だけを表示するかどうかを指定します。この番号は、問題が弊社保守サポートに報告された時に割り当てられます。

**\*ALL** 国または地域番号に関係なくすべての項目が表示されます（それがあった場合）。

**文字値** 問題ログ項目の3桁の国または地域番号を指定してください。3桁の文字をすべて指定しなければなりません。

上

---

## ユーザー割り当て (ASNUSER)

このユーザーに割り当てられた問題ログ項目だけを表示するかどうかを指定します。

**\*ALL** すべての問題ログ項目が表示されます。

### **ユーザー名**

表示される問題に割り当てられたユーザーIDを指定してください。

**152** System i: プログラミング i5/OS コマンド DSPLIBL (ライブラリー・リスト表示) ~

---

## グループ割り当て (GROUP)

問題が割り当てられるフィルター中のグループを指定します。

**\*ALL** すべての問題ログ項目が、それらに割り当てられるグループに関係なく、表示されます。

### グループ名

項目に割り当てられる10文字の問題フィルター・グループを指定してください。

注: 問題ログ・フィルターを使用しない場合には、値はブランクです。

---

## 問題タイプ (PRBTYPE)

表示する問題のタイプを指定します。

**\*ALL** 問題タイプに関係なくすべての問題ログ項目が表示されます。

- 1 機械検出の問題だけが表示されます。
- 2 ユーザー検出の問題だけが表示されます。
- 3 PTF発注の問題だけが表示されます。
- 4 アプリケーション検出の問題だけが表示されます。
- 5 クライアント機械検出の問題だけが表示されます。
- 6 クライアント・ユーザー検出の問題だけが表示されます。

---

## 問題カテゴリー (PRBCGY)

表示する問題のカテゴリーを指定します。

**\*ALL** すべての問題が表示されます。

### \*REPORT

ログされ、サービス提供元に報告される問題が表示されます。

### \*CRITICAL

重要な問題が表示されます。

### \*LOGONLY

ログされたが、サービス提供元に報告されなかった問題が表示されます。

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

\* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

**\*PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

**\*OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、**DSPPRB**の**OUTFILE**とテキストに示され、特定権限、グループ権限、または権限リストからの権限をもつユーザー以外のユーザーの権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示 (**DSPLIBD**)コマンドを使用してください。

注: **OUTPUT(\*OUTFILE)**が指定されている場合には、データベース・ファイル名が必要となります。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** コマンドの出力が送られるファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

**\*CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**が使用されます。

**名前** ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

**\*FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。**OUTMBR(\*FIRST)**が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターに



指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

**要素2: レコードの置き換えまたは追加**

**\*REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 情報のタイプ (TYPE)

出力ファイルに入れられた問題情報のタイプを指定します。各ファイルには1つのタイプのデータしか入れることはできません。このパラメーターは、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターにも値を指定した時にだけ有効です。

**\*BASIC**

問題タイプ、状況（装置タイプ、型式、および通し番号）、プロダクトID、連絡先情報、および追跡データを含めた基本問題データは出力ファイルに入れられます。

**\*CAUSE**

問題の考えられる原因が出力ファイルに入れられます。

**\*FIX** プログラム一時修正(PTF)が出力ファイルに入れられます。

**\*USRTXT**

ユーザー提供のテキスト（メモ・レコード）は出力ファイルに入っています。

**\*SPTDTA**

サポートするデータのIDが出力ファイルに入れられます。

上

---

## 例

### 例1: 当日の問題ログ項目の表示

```
DSPPRB PERIOD>(*AVAIL *CURRENT) (*AVAIL *CURRENT))
```

このコマンドは、当日作成された問題ログ項目をすべて表示します。

### 例2: 出力ファイルの作成

```
DSPPRB OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(*CURLIB/NEWFILE)
```

このコマンドは、問題ログ中の問題ログ項目ごとのレコードが入るメンバーを、現行ライブラリー内の物理ファイルNEWFILE中に作成します。

### 例3: ハードウェア障害のリストの表示

```
DSPPRB SEV(1 2) HARDWARE(9347 001 10-7523489)
```

このコマンドは、ユーザーが指定したハードウェアによる問題が含まれているリストを表示します。ユーザーは、コマンドで中から高レベルの重大度を追跡することを指定しています。

#### 例4:未解決問題のリストの表示

```
DSPPRB STATUS(*OPENED)
        PERIOD((*AVAIL *CURRENT) (120000 *CURRENT))
        LICPGM(5716SS1 03 00) PGM(QNOPGM)
```

このコマンドは、現在日の真夜中から始まり、正午で終わる期間中にオープンされて、まだ分析済みではない問題が含まれているリストを表示します。また、このコマンドは、指定されたライセンス・プログラムIDおよびプログラム名を障害の推定原因として識別します。

#### 例5:マシン検出問題のリストの表示

```
DSPPRB RESOURCE(TAP01) MSGID(CPF6788)
```

このコマンドは、システム・オペレーターのメッセージ待ち行列に送信済みのメッセージ(CPF6788)が原因でオープンされたマシン検出の問題が含まれているリストを表示します。この問題リストには、ユーザー検出の問題が含まれます。ユーザー検出の問題を表示するには、ユーザーは問題分析(ANZPRB)コマンドを使用して資源名およびメッセージIDを指定しました。

#### 例6:報告された問題のリストの表示

```
DSPPRB SRVID(12345)
```

このコマンドは、IBMサービス・サポート・センターに報告済みであり、保守IDとして12345をもつ問題が含まれているリストを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF7A9C

この時点で、問題ログを処理することはできない。

#### CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

#### CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

---

## PSF構成の表示 (DSPPSF CFG)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

PSF構成の表示 (DSPPSF CFG)コマンドは、印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定したライブラリーから表示します。

### 制約事項:

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PSFCFG	PSF構成	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: PSF構成	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

上

---

## PSF構成 (PSFCFG)

表示する印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

### 修飾子1: PSF構成

**名前** 表示するPSF構成オブジェクトの名前を指定します。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

### \*CURLIB

ジョブの現行ジョブ・ライブラリーを検索します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 指定したライブラリーを検索します。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションで表示されるか、それともジョブのスパール出力で印刷されるかを指定します。

\*  
- 対話式ジョブで要求された場合には出力が表示され、バッチ・ジョブで要求された場合にはジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

```
DSPPSF CFG PSFCFG(PSF CFG1) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、PSFCFG1という名前の印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクト(\*PSFCFG)の記述を印刷します。ジョブのライブラリー・リスト内のライブラリーで、PSFCFG1構成オブジェクトが検索されます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

#### CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

#### CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

#### CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

#### CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

## プログラム一時修正表示 (DSPPTF)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

プログラム一時修正表示(DSPPTF)コマンドは、指定されたプロダクトのプログラム一時修正(PTF)を表示します。

### 制約事項:

- このコマンドは除外(\*EXCLUDE)共通権限を伴って出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,および QSRVBASユーザー・プロファイルは、このコマンドを使用するための専用権限を伴って出荷されます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LICPGM	プロダクト	文字値, <u>*ALL</u> , *FMW	オプション, 定位置 1
SELECT	選択するPTF番号	文字値, <u>*ALL</u> , *PTFSAVF, *ONORDER, *ACTRQD, *NOTAPY, *SAVFONLY, *ONORDONLY	オプション, 定位置 2
RLS	リリース	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
COVERONLY	カバー・レターのみ	*NO, *YES	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

上

## プロダクト (LICPGM)

表示されるPTFのプロダクトを指定します。LICPGM(\*ALL)が指定された場合には、導入されてサポートされるすべてのプロダクトのPTFが表示されます。

\*ALL 導入されてサポートされるすべてのプロダクトのPTFが表示されます。

#### \*FMW

導入されてサポートされるすべてのサーバー・ファームウェア・プロダクトのPTFが表示されます。

#### ライセンス・プログラム

PTFが表示されるプロダクトを指定します。

上

---

## 選択するPTF番号 (SELECT)

指定したプロダクトについて表示されるPTFを指定します。このパラメーターにPTF番号が指定されている場合、**プロダクト (LICPGM)**パラメーターに\*ALLを指定することはできません。

LICPGM(\*ALL)およびSELECT(\*ALL)が指定された場合には、導入されてサポートされるすべてのプロダクトのすべてのPTFが表示されます。

LICPGM (ライセンス・プログラム) およびSELECT(\*ALL)が指定された場合には、指定されたプロダクトのすべてのリリースのPTFが表示されます。

**\*ALL** 指定したプロダクトのすべてのPTFの状況が表示されます。

#### \*PTFSAVF

指定したプロダクト用の、ライブラリーQGPLに保管ファイルが入っているすべてのPTFの状況が表示されます。この特殊値は、必要でないPTF保管ファイルを判別するのに有効です。これはまた、配布できるPTFを判別するサービス・プロバイダーにも有効です。

#### \*ONORDER

指定したプロダクト用の、発注中のすべてのPTFの状況が表示されます。

#### \*ACTRQD

保留中の必要な処置のあるPTFが表示されます。この特殊値は、活動状態にするための処置を必要としているPTFを判別する際に、ユーザーにとって有効です。

注: \*ACTRQDを指定した場合には、出口プログラムの実行に長い時間がかかり、結果として最初の画面の表示が遅延することになります。

#### \*NOTAPY

指定されたプロダクトのまだ適用されていないかまたは延期されたすべてのPTFが表示されます。

#### \*SAVFONLY

指定されたプロダクトについて、状況が「保管ファイルのみ」のすべてのPTFが表示されます。

#### \*ONORDONLY

指定されたプロダクトについて、状況が「発注中のみ」のすべてのPTFが表示されます。

**文字値** 表示されるPTFのPTF識別番号を指定します。

上

---

## リリース (RLS)

表示されるPTFのリリース・レベルを指定します。

**\*ALL** サポートおよび導入済みプロダクトのすべてのリリースのPTFが表示されます。

**文字値** リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの導入済み基本オプションのリリース・レベルである場合には、オプションのリリース・レベルとは無関係に、その製品のすべての導入済みオプションのPTFが表示されます。このリリース・レベルでサポートされるオプションのすべてのPTFも表示されます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの導入済み基本オプションのリリース・レベルでない場合には、そのリリース・レベルでサポートされるかまたは導入済みの製品オプションのPTFだけが表示されます。

上

---

## カバー・レターのみ (COVERONLY)

カバー・レターのみを表示するかどうかを指定します。

**\*NO** カバー・レターは表示されません。

**\*YES** カバー・レターが表示されます。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

**\*** 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

**\*PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。スパール出力ファイルの名前はQSYSPRTです。

**\*OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

PTFレコードが送られる物理データベース・ファイルを指定します。出力ファイルがすでに存在している場合には、システムはそれを使用しようとします。システムは、指定されたライブラリー中に、物理データベース・ファイルを作成します(OUTFILEパラメーターに指定された名前で)。ファイルのメンバーは、出力メンバー・オプション (OUTMBR)パラメーターに指定されている名前で作成されます。新しいファイルを作成する場合には、システム・ライブラリー (QSYS)中の様式名QSCPTFのシステム・ファイルQADSPPTFをモデルとして使用します。

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### **\*CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

**名前** PTFレコードを受け取るファイルの名前を指定してください。

上

---

## **出力メンバー・オプション (OUTMBR)**

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### **要素1: 出力を受け取るメンバー**

#### **\*FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

### **要素2: レコードの置き換えまたは追加**

#### **\*REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## **例**

### **例1: PTFの状況の印刷**

```
DSPPTF LICPGM(5761SS1) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、製品5761SS1のPTFの状況を含む印刷出力を作成します。

### **例2: 情報の印刷**

```
DSPPTF LICPGM(5761SS1) SELECT(SI00034) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、製品5761SS1のPTF SI00034についての詳細情報を含む印刷出力を作成します。

上

---

## **エラー・メッセージ**

### **\*ESCAPEメッセージ**



**CPF0C4B**

プロダクト使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

**CPF0C4C**

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

**CPF0C4D**

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF24B4**

パラメーター・リストのアドレス指定中に重大エラー。

**CPF35BE**

プロダクト&1 &3がサポートされていないか、または導入されていない。

**CPF35F5**

PTF &1-&2 &3のカバー・レターが見つからなかった。

**CPF358A**

リリースは正しくない。

**CPF3925**

ファイル&1をオープンすることができない。

**CPF3950**

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

**CPF6601**

プロダクト&1にはPTF活動が存在していない。

**CPF6602**

PTF &1-&2 &3が見つからない。

**CPF6603**

PTFが見つからなかった。

**CPF6613**

選択基準と一致するPTFがない。

**CPF8191**

&9のプロダクト定義&4に損傷があります。

**CPF8193**

&9のプロダクト・ロード・オブジェクト&4に損傷があります。

**CPF9860**

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上



---

## PTFカバー・レターの表示 (DSPPTFCVR)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

プログラム一時修正カバー・レター表示(DSPPTFCVR)コマンドは、指定されたプロダクトのプログラム一時修正(PTF)のカバー・レターを表示します。

### 制約事項:

- このコマンドは除外(\*EXCLUDE)共通権限を伴って出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルは、このコマンドを使用するための専用権限を伴って出荷されます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LICPGM	プロダクト	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 定位置 1
SELECT	選択するPTF番号	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値, <u>*NOTAPY</u> , *ALL	オプション, 定位置 2
RLS	リリース	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
CVRATR	属性	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *SPCINST, *PREIMM, *PREDLY, *PREOPR, *POSTOPR, *UNKNOWN	オプション
CVRLTRLNG	カバー・レター言語	文字値, <u>*DFT</u> , *ALL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

## プロダクト (LICPGM)

カバー・レターが表示されるプロダクトを指定します。

\*ALL すべての導入済みまたはサポートされるプロダクトのカバー・レターが表示されます。

文字値 カバー・レターが表示されるプロダクトを指定します。

上

---

## 選択するPTF番号 (SELECT)

指定したプロダクトについて表示されるカバー・レターを指定します。

このパラメーターにPTF番号が指定されている場合、**プロダクト (LICPGM)**パラメーターに\*ALLを指定することはできません。

LICPGM(\*ALL)およびSELECT(\*ALL)が指定された場合には、すべての導入済みまたはサポートされるプロダクトのカバー・レターが表示されます。

LICPGM (ライセンス・プログラム) およびSELECT(\*ALL)が指定された場合には、指定されたプロダクトのすべてのリリースのカバー・レターが表示されます。

#### **\*NOTAPY**

指定されたプロダクトのまだ適用されていないかまたは延期されたPTFのすべてのカバー・レターが表示されます。

**\*ALL** 指定されたプロダクトのすべてのカバー・レターが表示されます。

**文字値** 表示されるカバー・レターのPTF識別番号を指定します。最大300個のPTF番号を指定することができます。

上

---

## **リリース (RLS)**

表示されるPTFのリリース・レベルを指定します。

**\*ALL** 導入済みまたはサポートされるプロダクトのすべてのリリースのカバー・レターが表示されます。

**文字値** リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

指定されたリリースがプロダクトの導入済み基本オプションのリリースである場合には、オプションのリリースとは無関係に、そのプロダクトのすべての導入済みオプションのカバー・レターが表示されます。このリリースでサポートされるオプションのすべてのカバー・レターも表示されます。

指定されたリリースがプロダクトの導入済み基本オプションのリリースでない場合には、そのリリースでサポートされるかまたは導入済みのプロダクト・オプションのカバー・レターだけが表示されます。

上

---

## **属性 (CVRATR)**

カバー・レターに含まれている属性に基づいて表示するカバー・レターを指定します。

注: CVRATRパラメーターが指定できるのは、SELECT(\*ALL)またはSELECT(\*NOTAPY)と一緒にの場合だけです。

**単一値**

**\*ALL** すべてのカバー・レターが表示されます。

**その他の値 (最大7個指定可能)**

**\*SPCINST**

特別な指示のあるカバー・レターだけが表示されます。

**\*PREIMM**

即時に適用または除去する前に従う必要のある特別な指示があるカバー・レターだけが表示されます。

**\*PREDLY**

IPL（遅延）時に適用または除去する前に従う必要のある特別な指示があるカバー・レターだけが表示されます。

**\*PREOPR**

（即時または遅延）適用または除去する前に従う必要のある特別な指示があるカバー・レターだけが表示されます。

**\*POSTOPR**

適用または除去する前に従う必要のある特別な指示があるカバー・レターだけが表示されます。

**\*UNKNOWN**

カバー・レターに属性がある場合にシステムが検出できないカバー・レターを表示します。考えられる理由は、PTFカバー・レターがオペレーティング・システム・リリースV5R1M0より前に作成されたか、あるいはカバー・レターがシステム・マネージャー・ライセンス・プログラムを使用して作成された場合です。

上

---

## カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)

カバー・レターを表示するために使用される言語機能コードを指定します。

**\*DFT** カバー・レターは省略時の言語機能コードで表示されます。PTFのカバー・レターが1つだけであった場合には、それが表示されます。PTFに複数のカバー・レターがあった場合には、以下の基準を使用して、表示するカバー・レターが決定されます。

保守サポート連絡先情報(WRKCNTINF)と一致した言語機能コードが使用されます。

保守サポート連絡先情報と一致する言語機能コードがない場合には、オペレーティング・システムの1次言語と一致した言語機能コードが使用されます。

保守サポート連絡先情報の言語機能コードまたはオペレーティング・システムの言語機能コードと一致するカバー・レターがない場合には、PTFのすべてのカバー・レターが表示されます。ユーザーに選択すべき言語機能コードのリストが表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはすべてのカバー・レターがジョブのスパール出力で表示されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

**\*ALL** すべての言語の場合のカバー・レターが表示されます。

**文字値** 選択された言語機能コードのカバー・レターが表示されます。選択された言語機能コードのカバー・レターが使用できない場合には、そのPTFのカバー・レターは表示されません。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションで表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。スプール出力ファイルの名前はQSYSPRTです。

上

---

## 例

### 例1: PTFカバー・レターの印刷

```
DSPPTFCVR LICPGM(5761SS1) SELECT(SI00034) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、製品5761SS1中のPTF SI00034のカバー・レターの印刷出力を作成します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF0C4B

プロダクト使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

#### CPF0C4C

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

#### CPF0C4D

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

#### CPF35BE

プロダクト&1 &3がサポートされていないか、または導入されていない。

#### CPF35D5

カバー・レターNLVが正しくない。

#### CPF35F5

PTF &1-&2 &3のカバー・レターが見つからなかった。

#### CPF358A

リリースは正しくない。

#### CPF3586

PTFのリストが正しくない。

#### CPF6601

プロダクト&1にはPTF活動が存在していない。

#### CPF6602

PTF &1-&2 &3が見つからない。

**CPF6603**

PTFが見つからなかった。

上





---

## 電源オン/オフ・スケジュールの表示 (DSPPWRSCD)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

電源オン/オフ・スケジュール表示(DSPPWRSCD)コマンドによって、電源オン/オフ・スケジュールを表示または印刷することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 1
STRDATE	開始日付	日付, *TODAY	オプション
DAYS	日数	1-366, 40	オプション

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

### 開始日付 (STRDATE)

電源オン/オフ・スケジュールで表示または印刷する最初の日付を指定します。

#### \*TODAY

現在の日付が使用されます。

日付 将来の日付または現行日付を指定してください。日付の入力は、ジョブ属性で指定した形式と同じ形式で行なわなければなりません。

上

---

## 日数 (DAYS)

電源オン/オフ・スケジュールが印刷される日数を指定します。

**40** 40日のスケジュールが印刷されます。

**1から366**

日数を指定してください。

上

---

## 例

**例1:電源オン/オフ・スケジュールの表示**

DSPPWRSCD

このコマンドは、電源オン/オフ・スケジュールを表示します。

**例2:30日間の電源オン/オフ・スケジュールの印刷**

DSPPWRSCD OUTPUT(\*PRINT) DAYS(30)

このコマンドは、現在日付で始まる30日間の電源オン/オフ・スケジュールを印刷します。

上

---

## エラー・メッセージ

**\*ESCAPEメッセージ**

**CPF1E2B**

電源スケジューラーおよびクリーンアップ・オプションが見つからない。

**CPF1E23**

電源スケジュールまたはクリーンアップ・オプションは別のユーザーが使用中である。

**CPF1E27**

電源オン/オフ・スケジュールの変更は認可されていない。

**CPF1E28**

指定したSTRDATEでスケジュールを印刷することはできない。

**CPF1E99**

予期しないエラーが起こった。

上

---

## レコード・ロック表示 (DSPRCDLCK)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

レコード・ロック表示(DSPRCDLCK)コマンドによって、特定のデータベース物理ファイル・メンバーの現行レコードのロック状況を表示することができます。このコマンドは、特定の相対レコード番号のロック状況、あるいはメンバー中でロックされたすべてのレコードのロック状況を表示します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 2
RCDNBR	レコード番号	1-4294967288, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

### 物理ファイル (FILE)

レコード・ロックが表示されるメンバーが入っている物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

#### 修飾子1: 物理ファイル

**名前** 物理ファイルの名前を指定してください。

#### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### \*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## メンバー (MBR)

ファイル内においてレコード・ロックが表示されるメンバーの名前を指定します。

### \*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

**名前** 物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

---

## レコード番号 (RCDNBR)

特定の相対レコード番号、またはメンバーのすべてのレコードを指定します。

\*ALL 物理ファイル・メンバー内で現在ロックされているすべてのレコードのロック状況が表示されます。

**1から4294967288**

ロック状況が表示されるレコードのレコード番号を指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

**\*** 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

```
DSPRCDLCK FILE(MASTER/PAYROLL) MBR(*FIRST) RCDNBR(1)
           OUTPUT(*)
```

このコマンドは、MASTERライブラリーにあるPAYROLLという名前の物理ファイル中の最初のメンバーの相対レコード番号1のロック状況を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

**CPF3130**

メンバー&2はすでに使用中である。

**174** System i: プログラミング i5/OS コマンド DSPLIBL (ライブラリー・リスト表示) ~

**CPF3210**

ライブラリー&2のファイル&1のタイプが正しくない。

**CPF3247**

レコード番号&4はメンバー&3に存在しない。

**CPF3275**

&2のファイル&1のメンバー&3が見つからない。

**CPF7D41**

発注援助要求のロギング時にエラーが起きました。

**CPF7D42**

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

**CPF9803**

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

**CPF9810**

ライブラリー&1が見つかりません。

**CPF9812**

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

**CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上



---

## アクセス・パスの回復の表示 (DSPRCYAP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

アクセス・パス回復表示(DSPRCYAP)コマンドは、システムおよび現在活動状態かまたはシステム上で使用可能な状態にあるすべての補助記憶域プール(ASP)のアクセス・パス回復状況および目標アクセス・パス回復時間を表示または印刷するために使用されます。さらに、この出力には、システム管理アクセス・パス保護の対象とならない最大概算アクセス・パス回復時間を持つ最大500のアクセス・パスと、それらが対象とならない理由が含まれます。また、この出力には、現在システム管理アクセス・パス保護によって保護されている最大概算アクセス・パス回復時間を持つ最大500のアクセス・パスが含まれます。

システム異常終了後の初期プログラム・ロード(IPL)中または独立ASPのオンへの変更中にアクセス・パスを回復する場合には、システムは指定された目標アクセス・パス回復時間より多くを使用することはありません。アクセス・パス回復時間が目標であるために、パフォーマンスはその目標に近い範囲となります。

ファイル・コピー(CPYF)、物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)、またはオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドの実行時に表示されるアクセス・パスを再作成するための時間は、このコマンドを使用して保護されるアクセス・パスの目標アクセス・パス回復時間には含まれません。

このコマンドの使用法の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」に関する部分を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(\*JOBCTL)特殊権限が必要です。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、定位置 1
ASP	ASP装置	文字値, *ALL, *ASPGRP	オプション
ASPGRP	ASPグループ	名前	オプション

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

\*  
\_ 対話式ジョブで要求された出力は画面上に表示されます。バッチ・ジョブで要求された出力はジョブのプール出力で印刷されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。 QSYSのファイルQSYSPRTが印刷出力に使用されます。

上

---

## ASP装置 (ASP)

表示されるアクセス・パスが入っているASPを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、OUTPUT(\*PRINT)が選択されている場合だけです。

**\*ALL** 要求される出力は、活動状態または使用可能なすべてのASPの上位500のアクセス・パスとなります。

#### \*ASPGRP

要求される出力は、入力ASPグループの上位500のアクセス・パスとなります。

#### ASP ID

上位500のアクセス・パスをリストする基本ユーザーASPのIDを指定するために、1から32の範囲内の値を指定してください。あるいは、上位500のアクセス・パスをリストする独立ユーザーASPのASP装置名を指定してください。有効な値は、システム上で活動状態にあるかまたは使用可能なASPによって異なります。

注: 値1はシステムASPです。値2から32はすべての基本ユーザーASPを示します。独立ASPは装置名として入力されます。

上

---

## ASPグループ (ASPGRP)

表示されるアクセス・パスが入っているASPグループを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、OUTPUT(\*PRINT)およびASP(\*ASPGRP)が指定されている場合だけです。

#### ASPグループ名

上位500のアクセス・パスをリストする補助記憶域プール(ASP)グループの名前を指定します。 ASPグループ名は、ASPグループ内の主要な独立ASP装置の名前です。

上

---

## 例

### 例1: アクセス・パスのすべての回復時間の表示

DSPRCYAP

このコマンドは、ターゲット・アクセス・パス回復時間、システムの回復状況情報、および活動状態または使用可能な補助記憶域プールを表示します。このコマンドからの出力は、コマンドが対話式で実行された場合はワークステーションで表示され、コマンドがバッチで実行された場合はジョブのプール出力を使用して印刷されます。



## 例2: ASPグループのアクセス・パスの回復時間の印刷

```
DSPRCYAP OUTPUT(*PRINT) ASP(*ASPGRP) ASPGRP(WAREHUS1)
```

このコマンドは、独立ASPグループWAREHUS1のターゲット・アクセス・パス回復時間および回復状況情報を表示します。このコマンドからの出力は、ジョブのスパール出力を使用して印刷されます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### **CPF70FB**

コマンドを使用する権限がない。

#### **CPF70F4**

エラーが起きました。

#### **CPF700F**

&1のアクセス・パス回復時間は\*NONEに設定された。

#### **CPF702E**

アクセス・パスの回復時間がシステムの省略時の値に設定された。

#### **CPF9814**

装置&1が見つかりません。

#### **CPF9825**

装置&1は認可されていない。

#### **CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

#### **CPFB8ED**

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

上



---

## RDBディレクトリー項目の表示 (DSPRDBDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目表示(DSPRDBDIRE)コマンドによって、リレーショナル・データベース(RDB)ディレクトリー中の1つの項目、総称項目、またはすべての項目を表示することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
<b>RDB</b>	項目	総称名, 名前, <b>*ALL</b>	オプション, 定位置 1
<b>OUTPUT</b>	出力	<b>*</b> , <b>*PRINT</b> , <b>*OUTFILE</b>	オプション, 定位置 2
<b>OUTFILE</b>	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <b>*LIBL</b> , <b>*CURLIB</b>	
<b>OUTMBR</b>	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <b>*FIRST</b>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<b>*REPLACE</b> , <b>*ADD</b>	

上

---

### 項目 (RDB)

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目を指定します。項目に別名がない場合には、リレーショナル・データベース名が項目名として使用されます。項目に別名がある場合には、その別名が項目名として使用されます。

**\*ALL** リレーショナル・データベース・ディレクトリー中のすべての項目。

**総称名** リレーショナル・データベース項目の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(\*)が付いた文字ストリングです。

**名前** リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前を指定してください。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

\*  
出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

**\*PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

**\*OUTFILE**

出力は出力ファイルに送られます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリー記述の表示(DSPLIBD)コマンドを使用して、ライブラリーの作成権限を表示できます。

新しいファイルが作成される場合には、システム・ライブラリーQSYS中のレコード様式名RWRDDSPのシステム・ファイルQADSPDEがモデルとして使用されます。ファイルがすでに存在する場合には、そのファイルはこの形式でなければなりません。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

**\*CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

**\*FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに

指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

## 要素2: レコードの置き換えまたは追加

### \*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 例

### 例1: スプール・ファイルへの情報の送信

```
DSPRDBDIRE OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、すべてのリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目からの情報をスプール・ファイルに送信します。

### 例2: データベース・ファイルへの情報の送信

```
DSPRDBDIRE OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(SAVEDIR)
```

このコマンドは、すべてのリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目を名前SAVEDIRの出力ファイルに送信します。これは、リレーショナル・データベース・ディレクトリーの内容をバックアップする通常の方法です。これらの項目は、CLプログラムを使用して復元できますが、このプログラムは、出力ファイルから情報を読み取り、情報をリレーショナル・データベース・ディレクトリーに戻して追加するためのリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目追加(ADDRDBDIRE)コマンドを出します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF3EC3

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の表示が失敗しました。

上



## リモート定義の表示 (DSPRMTDFN)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

リモート定義表示(DSPRMTDFN)コマンドでは、ユーザーはシステムのリモート定義を表示または印刷することができます。出力は表示または印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに送ることができます。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SYSTEM	システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値, *ANY, *ALL	
	要素 2: システム・グループ	文字値	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*ADD, *REPLACE	

上

### システム名 (SYSTEM)

表示されるリモート・システムのシステム名およびシステム・グループを指定します。

考えられる値は次の通りです。

**\*ANY** 他の項目によって処理されないリモート・システムの省略時の定義を表示します。

**\*ALL** リモート・システムのすべての定義を表示します。

指定できるシステム名の値は次の通りです。

#### システム名

表示するリモート・システムの名前を指定してください。

指定できるシステム・グループの値は次の通りです。

#### システム・グループ

表示するリモート・システムのグループ名を指定してください。グループ名がブランクの場合には、この値を指定しないでください。

---

## 出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力を表示するか、印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定します。このパラメーターについては、AS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)の付録A「パラメーターの詳細な説明」に詳細な説明があります。

考えられる値は次の通りです。

\* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイルプロンプト(OUTFILEパラメーター) で指定されたデータベース・ファイルに送られます。

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。このファイルが存在しない場合には、システムは指定されたライブラリーにファイルを作成します。新しいファイルが作成される場合には、システムはRMTDFNのレコード様式名のシステム・ライブラリーQSYSのシステム・ファイルQAOCRMTDFNをモデルとして使用します。ファイルがすでに存在する場合には、そのファイルはこの形式でなければなりません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

\*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

### ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

### ファイル名

出力ファイルの名前を指定してください。



---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

### \*FIRST

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されて、そのメンバーが存在しない場合には、システムは、出力を受け取るファイルプロンプト (OUTFILEパラメーター) で指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

### メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR (メンバー名) を指定し、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

指定できるメンバーに対して実行する操作の値は次の通りです。

### \*REPLACE

出力データが、指定されたメンバーの既存のレコードと置き換えられます。

**\*ADD** 出力データが、指定されたメンバーの既存のレコードの後に追加されます。

上

---

## 例

### 例1:特定リモート定義の表示

```
DSPRMTDFN  SYSTEM(RCHAS1)
```

このコマンドは、リモート・システムRCHAS1の現行属性を表示します。

### 例2:定義の出力ファイルへの書き込み

```
DSPRMTDFN  SYSTEM(*ALL)  OUTPUT(*OUTFILE)  OUTFILE(RMTDFNOUT)
```

このコマンドは、定義済みのリモート・システムのすべての現行属性を出力ファイルRMTDFNOUTに書き込みます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF6A50

表示装置ファイルまたは印刷装置ファイルの操作中にエラーが見つかった。

#### CPF6DCA

SYSTEMパラメーターをローカル・システムにできない。

#### CPF6DCC

システム&1 &2のリモート定義が見つからない。

#### CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

**CPF9899**

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

---

## S/36構成の表示 (DSPS36)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

システム/36表示(DSPS36)コマンドによって、システム/36環境構成の説明を表示または印刷することができます。システム/36印刷装置、表示装置、一般環境値および(認可済み)MRT機密保護値の説明を組み込みます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション、定位置 1

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはそのジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

**\*:** 対話式ジョブによって要求された場合には、出力は要求元ワークステーションに表示されます。これが対話式ジョブでない場合には、出力はそのジョブのプール出力で印刷されます。

**\*PRINT:**  
出力はジョブのプール出力で印刷されます。

上

---

### 例

DSPS36 OUTPUT(\*)

このコマンドによって、対話式ジョブのユーザーはシステム/36環境記述を表示することができます。

上

---

### エラー・メッセージ

なし

上



---

## 保管ファイル表示 (DSPSAVF)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

保管ファイル表示(DSPSAVF)コマンドは保管ファイルの保管情報を表示します。これには、保管操作および保管ファイルに保管された各オブジェクトの記述に関する要約情報が含まれています。

### 制約事項:

- 保管ファイルに対する使用(\*USE)権限と、指定されたライブラリーに対する読み取り(\*READ)権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	保管ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

上

---

## 保管ファイル (FILE)

表示する保管ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

### 修飾子1: 保管ファイル

**名前** 保管ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPSAVF FILE(ONLINE) OUTPUT(\*PRINT)

このコマンドは、保管ファイルONLINEに保管されたオブジェクトを表示します。出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPD375A

保管媒体で媒体エラー。

#### CPF3704

要求が終了した。データ管理エラーが起こっています。

#### CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

#### CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

#### CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

#### CPF3792

情報は表示されなかった。エラーが起こった。

#### CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

#### CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

#### CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

#### CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

**CPF9812**

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

**CPF9820**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF9822**

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

**CPF9850**

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

**CPF9851**

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

上





---

## サブシステム記述表示 (DSPSBSD)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

サブシステム記述表示 (DSPSBSD)コマンドは、サブシステム記述に入っている情報を表示します。情報のタイプ (別々の画面に表示される) には次のものがあります。すなわち、操作属性、プール定義、自動始動ジョブ項目、ワークステーション項目 (名前およびタイプ別)、ジョブ待ち行列項目、経路指定項目、通信項目、リモート・ロケーション項目、および事前開始ジョブ項目です。このコマンドがバッチ・ジョブで入力された場合には、すべての使用可能な情報がジョブのプール出力を使用して印刷されます。

### 制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
  - サブシステム記述に対するオブジェクト操作(\*OBJOPR)および読み取り(\*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(\*EXECUTE)権限。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

上

---

## サブシステム記述 (SBSD)

表示するサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

### 修飾子1: サブシステム記述

**名前** サブシステム記述の名前を指定します。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

### \*CURLIB

サブシステム記述を見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

**名前** サブシステム記述が入っているライブラリーを指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPSBSD SBSDB(LIB6/ORDER) OUTPUT(\*)

このコマンドは、（バッチ・ジョブから入力された場合に）ORDERという名前のサブシステム記述(LIB6ライブラリーに保管されています)に関する表示情報の完全なセットを印刷のためにジョブのスパール待ち行列に送ります。この情報には、そのサブシステム記述の現在のサブシステムの属性、すべてのジョブ項目、およびすべての経路指定項目が含まれます。このコマンドが対話式ジョブで入力された場合には、そこからオプションを選択できる画面にサブシステム記述メニューが表示されます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

#### CPF1692

サブシステム記述&1は表示されなかった。

#### CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

#### CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

#### CPF9861

出力ファイル&1がライブラリー&2に作成された。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上



---

## 機密保護属性の表示 (DSPSECA)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

機密保護属性表示(DSPSECA)コマンドは、次のようなシステムの機密保護属性を表示します。

- 次回にユーザー・プロファイルにユーザーID番号が作成される時に使用されるユーザーID番号。
- 次回にユーザー・プロファイルにグループID番号が作成される時に使用されるグループID番号。
- マシンの機密保護レベル。 現行の機密保護レベルと異なる場合には、保留中の機密保護レベルが表示されます。
- マシンのパスワード・レベルです。 保留中のパスワード・レベルが現行パスワード・レベルと異なる場合には、それが表示されます。
- 機密保護関連のシステム値を変更できるかどうかを示す標識。
- デジタル証明書を証明書ストアに追加できるかどうか、証明書ストアのパスワードをデジタル証明書マネージャー(DCM)を使用してリセットできるかどうかを示す標識。
- 満了した省略時パスワードをもつ保守ツール・ユーザーIDがその独自のパスワードを変更できるかどうかを示す標識。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 1

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPSECA OUTPUT(\*PRINT)

このコマンドは、現行機密保護属性を印刷します。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上

---

## 機密保護監査の表示 (DSPSECAUD)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

機密保護情報の表示(DSPSECAUD)コマンドは、機密保護監査ジャーナルに関する現行の情報およびそのシステム上で行っている監査の内容を制御するシステム値の現行の設定を表示します。

制約事項:このコマンドを実行するためには、監査(\*AUDIT)特殊権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 1

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合) , あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPSECAUD

このコマンドは、機密保護監査ジャーナルに関する現在の情報、およびシステム上で監査されているものを制御するシステム値の現在の設定を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。





---

## ソフトウェア資源の表示 (DSPSFWRSC)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ソフトウェア資源の表示(DSPSFWRSC)コマンドによって、導入済みソフトウェア資源のリストを表示するか、印刷するか、あるいは出力ファイルに書き込むことができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 1
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

\*  
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(\*OUTFILE)を使用する場合には、データベース・ファイルの名前が必要です。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が向けられるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルを作成する場合には、システムはライブラリー・リスト内の物理ファイル QARZLCOF をモデル・ファイルとして使用します。このファイルのレコード様式名は QARZLCGD です。フィールド・レベルの情報は、ファイル・フィールド記述表示(DSPFFD)コマンドを使用し、ファイル名として QARZLCOF、ライブラリーとして \*LIBL を指定して入手できます。この機能でファイルを作成した場合には、テキストに "OUTPUT FILE FOR DSPSFWRSC" と示されます。特定の権限、グループ権限、または権限リストからの権限が付与されているユーザー以外のユーザーの権限は、ファイルを作成する先のライブラリーに指定された作成権限と同じです。このパラメーターが有効であるのは、OUTPUT(\*OUTFILE)が指定されている場合だけです。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾できます。

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### **\*CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

### ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

### **\*FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

### メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。メンバーが存在する場合には、既存のメンバーの終わりにレコードを追加するか、あるいは既存のメンバーを消去してから、新しいレコードを追加するオプションがあります。

オプションの値は次の通りです。

### **\*REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 例

DSPSFWRSC OUTPUT(\*OUTFILE) OUTFILE(\*CURLIB/NAMES)

このコマンドは、コマンドからの出力を現行ライブラリーのファイルNAMESの最初のメンバーに送ります。この出力は、メンバー中の情報を置き換えます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### **CPF0C4A**

プロダクト・レコードが見つからない。

#### **CPF0C4B**

プロダクト使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

#### **CPF0C4C**

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

#### **CPF0C4D**

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

#### **CPF0C54**

プロダクト・レコードのデータが正しくない。

#### **CPF9860**

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

#### **CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上



---

## 制御範囲状況表示 (DSPSOCSTS)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

制御範囲状況表示(DSPSOCSTS)コマンドは、一次ノード、省略時ノード、バックアップ・ノード、および要求ノードを含めて、制御の範囲の状況を表示します。

制御範囲の状況の表示およびDSPSOCSTSコマンドの使用に関する詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 1
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプション

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。 バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

### 詳細 (DETAIL)

コマンドからの出力がノードのリストとして印刷されるか、あるいは制御の範囲の各ノードの詳細記述として印刷されるかを指定します。このパラメーターが有効なのは、OUTPUT(\*PRINT)が指定されている場合だけです。

#### \*BASIC

制御の範囲内のノードのリストが印刷されます。

#### \*FULL

制御の範囲内のノードのリストが、各ノードごとに詳細記述を表示して印刷されます。

上

---

## 例

DSPSOCSTS

このコマンドは、「制御状況の範囲」画面を要求側ワークステーションに表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上

## スプール・ファイル表示 (DSPSPLF)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

スプール・ファイル表示(DSPSPLF)コマンドは、指定されたスプール・ファイルのデータ・レコードを表示します。スプール・ファイルの項目が出力待ち行列上にある場合には、そのファイルの現在の内容(データ・レコード)をいつでも表示することができます。この画面には、ファイルの各部分を表示し、特定の文字ストリングをスキップするための各種の機能が提供されています。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
FOLD	レコードの折り返し	*NO, *YES	オプション

上

### スプール・ファイル (FILE)

レコードを表示するスプール・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

**名前** 表示するスプール・ファイルのファイル名を指定してください。

上

---

## ジョブ名 (JOB)

データ・レコードを表示するスプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

単一値

\* このコマンドを出したジョブが、そのスプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定してください。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

---

## スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

表示するジョブのスプール・ファイルの番号を指定します。

**\*ONLY**

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

**\*LAST**

指定されたファイル名で最高の番号が付いているスプール・ファイルが使用されます。

**\*ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

1から999999

データ・レコードを表示する指定されたファイル名のスプール・ファイルの番号を指定してください。

上

---

## ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイル(JOBパラメーター)を作成したジョブが実行されるシステムを指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

**\*ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。



#### **\*CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

**\*ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにするには、この値を使用してください。

**名前** スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

上

---

## **作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)**

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

#### **単一値**

##### **\*ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

##### **\*LAST**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

#### **要素1: 作成日**

**日付** スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

#### **要素2: 作成時刻**

##### **\*ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

##### **\*LAST**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

**時刻** スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

上

---

## **レコードの折り返し (FOLD)**

最初の画面で、表示行の長さより長いレコードを折り返して（ラップして）表示するかどうかを指定します。

**\*NO** レコードは折り返し表示されません。レコードの長さが1行を超える場合、レコードの残りの文字位置は表示されません。

**\*YES** 初期表示画面で、最初のレコードが1行の長さを超える場合に2行以上の表示行に折り返し表示されます。

上

---

## 例

DSPSPFLF FILE(QPRINT) JOB(PAYROLL01) SPLNBR(4) FOLD(\*NO)

この例では、スプール・ファイルQPRINTが表示されます。このファイルは、ジョブPAYROLL01によって作成された4番目のファイルです。表示行の長さより長いレコード位置は、最初の表示行で切り捨てられます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF2207

ライブラリー&3のタイプ\*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

#### CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

#### CPF3308

データを表示しようとした時にエラーが起こった。

#### CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

#### CPF3330

必要な資源が使用できない。

#### CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

#### CPF3342

ジョブ&5/&4/&3が見つからない。

#### CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

#### CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

#### CPF3359

データを表示することができない。

#### CPF3386

&2のファイル&1はデータベース・ファイルではない。

- CPF3387**  
&2のファイル&1のデータを表示することができない。
- CPF3394**  
スプール・ファイル・データを変換することはできない。
- CPF33F9**  
ファイル&1,番号&6を表示中にエラーが起こった。
- CPF3427**  
ジョブ&5/&4/&3は対話式ジョブでない。
- CPF3428**  
ファイル&1番号&8でDSPSPLFコマンドが終了した。
- CPF3429**  
ファイル&1番号&7を表示, コピー, または送信することができない。
- CPF3434**  
&2のファイル&1メンバー&3のデータが必要な形式になっていない。
- CPF3435**  
要求されたデータは&2のファイル&1のメンバー&3に見つからなかった。
- CPF3478**  
ファイル&1はライブラリー&7の出力待ち行列&6のジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。
- CPF3492**  
スプール・ファイルに対しては許可されていない。
- CPF7D41**  
発注援助要求のロギング時にエラーが起こりました。
- CPF7D42**  
データベース操作の実行中にエラーが起こった。
- CPF9812**  
ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。
- CPF9815**  
ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。
- CPF9845**  
ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。
- CPF9846**  
ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。
- CPF9871**  
処理中に, エラーが起こった。

上



---

## サービス属性の表示 (DSPSRVA)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

サービス属性表示(DSPSRVA)コマンドはシステムのセットアップ方法についての次の情報を表示します。

- 外部サポートに報告する接続番号
- このシステムをコールバックする接続番号
- 障害が発生した時に問題分析ルーチンを自動的に実行するかどうか
- 指定されたサービス提供元に問題を通知する方法
- サービス提供元への接続番号
- PTFを導入する時点
- 重要システム・メッセージの送り先
- PTFがテープまたは光ディスク装置からロードされる時に、PTF保管ファイルおよびカバー・レターを \*SERVICEにコピーする必要があるかどうか
- システム上に保持するPTFグループの最大レベル数
- エレクトロニック支援(ECS)プログラムで使用されるメッセージ待ち行列

上

---

## パラメーター

なし

上

---

## 例

DSPSRVA

このコマンドは、システムの現行サービス属性を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF7D41

発注援助要求のロギング時にエラーが起きました。

#### CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上

## サービス・エージェントの表示 (DSPSRVAGT)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの表示(DSPSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントのいくつかの状況を表示できます。表示される領域は、**タイプ (TYPE)**パラメーターで指定します。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
<b>TYPE</b>	タイプ	*DEVICE, *SRVINP, *MAINT, *PRDACTLOG, *SRVREGINF, *PRBRPT	必須, 定位置 1
<b>DEVICE</b>	装置	文字値	オプション
<b>CATEGORY</b>	カテゴリ	*DASD, *TAPE, *PROCESSOR, *OPTICAL, *FSIOP, *OTHER	オプション
<b>SENSEFMT</b>	センス・バイトの形式	0, 4, 2, 8, C	オプション
<b>SYSNAME</b>	システムまたは論理区画	文字値, *LOCAL	オプション
<b>OUTPUT</b>	出力	*, *PRINT	オプション
<b>SRVREP</b>	IBMサービス技術員	文字値, *BLANK	オプション
<b>SRVTELNR</b>	IBMサービスの電話番号	文字値, *BLANK	オプション
<b>RECOMMEND</b>	推奨事項	文字値, *BLANK	オプション
<b>ERRLOGID</b>	エラー・ログ識別コード	文字値	オプション

上

### タイプ (TYPE)

表示されるサービス・エージェントの外観を指定します。

これは必須パラメーターです。

#### \*DEVICE

装置のサービス・エージェントしきい値テーブルからの情報が表示されます。

#### \*SRVINP

サービス・エージェントのサービス情報の収集および送信に関する情報が表示されます。

#### \*MAINT

IBMサービス予防保守チェックリストが表示または印刷されます。これは、システムまたは論理区画での予防保守コール時に推奨されるアクションのリストです。このリストは、予防保守サービスの各コール後に、印刷してカスタマーに渡されます。

#### \*PRDACTLOG

プロダクト活動ログからのレコードが表示または印刷されます。

#### \*SRVREGINF

システムまたは論理区画をサービス・エージェントとして登録するために必要な情報が表示されます。

上

---

## 装置 (DEVICE)

しきい値テーブル情報の表示対象の装置を指定します。

注: TYPE(\*DEVICE)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

**文字値** しきい値テーブル情報の表示対象の4文字の装置タイプを指定してください。例えば、2420テープ装置の場合には、DEVICE(2420)を指定できます。

上

---

## カテゴリー (CATEGORY)

しきい値テーブル情報の表示対象の装置のタイプを指定します。

注: TYPE(\*DEVICE)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

#### \*DASD

装置はDASD装置です。

#### \*TAPE

装置はテープ装置です。

#### \*PROCESSOR

装置はプロセッサです。

#### \*OPTICAL

装置は光ディスク装置です。

#### \*FSIOP

装置はFSIOP装置です。

#### \*OTHER

装置は以上にリストされた以外の装置です。

上

---

## センス・バイトの形式(SENSEFMT)

テープ装置のボリューム統計データの形式を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、CATEGORY(\*TAPE)を指定した場合だけです。

**0** 装置は取り外し可能媒体統計を報告しません。

**4** 形式は1/4インチ・カートリッジ・テープ装置用のものです。



- 2 形式は1/2インチ・リール・テープ装置用のものです。
- 8 形式は8 MMテープ装置用のものです。
- C 形式は1/2インチ・カートリッジ・テープ装置用のものです。

上

---

## システムまたは論理区画 (SYSNAME)

情報の表示対象のシステムまたは論理区画の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(\*SRVINP)を指定した場合だけです。

### **\*LOCAL**

ローカル・システムまたは論理区画の情報が表示されます。

文字値 情報の表示対象のシステムまたは論理区画の名前を指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(\*MAINT)またはTYPE(\*PRDACT)が指定された場合だけです。

\* 出力は、対話式ジョブの場合には表示され、非対話式ジョブの場合にはジョブのスプール出力で印刷されます。

### **\*PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

上

---

## IBMサービス技術員(SRVREP)

このサービス呼び出しを行っているIBMサービス技術員または実行されるサービスについて疑問がある時にカスタマーが連絡を取るIBMサービス技術員の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(\*MAINT)およびOUTPUT(\*PRINT)を指定した場合だけです。

### **\*BLANK**

値は指定されません。

文字値 IBMサービスの連絡先の名前を指定してください。 OUTPUT(\*PRINT)が指定されると、この値が出力に組み込まれます。

上

---

## IBMサービスの電話番号(SRVTELNBR)

カスタマーがIBMサービスに連絡する時にコールする電話番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(\*MAINT)およびOUTPUT(\*PRINT)を指定した場合だけです。

### \*BLANK

値は指定されません。

**文字値** IBMサービスに連絡するための完全な電話番号列を指定してください。OUTPUT(\*PRINT)が指定されると、この値が出力に組み込まれます。

上

---

## 推奨事項(RECOMMEND)

IBMサービス技術員がカスタマーに対してもっている推奨事項を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(\*MAINT)およびOUTPUT(\*PRINT)を指定した場合だけです。

### \*BLANK

値は指定されません。

**文字値** IBMサービスがカスタマーに示す推奨事項を指定してください。OUTPUT(\*PRINT)が指定されると、この値が形式設定され、出力に組み込まれます。

上

---

## エラー・ログ識別コード (ERRLOGID)

表示されるプロダクト活動ログ・レコードのレコードIDを指定します。

注: TYPE(\*PRDACTLOG)を指定した場合には、このパラメーターは必須です。

**文字値** 表示されるプロダクト活動ログ・レコードのIDを指定してください。IDは、TYPE(\*EVENT)を指定したサービス・エージェント処理(WRKSrvVAGT)コマンドを使用するか、保守ツール開始(STRSST)コマンドを使用して見つけることができます。

上

---

## 例

```
DSPSRVAGT TYPE(*DEVICE) DEVICE(2420) CATEGORY(*TAPE)
```

このコマンドは、装置2420（テープ装置）のサービス・エージェントしきい値テーブル中の情報を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

\*ESCAPE メッセージ

**CPF9899**

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上



## サービス・プログラムの表示 (DSPSRVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

サービス・プログラム表示(DSPSRVPGM)コマンドは、サービス・プログラムの作成および処理属性を含むサービス・プログラムに関する情報、コンパイラーに関する情報、およびサービス・プログラムのサイズを表示します。

### 制約事項:

- 表示するサービス・プログラムに対して実行(\*EXECUTE)権限または使用(\*USE)権限 (DETAIL(\*MODULE)が指定されている時) が必要です。
- サービス・プログラムが存在しているライブラリーに対して読み取り(\*READ)権限が必要です。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
DETAIL	詳細	単一値: *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *BASIC, *SIZE, *MODULE, *SRVPGM, *PROCEXP, *DTAEXP, *ACTGRPEXP, *ACTGRPIMP, *SIGNATURE, *COPYRIGHT	オプション

上

## サービス・プログラム (SRVPGM)

情報を表示または印刷するサービス・プログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

### 修飾子1: サービス・プログラム

**名前** サービス・プログラムの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

**\*CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

これは必須パラメーターです。

**\*** 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

**\*PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 詳細 (DETAIL)

サービス・プログラムについて表示される情報のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

**単一値**

**\*ALL** すべてのDETAIL情報タイプ(\*BASIC, \*SIZE, \*MODULE, \*SRVPGM, \*PROCEXP, \*DTAEXP, \*ACTGRPEXP, \*ACTGRPIMP, \*SIGNATURE,および\*COPYRIGHT)が画面に表示されます。情報を画面に表示することを選択する場合は、情報のタイプごとに情報をくまなくスクロールできるようになりますが、ENTER (またはPF12)を押して、ある情報セクションから別の情報セクションに移動することが必要になります。

**その他の値 (最大8個指定可能)**

**\*BASIC**

一般的なサービス・プログラム情報が表示されます。

**\*SIZE** このサービス・プログラムのサイズおよびサイズの限界が表示されます。

**\*MODULE**

このサービス・プログラムによってバインドされたモジュール・オブジェクトのリストが表示されます。各モジュールに表示されるライブラリーは、サービス・プログラムが最初に作成された時にモジュールがあったライブラリーです。モジュールが異なるライブラリーのモジュールによって置き換えられた場合にも、このライブラリー名は、サービス・プログラムが作成された時にモジュールがあったライブラリーの名前のままです。

#### \*SRVPGM

このサービス・プログラムによってバインドされたサービス・プログラム・オブジェクトのリストが表示されます。

#### \*PROCEXP

このサービス・プログラムからエクスポートされて、バインド言語に指定されたプロシージャのリストが表示されます。このエクスポートは、現行署名の場合だけです。

#### \*DTAEXP

このサービス・プログラムからエクスポートされて、バインド言語に指定されたデータ項目のリストが表示されます。このエクスポートは、現行署名の場合だけです。

#### \*ACTGRPEXP

バインド仕様のデータ・エクスポート項目に指定された活動化グループにエクスポートされたデータ項目のリストが表示されます。

#### \*ACTGRPIMP

活動化グループ・ディレクトリーにエクスポートされたウィーク・エクスポートによって解決されたインポートのリストが表示されます。

#### \*SIGNATURE

このサービス・プログラムの署名のリストが表示されます。このリストの最初の署名が現行署名です。

#### \*COPYRIGHT

このサービス・プログラムの著作権のリストが表示されます。

上

---

## 例

DSPSRVPGM SRVPGM(COACH)

このコマンドは、COACHという名前のサービス・プログラム・オブジェクトを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

#### CPF2151

&1のタイプ\*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

#### CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

#### CPF8123

ライブラリー&4のオブジェクト情報に損傷がある。

#### CPF813D

&9のサービス・プログラム&4に損傷がある。

**CPF9801**

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

**CPF9802**

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

**CPF9803**

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

**CPF9806**

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

**CPF9807**

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

**CPF9808**

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

**CPF9810**

ライブラリー&1が見つかりません。

**CPF9820**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF9830**

ライブラリー&1を割り当てることができない。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上



## サービス状況表示 (DSPSRVSTS)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

サービス状況表示(DSPSRVSTS)コマンドは、指定されたジョブの現在のサービス状況に関する情報を表示します。この情報には、指定されたジョブがサービスしているジョブの名前や指定されたジョブをサービスしているジョブの名前が含まれます。

### 制約事項:

- このコマンドを使用するためには、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,またはQSRVBASとしてサインオンするか、あるいは全オブジェクト(\*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション、定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

上

## ジョブ名 (JOB)

サービス状況を表示するジョブを指定します。

### 単一値

\* このコマンドを入力するジョブに関する状況情報を表示します。

### 修飾子1: ジョブ名

**名前** 表示されるジョブのジョブ名を指定します。ユーザー名またはジョブ番号を指定しない場合には、システムに現在あるすべてのジョブについて単純ジョブ名を検索します。指定するジョブ名はシステム内で固有のものでなければなりません。

### 修飾子2: ユーザー

**名前** 表示されるジョブのユーザー名を指定します。

### 修飾子3: 番号

000000から999999

表示されるジョブのジョブ番号を指定します。

上

---

## 重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

### **\*SELECT**

対話式セッションで重複ジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、エスケープ・メッセージが出されます。

**\*MSG** 重複ジョブが見つかった時には、エスケープ・メッセージが出されます。

上

---

## 例

DSPSRVSTS

このコマンドは、コマンドを入力したジョブのサービス状況情報を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### **\*ESCAPE** メッセージ

#### **CPF3520**

ジョブが見つからない。

#### **CPF3524**

指定した名前のジョブが複数個見つかった。

#### **CPF3925**

ファイル&1をオープンすることができない。

#### **CPF3950**

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

上

## 保守ツール・ユーザーIDの表示 (DSPSSTUSR)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: はい

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

保守ツール・ユーザーIDの表示(DSPSSTUSR)コマンドによって、保守ツール・ユーザーIDのリストが表示されます。また、このコマンドを使用して、特定の保守ツール・ユーザーIDのユーザーの状況および特権などの詳細情報を表示することができます。

出力を印刷する場合は、保守ツール・ユーザーIDに関する詳細使用情報が出力に含まれます。

出力を物理ファイルに送信する際に新しいファイルを作成する場合には、システム・ライブラリー(QSYS)中の様式名QSYDSDSTのシステム・ファイルQASYDSPDSTをモデルとして使用します。

制約事項:このコマンドを使用するには、セキュリティー管理者(\*SECADM)または監査(\*AUDIT)特殊権限のいずれかが必要です。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRID	保守ツール・ユーザーID	文字値, *ALL	オプション, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

上

### 保守ツール・ユーザーID (USRID)

情報を表示する保守ツール・ユーザーIDを指定してください。

**\*ALL** すべての保守ツール・ユーザーIDが表示されます。

**名前** 表示する保守ツール・ユーザーIDの名前を指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

\*  
\_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### \*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

### \*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

\*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

### \*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

#### \*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

## 要素2: レコードの置き換えまたは追加

### \*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 例

### 例1:基本情報の表示

```
DSPSSTUSR  USRID(11111111)
```

このコマンドは、11111111という名前の保守ツール・ユーザーIDの状況および特権を示します。OUTPUT(\*)が想定されているので、コマンドの投入場所に応じて、情報が表示または印刷されます。

### 例2:すべての保守ツール・ユーザーIDの印刷

```
DSPSSTUSR  USRID(*ALL)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドによって、すべての保守ツール・ユーザーIDの状況および特権が印刷されます。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF4AA8

保守ツールのユーザーID &1が見つかりませんでした。

#### CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

#### CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

上



---

## サーバー認証項目の表示 (DSPSVRAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

サーバー認証項目表示(DSPSVRAUTE)コマンドは、指定されたユーザー・プロファイルのサーバー認証項目のリストを表示します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, *CURRENT	オプション, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

### ユーザー・プロファイル (USRPRF)

サーバー認証項目を表示するユーザー・プロファイルを指定します。

#### \*CURRENT

このコマンドを実行中のユーザーのサーバー認証項目を表示します。

**名前** サーバー認証項目を表示するユーザーの名前を指定してください。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPSVRAUTE

このコマンドは、現在実行中のユーザーについてのサーバー認証項目を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### **CPFA0AA**

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

#### **CPF22F0**

処理時に予期しないエラーが起こりました。

#### **CPF2204**

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

#### **CPF2213**

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

#### **CPF2217**

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

上



---

## システム状況の表示 (DSPSYSSTS)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

システム状況の表示 (DSPSYSSTS)コマンドによって、システムの現在の状況に関する情報を表示または印刷することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 1
RESET	状況統計リセット	*NO, *YES	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV, *USRPRF, *BASIC, *INTERMED, *ADVANCED	オプション

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

### 状況統計リセット (RESET)

システム状況の統計フィールドがこのジョブのDSPSYSSTSコマンドの最初のオカレンスであるかのように、これをゼロにリセットするかどうかを指定します。このパラメーターに指定された値は、\*BASIC操作援助レベルで示される情報には影響しません。

\*NO システム状況統計はリセットされません。

\*YES システム状況統計はリセットされます。これは、また、システム状況処理 (WRKSYSSTS)コマンドおよびQWCRSSTS APIにおける状況統計もリセットします。

上

---

## 援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

**\*PRV** 前に使用された操作援助レベルが使用されます。

**\*USRPRF**

ユーザー・プロファイルに定義された操作援助レベルが示されます。

**\*BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

**\*INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

**\*ADVANCED**

システム・ユーザー・インターフェース・エキスパート・モードが使用されます。

上

---

## 例

DSPPSYSSTS OUTPUT(\*PRINT)

このコマンドは、現在のシステム状況情報を印刷します。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上

## システム値表示 (DSPSYSVAL)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

システム値表示 (DSPSYSVAL)コマンドは、指定されたシステム値の名前および値を表示します。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
<b>SYSVAL</b>	システム値	QABNORMSW, QACGLVL, QACTJOB, QADLACTJ, QADLSPLA, QADLTOTJ, QALWJOBITP, QALWJOBIRST, QALWUSRDMN, QASTLVL, QATNPGM, QAUDCTL, QAUDENDACN, QAUDFRCLVL, QAUDLVL, QAUDLVL2, QAUTOCFG, QAUTORMT, QAUTOSPRPT, QAUTOVRT, QBASACTLVL, QBASPOOL, QBOOKPATH, QCCSID, QCENTURY, QCFGMSGQ, QCHRID, QCHRIDCTL, QCMNARB, QCMNRCYLMT, QCNTYID, QCONSOLE, QCRTAUT, QCRTOBJAUD, QCTLSBSD, QCURSYM, QDATE, QDATETIME, QDATFMT, QDATSEP, QDAY, QDAYOFWEEK, QDBFSTCCOL, QDBRCVYWT, QDECFMT, QDEVNAMING, QDEVRCYACN, QDSCJOBITV, QDSPSGNINF, QDYNPTYADJ, QDYNPTYSCD, QENDJOBMT, QFRCCVNRST, QHOUR, QHSTLOGSIZ, QIGC, QIGCCDEFNT, QIGCFNTSIZ, QINACTMSGQ, QINACTITV, QIPLDATTIM, QIPLSTS, QIPLTYPE, QJOBMSGQFL, QJOBMSGQMX, QJOBMSGQSZ, QJOBMSGQTL, QJOBSPLA, QKBDBUF, QKBDTYPE, QLANGID, QLEAPADJ, QLIBLCKLVL, QLMTDEVSSN, QLMTSECOFR, QLOCALE, QLOGOUTPUT, QMAXACTLVL, QMAXJOB, QMAXSGNACN, QMAXSIGN, QMAXSPLF, QMCHPOOL, QMINUTE, QMLTTHDACN, QMODEL, QMONTH, QPASTHRSVR, QPFRADJ, QPRBFTR, QPRBHLDTIV, QPRCFEAT, QPRCMLTTSK, QPRTDEV, QPRTKEYFMT, QPRTTXT, QPWDCHGBLK, QPWDEXPITV, QPWDEXPWRN, QPWDLMTAJC, QPWDLMTCHR, QPWDLMTREP, QPWDLVL, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDPOSDIF, QPWDRQDDGT, QPWDRQDDIF, QPWDRULES, QPWDVLDPGM, QPWRDWNLMT, QPWRRSTIPL, QQRYDEGREE, QQRYTIMLMT, QRCLSPLSTG, QRETSVRSEC, QRMTIPL, QRMTSIGN, QRMTSRVATR, QSAVACCPH, QSCANFS, QSCANFCTL, QSCPFCONS, QSECOND, QSECURITY, QSETJOBATR, QSFWERRLOG, QSHRMEMCTL, QSPCENV, QSPLFACN, QSRLNBR, QSRTSEQ, QSRVDMP, QSSLSL, QSSLSLCTL, QSSLPCL, QSTGLOWACN, QSTGLOWLMT, QSTRPRTWTR, QSTRUPPGM, QSTSMMSG, QSVRAUTITV, QSYSLIBL, QTHDRSCADJ, QTHDRSCAFN, QTIMADJ, QTIME, QTIMSEP, QTIMZON, QTOTJOB, QTSEPOOL, QUPSDLYTIM, QUPSMMSGQ, QUSEADPAUT, QUSRLIBL, QUTCOFFSET, QVFOBJRST, QYEAR	必須, 定位置 1
<b>OUTPUT</b>	出力	*, *PRINT _	オプション的, 定位置 2

上

---

## システム値 (SYSVAL)

表示されるシステム値の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

システム値は次の通りです。

### QABNORMSW

前のシステム終了標識。この値は変更できません。

- '0'は直前の終了が正常であったことを意味します。
- '1'は直前の終了が異常であったことを意味します。

### QACGLVL

アカウント・レベル。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- \*NONE -会計情報はジャーナルに書き込まれません。
- \*JOB -ジョブ資源の用途がジャーナルに書き込まれます。
- \*PRINT -スプールおよび印刷装置ファイル資源の用途がジャーナルに書き込まれます。

### QACTJOB

記憶域が割り振られる初期活動ジョブ数。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

### QADLACTJ

記憶域が割り振られる追加の活動ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

### QADLSPLA

スプリーング制御ブロックを拡張するための追加の記憶域 (バイト数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

### QADLTOTJ

記憶域が割り振られる追加の合計ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

### QALWJOBITP

ジョブは割り込みできます。このシステム値は、そのジョブでユーザー定義の出口プログラムを実行するジョブを割り込みするユーザー開始要求にシステムが応答する方法を指定します。i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のジョブ割り込みプログラムの呼び出し(QWCJBITP) APIには、ジョブ割り込み出口プログラムを使用する時の情報が入っています。i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)を参照してください。のジョブ割り込み状況の変更(QWCCJITP) APIには、ジョブの割り込み状況を検索および変更する時の情報が入っています。活動ジョブの割り込み状況は、任意の時に変更できますが、有効になるのはQALWJOBITPの値によりジョブを割り込みできる時だけです。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は0です。

- 0は、システムによりジョブを割り込みしてユーザー定義出口プログラムを実行できないことを意味します。活動状態になるすべての新規ジョブは、省略時解釈として割り込み不可になります。ジョブ割り込み状況の設定内容にかかわらず、すべての活動ジョブは割り込み不可です。
- 1は、システムによりジョブを割り込みしてユーザー定義出口プログラムを実行できることを意味します。活動状態になるすべての新規ジョブは、省略時解釈として割り込み不可になります。

- 2は、システムによりジョブを割り込みしてユーザー定義出口プログラムを実行できることを意味します。活動状態になるすべての新規ジョブは、省略時解釈として割り込み可能になります。

#### QALWBJRST

オブジェクト復元の許可。このシステム値は、機密属性を持つオブジェクトが復元されるかどうかを決定します。詳細については、復元オプションを参照してください。

#### QALWUSRDMN

ライブラリーまたはディレクトリー中のユーザー・ドメイン・オブジェクトを許可します。このシステム値は、システム上のどのライブラリーにユーザー・ドメイン・ユーザー・オブジェクト \*USRSPC (ユーザー・スペース) , \*USRIDX (ユーザー見出し) , および\*USRQ (ユーザー待ち行列) を入れることができるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

#### QASTLVL

操作援助レベル。ASTLVL(\*SYSVAL)が指定されたユーザー・プロファイルについてシステム画面の操作援助機能レベルを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*BASIC -操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。
- \*INTERMED -システム・インターフェースが使用されます。
- \*ADVANCED - EXPERTシステム・インターフェースが使用されます。

\*ADVANCEDレベル・インターフェースがないコマンドの場合には、\*INTERMEDが使用されます。

#### QATNPGM

アテンション・プログラム。このシステム値に対して\*ASSISTが指定された場合には、ユーザーがアテンション(ATTN)キーを押した時に、操作援助機能メイン・メニューが呼び出されます。この値は、ユーザー・プロファイルにATNPGM(\*SYSVAL)が指定されたジョブでユーザーがATTNキーを押した時に呼び出されるプログラムの名前に変更することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

#### QAUDCTL

監査制御。このシステム値には、オブジェクトおよびユーザー処置の監査用のオン/オフ・スイッチが入っています。このシステム値は、オブジェクト監査の変更 (CHGOBJAUD)およびユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD)コマンドとQAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値によって選択されたシステム上の監査を活動化します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(\*NOTAVL)に変更できません。
- \*NONE -システム上で機密保護監査は行われません。これが配送値です。
- \*AUDLVL - QAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値に指定された処置が機密保護ジャーナルに対して記録されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値によって指定された処置も監査されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値は、CHGUSRAUDコマンドのAUDLVLパラメーターを通じて設定されます。
- \*OBJAUD - \*NONE以外のオブジェクト監査値を持つオブジェクトに対する処置が監査されません。オブジェクトの監査値は、監査値変更 (CHGAUD)コマンドまたはCHGOBJAUDコマンドを通じて設定されます。
- \*NOQTEMP - QTEMP中のほとんどのオブジェクトの監査は行われません。 \*NOQTEMPは、\*OBJAUD または\*AUDLVLのいずれかと一緒に指定しなければなりません。 \*NOQTEMP単独で指定することはできません。

## QAUDENDACN

監査ジャーナル・エラー処置。このシステム値は、オペレーティング・システムが機密保護監査ジャーナルに監査ジャーナル項目を送ろうとした時にエラーが起こった場合にシステムが取る処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(\*NOTAVL)に変更できません。
- \*NOTIFY -障害通知がQSYSOPRおよびQSYSMSGメッセージ待ち行列に送られ、その後で、監査を試みる原因となった処置が続行されます。
- \*PWRDWN SYS - システム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドが出されます。システムはIPLの後で制限状態で立ち上げられ、監査(\*AUDIT)および全オブジェクト(\*ALLOBJ)特殊権限を持つユーザーだけがそのシステムにサインオンすることができます。

## QAUDFRCLVL

強制監査ジャーナル。このシステム値は、ジャーナル項目データが補助記憶域に強制的に書き込まれる前に、機密保護監査ジャーナルに書き出すことができる監査ジャーナル項目の数を指定します。

- 1から100。
- \*SYS -内部システム処理に基づいてジャーナル項目を補助記憶域に書き出す時点を、システムが決定します。\*SYSを10進変数で戻すことはできないので、値\*SYSが指定される時にコマンドは0を戻します。
- \*NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(\*NOTAVL)に変更できません。\*NOTAVLを10進数変数で戻すことはできないので、コマンドは\*NOTAVLの代わりに-1を戻します。

このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QAUDLVL

機密保護監査レベル。システム上の処置監査のレベルを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- \*NONE -システム上で機密保護処置監査は行われません。これが配送値です。
- \*AUDLVL2 - QAUDLVLとQAUDLVL2の両方のシステム値を使用して、監査する機密保護処置が決定されます。

### 注:

- QAUDLVL2システム値を排他的に使用したい場合には、QAUDLVLシステム値を\*AUDLVL2に設定して、監査値をQAUDLVL2システム値に追加します。
- \*AUDLVL2値とともに値をQAUDLVLシステム値に設定できる両方のシステム値を使用したい場合には、追加の値をQAUDLVL2処置に追加します。
- \*ATNEVT -重要イベントが監査されます。重要イベントは、条件の機密保護重要度を判別するためにさらに評価する必要がある条件です。例えば、条件が侵入であるか偽の肯定であるかを判別するために、侵入モニター・イベントを調べる必要があります。
- \*AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- \*CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。
- \*DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- \*JOBAS -ジョブに影響する基本処置が監査されます。



- \*JOBCHGUSR-スレッドの活動中ユーザー・プロファイルまたはそのグループ・プロファイルの変更処置が監査されます。
- \*JOBDTA -ジョブに影響する処置が監査されます。

注: \*JOBDTAは、監査をよりカスタマイズできる2つの値から構成されています。両方の値を指定した場合には、\*JOBDTAを指定した場合と同じ監査が行われます。\*JOBDTAは次の値で構成されています。

- \*JOBBAS
- \*JOBCHGUSR

- \*NETBAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- \*NETCLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- \*NETCMN -ネットワークングおよび通信機能が監査されます。

注: \*NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、\*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われます。\*NETCMNは次の値で構成されています。

- \*NETBAS
- \*NETCLU
- \*NETFAIL
- \*NETSCK

- \*NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- \*NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- \*NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(\*NOTAVL)に変更できません。
- \*OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- \*OFCSRV - OFFICEVISIONタスクが監査されます。
- \*OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- \*PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。
- \*PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- \*PRTDTA -印刷機能が監査されます。
- \*SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- \*SECCFG -機密保護構成が監査されます。
- \*SECDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- \*SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- \*SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- \*SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- \*SECSCKD -ソケット記述子が監査されます。
- \*SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: \*SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、\*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われます。\*SECURITYは次の値で構成されています。

- \*SECCFG

- \*SEC DIRSRV
- \*SEC IPC
- \*SEC NAS
- \*SEC RUN
- \*SEC SCKD
- \*SEC VFY
- \*SEC VLDL
- \*SEC VFY -検査機能の使用が監査されます。
- \*SEC VLDL -妥当性検査リスト・オブジェクトに対する変更が監査されます。
- \*SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、資料System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
- \*SPLFDTA -プール・ファイル機能が監査されます。
- \*SYS MGT -システム管理タスクが監査されます。

## QAUDLVL2

機密保護監査レベル拡張機能。このシステム値は、16更新されている場合超える監査値が必要であった場合に必要になります。\*AUDLVL2を値の1つとしてQAUDLVLシステム値に指定すると、システムはQAUDLVL2システム値中の監査値も検索します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- \*NONE -このシステム値には監査値が含まれません。これが配送値です。
- \*ATNEVT -重要イベントが監査されます。重要イベントは、条件の機密保護重要度を判別するためにさらに評価する必要がある条件です。例えば、条件が侵入であるか偽の肯定であるかを判別するために、侵入モニター・イベントを調べる必要があります。
- \*AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- \*CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。
- \*DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- \*JOB BAS -ジョブに影響する基本処置が監査されます。
- \*JOB CHGUSR -スレッドの活動中ユーザー・プロファイルまたはそのグループ・プロファイルの変更処置が監査されます。
- \*JOB DTA -ジョブに影響する処置が監査されます。

注: \*JOB DTAは、監査をよりカスタマイズできる2つの値から構成されています。両方の値を指定した場合には、\*JOB DTAを指定した場合と同じ監査が行われます。\*JOB DTAは次の値で構成されています。

- \*JOB BAS
- \*JOB CHGUSR
- \*NET BAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- \*NET CLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- \*NET CMN -ネットワークングおよび通信機能が監査されます。



注: \*NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、\*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われ  
ます。\*NETCMNは次の値で構成されています。

- \*NETBAS
- \*NETCLU
- \*NETFAIL
- \*NETSCK
- \*NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- \*NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- \*NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は  
選択不可(\*NOTAVL)に変更できません。
- \*OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- \*OFCSRV - OFFICEVISIONタスクが監査されます。
- \*OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- \*PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。
- \*PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- \*PRTDTA -印刷機能が監査されます。
- \*SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- \*SECCFG -機密保護構成が監査されます。
- \*SECDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- \*SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- \*SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- \*SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- \*SECSCKD -ソケット記述子が監査されます。
- \*SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: \*SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成され  
ています。すべての値を指定した場合には、\*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われま  
す。\*SECURITYは次の値で構成されています。

- \*SECCFG
- \*SECDIRSRV
- \*SECIPC
- \*SECNAS
- \*SECRUN
- \*SECSCKD
- \*SECVFY
- \*SECVLDL
- \*SECVFY -検査機能の使用が監査されます。
- \*SECVLDL -妥当性検査リスト・オブジェクトに対する変更が監査されます。
- \*SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、資  
料System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

- \*SPLFDTA -スプール・ファイル機能が監査されます。
- \*SYSMTGT -システム管理タスクが監査されます。

#### QAUTOCFG

自動装置構成標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。
- 1は自動構成がオンであることを意味します。

#### QAUTOSPRPT

自動システム使用不可報告。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

#### QAUTORMT

リモート制御装置の自動構成。QAUTORMTシステム値は、リモート制御装置の自動構成を制御します。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。
- 1は自動構成がオンであることを意味します。

#### QAUTOVRT

自動仮想装置構成標識。このシステム値を変更するためには、ユーザーは\*ALLOBJ 権限を持っていなければなりません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、仮想装置の自動構成を参照してください。

#### QBASACTLVL

基本記憶域プールの活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

#### QBASPOOL

基本記憶域プールの最小サイズ (キロバイト数)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

#### QBOOKPATH

ブックおよびブックシェルフの検索パス。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

#### QCCSID

コード化文字セットID。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

#### QCENTURY

システム日付の世紀値。

- 0は、19XX年を示します。
- 1は、20XX年を示します。

#### QCFGMSGQ

通信メッセージを受け取るメッセージ待ち行列を指定するために使用される構成メッセージ待ち行列。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対する変更は、MSGQパラメーターをサポートする回線、制御装置、または装置記述がオンに構成変更されると有効となります。

#### QCHRID

データの表示または印刷に使用される省略時の図形文字セットおよびコード・ページ。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で作成、変更、または一時変更される表示装置ファイル、表示装置記述、および印刷装置ファイルに対して有効となります。

## QCHRIDCTL

ジョブの文字ID制御。この属性は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対して行われるCCSID変換のタイプを制御します。この属性を使用する前に、\*CHRIDCTL特殊値を、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループの作成、変更、または一時変更コマンドのCHRIDパラメーターに指定しなければなりません。

- 0は\*DEVVD特殊値が使用されることを意味します。
- 1は\*JOBCCSID特殊値が使用されることを意味します。

## QCMNARB

通信アービター。制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数。この値に対する変更は次のIPL時に有効となります。出荷時の値は\*CALCです。

- \*CALC: オペレーティング・システムが通信アービター・ジョブの数を計算します。
- 0から99: 制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数を指定します。

注: このシステム値がゼロ(0)に設定された場合には、通信アービターとは対照的にこれらのジョブの作業はQSYSARBおよびQLUSシステム・ジョブで実行されます。

## QCMNRCYLMT

システム通信回復の回復限界を提供します。回復を試みる回数と、指定された回復試行回数に達した場合に装置メッセージ待ち行列またはシステム操作員に対して照会メッセージを送る時点を指定します。このシステム値に対して行われた変更は現在オンに構成変更されている装置には影響しませんが、変更が行われた後で装置がオンに構成変更された時に有効になります。

## QCNTYID

省略時の国別または地域ID。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

## QCONSOLE

システム・コンソール。この値を変更することはできません。

## QCRTAUT

作成されたオブジェクトに対する共通権限。このシステム値を変更するためには、\*ALLOBJおよび\*SECADM特殊権限が必要です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*CHANGEは、ユーザーがオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できることを意味します。変更権限によって、ユーザーは、所有者に限定された以外のオブジェクトまたはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。
- \*ALLは、ユーザーがオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトの所有者を変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できることを意味します。全権限によりユーザーは、所有者にのみ許されるかあるいは権限リスト管理権によって制御されるオブジェクトを除くすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。オブジェクトが権限リストである場合には、ユーザーはユーザーの追加、変更、除去を行わず、また権限リストの所有権を移すことができません。
- \*USEは、ユーザーがオブジェクトに対して、プログラムの実行やファイルの読み取りなど基本的な操作を実行できることを意味します。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。使用権限はオブジェクト操作権限および読み取り権限を提供します。
- \*EXCLUDE権限はユーザーがオブジェクトをアクセスできないようにします。

## QCRTOBJAUD

オブジェクト作成監査。このシステム値は、ライブラリーまたはディレクトリーに作成されたオブジェクトに省略時のオブジェクト監査値を指定します。オブジェクト監査値は、オブジェクトが使用または変更された時に監査ジャーナル項目がシステム監査ジャーナルに送られるかどうかを判別します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(\*NOTAVL)に変更できません。
- \*NONE -このオブジェクトについては、監査項目は送られません。
- \*USRPRF -ユーザーが現在監査中の場合に、監査項目が送られます。
- \*CHANGE -このオブジェクトが変更された場合に、監査項目が送られます。
- \*ALL -このオブジェクトが使用または変更された場合に、監査項目が送られます。

## QCTLSBSD

制御サブシステム記述名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

## QCURSYM

通貨記号。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QDATE

システム日付。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QDATETIME

システム日付および時刻。これは、単一値としてのローカル・システム時間の日付および時刻です。この値を検索または変更することは、単一の操作でQDATEおよびQTIMEを検索または変更することと類似しています。フィールドの形式は、YYYYMMDDHHNNSSXXXXXXXXです。ここで、YYYYは年、MMは月、DDは日、HHは時間、NNは分、SSは秒、およびXXXXXXXXはマイクロ秒です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QDATFMT

日付形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

## QDATSEP

日付区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

**QDAY** 日（システム日付の形式が年間通算日形式の場合には、年の始めから数えた日付）。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QDAYOFWEEK

曜日。

- \*SUN -日曜日
- \*MON -月曜日
- \*TUE -火曜日
- \*WED -水曜日
- \*THU -木曜日
- \*FRI -金曜日
- \*SAT -土曜日

## QDBFSTCCOL

データベース・ファイル統計の収集。システム・ジョブQDBFSTCCOLによってバックグラウンドで処理することのできる統計収集要求のタイプを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*ALLは、すべてのユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求と、データベース・マネージャーによって自動的に要求された統計収集が、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- \*SYSTEMは、自動的に要求されたデータベース統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- \*USERは、ユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- \*NONEは、データベース・ファイル統計収集要求をデータベース統計システム・ジョブによって処理することができないことを意味します。

## QDBRCVYWT

データベース回復待機標識。このシステム値に対する変更は、不在時モードで次のIPL時に有効となります。

- 0は待機しないことを意味します。
- 1は待機することを意味します。

## QDECFMT

10進数形式。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QDEVNAMING

装置の命名規則を示します。このシステム値に対して行われた変更は、次回に装置が自動的に構成された時に有効となります。既存の構成済み装置名は変更されません。

- \*NORMALはSystem i標準に従うことを意味します。
- \*S36はS/36標準に従うことを意味します。
- \*DEVADRは装置名が資源名から得られることを意味します。

## QDEVRCYACN

ジョブの要求プログラム装置で入出力エラーが起こった時に取られる処置を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

- \*DSCMSGはジョブを切り離します。再接続時に、ユーザーのアプリケーション・プログラムにエラー・メッセージが送られます。
- \*DSCENDRQSはジョブを切り離します。再接続時に、取り消し要求機能を実行して、ジョブの制御を最後の要求レベルに戻す必要があります。
- \*ENDJOBはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログが生成されます。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがジョブ・ログおよびQHSTログに送られます。
- \*ENDJOBNO LISTはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログは生成されません。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがQHSTログに送られます。
- \*MSGは入出力エラー・メッセージをアプリケーション・プログラムに送ります。アプリケーション・プログラムはエラー回復を自身で実行します。

## QDSCJOBTV

ジョブを終了前に切断できる時間間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。対話式ジョブは、ある時間間隔中非活動状態であった（システム値QINACTIVおよび



QINACTMSGQ)場合、あるいは対話式ジョブのワークステーションで入出力エラーが起こった (システム値QDEVRCYACN)場合に、ジョブの切断 (DSCJOB)コマンドによって切断することができます。

- 5から1440がタイムアウトの間隔 (分) です。
- \*NONEはタイムアウト間隔がないことを意味します。

#### QDSPSGNINF

サインオン情報の表示を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はサインオン情報が表示されないことを意味します。
- 1はサインオン情報が表示されることを意味します。

#### QDYNPTYADJ

動的な優先度の調整。 QDYNPTYADJシステム値は、バッチ・ジョブ処理をハイパフォーマンスに維持するために、対話式ジョブの優先順位を動的に調整するかどうか制御します。この調整機能が有効なのは、対話式および非対話式の両方のスループットが評価され、動的優先順位スケジューリングが使用可能になっているシステムの場合だけです。このシステム値に対する変更は、次の IPL で有効になります。

- 0は動的優先順位調整がオフにされることを意味します。
- 1は動的優先順位調整がオンにされることを意味します。

#### QDYNPTYSCD

動的優先順位スケジューラー。 QDYNPTYSCDシステム値は、動的優先順位スケジューラーのアルゴリズムを制御します。この値によって動的優先順位スケジューリングを使用することができます。

- 0は、動的優先順位スケジューラーがオフであることを意味します。
- 1は、動的優先順位スケジューラーがオンであることを意味します。

#### QENDJOBLMT

ジョブの即時終了時にアプリケーションをクリーンアップするための最小時間 (秒数)。

終了中のジョブに非同期信号SIGTERM用の信号処理プロシージャがある場合は、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成されます。SIGTERM信号のための信号処理プロシージャに制御が与えられた場合には、そのプロシージャでは、該当する処置を取って、部分的に更新されたアプリケーション・データなどの望ましくない結果を避けることができます。SIGTERM信号ハンドラーが指定された時間内に完了しない場合には、システムはジョブを終了します。

ジョブが制御された方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はコマンドに指定されます。ジョブが即時の方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はこのシステム値によって指定されます。この時間制限は、1つのジョブの終了時、サブシステム内のすべてのジョブの終了時、またはすべてのサブシステムのすべてのジョブの終了時に使用されます。2分後に、システム操作員は、OPTION(\*IMMED)を指定したジョブ終了 (ENDJOB)コマンドを使用して、QENDJOBLMT値を一時変更し、それぞれの個別ジョブを即時に終了することができます。

この値に対する変更は即時に効力を持ちます。すでに終了中のジョブは影響されません。

#### QFRCCVNRST

復元時の強制変換。このシステム値を使用すると、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびモジュール・オブジェクトを復元時に変換するかしないかを指定することができます。

す。また、一部のオブジェクトを復元しないようにすることもできます。復元コマンドにおける省略時の値はこのシステム値の値を使用します。このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

- 0 何も変換しません。何も復元しないようにしません。
- 1 妥当性検査エラーのあるオブジェクトが変換されます。
- 2 オペレーティング・システムの現行バージョンまたは現行マシンで使用するために変換を必要とするオブジェクトが変換されます。妥当性検査エラーのあるオブジェクトも変換されます。
- 3 改ざんされていると考えられるオブジェクト、妥当性検査エラーのあるオブジェクト、およびオペレーティング・システムの現行バージョンまたは現行マシンで使用するために変換を必要とするオブジェクトが変換されます。
- 4 変換に十分な作成データが入っていて有効なデジタル署名がないオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは変換されずに復元されます。  
注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要としても変換できないオブジェクト（署名ありおよび未署名）は、復元されません。
- 5 十分な作成データが入っているオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは復元されます。注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。
- 6 有効なデジタル署名のないすべてのオブジェクトが変換されます。注: 有効なデジタル署名があり、さらに妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。
- 7 すべてのオブジェクトが変換されます。

オブジェクトを変換すると、そのデジタル署名は廃棄されます。変換されたオブジェクトの状態は、ユーザーの状態に設定されます。変換後は、オブジェクトは望ましい妥当性検査値を持ち、改ざんの懸念はありません。

## QHOUR

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QHSTLOGSIZ

ヒストリー・ログの各バージョンの最大レコード数。有効な値範囲の1から10,000,000、または特殊値の\*DAILY（ヒストリー・ログ・メッセージの日付が変更されるたび、または現行ログのバージョンが最大レコード・サイズの10,000,000に達する時に、ヒストリー・ログの新規バージョンが作成されることを意味します）。\*DAILYは10進数変数で戻すことができないので、システム値が\*DAILYに設定されていると、システム値の検索(RTVSYSVAL)コマンドは値-1を戻します。システム値の変更(CHGSYSVAL)コマンドに値-1を指定することは、\*DAILYの指定と同じ効果があります。このシステム値に対して行った変更は、ヒストリー・ログの次のバージョンが作成された時に有効になります。

**QIGC** システムの2バイト文字セット(DBCS)バージョンが導入されているかどうかを示します。この値は変更できません。

- 0はDBCSバージョンが導入されていないことを意味します。

- 1はDBCSバージョンが導入されていることを意味します。

### QIGCCDEFNT

2バイト文字セット(DBCS)コード化フォント名。 SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)に変換する時、およびデータにシフトイン/シフトアウト(SI/SO)文字が入っているAFPDSスプール・ファイルを作成する時に使用されます。 このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

### QIGCFNTSIZ

2バイト・コード化フォントのポイント・サイズ。 システム値QIGCCDEFNT 2バイト・コード化フォントと一緒に使用されます。 これが使用されるのは、SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷装置データ・ストリーム(AFPDS)に変形する時およびデータ内にシフト・イン/シフト・アウト(SI/SO)文字が存在しているAFPDSスプール・ファイルを作成する時です。

- \*NONEは、ポイント・サイズがシステムに識別されないことを意味します。 ポイント・サイズは、システムが使用する印刷装置のタイプを基にして選択します。
- 000.1から999.9は2バイト・コード化フォントのポイント・サイズを意味します。

### QINACTIV

非活動状態の対話式ジョブのタイムアウト間隔 (分数)。 時間間隔が\*NONE以外の値に変更されると、新しい非活動間隔が設定され、ジョブ非活動の分析が再び開始されます。システム値QINACTMSGQは、システムが行う処置を判別します。ターゲット・パススルーおよびTELNETセッションの制約の説明については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照してください。

現在リモート・システムにサインオンされているローカル・ジョブは除外されます。例えば、ワークステーションがシステムAに直接接続していて、システムAがQINACTIVに設定されているとします。システムBにサインオンするために表示装置パススルーまたはTELNETが使用された場合には、このワークステーションはシステムAで設定されたQINACTIV値による影響を受けません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*NONEはシステムが非活動について検査を行わないことを意味します。
- 5から300は処置が取られる前にジョブが非活動状態でいられる時間 (分数) を意味します。

### QINACTMSGQ

QINACTMSGQが\*NONEでない場合にジョブ非活動メッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名。 このメッセージ待ち行列が存在していなければ、システム値をメッセージ待ち行列名に変更することはできません。 オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*ENDJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが終了することを意味します。
- \*DSCJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが切り離されることを意味します。
- メッセージ待ち行列名は、ジョブが非活動状態になった時にメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前です。

### QIPLDATTIM

自動IPLの日付および時刻。このシステム値は各区画で個々に設定できます。2次区画で自動IPLを実行する必要がある時に1次区画の電源が遮断されている場合には、このIPLは実行されません。1次区画でIPLが実行される時、2次区画はそのIPLの日付および時刻が過ぎている場合は、IPLが実行されます。IPL処置が保留状態で構成されている場合には、2次区画のIPLは実行されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。



QIPLDATTIMは次の2つの部分から成る単一のシステム値です。

- 日付： システムでIPLが自動的に行われる日付。 この日付は日付区切り記号を含まない QDATEFMT形式で指定されます。
- 時刻： システムでIPLが自動的に行われる時刻。 この時刻は時刻区切り記号なしで指定されます。

特定の日付と時刻の代わりに、時限自動IPLがスケジュールされないことを示す\*NONEを指定することができます。

次の例は、IPLの日付と時刻を1993年9月10日(QDATEFMTはMDY)の午前9 時00分に変更する方法を示しています。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QIPLDATTIM) VALUE('091093 090000')
```

## QIPLSTS

初期プログラム・ロード(IPL)状況標識。

- 0はオペレーター・パネルIPLを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。
- 2はIPLの再始動を意味します。
- 3はIPLの時刻を意味します。
- 4はリモートIPLを意味します。

## QIPLTYPE

実行するIPLのタイプを示します。このシステム値に対して行われた変更は次回の手動IPL時に有効となります。

- 0は不在時IPLを意味します。
- 1は専用保守ツールによる在席IPLを意味します。
- 2はデバッグ・モードのコンソールによる在席IPLを意味します。

注：これを使用するとワークステーション制御装置上の他の装置が使用できなくなるので、問題分析のためだけにこれを使用するようにしてください。

## QJOBMSGQFL

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯時の処置。このシステム値は、いっぱいになったとみなされた時のジョブ・メッセージ待ち行列の取り扱い方を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- \*NOWRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列の折り返しません。
- \*WRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列は折り返します。
- \*PRTWRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列は折り返され、オーバーレイされるメッセージが印刷されます。

## QJOBMSGQMX

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ。このシステム値は、メッセージ待ち行列がいっぱいであるとみなされる前にこの待ち行列をどれくらいの大きさ（メガバイト）にできるかを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

## QJOBMSGQSZ

ジョブ・メッセージ待ち行列の初期サイズ（Kバイト(KB)数）。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

## **QJOBMSGQTL**

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ(KB数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

## **QJOBSPLA**

ジョブのスプーリング制御ブロックの初期サイズ (バイト数)。このシステム値に対して行なわれた変更は、オペレーティング・システム・ライセンス・プログラムの導入時にコールド・スタートが要求されると有効となります。

## **QKBDBUF**

キーボード・バッファー。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがログオンした時に有効となります。

- \*NOは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- \*TYPEAHEADは、先行入力機能をオンにするが、ATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- \*YESは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオンにすることを意味します。

## **QKBDTYPE**

キーボード言語文字セット。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## **QLANGID**

省略時の言語ID。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

## **QLEAPADJ**

うるう年の調整。このシステム値は、異なる暦体系でのうるう年のシステム暦アルゴリズムを調整するために使用されます。

このシステム値は、システム値QTIMZONに指定された時間帯記述と関連した年オフセットによって決定されます。QTIMZONの異なる時間帯記述を変更すると、関連した調整値が異なってきます。

QLEAPADJをその現行値と異なる値に変更することはできません。変更しようとする、診断メッセージCPD168Bが出されます。QLEAPADJの値はシステムによって管理されています。

## **QLIBLCKLVL**

ライブラリーのロック・レベル。ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーがそのジョブによってロックされるかどうかを指定します。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。

- 0は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをロックしないことを意味します。
- 1は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをそのジョブによってロックすることを意味します。

## **QLMTDEVSSN**

並行装置セッションを制限します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、ユーザーの装置セッション数に特定の数による制限がないことを意味します。
- 1から9は、並行装置セッションの最大数を表します。

## QLMTSECOFR

機密保護担当者の装置アクセスの制限。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、\*ALLOBJまたは\*SERVICE特殊権限を持つユーザーが任意のワークステーションにサインオンできることを意味します。
- 1は、\*ALLOBJまたは\*SERVICE特殊権限を持つユーザーがワークステーションに対して明示的な権限を持っていないかならなければならないことを意味します。

## QLOCALE

ロケール・パス名。このシステム値は、システムのロケールを設定するために使用されます。ロケール・パス名は、ロケールを指定するパス名でなければなりません。ロケールは、1セットの言語規則を識別するために使用される言語、地域、およびコード・セットの組み合わせからなります。システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドのロケール・パス名に使用できる最大パス長は1,024バイトです。

このシステム値に対して行った変更はただちに有効となります。出荷時の値は各国で異なることがあります。

- \*NONEは、QLOCALEシステム値にロケール・パス名がないことを意味します。
- \*Cは、Cロケールが使用されることを意味します。
- \*POSIXは、POSIXロケールが使用されることを意味します。

## QLOGOUTPUT

ジョブ・ログ出力。このシステム値は、ジョブの完了時にジョブ・ログが作成される方法を指定します。これは、メッセージ待ち行列がフルであり、ジョブ・メッセージ待ち行列フル・アクションが\*PRTWRAPを指定する時に作成されたジョブ・ログに影響しません。ジョブ・メッセージ待ち行列のメッセージはスプール・ファイルに書き込まれます。ジョブ・ログのメッセージがデータベース・ファイルに書き込まれることを指定するジョブでジョブ・ログ出力の制御(QMHCTLJL) APIが使用されない限り、このスプール・ファイルからジョブ・ログを印刷できます。

このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後でシステムに入力されるジョブに対して即時に有効となります。

- \*JOBENDは、ジョブ・ログがジョブそのものによって作成されることを意味します。ジョブがその固有のジョブ・ログを作成できない場合は、ジョブ・ログはジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。
- \*JOBLOGSVRは、ジョブ・ログがジョブ・ログ・サーバーによって作成されることを意味します。
- \*PNDは、ジョブ・ログが作成されないことを意味します。ジョブ・ログは除去されるまで保留で残されます。

## QMAXACTLVL

システムの最大活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QMAXJOB

システム上のジョブの許容最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QMAXSGNACN

QMAXSIGNシステム値によって課された限界に達した時のシステムの応答。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

- 1は装置が使用禁止になることを意味します。
- 2はユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。

- 3は装置とユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。

#### QMAXSIGN

サインオンを試みて失敗しても許される最大回数。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

#### QMAXSPLF

ジョブ当たりに作成できるスプール・ファイルの最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。この値をより低い数に変更すると、スプール・ファイルは削除されなくなります。ジョブのスプーリングに対するこのシステム値の影響については、PRINTER DEVICE PROGRAMMINGを参照してください。

#### QMCHPOOL

マシン記憶域プール・サイズ(KB数)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

注:プール・サイズを変更するには、ページを補助記憶域に書き込むことが必要な場合があります。システムが大規模の変更を完了するために必要な時間は、省力時の待ち時間を上回る可能性があります。これが起こる場合は、変更が完了してもメッセージCPF1001 (システム応答の待機時間が満了した。)が出されます。

#### QMINUTE

分。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

#### QMLTTHDACN

マルチスレッド・ジョブ処置。この値は、スレッド・セーフでない可能性がある機能がマルチスレッド・ジョブで呼び出される時に行う処置を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は2です。

- 1はスレッド・セーフでない機能をメッセージの送信なしに実行することを意味します。
- 2はスレッド・セーフでない機能を通知メッセージを送信して実行することを意味します。
- 3はスレッド・セーフでない機能を実行しないことを意味します。

#### QMODEL

システムのモデル番号。システムのモデルを識別するために使用される数字または英字です。QMODELを変更することはできませんが、ユーザー作成プログラム中で4桁の値を表示または検索することができます。システム・モデル番号のシステム値は、システム上の各区画で同じです。

#### QMONTH

月 (年間通算日の場合には使用されない)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

#### QPASTHRSVR

パススルー・サーバー。表示装置パススルー、IBM System i Access for Windows ワークステーション機能(WSF)、およびプログラム式ワークステーション上の他の5250エミュレーション・プログラムを処理するために使用可能なターゲット表示装置パス・スルー・サーバー・ジョブの数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は\*CALCです。

#### QPFRAJ

初期プログラム・ロード(IPL)時のパフォーマンスの調整および動的なパフォーマンスの調整。動的なパフォーマンスの調整は、共用記憶域プールの記憶域プール・サイズおよび活動レベルを自動的に変更します。私用記憶域プールは変更されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はパフォーマンス調整なしを意味します。動的なパフォーマンスの調整は開始されません。

- 1はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。動的なパフォーマンスの調整は開始されません。
- 2はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。動的なパフォーマンスの調整が開始されます。QPFRADJが2から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されます。
- 3は動的なパフォーマンスの調整が開始されることを意味します。QPFRADJが3から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されます。

ライブラリーQSYSにジャーナルQPFRADJを作成すれば、記憶域プール・サイズ、活動レベル、およびシステムのパフォーマンス・レベルに対して行われた変更は、その変更が行われた時に、動的調整プログラムによって記録されます（プール、プール・サイズ、および活動レベルごとの障害率）。

#### QPRBFTR

問題フィルター名。問題の処理時にサービス活動マネージャーが使用するフィルター・オブジェクトの名前を指定します。このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

#### QPRBHLDTV

問題ログ項目保留間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

#### QPRCFEAT

プロセッサ機能。これはシステムのプロセッサ機能コード・レベルです。QPRCFEATを変更することはできませんが、ユーザー作成プログラムで4桁の値を表示または検索することはできません。プロセッサ機能システム値は、システムの各区画で同じです。

#### QPRCMLTTSK

プロセッサ・マルチタスキング。システム上のハードウェアがプロセッサ・マルチタスキングをサポートしている場合は、このシステム値によってマルチタスキング機能をオン、オフ、またはシステム制御にすることができます。このシステム値を変更すると、システムのパフォーマンスの影響します。

このシステム値を有効にするためには、IPLが必要な場合があります。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム値」トピックを参照してください。

- 0はプロセッサ・マルチタスキングがオフにされることを意味します。
- 1はプロセッサ・マルチタスキングがオンラインにされることを意味します。
- 2はプロセッサ・マルチタスキングがシステム制御下にあることを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。区画の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「論理区画」トピックを参照してください。

#### QPRTDEV

省略時の印刷装置記述。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

#### QPRTKEYFMT

ページ印刷キー形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

- \*PRTHDRは、ページ印刷キーが押された時に見出し情報が印刷されることを意味します。
- \*PRTBDRは、ページ印刷キーが押された時に枠情報が印刷されることを意味します。



- \*PRTALLは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されることを意味します。
- \*NONEは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されないことを意味します。

### QPRTTXT

リストおよび分離ページの最後に印刷できる最大30文字のテキスト。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

### QPWDCHGBLK

パスワードの変更操作が成功した後に、続けてパスワードを変更できないようにブロックする時間枠を指定します。このシステム値は、ユーザー・プロファイルの変更(CHGUSRPRF)コマンドによるパスワードの変更は制限しません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*NONEは、ユーザーのパスワードの変更の頻度に制限がないことを意味します。
- 1から99は、前回のパスワードの変更操作の成功後、再度パスワードが変更可能になるまで待たなければならない時間数を表します。

### QPWDEXPITV

パスワードが有効な日数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*NOMAXは、パスワードを使用できる日数に制限がないことを意味します。
- 1から366はパスワードが終了する前の日数を意味します。

### QPWDEXPWRN

パスワード期限切れの前に、サインオン画面にパスワード期限切れの警告メッセージを表示し始める日数を制御します。

- 1から99は、パスワード期限切れの前に、サインオン画面にパスワード期限切れの警告メッセージを表示し始める日数を表します。

### QPWDLMTAJC

パスワードに隣接した番号を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は隣接番号が使用できることを意味します。
- 1は隣接番号が使用できないことを意味します。

注: QPWDRULESシステム値に\*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが\*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

### QPWDLMTCHR

パスワードにある種の文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- \*NONEは制限文字がないことを意味します。
- 制限文字は、10文字以内の制限文字をアポストロフィで囲んで指定できることを意味します。有効な文字は次の通りです。AからZ, 0から9, および特殊文字#, ¥, @, または下線(\_)

注: システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、このシステム値は無視されます。

注: QPWDRULESシステム値に\*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが\*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

## QPWDLMTREP

パスワードに繰り返し文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は文字を複数回使用できることを意味します。
- 1は文字を複数回使用できないことを意味します。
- 2は文字を連続して使用できないことを意味します。

注: QPWDRULESシステム値に\*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが\*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

## QPWDLVL

パスワード・レベルを指定します。

このシステム値の変更には、慎重な考慮が必要です。システムがネットワーク内の他のシステムに接続される場合には、すべてのシステムが、有効になるパスワード規則で実行できなければなりません。

このシステム値を変更する前に、追加の考慮事項について、資料System i機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

このシステム値に対する変更は、次のIPL時に有効になります。

- 0は、1から10文字のパスワードが使用できることを意味します。
- 1は、1から10文字のパスワードが使用できることを意味します。Windows 95/98/MEクライアント用のi5/OS NetServerパスワードは除去され、プロダクトが使用できなくなります。
- 2は、1から128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。
- 3は、1から128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。Windows 95/98/MEクライアント用のi5/OS NetServerパスワードは除去され、プロダクトが使用できなくなります。

## QPWDMAXLEN

パスワードの最大文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1から128は、1から128の値をパスワードの最大文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

注: QPWDRULESシステム値に\*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが\*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

## QPWDMINLEN

パスワードの最小文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1から128は、1から128の値をパスワードの最小文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

注: QPWDRULESシステム値に\*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが\*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

#### QPWDDPOSIF

新しいパスワードの中の文字の位置を制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できることを意味します。
- 1は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できないことを意味します。

注: QPWDRULESシステム値に\*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが\*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

#### QPWDRQDDGT

新しいパスワードに数字が必要。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は番号が必要でないことを意味します。
- 1は1つまたは複数の数字が必要であることを意味します。

注: QPWDRULESシステム値に\*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが\*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

#### QPWDRQDDIF

パスワードが前のパスワードと異なるものでなければならないかどうかを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0はパスワードは前に使用されたものと同じでもよいことを意味します。
- 1はパスワードが前の32個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 2はパスワードが前の24個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 3はパスワードが前の18個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 4はパスワードが前の12個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 5はパスワードが前の10個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 6はパスワードが前の8個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 7はパスワードが前の6個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 8はパスワードが前の4個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。

#### QPWDRULES

パスワードが正しい形式になっているかどうかを検査するために使用する規則を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- \*PWDSYSVAL -このシステム値は無視され、パスワードが正しい形式になっているかどうかを検査するために、他のパスワードシステム値が使用されます。特に、QPWDLMTAJC, QPWDLMTCHR, QPWDLMTREP, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDDPOSIF,および QPWDRQDDGTシステム値がQPWDRULESの代わりに使用されます。



注: QPWDRULESに\*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合には、新しいパスワードが正しい形式になっているかどうか検査される時に、QPWDLMTAJC, QPWDLMTCHR, QPWDLMTREP, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDPOSDIF, およびQPWDRQDDGTシステム値は無視されます。

- \*CHRLMTAJC -パスワードに、互いに隣接（連続）した2つ以上の同じ文字は使用できません。また、\*CHRLMTREP値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。
- \*CHRLMTREP -パスワードに、同じ文字を2回以上使用できません。また、\*CHRLMTAJC値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。
- \*DGTLMTAJC -パスワードに、隣接（連続）した2つ以上の数字は使用できません。
- \*DGTLMTFST -パスワードの先頭文字に数字は使用できません。また、\*LTRLMTFSTおよび\*SPCCHRLMTFST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。
- \*DGTLMTLST -パスワードの最後の文字に数字は使用できません。また、\*LTRLMTLSTおよび\*SPCCHRLMTLST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。
- \*DGTMAXn -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用できる数字の最大文字数を指定します。

指定できる\*DGTMAXn値は1つだけです。\*DGTMINn値も指定された場合は、\*DGTMAXnのn値は\*DGTMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- \*DGTMINn -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用しなければならない数字の最小文字数を指定します。

指定できる\*DGTMINn値は1つだけです。\*DGTMAXn値も指定された場合は、\*DGTMAXnのn値は\*DGTMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- \*LMTSAMPOS -前のパスワードの同じ位置に対応する位置に同じ文字を使用することはできません。
- \*LMTPRFNAME -大文字のパスワード値には、連続した位置に完全なユーザー・プロファイル名を含めることはできません。
- \*LTRLMTAJC -パスワードに、隣接（連続）した2つ以上の英字は使用できません。
- \*LTRLMTFST -パスワードの先頭文字に英字は使用できません。また、\*DGTLMTFSTおよび\*SPCCHRLMTFST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合は、\*LTRLMTFSTおよび\*SPCCHRLMTFSTの両方は指定できません。
- \*LTRLMTLST -パスワードの最後の文字に英字は使用できません。また、\*DGTLMTLSTおよび\*SPCCHRLMTLST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。
- \*LTRMAXn -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用できる英字の最大文字数を指定します。

指定できる\*LTRMAXn値は1つだけです。\*LTRMINn値も指定された場合は、\*LTRMAXnのn値は\*LTRMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- \*LTRMINn -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用しなければならない英字の最小文字数を指定します。

指定できる\*LTRMINn値は1つだけです。\*LTRMAXn値も指定された場合は、\*LTRMAXnのn値は\*LTRMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- \*MAXLENnnn -ここでnnnは1から128の数(先行ゼロなし)です。パスワードの最大文字数。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

指定されたnnn値は、\*MIXCASEn、\*DGTMAXn、\*LTRMAXn、\*SPCCHRMAXn、先頭および最後の文字制約事項、および非隣接文字制約事項のすべてを許容するだけの大きさでなければなりません。

\*MINLENnnnn値も指定された場合は、\*MAXLENnnnnのnnn値は\*MINLENnnnnのnnn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

\*MAXLENnnnn値が指定されなかった場合は、システムがQPWDLVL値0または1で作動中の場合\*MAXLEN10の値と見なされ、システムがQPWDLVL値2または3で作動中の場合\*MAXLEN128の値と見なされます。

- \*MINLENnnnn -ここでnnnは1から128の数(先行ゼロなし)です。パスワードの最小文字数。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

\*MAXLENnnnn値も指定された場合は、\*MAXLENnnnnのnnn値は\*MINLENnnnnのnnn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

\*MINLENnnnn値が指定されない場合は、\*MINLEN1の値と見なされます。

- \*MIXCASEn -ここでnは0から9の数です。パスワードには、少なくともn個の大文字およびn個の小文字が含まれていなければなりません。システムがQPWDLVL値0または1で作動中の場合は、大文字のパスワードが必要なため、この値は拒否されます。

指定できる\*MIXCASEn値は1つだけです。

\*LTRMAXn値が指定された場合は、\*LTRMAXnに指定するn値は、\*MIXCASEnに指定したn値の2倍より大きいか等しくなければなりません。

- \*REQANY3 -パスワードには以下の4つの文字タイプの少なくとも3つを含んでいなければなりません。
  - 英大文字
  - 英小文字
  - 数字
  - 特殊文字

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合は、\*REQANY3は、\*DGTMIN1、\*LTRMIN1、および\*SPCCHRMIN1のすべてが指定されたのと同じ効果を持ちます。

- \*SPCCHRLMTAJC -パスワードに、隣接（連続）した2つ以上の特殊文字は使用できません。
- \*SPCCHRLMTFST -パスワードの先頭文字に特殊文字は使用できません。また、\*DGTLMTFSTおよび\*LTRLMTFST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。システムがQPWDLVL値0または1で作動中の場合は、\*LTRLMTFSTおよび\*SPCCHRLMTFSTの両方は指定できません。
- \*SPCCHRLMTLST -パスワードの最後の文字に特殊文字は使用できません。また、\*DGTLMTLSTおよび\*LTRMTLST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。

- \*SPCCHRMAn -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用できる特殊文字の最大文字数を指定します。

指定できる\*SPCCHRMAn値は1つだけです。\*SPCCHRMin値も指定された場合は、\*SPCCHRMAnのn値は\*SPCCHRMinのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- \*SPCCHRMin -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用しなければならない特殊文字の最小文字数を指定します。

指定できる\*SPCCHRMin値は1つだけです。\*SPCCHRMAn値も指定された場合は、\*SPCCHRMAnのn値は\*SPCCHRMinのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

## QPWDVLDPGM

パスワード妥当性検査プログラムは、ユーザー作成プログラムがパスワードに対して追加の妥当性検査を行う機能を提供します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。詳細については、パスワード妥当性検査プログラムを参照してください。

## QPWRDNLMT

PWRDWN SYS \*IMMEDに許される最大時間 (秒数)。これは、次のいずれかが行われた後で電源遮断の正常完了を待機するために使用される時間です。

- 終了方法 (OPTION)パラメーターに\*IMMEDを指定したシステム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドが入力された。
- 終了方法 (OPTION)パラメーターに\*CNTRLDを指定したPWRDWN SYSコマンドが入力され、制御された終了遅延時間 (DELAY)パラメーターに指定された時間が終了した。

この値に対する変更は、PWRDWN SYSコマンドが入力された時に有効となります。

## QPWRRSTIPL

電源復元後の自動初期プログラム・ロード(IPL)が可能になります。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- 0は電源復元後の自動IPLが行われないことを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。

区画に分割されたAS/400 7XXおよびISERIES 8XXサーバーでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画に分割されたESERVER I5サーバーおよびSystem iでは、このシステム値はサービス・プロセッサのADVANCED SYSTEM MANAGEMENT (ASM)インターフェースから変更する必要があります。

区画の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「論理区画」トピックを参照してください。

## QQRVDEGREE

QUERY並列処理の程度。この値は、システムのユーザーに使用可能な並列処理の程度を指定します。

- \*NONEは、データベースQUERY処理またはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成で並列処理が使用可能でないことを意味します。

- \*IOは、データベースQUERY最適化プログラムがQUERYに入出力並列処理を使用することを選択した時に、いくつでもタスクを使用できることを意味します。データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成時を含め、SMP並列処理は行うことができません。
- \*OPTIMIZEは、QUERYあるいはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成を処理するためにQUERY最適化プログラムが入出力またはSMP並列処理のためにいくつでもタスクを選択して使用できることを示します。並列処理の使用および使用タスクの数は、ジョブの実行プールで使用可能なプロセッサの数、およびQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成の予想経過時間がCPU処理または入出力資源によって制限されるかどうかに基づいて決定されます。
- \*MAXは、QUERY最適化プログラムがQUERYを処理するために入出力並列処理またはSMP並列処理のいずれかを使用するように選択できることを意味します。QUERY最適化プログラムによって行われる選択は、値\*OPTIMIZEの場合と似ていますが、最適化プログラムはQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスのビルドまたは再ビルドを処理するためにプールで活動状態のすべてのメモリーを使用できるものと見なします。

### QQRYSMT

QUERY処理時間制限。

- \*NOMAXは、最大QUERY間隔が使用されることを意味します。
- 0から2147352578は、QUERY処理に使用可能な秒数を示します。

### QRCLSPLSTG

空のプール・メンバーの自動削除は、メンバー保存間隔に基づいて許されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*NONEは保存間隔がないことを意味します。

注: この値を使用すると、システム・パフォーマンスに悪い影響を及ぼすことがあります。詳細な情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリを参照してください。

- \*NOMAXは空のメンバーがすべて保存されることを意味します。
- 1から366は、新しいプール・ファイルの使用に備えて空のプール・メンバーが保存される日数を意味します。

### QRETSVRSEC

サーバー機密保護データ保存標識。この値は、クライアント/サーバー・インターフェースを介してターゲット・システムのユーザーを認証するためにサーバーが必要とする機密保護データがこのシステムに保存できるかどうかを決定します。

- 0は、サーバー機密保護データが保存されないことを意味します。
- 1は、サーバー機密保護データが保存されることを意味します。

### QRMTSRVATR

リモート・サービス属性。QRMTSRVATRシステム値は、リモート・サービス問題分析機能を制御します。この値により、システムをリモート分析することができます。

- 0は、リモート・サービス属性がオフであることを意味します。
- 1は、リモート・サービス属性がオンであることを意味します。

### QRMTIPL

リモート電源オンおよびIPL標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はリモート電源オンおよびIPLが許されないことを意味します。
- 1はリモート電源オンおよびIPLが許されることを意味します。

注: 電話呼び出しを行うとシステムのIPLが行われます。

区画に分割されたAS/400 7XXおよびISERIES 8XXサーバーでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画に分割されたESERVER I5サーバーおよびSystem iでは、このシステム値はサービス・プロセッサのADVANCED SYSTEM MANAGEMENT (ASM)インターフェースから変更する必要があります。

区画の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「論理区画」トピックを参照してください。

## QRMTSIGN

リモート・サインオンを制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*FRCSIGNONは通常のサインオンが必要なことを意味します。
- \*SAMEPRFは、ソース・ユーザー・プロファイルとターゲット・ユーザー・プロファイルが同じ時には、リモート・サインオンが試みられるようにサインオンをう回できることを意味します。
- \*REJECTはリモート・サインオンが許されないことを意味します。
- \*VERIFYは、システムが、ユーザーがシステムにアクセスできることを確認した後で、ユーザーがサインオンをう回できるようにすることを意味します。
- プログラムは、どのリモート・セッションが許され、どのロケーションからどのユーザー・プロファイルに自動的にサインオンできるかどうかを決定するプログラムを指定できることを意味します。

## QSAVACPTH

アクセス・パスの保管。このシステム値に対して行った変更は、次の保管操作の開始時に有効となります。

- 0は、保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスは保管しないことを意味します。
- 1は、保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスを保管することを意味します。

## QSCANFS

ファイル・システムのスキャン。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、オブジェクトがスキャンされる統合ファイル・システムを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキャンを参照してください。

## QSCANFCTL

ファイル・システムのスキャンの制御。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、システム上の統合ファイル・システムのスキャンを制御します。これらの制御は、QSCANFS（ファイル・システムのスキャン）システム値によって取り扱われるファイル・システム内の統合ファイル・システム・オブジェクトに適用されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキャンの制御を参照してください。

## QSCPFCONS

コンソールに問題のある場合のIPL処置。このシステム値に対して行われた変更は次のIPLの前に有効となります。



- 0はシステム終了を意味します。
- 1は不在時IPLの続行を意味します。

## QSECOND

秒。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

## QSECURITY

システム機密保護レベル。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

- 20はシステムがサインオンにパスワードを必要とすることを意味します。
- 30はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。すべてのシステム資源にアクセスできる権限が必要です。
- 40はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。サポートされていないインターフェースを介してオブジェクトにアクセスしようとするプログラムは、正常に実行されません。
- 50は、システムがサインオンにパスワードを必要とし、ユーザーはオブジェクトおよびシステム資源にアクセスできる権限を持っていないなければならないことを意味します。QTEMPライブラリーおよびユーザー・ドメイン・オブジェクトの機密保護と安全性が強制されます。サポートされていないインターフェースを通してオブジェクトにアクセスを試みるプログラムや、サポートされていないパラメーター値をサポートされているインターフェースに渡そうとするプログラムは、正常に実行されません。

## QSFWERRLOG

ソフトウェア・エラー・ログ。システム検出のソフトウェア問題がエラー・ログに記録されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*LOGは、ソフトウェア・エラーがシステムによって検出されると、エラーを無条件に記録する必要があるかどうか、またはエラーを記録する決定をサービス・モニターに基づいてポリシーに据え置きする必要があるかどうか判断するために、エラーが評価されることを意味します。

エラーが無条件に記録される場合は、PARABLE（問題の分析と解決）メッセージがQSYSOPRに送信され、項目が問題ログに作成されます。報告書作成構成要素がエラー・データを提供する場合は、そのデータを入れるためにスプール・ファイルが作成されます。そのスプール・ファイル名は、エラー・ログおよび問題ログの項目に記憶されます。

エラーが条件付きで記録される場合は、エラーを記録する決定はサービス・モニターに基づいてポリシーによって行われます。決定が問題を記録することである場合は、項目は問題ログに作成されます。問題データは問題データ・ライブラリーに保管され、問題記録項目はライブラリーの名前で更新されます。

- \*NOLOGは、ソフトウェア・エラーが検出された場合にロギングが起らないことを意味します。

## QSHRMEMCTL

共用メモリー制御。ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できるか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できないか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できないことを意味します。
- 1は、ユーザーがユーザー共用メモリー、または書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できることを意味します。

## QSPCENV

特殊環境。すべてのユーザーについて省略時の値として使用されるシステム環境。このシステム値に対して行われた変更は、次回にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- \*NONEは、サインオンした時に特殊環境に入らないことを意味します。
- \*S36は、サインオンするとシステム/36環境に入ることを意味します。

## QSPLFACN

スプール・ファイル処置。スプール・ファイルがジョブとともに保持されるか、あるいはジョブから切り離されるかを指定します。スプール・ファイルをジョブで保持すると、ジョブの終了後であっても、投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB) コマンドなどのジョブ・コマンドによってスプール・ファイルを処理することができます。スプール・ファイルをジョブから切り離すと、ジョブ終了時にジョブ構造を再生できるので、システム資源の使用が削減されます。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。出荷時の値は\*KEEPです。

- \*KEEPは、ジョブの終了時に、そのジョブについて少なくとも1つのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP番号1)または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に存在している限り、スプール・ファイルはジョブで保持され、ジョブが完了したことを示すようにそのジョブの状況が更新されることを意味します。そのジョブの残りのすべてのスプール・ファイルが独立ASP (ASP番号33から255)にあった場合には、スプール・ファイルがジョブから切り離され、そのジョブはシステムから除去されます。
- \*DETACHは、ジョブの終了時にスプール・ファイルがジョブから切り離されることを意味します。

## QSRLNBR

システム製造番号。この値は変更できません。これは、オペレーティング・システム・ライセンス・プログラムの導入時に、システムによってデータ・フィールドから検索されます。QSRLNBRを表示するか、あるいはユーザー作成プログラム中でこの値を検索することができます。システム製造番号はシステム上の各区画で同じです。

## QSRTSEQ

分類順序。このシステム値は、システムが使用する省略時の分類順序アルゴリズムを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

## QSRVDMP

保守ダンプ。監視されないエスケープ・メッセージの保守ダンプが作成されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- \*DMPUSRJOBは、保守ダンプがシステム・ジョブではなくユーザー・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。
- \*DMPSYSJOBは、保守ダンプがユーザー・ジョブではなくシステム・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。システム・ジョブには、オペレーティング・システム、サブシステム・モニター、LUサービス・プロセス、スプール読み取りプログラムおよび書き出しプログラム、それにSCPFジョブがあります。
- \*DMPALLJOBは、すべてのジョブについて保守ダンプが作成されることを意味します。
- \*NONEは、保守ダンプが作成されないことを意味します。

## QSSLCSL

Secure Sockets Layer (SSL)暗号規格のリストです。このシステム値は、System SSLがサポートする暗号スイートのリストを指定します。値は、QSSLCSLCTL (SSL暗号制御) システム値が\*USRDFNに設定されない限り、読み取り専用です。

System SSLおよびSSL暗号の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の機密保護参照情報の「SSL」セクションを参照してください。

このシステム値に対する変更は、すべての後続するSystem SSLセッションについてただちに効力をもちます。出荷時の値は、\*RSA\_AES\_128\_CBC\_SHA, \*RSA\_RC4\_128\_SHA, \*RSA\_RC4\_128\_MD5, \*RSA\_AES\_256\_CBC\_SHA, \*RSA\_3DES\_EDE\_CBC\_SHA, \*RSA\_DES\_CBC\_SHA, \*RSA\_EXPORT\_RC4\_40\_MD5, \*RSA\_EXPORT\_RC2\_CBC\_40\_MD5, \*RSA\_NULL\_SHA,および\*RSA\_NULL\_MD5です。

注: このシステム値を変更するためには、\*IOSYSCFG, \*ALLOBJ, および\*SECADM特殊権限が必要です。

暗号スイートに必要なSSLプロトコル値がQSSLPCL (SSLプロトコル・リスト) システム値に設定されていない場合は、暗号はQSSLCSLに追加できません。

- \*RSA\_AES\_128\_CBC\_SHA - cipher block changing (CBC)による次世代暗号化標準(AES)暗号および128ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- \*RSA\_RC4\_128\_SHA - Rivest Cipher 4 (RC4)暗号および128ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- \*RSA\_RC4\_128\_MD5 - Rivest Cipher 4 (RC4)暗号および128ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- \*RSA\_AES\_256\_CBC\_SHA - cipher block changing (CBC)による次世代暗号化標準(AES)暗号および256ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- \*RSA\_3DES\_EDE\_CBC\_SHA - Encrypt-Decrypt-Encrypt (EDE)によるTriple Data Encryption Standard (3DES)暗号およびcipher block changing (CBC)モードおよび168ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- \*RSA\_DES\_CBC\_SHA - cipher block changing (CBC)モードによるデータ暗号化規格(DES)暗号および56ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- \*RSA\_EXPORT\_RC2\_CBC\_40\_MD5 - cipher block changing (CBC)モードによるRivest Cipher 2 (RC2)暗号および40ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- \*RSA\_EXPORT\_RC4\_40\_MD5 - Rivest Cipher 4 (RC4)暗号および40ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- \*RSA\_NULL\_SHA - RSAエンコード・アルゴリズムを使用しますが、暗号は使用しません。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- \*RSA\_NULL\_MD5 - RSAエンコード・アルゴリズムを使用しますが、暗号は使用しません。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- \*RSA\_RC2\_CBC\_128\_MD5 - cipher block changing (CBC)モードによるRivest Cipher 2 (RC2)暗号および128ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。



- \*RSA\_3DES\_EDE\_CBC\_MD5 - Encrypt-Decrypt-Encrypt (EDE)によるTriple Data Encryption Standard (3DES)暗号およびcipher block changing (CBC)モードおよび168ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- \*RSA\_DES\_CBC\_MD5 - cipher block changing (CBC)モードによるデータ暗号化規格(DES)暗号および56ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。

注: System SSL省略時の暗号規格リストを順序付けするために、System SSLはQSSLCSLの値の順序を使用します。省略時の暗号規格リスト項目はシステムで定義されていて、リリースを変更するときに変更可能です。QSSLCSLから省略時値の暗号を除去すると、その暗号は省略時値のリストから除去されます。その省略時値の暗号は、QSSLCSLに追加して戻されると、省略時値の暗号規格リストに追加されて戻されます。リリース用にシステムが定義した設定以外の、別の暗号を省略時値のリストに追加することはできません。

### QSSLCSLCTL

Secure Sockets Layer (SSL)暗号制御。このシステム値は、QSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値をシステムが制御するかしないかあるいはユーザーが制御するかしないかを指定します。

System SSLおよびSSL暗号の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の機密保護参照情報の「SSL」セクションを参照してください。

このシステム値に対して行った変更はただちに有効となります。出荷時の値は\*OPSYS です。

注: このシステム値を変更するためには、\*IOSYSCFG, \*ALLOBJ, および\*SECADM特殊権限が必要です。

- \*OPSYS - QSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値は読み取り専用です。QSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値に含まれる値は、オペレーティング・システム・リリースによって決定された、サポートされる暗号スイートのリストを含むように、自動的に変更されます。

注: \*OPSYSは、新しい暗号スイート機能を持つ将来のリリースをインストールする時に、この値が、より新しくして堅固な暗号で自動的に更新されることを許可します。

- \*USRDFN - QSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値は更新可能です。

注: 追加の暗号スイート機能は、将来のリリースに移行する時に、自動的に追加されません。新しい使用可能な暗号スイートがあるかどうかをユーザーが判断し、それをQSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値に手動で追加しなければなりません。

### QSSLPCL

Secure Sockets Layer (SSL)プロトコル。このシステム値は、System SSLがサポートするSSLプロトコル・バージョンを指定します。

System SSLおよびSSLプロトコルの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の機密保護参照情報の「SSL」セクションを参照してください。

このシステム値に対する変更は、すべての後続するSystem SSLセッションについてただちに効力を持ちます。出荷時の値は\*OPSYS です。

注: このシステム値を変更するためには、\*IOSYSCFG, \*ALLOBJ, および\*SECADM特殊権限が必要です。

- \*OPSYS -サポートされるSSLプロトコルはシステムによって判断されます。プロトコルは各オペレーティング・システムのリリースによって違う可能性があります。ユーザーのリリースによ

ってサポートされている値については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の機密保護参照情報の「SSL」セクションを参照してください。

- \*TLSV1 - トランスポート層機密保護バージョン1.0がサポートされます。また、\*OPSYS値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。
- \*SSLV3 - Secure Sockets Layerバージョン3.0がサポートされます。また、\*OPSYS値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。
- \*SSLV2 - Secure Sockets Layerバージョン2.0がサポートされます。また、\*OPSYS値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。

#### QSTGLOWACN

補助記憶域の下限の処置。システムASP中の使用可能な記憶域が補助記憶域の下限より低くなった場合にとるべき処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は\*MSGです。

- \*MSG: メッセージCPI099CをQSYSMSGおよびQSYSOPRメッセージ待ち行列に送ります。このメッセージは、他の処置の場合にも送られます。
- \*CRITMSG: 重大メッセージCPI099Bを、重大メッセージを受け取るためにサービス属性に指定されたユーザーに送ります。
- \*REGFAC: QIBM\_QWC\_QSTGLOWACN出口点用に登録された出口プログラムを呼び出すためにジョブを投入します。
- \*ENDSYS: システムを終了して制限状態にします。
- \*PWRDWNYSYS: システムの電源を即時に遮断して、再始動します。

#### QSTGLOWLMT

補助記憶域の下限。補助記憶域の下限の処置がとられる時にシステムASP中に残されている使用可能な記憶域のパーセントを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は5.0です。

- 下限: QSTGLOWACNに指定された処置がとられる時にシステムASP内に残っている使用可能な記憶域のパーセント。システムASP内で現在使用されている記憶域のパーセントは、システム状況処理 (WRKSYSSTS) コマンドによって表示することができます。

#### QSTRPRTWTR

初期プログラム・ロード(IPL)時における印刷書き出しプログラムの開始。このシステム値は、IPL時にシステムによって設定されるか、あるいはIPLオプション画面でユーザーによって設定されません。このシステム値は、システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドを使用して変更することはできません。

- 0は印刷書き出しプログラムが開始されなかったことを意味します。
- 1は印刷書き出しプログラムが開始されたことを意味します。

#### QSTRUPPGM

制御サブシステム中の自動始動ジョブからの始動プログラム名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

#### QSTSMMSG

状況メッセージが表示されるかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、次にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- \*NORMALは状況メッセージが表示されることを意味します。
- \*NONEは状況メッセージが表示されないことを意味します。

## QSVRAUTIV

サーバー認証間隔。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

## QSYSLIBL

ライブラリー・リストのシステム部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

## QTHDRSCADJ

スレッド資源の調整。このシステム値は、このシステムで現在実行中のスレッドの特定のプロセッサおよびメモリーに対する類縁性または設定をシステム動的に調整する必要があるかどうかを指定します。一部の資源が他の資源より多く使用されている場合に、システムは、より多く使用されている資源で実行中のスレッドの一部を再割り当てして、さほど多く使用されていない資源への類縁性を持たせることができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は'1'です。

- '0'はシステムによるスレッドの自動調整は行われなことを意味します。スレッドは、それらが終了するかまたはシステム値が変更されるまで、現在割り当てられている資源への類縁性を持ち続けます。
- '1'は、スレッドのシステムの資源への類縁性の調整が動的に行われることを意味します。これによって、スレッド内の類縁性のグループおよびレベルが変更されることはありません。

## QTHDRSCAFN

スレッド資源の類縁性。特定のプロセッサおよびメモリーへのスレッドの類縁性または設定。このシステム値に対して行われた変更は、変更の後に開始されたジョブのスレッドには即時に有効となりますが、現在実行中のスレッドには効力を持ちません。

- \*NOGROUP - 2次スレッドには、必ずしもその開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性はありません。
- \*GROUP - 2次スレッドは、その開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性を持ちます。

スレッド資源の類縁性レベルは、次の値に設定することができます。

- \*NORMAL -スレッドは、それが類縁性を持つ資源が容易に使用可能でなくなった場合に、任意のプロセッサまたはメモリーを使用します。
- \*HIGH -スレッドは、それが類縁性を持つ資源のみを使用し、必要な場合は、それらの資源が使用可能になるまで待機します。

## QTIMADJ

時間調整。このシステム値は、システム・クロックが外部時間ソースと同期を保つように調整するソフトウェアを識別するために使用することができます。この値は、時間調整ソフトウェアによって保守する必要があり、複数の時間調整アプリケーションが相互に競合するのを防ぐ援助機能として意図されたものです。この値の確認、あるいはそのソフトウェアが時間調整を実行するかどうかを確認するための検査は、システムによって行われません。IBM時間調整オフリングは、「QIBM\_OS400\_SNTF」のように、QIBMで始まるIDを使用します。その他のソフトウェア提供者も、会社名および製品名と類似の命名規則に従っているはずですが。

時間調整ソフトウェアは、開始前にQTIMADJを検査する必要があります。QTIMADJが他の時間調整ソフトウェアのIDをもっている場合には、開始されているソフトウェアは、必ずこの潜在的な競合をユーザーに通知してくるので、この時間調整ソフトウェアを開始する必要があるかどうかを確認してください。QTIMADJが\*NONEの時は、ソフトウェアは現在システム・クロックを調整する責任があることを示すためにQTIMADJを更新しなければなりません。時間調整ソフトウェアは、終了前にQTIMADJを再検査する必要があります。QTIMADJを\*NONEに設定するのは、現行値が

終了中のこの時間調整ソフトウェアを識別する場合だけにしてください。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は\*NONEです。

- \*NONE -時間調整ソフトウェアは識別されていないことを指示します。
- ID -システム・クロックの調整に使用されるソフトウェアを識別します。

#### **QTIME**

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

#### **QTIMSEP**

時刻区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

この値は、時刻区切り記号として\*SYSVALが指定されたジョブに影響します。コマンドに時刻を指定する時には、ユーザーは、自分のジョブに指定された時刻区切り記号を使用するか、あるいは時刻区切り記号を使用しないか、このどちらかにしなければなりません。ジョブの時刻区切り記号と異なる時刻区切り記号を使用してコマンドに時刻を指定した場合には、そのコマンドは正常に実行されません。

#### **QTIMZON**

時間帯。これは、ローカル・システム時間を計算するために使用される時間帯記述の名前を指定します。別の時間帯へ記述の変更は、この新規時間帯記述と関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。別のオフセットは、ローカル・システム時間（システム値QTIME）を変更する原因となる場合があります。さらに、システム値QUTCOFFSETはこの新規オフセットと一致するように変更されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

#### **QTOTJOB**

記憶域を割り振らなければならないジョブの合計数。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時にジョブ・テーブルが再構築された時に有効となります。

#### **QTSEPOOL**

対話式ジョブがタイム・スライスの終わりに達した時にその対話式ジョブを別の主記憶域プールに移動するかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- \*NONEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されないことを意味します。
- \*BASEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されることを意味します。

#### **QUPSDLYTIM**

補助電源機構の遅延時間。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- \*BASICおよび\*CALCは、遅延時間としての特値をライセンス内部コード(LIC)が割り当てる原因になります。
- \*NOMAXは、システムが自分からいかなる処置も開始しないことを意味します。
- 0は、システム通常電源に障害が起こった時にシステムが自動的に電源遮断することを意味します。
- 1から99999は、システムが電源遮断する前の遅延時間（秒数）を指定することを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。

区画の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「論理区画」トピックを参照してください。



## QUPSMMSGQ

補助電源機構メッセージのメッセージ待ち行列。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

## QUSEADPAUT

借用権限の使用(USEADPAUT(\*YES))属性によってプログラムおよびサービス・プログラムを作成、変更、および更新できるユーザーを定義します。プログラムまたはサービス・プログラムが\*YESの借用権限の使用属性を持っている場合には、そのプログラム/サービス・プログラムは、呼び出しスタック中の高位のプログラム/サービス・プログラムから渡されるどの借用権限でも使用することができます。

このシステム値は次のものには影響しません。

- USEADPAUT(\*YES)属性で作成された既存のプログラム/サービス・プログラム。既存のプログラム/サービス・プログラムをUSEADPAUT(\*NO)に変更しなければならないかどうかは、ユーザーが決定しなければなりません。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの復元。こうしたプログラムは、ユーザーのシステムには復元することができます。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの複製。既存のプログラム/サービス・プログラムのUSEADPAUT属性が新しいオブジェクトにコピーされます。

次の値を指定することができます。

- \*NONEは、借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるユーザーに制限がないことを意味します。どのユーザーでもUSEADPAUT(\*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新することができます。
- 「名前」は、USEADPAUT(\*YES)属性を設定できるユーザーを制御する権限リストの名前を指定できることを意味します。USEADPAUT(\*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるようになるためには、ユーザーは権限リストに対する\*USE権限を必要とします。権限リストに対する権限は、借用権限から取ることはできません。すなわち、権限を借用するプログラムを実行している場合には、権限リストに対する権限を検査する時には、借用権限は使用されません。

## QUSRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

## QUTCOFFSET

現在のシステム時刻と協定世界時(UTC)のオフセットである時間数(24時間形式) および分数を示します。

- +HHMMは、現在のシステム時刻がUTCよりHH時間MM分進んでいることを意味します。
- -HHMMは、現在のシステム時刻がUTCにHH時間MM分遅れていることを意味します。

注: このシステム値は、システム値QTIMZONに指定された時間帯記述と関連したオフセットと同じでなければなりません。QTIMZONの別の時間帯記述への変更は、関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。システム値QUTCOFFSETは、この新規オフセットとも一致するように変更されます。QUTCOFFSETは、現在QTIMZONと関連しているオフセットと異なる値に変更することはできません。それを行おうとすると、診断メッセージCPD1687が出されます。

## QVfyOBJRST

復元時のオブジェクトの検査。このシステム値は、復元操作中のオブジェクト署名の検査に使用されるポリシーを指定します。この値は、オブジェクト・タイプ\*CMD, \*PGM, \*SRVPGM, \*SQLPKG,および\*MODULEに適用されます。また、JAVAプログラムが入る\*STMFオブジェクト

にも適用されます。この値は、また、ライセンス内部コードの修正を含むシステムにPTFを適用するポリシーも指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、復元時のオブジェクトの検査を参照してください。

## QYEAR

年。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷され  
ます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPSYSVAL SYSVAL(QHOUR)

このコマンドは、システム値QHOURの現行値を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF1028

パラメーターSYSVALには、&1は正しくない。

#### CPF1074

SYSVAL(QMONTH)が年間通算日形式に対して正しくない。

#### CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

#### CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

#### CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

#### CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

#### CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上





## テープ表示 (DSPTAP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

テープ表示(DSPTAP)コマンドは、標準ラベル付きテープに含まれているボリューム・ラベルおよびデータ・ファイル・ラベル情報、あるいはボリューム・タイプおよび密度を示します。この情報は印刷装置で書き出すか、あるいは表示装置で表示することができます。データ・タイププロンプト(DATAパラメーター)で\*SAVRSTを指定して、テープ・ファイルに保管された各オブジェクトの記述を含む追加の情報および保管されたオブジェクトについての要約情報を表示することができます。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション
LABEL	ファイル・ラベル	文字値, *ALL	オプション
SEQNBR	順序番号	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ファイル順序番号	1-16777215, *FIRST	
	要素 2: 終了ファイル順序番号	1-16777215, *ONLY, *LAST	
DATA	データ・タイプ	*LABELS, *SAVRST	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *UNLOAD	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

上

### 装置 (DEV)

表示されるボリュームがあるテープまたは媒体ライブラリー装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

---

## ボリューム識別コード (VOL)

表示されるテープ・ボリュームを指定します。

注: 指定した装置が媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置である場合には、指定するボリュームは、取り付けて使用するカートリッジIDまたは仮想ボリューム名とする必要があります。

### **\*MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。媒体ライブラリー装置の場合は、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによってマウントされたカテゴリの次のカートリッジです。仮想テープ装置の場合、使用されるボリュームは現在取り付けられているボリュームであるか、現在取り付けられているボリュームがなければ、イメージ・カタログ内でロード状況になっている次のボリュームが使用されます。

**文字値** ラベルつきボリュームのボリュームIDを指定してください。テープから読み取られたボリュームIDがこの値と比較されます。指定したボリュームIDがテープに見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

上

---

## ファイル・ラベル (LABEL)

ラベルが表示されるテープ上のデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定します。このデータ・ファイルIDは、このラベル内のこのファイルのデータの前に記憶されます。

**\*ALL** テープ装置プロンプト(DEVパラメーター) に指定されたテープ上のすべてのデータ・ファイルIDが表示されます。

**文字値** ラベル情報が表示されるデータ・ファイルのデータ・ファイルID (最大17文字の英数字) を指定してください。

上

---

## 順序番号 (SEQNBR)

複数ファイルのボリュームの場合に、ラベル情報が表示されるテープ上のデータ・ファイルの順序番号の範囲を指定します。ファイル・ラベルプロンプト(LABELパラメーター) に\*ALLが指定されている場合には、指定された順序番号の範囲内のファイルのすべてのラベルが指定された開始ファイル順序番号の後に表示されます。

特定のLABEL IDを指定した場合には、それが開始順序番号で指定されたデータ・ファイルのラベルIDと比較されます。IDが一致しない場合には、エラー・メッセージが送られます。

### 単一値

**\*ALL** テープ上のすべてのデータ・ファイルが表示されます。

### 要素1: 開始ファイル順序番号

#### **\*FIRST**

表示されるデータ・ファイル・ラベルはテープ上の最初のファイル (または唯一のファイル) からです。

### 1から16777215

開始ファイル順序番号を指定してください。指定した開始ファイル順序番号がテープ上に見つからない場合には、エラー・メッセージが送られます。

### 要素2: 終了ファイル順序番号

#### \*LAST

表示されるデータ・ファイル・ラベルの範囲は、指定した開始ファイル順序番号で始まり、テープ上の最後のデータ・ファイル・ラベルで終わります。

#### \*ONLY

開始順序番号で指定されたファイルだけが表示されます。

### 1から16777215

終了ファイル順序番号を指定してください。指定する終了ファイル順序番号は、開始ファイル順序番号より大きいか、それに等しくなければなりません。

注: 対話式ジョブのOUTPUT(\*)の場合、終了ファイル順序番号は無視されます。ユーザーは制御権を持ち、必要に応じて情報の表示を続行したり、終了したりできます。

注: 特定のLABEL IDが指定された場合には、終了ファイル順序番号は無視されます。

上

---

## データ・タイプ (DATA)

表示される情報のタイプを指定します。

#### \*LABELS

ボリューム・ラベルおよびデータ・ファイル・ラベルが表示されます。

#### \*SAVRST

コマンドおよび保管した各オブジェクトの要約情報を表示します。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

\* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

#### \*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

#### \*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

上

---

## テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリュームだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリュームは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされません。

### **\*REWIND**

操作の終了後にテープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

### **\*UNLOAD**

テープは、操作の終了後に自動的に巻き戻されてアンロードされます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

テープ・ファイルについての情報を送る先のデータベース・ファイルの修飾名を指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルを作成する場合には、システムはQSYS内のQATADOFを様式名QTADOUTFを持つモデルとして使用します。

注: このパラメーターが有効なのは、OUTPUT(\*OUTFILE)およびDATA(\*LABELS)が指定されている場合だけです。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** 使用するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### **\*CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

OUTPUT(\*OUTFILE)が指定された時に、出力を送る先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

### **\*FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。メンバー名を指定したが、そのメンバーが存在しない場合には、システムがそれを作成します。

## 要素2: レコードの置き換えまたは追加

### **\*REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバーに存在しているレコードは、新しいレコードで置き換えられます。

**\*ADD** システムは新しいレコードを既存のメンバーの終わりに追加します。

上

---

## 例

```
DSPTAP  DEV(QTAPE2) LABEL(*ALL)
```

このコマンドは、QTAPE2という名前のテープ装置にあるテープ・ボリューム上のボリューム・ラベルおよびファイル・ラベルを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### **\*ESCAPE** メッセージ

#### **CPD375A**

保管媒体で媒体エラー。

#### **CPF3704**

要求が終了した。データ管理エラーが起こっています。

#### **CPF3743**

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

#### **CPF3792**

情報は表示されなかった。エラーが起こった。

#### **CPF3793**

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

#### **CPF6708**

エラーのためにコマンドが終了した。

#### **CPF6718**

装置&1を割り振ることができない。

#### **CPF6721**

装置&1はテープ装置でない。

#### **CPF6723**

装置&1のボリューム&2にファイルが見つからない。

#### **CPF6724**

ファイル・ラベル&5がボリューム&2に見つからなかった。

**CPF6745**

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

**CPF6751**

装置&4でロードの障害が起こった。

**CPF6760**

装置&1の準備ができていない。

**CPF6772**

装置&1のボリュームを処理することができない。

**CPF9814**

装置&1が見つかりません。

**CPF9825**

装置&1は認可されていない。

**CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

**CPF9850**

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

**CPF9851**

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

上

---

## テープ・カテゴリーの表示 (DSPTAPCGY)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

テープ・カテゴリー表示(DSPTAPCGY)コマンドによって、ユーザーはテープ・カテゴリー作成 (CRTTAPCGY)コマンドによって定義されたカテゴリーを表示することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 1
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、出力ファイルに印刷するか、ジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。ファイルはデータベース・ファイルQATACOFと同じ形式でなければなりません。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

テープ・ボリュームについての情報が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルが作成される場合には、システムはQSYS中のQTACOUTFという様式名を持つQATACOFをモデルとして使用します。このパラメーターを使用できるのは、OUTPUT(\*OUTFILE)が指定されている時だけです。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** 使用するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### **\*CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

OUTPUT(\*OUTFILE)が指定された時に、出力を送る先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

#### **\*FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。メンバー名を指定したが、そのメンバーが存在しない場合には、システムがそれを作成します。

### 要素2: レコードの置き換えまたは追加

#### **\*REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバーに存在しているレコードは、新しいレコードで置き換えられます。

**\*ADD** システムは新しいレコードを既存のメンバーの終わりに追加します。

上

---

## 例

DSPTAPCGY OUTPUT(\*)

このコマンドは、このシステム上のユーザー定義のカテゴリーをワークステーション画面に表示します。

**282** System i: プログラミング i5/OS コマンド DSPLIBL (ライブラリー・リスト表示) ~



---

## エラー・メッセージ

\*ESCAPE メッセージ

**CPF67E4**

ライブラリー装置機能が正常に行なわれなかった。



## テープ・カートリッジの表示 (DSPTAPCTG)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

テープ・カートリッジ表示(DSPTAPCTG)コマンドは、テープ・カートリッジの属性を表示します。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1
CTG	カートリッジID	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 40 回の繰り返し): 文字値	オプション
CGY	カテゴリー	単一値: *SHARE400, *INSERT, *EJECT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カテゴリー名	文字値, <u>*ALL</u> , *NOSHARE, *IPL, *NL, *SYSGEN, *CNV	
	要素 2: カテゴリー・システム	文字値, <u>*CURRENT</u> , *ALL	
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

上

### ライブラリー装置 (DEV)

使用するライブラリー装置を指定します。装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドを使用して、装置記述をシステム上に前に作成していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

**名前** ライブラリー装置の名前を指定してください。

上

### カートリッジID (CTG)

表示される1から40のカートリッジIDを指定します。

注: カートリッジIDは、ライブラリー装置に外部IDを読み取るバーコード・スキャナーがある場合には、外部IDを表すものでなければなりません。

#### 単一値

**\*ALL** 指定された装置またはカテゴリーのすべてのテープ・カートリッジが表示されます。

#### その他の値 (最大40個指定可能)

##### 総称ID

カートリッジIDの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(\*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC\*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、総称接頭部で始まる名前を持つすべてのカートリッジIDを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なカートリッジIDと見なします。

**ID** カートリッジIDを指定してください。

上

---

## カテゴリー (CGY)

表示されるテープ・カートリッジのカテゴリーを指定します。

#### 単一値

##### **\*SHARE400**

\*SHARE400カテゴリー中のカートリッジIDが表示されます。このカテゴリーのカートリッジは、同じ装置に接続された他のシステムと共用することができます。

##### **\*INSERT**

\*INSERTカテゴリー中のすべてのカートリッジIDが表示されます。このカテゴリーのカートリッジはライブラリー装置に入れられていますが、そのIDはまだシステムに追加されていません。

##### **\*EJECT**

\*EJECTカテゴリー中のすべてのカートリッジIDが表示されます。このカテゴリーのカートリッジはそのIDがシステムから除去されているので以後使用することができません。

#### 要素1: カテゴリー名

**\*ALL** CTGパラメーターに指定されたカートリッジIDを見つけるためにすべてのカテゴリーが検索され、そのすべてが表示されます。

##### **\*NOSHARE**

\*NOSHAREカテゴリー中のカートリッジIDが表示されます。このIDのカートリッジは他のシステムと共用することができません。

**\*IPL** \*IPLカテゴリー中のすべてのカートリッジIDが表示されます。このIDのカートリッジは代替IPLに使用することができます。

**\*NL** \*NLカテゴリー中のすべてのカートリッジIDが表示されます。このIDのカートリッジはラベルなしテープとして使用されます。

##### **\*SYSGEN**

\*SYSGENカテゴリーのカートリッジIDが表示されます。ライブラリー装置が\*SYSGENモードになっている場合には、カートリッジは\*SYSGENカテゴリーから移動できません。

**\*CNV** \*CNVカテゴリー中のカートリッジIDが表示されます。このカテゴリー中のカートリッジは、コンビニエンス端末で使用されます。

**文字値** ユーザー定義のカテゴリーの名前を指定してください。このカテゴリー名は、前にテープ・カテゴリー作成(CRTTAPCGY)コマンドで作成されていなければなりません。

## 要素2: カテゴリー・システム

この要素は、カテゴリーが属するシステムを識別します。システム名は、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドの保留中システム名フィールドから取られます。保留中システム名がない場合には、現行システム名属性が使用されます。

\*\*\*\*\*注意\*\*\*\*\*  
システム名を変更した場合には、ライブラリー装置中のすべてのテープ・カートリッジと関連したライブラリー装置内のカートリッジが無効になります。  
\*\*\*\*\*

### **\*CURRENT**

現在コマンドを実行中のシステム。

**\*ALL** このコマンドを実行中のシステムに使用可能なカテゴリーを所有するすべてのシステム名が使用されます。

**文字値** カテゴリーが所属するシステムの名前を指定してください。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、出力ファイルに印刷するか、ジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

### **\*PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

### **\*OUTFILE**

出力は、OUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。ファイルは、データベース・ファイルQSYS/QATAVOFと同じ様式でなければなりません。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

テープ・ボリュームについての情報が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルが作成される場合には、システムはモデルとして様式名QTAVOLOFでQSYSのQATAVOFを使用します。

**注:** このパラメーターを使用できるのは、OUTPUT(\*OUTFILE)が指定されている時だけです。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** 使用するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

## 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

OUTPUT(\*OUTFILE)が指定された時に、出力を送る先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

#### \*FIRST

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。この値が指定されていてそのメンバーが存在しない場合には、システムは、OUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。メンバー名を指定したが、そのメンバーが存在しない場合には、システムがそれを作成します。

### 要素2: レコードの置き換えまたは追加

#### \*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバーに存在しているレコードは、新しいレコードで置き換えられます。

**\*ADD** システムは新しいレコードを既存のメンバーの終わりに追加します。

上

---

## 例

### 例1: \*SHARE400カテゴリーのテープ・カートリッジの表示

```
DSPTAPCTG  DEV(LIB01)  CGY(*SHARE400)  OUTPUT(*)
```

このコマンドは、\*SHARE400カテゴリーのすべてのテープ・カートリッジの属性をワークステーション画面に表示します。

### 例2: VOL3のテープ・カートリッジの表示

```
DSPTAPCTG  DEV(LIB01)  CTG(VOL3)  OUTPUT(*)  CGY(*ALL)
```

このコマンドは、カートリッジID VOL3の属性を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

#### CPF6711

コマンドは使用できない。

#### CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

#### CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

#### CPF67A6

カテゴリーが存在していない。

#### CPF67D2

カートリッジ・コマンドが失敗しました。

#### CPF67D4

カテゴリーが使用できない。

#### CPF67E4

ライブラリー装置機能が正常に行なわれなかった。

#### CPF67E6

ボリューム&2が正しくない。

#### CPF67EA

機能は正常に行なわれていない。

#### CPF67EC

ライブラリー装置記述&1が存在していません。

#### CPF67ED

ライブラリー装置&1が使用可能でない。

#### CPF67F5

重複したカートリッジまたは仮想ボリューム名が見つかりました。

#### CPF9814

装置&1が見つかりません。

#### CPF9825

装置&1は認可されていない。

上





## テープ状況の表示 (DSPTAPSTS)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

テープ状況表示(DSPTAPSTS)コマンドは次を行います。

- 媒体ライブラリー装置と関連したスロット情報を表示します。
- 媒体ライブラリー装置に接続された資源に関する情報を表示します。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV	ライブラリー装置	名前, *ALL	オプション, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
OUTFILFMT	出力ファイル形式	*TYPE1, *TYPE2	オプション

上

## ライブラリー装置 (DEV)

情報が表示される媒体ライブラリー装置の名前を指定します。

**\*ALL** 装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドによって定義されたすべてのテープ媒体ライブラリー装置が表示されることを指定します。

**名前** 装置名を指定してください。装置名はテープ媒体ライブラリー装置名またはランダム・アクセス・カートリッジ・ローダー(RACL)装置名でなければなりません。装置名は、装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドによって前もってシステムに認識されていなければなりません。

上

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、出力ファイルに印刷するか、ジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

\* 要求された出力は画面に表示されます。 バッチ・ジョブにこの値が指定された場合には、効果は\*PRINTが指定されたのと同じです。

#### **\*PRINT**

要求された出力は、ジョブの出力待ち行列に見つかったスプール・ファイルに書き出されます。

#### **\*OUTFILE**

出力は、OUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。このファイルは、データベース・ファイルQATAIOFまたはQATAIOF2と同じ形式でなければなりません。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

テープ媒体ライブラリーについての情報が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルがOUTFILFMT(\*TYPE1)で作成される場合には、システムはQSYS中のQTAIOUTFという様式名を持つQATAIOFをモデルとして使用します。新しいファイルがOUTFILFMT(\*TYPE2)で作成される場合には、システムはQSYS中のQATAIOF2という様式名を持つQATAIOF2をモデルとして使用します。このパラメーターを使用できるのは、OUTPUT(\*OUTFILE)が指定されている時だけです。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** 使用するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### **\*CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

OUTPUT(\*OUTFILE)が指定された時に、出力を送る先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

#### **\*FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。メンバー名を指定したが、そのメンバーが存在しない場合には、システムがそれを作成します。

### 要素2: レコードの置き換えまたは追加

### **\*REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバーに存在しているレコードは、新しいレコードで置き換えられます。

**\*ADD** システムは新しいレコードを既存のメンバーの終わりに追加します。

上

---

## **出力メンバー・オプション (OUTFILFMT)**

OUTPUT(\*OUTFILE)が指定された時には、出力ファイルの様式を指定します。

### **\*TYPE1**

この形式は、レコード様式名QTAIOUTFでライブラリーQSYS中のモデル出力ファイルQATAIOFによって定義されます。

### **\*TYPE2**

この形式は、レコード様式名QTAIOF2でライブラリーQSYS中のモデル出力ファイルQATAIOF2によって定義されます。

上

---

## **例**

DSPTAPSTS DEV(LIB01) OUTPUT(\*)

このコマンドは、このライブラリー装置に関する有効な情報をワークステーション画面に表示します。

上

---

## **エラー・メッセージ**

### **\*ESCAPE** メッセージ

#### **CPF6718**

装置&1を割り振ることができない。

#### **CPF6745**

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

#### **CPF67E4**

ライブラリー装置機能が正常に行なわれなかった。

#### **CPF67E7**

ライブラリー装置が存在しない。

#### **CPF9814**

装置&1が見つかりません。

#### **CPF9825**

装置&1は認可されていない。

#### **CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

**CPF9860**

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上

---

## 商標の表示 (DSPTM)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

商標表示(DSPTM)コマンドは、ライセンス・プロダクトの名前中に現れる商標のリストを表示します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

---

## パラメーター

なし

上

---

## 例

DSPTM

このコマンドは、商標のリストを表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上



---

## トレース表示 (DSPTRC)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

トレース表示(DSPTRC)コマンドは、このコマンドで指定したプログラムの中で現在定義されているすべてのトレースを表示します。次のトレース情報が表示されます。

- プログラム内のステートメント範囲または機械語命令範囲
- トレース・ステートメントに関連したすべてのプログラム変数の名前またはMI ODV番号
- トレース・ステートメントが処理される時ならいつでも、あるいはそれらの値が変更された時にだけ変数が記録されるか

制約事項: このコマンドは、デバッグ・モードでのみ有効です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 1
PGM	プログラム	単一値: *DFTPGM, *ALL その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 名前	オプション

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## プログラム (PGM)

デバッグ・モードのどのプログラムについて、トレース・ステートメントおよびプログラム変数を表示するかを指定します。

### \*DFTPGM

省略時のプログラムについてのみ、トレース・ステートメントが表示されます。

**\*ALL** 現在デバッグ・モードにあるすべてのプログラムについて、トレース・ステートメントが表示されます。

**名前** トレース・ステートメントを表示させる最大20個までのプログラムの名前を指定してください。指定するプログラムは、すでにデバッグ・モードになっていなければなりません。

上

---

## 例

DSPTRC

このコマンドは、このデバッグ・セッションの省略時のプログラムに現在指定されている、トレース・データ・ステートメントのすべての範囲を表示します。また、トレース・データ・ステートメントに関連するプログラム変数も表示されます（その値は表示されません）。

上

---

## エラー・メッセージ

**\*ESCAPE** メッセージ

**CPF1999**

コマンドでエラーが起こった。

上



---

## トレース・データ表示 (DSPTRCDTA)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

トレース・データ表示(DSPTRCDTA)コマンドは、最後のトレース・データ消去(CLRTRCDTA)コマンド以降に実行されたトレースの出力を表示します。トレース範囲内のすべてのトレース・ステートメントおよび関連したプログラム変数が表示されます。画面には、トレース・ステートメントまたは機械語命令が処理された順序、およびその順序の各地点でのトレースについて定義されたプログラム変数の名前またはマシン・インターフェースのオブジェクト定義テーブル・ベクトル(MI ODV)番号と値が表示されます。変数値の表示は、表示されるトレースを定義したトレース追加(ADDTRC)コマンドの出力時 (OUTVAR)パラメーターによって制御されることに注意してください。

ジョブがデバッグ・モードで、そのジョブがデバッグ終了(ENDDBG)コマンドの実行前に終了した場合には、このコマンドは、ジョブのスパール出力での出力の印刷を自動的に実行します。

注: プログラム・ステートメントは、変数を処理する前にトレース・データの中に現れます。したがって、プログラム・ステートメント (ステートメントA)でトレースに指定された変数を変更した場合には、新しい値はトレース・データ中のステートメントAの次のステートメントの後に現れます。

制約事項: このコマンドは、デバッグ・モードでのみ有効です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 1
CLEAR	消去	*NO, *YES	オプション

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 消去 (CLEAR)

表示後にトレース・データを消去するかどうかを指定します。

**\*NO**    トレース・データは消去されません。

**\*YES**   トレース・データは表示の後に消去されます。

上

---

## 例

DSPTRCDTA

このコマンドは、記録されているすべてのトレース・データを要求表示装置で表示します。トレース範囲内のすべてのトレース・ステートメントおよび関連したプログラム変数の値が表示されます。CLEAR(\*NO)とみなされるので、トレース・データは、表示された後も消去されません。

上

---

## エラー・メッセージ

**\*ESCAPE** メッセージ

**CPF1999**

コマンドでエラーが起こった。

上

---

## ユーザー定義FSの表示 (DSPUDFS)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ユーザー定義ファイル・システム表示(DSPUDFS)コマンドは、既存のユーザー定義ファイル・システム(UDFS)の属性と、任意選択でその拡張属性を表示します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
UDFS	ユーザー定義ファイル・システム	パス名	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

---

### ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)

表示するファイル・システムのパス名を指定します。これは、次の2つの形式のうちの1つ（のパス名で解決するもの）でなければなりません。

- */DEV/QASPXX/UDFSNAME.UDFS*,ここで、*XX*は有効なシステムまたは基本ユーザー補助記憶域プール(ASP)番号の1つで、*UDFSNAME*はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。
- */DEV/ASPNAME/UDFSNAME.UDFS*,ここで*ASPNAME*はシステムの有効な独立ASP名の1つで、*UDFSNAME*はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。

パスの名前部分は、指定された*QASPXX*または*ASPNAME*ディレクトリー内で固有でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\*  
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

---

## 例

### 例1:ユーザー定義ファイル・システムの表示

```
DSPUDFS  UDFS('/DEV/QASP05/JOE.UDFS')
```

このコマンドは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 5の**JOE**という名前のユーザー定義ファイル・システム(UDFS) の属性を表示します。

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### **CPFA0A9**

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

#### **CPFA09C**

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

---

## ユーザー認可表示 (DSPUSRPMN)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ユーザー認可表示(DSPUSRPMN)コマンドにより、他のユーザーに代わって文書またはフォルダーの処理または他のタスクの実行を行うことを認可されているユーザーを表示したり、他のユーザーが代わりに処理することを認可しているユーザーを表示することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USER	ユーザー・プロファイル	単一値: <b>*CURRENT</b> , <b>*ALL</b> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション、定位置 1
GRANTED	認可先/認可元	文字値, <b>*TO</b> , <b>*FROM</b>	オプション
OUTPUT	出力	<b>*</b> , <b>*PRINT</b>	オプション

上

---

### ユーザー・プロファイル (USER)

情報が表示されるユーザー・プロファイルの名前を指定します。このパラメーターの名前は、このコマンドを実行する前にシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

#### **\*CURRENT**

ユーザー認可情報が表示されます。

**\*ALL** 情報ディレクトリー中のすべてのユーザーについて情報が表示されます。

**名前** 表示する情報と関連したユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

---

### 認可先/認可元 (GRANTED)

生成された出力がユーザー（複数の場合もある）の認可する関係を表示するかあるいは認可される関係を表示するか、そのいずれかを指定します。

**\*TO** 指定されたユーザーに代わって処理を行うことを認可されているユーザーが表示されます。

#### **\*FROM**

指定されたユーザーが代わりに処理することを認可しているユーザーが表示されます。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\* 出力は、対話式ジョブによって要求された場合には、要求元のワークステーションに表示されま  
- す。これが対話式ジョブでない場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

### 例1:ユーザーの名前の表示

```
DSPUSRPMN USER(*CURRENT) GRANTED(*TO) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、現行ユーザーの代行処理をすることを許可されるユーザーの名前を印刷します。

### 例2:ユーザーの名前の印刷

```
DSPUSRPMN USER(*ALL) GRANTED(*TO) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、他のユーザーの名前のほかに代行処理することが他のユーザーに許可済みのすべてのユーザーの名前も印刷します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF9043

エラーが起こったので、ユーザーの代行認可は表示されない。

#### CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

#### CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

#### CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

#### CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

#### CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。







## ユーザー・プロファイル表示 (DSPUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル表示(DSPUSRPRF)コマンドは、ユーザー・プロファイルの内容を表示します。ユーザー・プロファイルには、システム資源についてのユーザーの操作限界が入っています。これには、ユーザーが使用するための特定の使用権限をもっているオブジェクト、コマンド、および装置の名前と、ユーザーが所有しているオブジェクトの名前、およびユーザーが1次グループとなっているものが入っています。

ユーザー・プロファイルによって所有されているオブジェクトは、\*CMDAUT、\*DEVAUT、\*OBJAUT、または\*OBJPGP画面には表示されません。

このコマンドはパスワードを表示しない上に、共通使用に認可されたオブジェクトに関する情報も表示しません。文書パスワードは、\*BASIC画面またはすべてのCLコマンド出力には表示されません。システム上のすべてのユーザーにはDSPUSRPRFコマンドの使用を許可できますが、要求側ユーザーには表示しようとするユーザー・プロファイルに対して読み取り(\*READ)権限が必要です。

DSPUSRPRF機能は、ユーザー・プロファイルが所有していて、使用を許可されているオブジェクト数に応じて、長時間実行機能とすることができます。

制約事項: ユーザー名をUSRPRF(\*ALL)またはUSRPRF (総称名) として指定できるのは、TYPE(\*BASIC) およびOUTPUT(\*OUTFILE)が指定されている場合だけです。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRPRF	ユーザー・プロファイル	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
TYPE	情報のタイプ	*BASIC, *ALL, *CMDAUT, *DEVAUT, *GRPMBR, *OBJAUT, *OBJOWN, *OBJPGP	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	_, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

---

## ユーザー・プロファイル (USRPRF)

表示するユーザー・プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

**\*ALL** すべてのユーザー・プロファイルが表示されます。

**総称名** 表示するユーザー・プロファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(\*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称検索見出しと同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのユーザー・プロファイルが表示されます。

**名前** 表示するためのユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

注: \*ALLまたは総称名を指定できるのは、TYPE(\*BASIC)およびOUTPUT(\*OUTFILE)を指定する場合だけです。

---

## 情報のタイプ (TYPE)

表示できる情報のタイプを指定します。次のすべてまたは1つを表示することができます。

- ユーザーを記述するユーザー・プロファイルの基本部分
- ユーザー・プロファイルが特定権限を持つコマンド
- ユーザー・プロファイルが特定権限を持つ装置
- ユーザーが特定権限を持ち、権限がこれらのオブジェクトに関連づけられているすべてのオブジェクト (コマンドおよび装置を含む)
- ユーザーが所有しているオブジェクト
- ユーザーが1次グループであるオブジェクト
- グループのメンバー (ユーザー・プロファイルがグループ・プロファイルの場合)

### **\*BASIC**

ユーザー・プロファイルに定義されたすべてのパラメーターが表示されます。

**\*ALL** ユーザー・プロファイルのすべての情報が表示されます。

### **\*CMDAUT**

ユーザーが特定権限を持っている制御言語コマンドが表示されます。

### **\*DEVAUT**

ユーザーが特定権限を持っているシステム装置が表示されます。

### **\*OBJAUT**

ユーザーが特定権限をもっているオブジェクトの名前 (共通使用として認可されているオブジェクトを除く)、各オブジェクトに対するユーザーの権限、およびオブジェクト・タイプを表示します。

#### \*OBJOWN

このユーザーが所有するオブジェクトの合計数、オブジェクト名、オブジェクト・タイプ、およびオブジェクトが入っているライブラリーを表示します。また、オブジェクトが権限ホルダーであるかどうかを示します。

#### \*OBJPGP

このユーザーが1次グループであるオブジェクトの合計数、オブジェクト名、タイプ、オブジェクトが入っているライブラリー、および1次グループの権限を表示します。また、オブジェクトが権限ホルダーであるかどうかを示します。

#### \*GRPMBR

グループのメンバーが表示されます。この画面は、表示されるユーザー・プロファイルがグループ・プロファイルの場合にだけ使用することができます。

上

---

## 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

\* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

上

---

## 出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

### 修飾子1: 出力を受け取るファイル

**名前** コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

\*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

#### \*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成されていて、**情報のタイプ (TYPE)**パラメーターに\***BASIC**が指定されている場合には、システムはモデルとして様式名QSYDSUPBでQSYSのQADSPUPBを使用します。

新規ファイルが作成されていて、TYPEパラメーターに\***OBJAUT**が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内の様式名QSYDSUPAをもつQADSPUPAを使用します。

新規ファイルが作成されていて、TYPEパラメーターに\***OBJOWN**が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内の様式名QSYDSUPOをもつQADSPUPOを使用します。

新規ファイルが作成されていて、TYPEパラメーターに\***OBJGPG**が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内の様式名QSYDSUPGをもつQADSPUPGを使用します。

上

---

## 出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

### 要素1: 出力を受け取るメンバー

#### \*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(\*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

**名前** 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

### 要素2: レコードの置き換えまたは追加

#### \*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

**\*ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

---

## 例

### 例1: 基本情報の表示

```
DSPUSRPRF  USRPRF(THSMITH)
```

TYPE(\*BASIC)が想定されるので、このコマンドはTHSMITHという名前のユーザー・プロファイルの基本部分を表示します。ユーザーが使用を許可されているコマンド、装置、およびオブジェクトは、表示されません。OUTPUT(\*)も想定されているので、コマンドの投入場所に応じて、操作情報が表示または印刷されます。

### 例2: オブジェクトのリストの印刷

DSPUSRPRF USRPRF(RTJOHNSON) TYPE(\*OBJOWN) OUTPUT(\*PRINT)

このコマンドによって、RTJOHNSONという名前のユーザーが所有しているオブジェクトのリストが印刷されることになります。このリストには、オブジェクト名、オブジェクト名・タイプ、およびオブジェクトがあるライブラリー名が入っています。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### **CPF22DF**

ユーザー・プロファイル&1に対する要求を処理することができない。

#### **CPF22D8**

ユーザー・プロファイル総称名の使用は正しくない。

#### **CPF22D9**

指定された名前のユーザー・プロファイルは存在していない。

#### **CPF22EB**

ユーザー・プロファイル&1に対する要求を処理することができない。

#### **CPF2204**

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

#### **CPF2213**

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

#### **CPF2217**

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

#### **CPF2257**

ユーザー・プロファイル&1はグループ・プロファイルでない。

#### **CPF9860**

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上



---

## ユーザー印刷情報の表示 (DSPUSRPRTI)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ユーザー印刷情報表示(DSPUSRPRTI)コマンドは、指定したユーザー・プロファイルのユーザー印刷情報を表示します。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	オプション, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

上

---

### ユーザー (USER)

表示される印刷情報を持つユーザーの名前を指定します。

#### \*CURRENT

現行ジョブを実行しているユーザー・プロファイルが使用されます。

**名前** 表示される印刷情報を持つユーザーの名前を指定してください。

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。このパラメーターの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションにあります。

\*  
対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

## 例

DSPUSRPTI USER(FEIST)

このコマンドは、ユーザー・プロファイルFEISTのユーザー印刷情報を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### **CPF2204**

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

#### **CPF2217**

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

#### **CPF2247**

内部機密保護オブジェクトが使用可能でない。理由コードは&1です。

上



---

## ワークステーション・ユーザーの表示 (DSPWSUSR)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ワークステーション・ユーザー表示(DSPWSUSR)コマンドによって、現行セッションに関する情報を表示することができます。表示される情報には、次のものがあります。

- 表示装置
- セッション中の2次対話式ジョブの数
- 現在アクティブの2次対話式ジョブ

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*、*_	オプションル、定位置 1

上

---

### 出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

\* 出力は表示される(2次対話式ジョブによって要求された場合) か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

#### \*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

---

### 例

DSPWSUSR OUTPUT(\*)

このコマンドは、現行ジョブが記述されている情報を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上

## 光ディスク複製 (DUPOPT)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

光ディスク複製(DUPOPT)コマンドは、複製の光ディスク・ボリュームを作成します。複製ボリュームは、ボリュームIDおよび作成された時刻を除いて、元のボリュームと同じです。

**制約事項:** このコマンドを使用するためには、ソース・ボリュームを保護する権限リストに対して\*USE権限が必要です。ターゲット・ボリュームが光ディスク媒体ライブラリー内のボリュームである場合には、そのボリュームを保護する権限リストに対して\*ALL権限が必要です。ターゲット・ボリュームを保護している権限リストが光ディスク装置に入っている場合には、それに対する \*CHANGE権限が必要です。

上

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMVOL	FROMボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	必須, 定位置 1
TOVOL	TOボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	必須, 定位置 2
NEWVOL	新しいボリューム識別コード	文字値, *TOVOL, *FROMVOL	オプション, 定位置 3
CLEAR	消去	*NO, *YES	オプション
FROMDEV	取り出し装置	名前	オプション
TODEV	受け取り装置	名前	オプション
ALWMEDERR	媒体エラーの許可	*NONE, *FILE	オプション
OUTPUT	出力	*ERROR, *NONE	オプション
FROMENDOPT	FROM媒体の終わりオプション	*LEAVE, *UNLOAD	オプション
TOENDOPT	TO媒体の終わりオプション	*LEAVE, *UNLOAD	オプション

上

### FROMボリューム識別コード (FROMVOL)

複製しようとしている光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。光ディスク媒体ライブラリー内にない媒体のボリュームIDを判別するには、次の光ディスク表示CLコマンドを出してください。  
DSPOPT VOL(\*MOUNTED) DEV(装置)。

#### 複製元ボリュームID

ソース・ボリュームIDを指定してください。

#### \*MOUNTED

FROMDEVパラメーターによって指定された光ディスク装置にマウントされた光ディスク・ボリュームを使用してください。

注: この値は、光ディスク媒体ライブラリー装置のボリュームの場合には無効です。

---

## TOボリューム識別コード (TOVOL)

作成される光ディスク・ボリューム（新しいボリューム）のボリュームID を指定します。このボリュームはFROMVOLパラメーターに指定されたボリュームと同じ物理的特性をもっていなければなりません、カートリッジの反対側のボリュームであってはなりません。指定するボリュームがWORM（一回書き込み、読み取り専用）媒体である場合には、初期設定されていないボリュームでなければなりません。光ディスク表示(DSPOPT) CLコマンドは、光ディスク・ボリュームの物理的特性を決定するのに使用します。

注: TOVOLのボリューム・アクセスが「書き込み可能」の場合は、FROMVOLパラメーターに指定したボリュームが仮想光ディスク装置に存在していなければなりません。

### コピー先ボリュームID

ターゲット・ボリュームIDを指定してください。

### \*MOUNTED

TODEVパラメーターによって指定された光ディスク装置にマウントされた光ディスク・ボリュームを使用してください。

注: この値は、光ディスク媒体ライブラリー装置のボリュームの場合には無効です。

---

## 新しいボリューム識別コード (NEWVOL)

複写が完了した後で、コピー先ボリュームの新しいボリュームIDを指定します。

### \*TOVOL

ボリュームIDは複写先ボリュームIDと同一になります。

### \*FROMVOL

ボリュームIDは複写元ボリュームIDと同一です。このパラメーターが使用できるのは、ライブラリー装置になくて、FROMENDOPTまたはTOENDOPTのいずれかが\*UNLOADであるボリュームの場合だけです。このオプションは、複写先ボリュームの媒体タイプが\*CD-R、\*CD-RW、\*DVD-R、\*DVD+R、\*DVD-RWまたは\*DVD+RWの場合にのみ有効です。

### 新しいボリュームID

複写先ボリュームの新規ボリュームIDを指定してください。

---

## 消去 (CLEAR)

ターゲット光ディスク・ボリュームがすでに初期設定されていることが判明した場合に、このボリュームを再初期化するかどうかを示します。

注: このパラメーターはボリュームがWORM (Write Once Read Many)、\*CD-R、\*DVD-R または\*DVD+R媒体の場合には無視されます。

\*NO ボリュームは再初期化されません。

\*YES ボリュームは再初期化されます。

注: 媒体タイプ\*ERASEの場合, \*YESを指定すると, 重複プロセスが開始される前にすべての既存のデータが消去されることになります。

媒体タイプ\*DVD-RAMの場合, \*YESを指定すると, 複写プロセスが開始される前にすべての既存のデータが消去されません。データは消去されませんが, データへのアクセスは失われます。

\*DVD-RAM媒体上のデータを消去することが必要な場合には, DUPOPTを実行する前に光ディスク初期設定(INZOPT)を使用してボリュームを初期化してください。 CLEAR(\*YES)パラメーターを光ディスク初期化(INZOPT) CLコマンドで指定してください。

\*CD-RW, \*DVD-RWおよび\*DVD+RWの場合, \*YESを指定すると, 複写プロセスの前に既存のデータが消去されません。データは消去されませんが, いったんデータへの複写プロセス開始されると, データへのアクセスは失われます。

上

---

## 取り出し装置 (FROMDEV)

複写元ボリュームが入っているディスク装置を指定します。

注: このパラメーターが必要なのは, パラメーターFROMVOLが\*MOUNTEDとして指定されている場合だけです。

### 複写元光ディスク装置

複写元ボリュームが入っている光ディスク装置の名前を指定してください。

上

---

## 受け取り装置 (TODEV)

複写先ボリュームが入っているディスク装置を指定します。

注: このパラメーターが必要なのは, パラメーターTOVOLが\*MOUNTEDとして指定されている場合だけです。

### 複写先光ディスク装置

複写先ボリュームが入っている光ディスク装置の名前を指定してください。

上

---

## 媒体エラーの許可 (ALWMEDERR)

ファイル・データ域を複写しようとしている間にエラーが検出された場合は, 光ディスク複写(DUPOPT)コマンドを終了するかどうかを指定します。

注: このパラメーターは, 媒体タイプが\*CD-R, \*CD-RW, \*DVD-R, \*DVD+R, \*DVD-RWまたは\*DVD+RWの場合に無視されます。

### \*NONE

ファイル・データ域を複写中にエラーが検出された場合は, 複写を停止し, エラーを戻します。

\*FILE ファイル・データ域を複写中にエラーが検出された場合は, 複写を続けます。 OUTPUT(\*ERROR)を指定することによって, 複写されないファイルのリストを出力することができます。

---

## 出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力をジョブのスパール出力とともに印刷するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、\*FILEが**媒体エラーの許可 (ALWMEDERR)**パラメーターに指定されている場合だけです。

### **\*ERROR**

ファイルのすべてが複写されると、出力は何もありません。複写されなかったファイルがある場合は、それらのファイルのリストがジョブのスパール出力とともに印刷されます。エスケープ・メッセージOPT2047も戻されます。

### **\*NONE**

ファイルのすべてが複写されると、出力は何もありません。複写されなかったファイルがある場合は、複写されなかったファイルの数がエスケープ・メッセージOPT2047に示されます。

---

## FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)

DUPOPT要求の完了後に、複写元ボリュームが存在している光ディスク装置にそのボリュームを残すか、あるいはそのボリュームを当該光ディスク装置からアンロードするかを指定します。

注: 複写元ボリュームが光ディスク媒体ライブラリー装置に入っている場合には、このパラメーターは無視されます。

### **\*LEAVE**

複写元ボリュームは光ディスク装置内に残ります。

### **\*UNLOAD**

複写元ボリュームは光ディスク装置からアンロードされます。

---

## TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)

DUPOPT要求の完了後に、複写先ボリュームが存在している光ディスク装置にそのボリュームを残すか、あるいはそのボリュームを当該光ディスク装置からアンロードするかを指定します。

注: 複写先ボリュームが光ディスク媒体ライブラリー装置に入っている場合には、このパラメーターは無視されます。

注: 複写先ボリュームの媒体タイプが\*CD-R、\*CD-RW、\*DVD-R、\*DVD+R、\*DVD-RWまたは\*DVD+RWの場合は、TOENDOPT(\*UNLOAD)を指定しなければなりません。

### **\*LEAVE**

複写先ボリュームは光ディスク装置内に残ります。

### **\*UNLOAD**

複写先ボリュームは光ディスク装置からアンロードされます。

---

## 例

### 例1: ボリューム名が既知の場合の光ディスク・ボリュームの複写

```
DUPOPT FROMVOL(VOL01) TOVOL(VOL02) NEWVOL(*TOVOL)
        CLEAR(*YES)
```

このコマンドは、同じボリュームIDが保持されている、ボリュームVOL02上の光ディスク・ボリュームVOL01の複写を作成します。複写処理の前に、VOL02は再初期化されます。

### 例2: 装置名が既知の場合の光ディスク・ボリュームの複写

```
DUPOPT FROMVOL(*MOUNTED) TOVOL(*MOUNTED) NEWVOL(BKP001)
        CLEAR(*YES) FROMDEV(OPT01) TODEV(OPT02)
        FROMENDOPT(*LEAVE) TOENDOPT(*UNLOAD)
```

このコマンドは、光ディスク装置OPT01の光ディスク・ボリュームを装置OPT02のボリュームに複写します。複写処理の前に、装置OPT02の光ディスク・ボリュームは再初期化されます。複写処理の完了後に、装置OPT01のボリュームはその装置に残ります。複写処理の完了後に、装置OPT02のボリュームはアンロードされ、ボリュームのIDはBKP001になります。

### 例3: 光ディスク・ボリュームの重複および損傷ファイルが見つかった場合の複写の継続

```
DUPOPT FROMVOL(VOL01) TOVOL(VOL02) NEWVOL(*TOVOL)
        CLEAR(*YES) ALWMEDEERR(*FILE) OUTPUT(*ERROR)
```

このコマンドは、同じボリュームIDが保持されている、ボリュームVOL02上の光ディスク・ボリュームVOL01の複写を作成します。複写処理の前に、VOL02は再初期化されます。損傷ファイルがVOL01にある場合は、複写は継続され、損傷ファイルは複写されません。損傷ファイルの名前はジョブのスプール出力に印刷されます。

### 例4: NEWVOL(\*FROMVOL)を使用したボリュームの正確なコピーの複写

```
DUPOPT FROMVOL(VOL01) TOVOL(VOL02) NEWVOL(*FROMVOL)
        CLEAR(*YES) TODEV(OPT02) TOENDOPT(*UNLOAD)
```

このコマンドは、ボリュームVOL02上の光ディスク・ボリュームVOL01の複写を作成します。複写処理の前に、VOL02は再初期化されます。複写処理の完了後に、装置OPT02のボリュームはアンロードされ、ボリュームのIDはVOL01になります。

### 例5: 書き込み可能光ディスク・ボリュームへの仮想光ディスク・ボリュームの複写。

```
DUPOPT FROMVOL(VIRTVOL) TOVOL(DVDRW) NEWVOL(*FROMVOL)
        CLEAR(*YES) TODEV(OPT02) TOENDOPT(*UNLOAD)
```

このコマンドは、ボリュームDVDRW上の光ディスク・ボリュームVIRTVOLの複写を作成します。複写処理の完了後に、装置OPT02のボリュームはアンロードされ、ボリュームのIDはVIRTVOLになります。

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

**OPT1305**

光ディスク・ボリューム&1は読み取り専用です。

**OPT1315**

光ディスク・ボリューム&1は書き込み保護されている。

**OPT1320**

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

**OPT1325**

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

**OPT1330**

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

**OPT1331**

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

**OPT1335**

ボリューム&1はすでに初期設定されている。

**OPT1337**

操作の結果が重複ボリュームIDになります。

**OPT1338**

操作がライブラリー装置にサポートされていません。

**OPT1340**

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

**OPT1342**

無効なボリューム識別コードが指定されました。

**OPT1346**

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

**OPT1350**

光ディスク・ボリューム&1への書き込み操作が失敗しました。

**OPT1366**

システム活動が多かったために操作が失敗しました。

**OPT1367**

操作はこの装置でサポートされていません。

**OPT1368**

ボリューム&1は仮想ボリュームではありません。

**OPT1369**

新しいボリュームIDが無効です。

**OPT1375**

光ディスク・ボリューム&1はすでに存在している。

**OPT1460**

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

**OPT1499**

ソースとターゲットのボリュームが別の光ディスク装置タイプです。



- OPT1515**  
光ディスク装置&1の構成はサポートされていないか、または十分でない。
- OPT1530**  
&1は有効な光ディスク装置を表していない。
- OPT1555**  
光ディスク装置&1は使用中です。
- OPT1605**  
媒体または装置エラーが起きました。
- OPT1790**  
操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。
- OPT1805**  
光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。
- OPT1810**  
光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。
- OPT1815**  
内部プログラム・エラーが起きました。
- OPT1820**  
光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。
- OPT1821**  
光ディスク装置&1でエラーが起こった。
- OPT1825**  
光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。
- OPT1860**  
光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。
- OPT1861**  
装置&1に構成された装置記述がない。
- OPT1862**  
資源&1に活動状態の装置記述がない。
- OPT1863**  
光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。
- OPT1864**  
割り振られた操作可能な光ディスク・ドライブが不足しています。
- OPT1872**  
光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。
- OPT2029**  
TOVOLはFROMVOLの反対側にある。
- OPT2047**  
光ディスクの複製が完了しました。&3個のファイルは複製されていません。
- OPT2050**  
光ディスク・ボリューム&1から光ディスク・ボリューム&2への光ディスク・ボリューム複写要求が正常に行なわれなかった。

**OPT2301**

内部システム・オブジェクトが使用中である。

**OPT2420**

光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。

**OPT7740**

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

上

## テープの複製 (DUPTAP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

テープ複製(DUPTAP)コマンドは、あるテープの内容を別のテープにコピーします。

### 注:

1. ファイル見出しラベル中の密度フィールドは、真の密度を反映するよう更新されます。
2. 装置タイプ6157上に書き出されたテープのボリューム・ラベルの80バイト目が、'Q'からブランクにリセットされます。

### 制約事項:

- このコマンドを使用するためには、2つのテープ駆動機構かまたは2つのテープ資源を備えたテープ媒体ライブラリー装置が必要です。
- ボリュームにまたがるファイルでは、両方の部分ファイルが同時に複製されなければなりません。すなわち、テープの複製が1つの部分ファイルで終了し、続いてそのテープの終わりにファイルの2番目の部分を付加することはできません。 FROMVOLパラメーターに複数のボリュームを指定し、ファイルの両方の部分を同時に複製する必要があります。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMDEV	取り出し装置	名前	必須, 定位置 1
TODEV	受け取り装置	名前	必須, 定位置 2
FROMSEQNBR	開始順序番号	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ファイル順序番号	1-16777215, *FIRST	
	要素 2: 終了ファイル順序番号	1-16777215, *ONLY, *LAST	
TOSEQNBR	終了順序番号	1-16777215, *END, *FROMSEQ	オプション
FROMVOL	FROMボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 300 回の繰返し): 文字値	オプション
TOVOL	TOボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED, *FROMVOL その他の値 (最大 300 回の繰返し): 文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
<b>TODENSITY</b>	テープ密度	文字値, <b>*DEVTYPE</b> , *CTGTYPE, *FMT3480, *FMT3490E, *FMT3570, *FMT3570E, *FMT3590, *FMT3590E, *FMT3590H, *QIC120, *QIC525, *QIC1000, *QIC2GB, *QIC2DC, *QIC4GB, *QIC4DC, *QIC3040, *QIC5010, *MLR3, *SLR60, *SLR100, *FMT2GB, *FMT5GB, *FMT7GB, *FMT20GB, *FMT60GB, *ULTRIUM1, *ULTRIUM2, *VXA1, *VXA2, 1600, 3200, 6250	オプション
<b>COMPACT</b>	データ短縮	<b>*FROMFILE</b> , *YES, *NO	オプション
<b>FILES</b>	複製するファイル	<b>*ALL</b> , *ACTIVE	オプション
<b>USRLBLPGM</b>	ユーザー・ラベル・プログラム	単一値: *NONE, <b>*SYSCOPY</b> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・ラベル・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <b>*LIBL</b> , *CURLIB	
<b>FROMENDOPT</b>	FROM装置終了オプション	<b>*REWIND</b> , *UNLOAD, *LEAVE	オプション
<b>TOENDOPT</b>	TO装置終了オプション	<b>*UNLOAD</b> , *REWIND, *LEAVE	オプション
<b>CHECK</b>	活動ファイルの検査	<b>*YES</b> , *NO	オプション
<b>EXPDATE</b>	ファイル満了日	日付, <b>*FROMFILE</b> , *PERM	オプション

上

## 取り出し装置 (FROMDEV)

テープのコピー元の装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

**名前** コピーされるテープが取り付けられているテープ装置の名前を指定してください。

上

## 受け取り装置 (TODEV)

テープのコピー先の装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

**名前** データがコピーされる先のテープ・ボリュームが取り付けられているテープ装置の名前を指定してください。

---

## 開始順序番号 (FROMSEQNBR)

コピーするデータ・ファイルの順序番号を指定します。

単一値

**\*ALL** すべてのファイルが複製されます。

**要素1: 開始ファイル順序番号**

**\*FIRST**

最初のファイル順序から始まるすべてのファイルが複製されます。

**1から16777215**

複製する開始ファイル順序番号を指定してください。指定された順序番号範囲のファイルだけが複製されます。

**要素2: 終了ファイル順序番号**

**\*LAST**

最後のファイル順序で終わるすべてのファイルが複製されます。

**\*ONLY**

開始ファイル順序で指定されたファイルだけが複製されます。

**1から16777215**

複製する終了ファイル順序番号の範囲を指定してください。

---

## 終了順序番号 (TOSEQNBR)

データ・ファイルのコピー先の順序番号を指定します。

**\*FROMSEQ**

データ・ファイルは開始ファイル順序番号パラメーターに指定されたものと同じファイル順序に複製されます。

**\*END** データ・ファイルは論理的なテープの終わりに追加されます。次に有効な順序番号が使用されず。

**1から16777215**

データ・ファイルのコピー先の順序番号を指定してください。この値は、装置が上書き可能でなく、指定された値が論理的なテープ・ボリューム終わりに使用される次の論理値でない場合には使用できません。指定されたファイルから複写が開始されます。

---

## FROMボリューム識別コード (FROMVOL)

複写されるテープのボリュームIDを指定します。

注: 指定した装置が媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置である場合には、指定するボリュームは、取り付けて使用するカートリッジIDまたは仮想テープ・ボリューム名とする必要があります。

単一値

#### **\*MOUNTED**

取り出し装置 (FROMDEV)パラメーターに指定されたテープ装置に入っているすべてのラベル付きまたはラベルなしボリュームが複写されます。テープ媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。仮想テープ装置の場合、使用されるボリュームは現在取り付けられているボリュームであるか、現在取り付けられているボリュームがなければ、イメージ・カタログ内でロード状況になっている次のボリュームが使用されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

文字値 複写されるラベル付きボリュームのIDを指定してください。

上

---

## TOボリューム識別コード (TOVOL)

データのコピー先のテープのボリュームIDを指定します。

注: 指定した装置が媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置である場合には、指定するボリュームは、取り付けて使用するカートリッジIDまたは仮想テープ・ボリューム名とする必要があります。

単一値

#### **\*MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによってマウントされたカテゴリの次のカートリッジです。仮想テープ装置の場合、使用されるボリュームは現在取り付けられているボリュームであるか、現在取り付けられているボリュームがなければ、イメージ・カタログ内でロード状況になっている次のボリュームが使用されます。

#### **\*FROMVOL**

受け取り装置 (TODEV)パラメーターに指定された装置に入っているテープを初期設定するために、取り出し装置 (FROMDEV)パラメーターに指定された装置に入っているテープのボリューム・ラベルが使用されます。追加のボリューム・ラベルが8つまで、ユーザー・ボリューム・ラベルが9つまで複写されます。テープ媒体ライブラリー装置および仮想テープ装置の場合には、この値はサポートされていません。

その他の値 (最大300個指定可能)

文字値 データのコピー先のテープのボリュームIDを指定してください。ボリューム終わり時には、このボリュームIDを使用してテープを再初期設定することができます。ボリュームのボリュームIDは正しいが、コードまたは密度が間違っている場合には、テープは正しいコードおよび密度に再初期設定されます。ボリュームIDは保管されます。

上

---

## テープ密度 (TODENSITY)

コピーされたデータが書き出される密度または形式を指定します。

### \*DEVTYPE

テープ装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。

装置 最大容量密度または形式

**3480** \*FMT3480

**3490E** \*FMT3490E

**3570-BXX**

\*FMT3570

**3570-CXX**

\*FMT3570E

**3580-001**

\*ULTRIUM1

**3580-002**

\*ULTRIUM2

**3580-003**

\*ULTRIUM3

**3580-004**

\*ULTRIUM4

**3590-BXX**

\*FMT3590

**3590-EXX**

\*FMT3590E

**3590-HXX**

\*FMT3590H

**3592-E05**

\*FMT3592A2

**3592-J1A**

\*FMT3592A1

**4685-001**

\*VXA2

**5755** \*ULTRIUM2

**6258** \*DAT72

**6279** \*VXA3

**6344** \*QIC2GB

**6349** \*QIC2GB

**6369** \*QIC2GB

**6380** \*QIC2GB

6381 \*QIC2DC  
6382 \*QIC4DC  
6383 \*QIC5010  
6384 \*SLR60  
6386 \*MLR3  
6387 \*SLR100  
6390 \*FMT7GB  
63B0 \*VRT256K  
7207-122  
    \*QIC4DC  
7208-002  
    \*FMT2GB  
7208-012  
    \*FMT5GB  
7208-222  
    \*FMT7GB  
7208-342  
    \*FMT20GB  
7208-345  
    \*FMT60GB  
9348 6250

#### \*CTGTYPE

取り付けられたカートリッジ・タイプの装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。装置が特殊なカートリッジ・タイプ情報をサポートしない場合には、\*DEVTYPEが使用されます。

**文字値** 使用する密度または形式を指定します。

- 1600** このテープ・ボリュームのデータ密度は1,600ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。
- 3200** このテープ・ボリュームのデータ密度は3,200ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。
- 6250** このテープ・ボリュームのデータ密度は6,250ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

#### \*DAT72

このテープの形式はDAT72です。これは、標準長のカートリッジに36ギガバイトのデータを入れることができる4mmカートリッジ・テープ装置に使用されます。

**\*DDS3** このテープの形式はDDS3です。これは、標準長のカートリッジに12ギガバイトのデータを入れることができる4mmカートリッジ・テープ装置に使用されます。

**\*DDS4** このテープの形式はDDS4です。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる4mmカートリッジ・テープ装置に使用されます。



**\*FMT3480**

このテープの形式はFMT3480です。このテープ・ボリュウム上のデータの密度は、3480装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*FMT3490E**

このテープの形式はFMT3490Eです。このテープ・ボリュウム上のデータの密度は、3490E装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*FMT3570**

このテープの形式はFMT3570です。このデータ形式は3570装置のテープ・ボリュウムに書き出されます。

**\*FMT3570E**

このテープの形式はFMT3570Eです。このデータ形式は3570E装置のテープ・ボリュウムに書き出されます。

**\*FMT3590**

このテープの形式はFMT3590です。このデータ形式は3590装置のテープ・ボリュウムに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*FMT3590E**

このテープの形式はFMT3590Eです。このデータ形式は3590E装置のテープ・ボリュウムに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*FMT3590H**

このテープの形式はFMT3590Hです。このデータ形式は3590H装置のテープ・ボリュウムに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*FMT3592A1**

このテープの形式はFMT3592A1です。これは、標準長のカートリッジに300ギガバイトのデータを入れることができる3592テープ装置に使用されます。

**FMT3592A1E**

このテープの形式はFMT3592A1Eです。これは、標準長のカートリッジに300ギガバイトの暗号化データを入れることができる3592テープ装置に使用されます。

**\*FMT3592A2**

このテープの形式はFMT3592A2です。これは、標準長のカートリッジに500ギガバイトのデータを入れることができる3592テープ装置に使用されます。

**FMT3592A2E**

このテープの形式はFMT3592A2Eです。これは、標準長のカートリッジに500ギガバイトの暗号化データを入れることができる3592テープ装置に使用されます。

**\*QIC120**

このテープの形式はQIC120で、120メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*QIC525**

このテープの形式はQIC525で、525メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*QIC1000**

このテープの形式はQIC1000で、1200メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*QIC2GB**

このテープの形式はQIC2GBです。これは、標準長のQIC2GBカートリッジに2.5ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

**\*QIC2DC**

このテープの形式はQIC2DCです。これは、QIC2GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

**\*QIC4GB**

このテープの形式はQIC4GBです。これは、標準長のQIC4GBカートリッジに4ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

**\*QIC4DC**

このテープの形式はQIC4DCです。これは、QIC4GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

**\*QIC3040**

このテープの形式はQIC3040で、これは840メガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・ミニカートリッジ・テープに使用されます。

**\*QIC5010**

このテープの形式はQIC5010で、これは13.5ギガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*MLR3**

このテープの形式はMLR3です。これは、標準長のMLR3カートリッジに25ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

**\*SLR60**

このテープの形式はSLR60です。これは、標準長のSLR60カートリッジに一般的に60ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

**\*SLR100**

このテープの形式はSLR100です。これは、標準長のSLR100カートリッジに一般的に100ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

**\*FMT2GB**

このテープの形式はFMT2GBです。これは2ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*FMT5GB**

このテープの形式はFMT5GBで、5ギガバイトのデータを収めることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*FMT7GB**

このテープの形式はFMT7GBです。これは7ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

**\*FMT20GB**

このテープの形式はFMT20GBです。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

**\*FMT60GB**

このテープの形式はFMT60GBです。これは、標準長のカートリッジに60ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

**\*ULTRIUM1**

このテープの形式はULTRIUM1です。これは、標準長のカートリッジに100ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

**\*ULTRIUM2**

このテープの形式はULTRIUM2です。これは、標準長のカートリッジに200ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

**\*ULTRIUM3**

このテープの形式はULTRIUM3です。これは、標準長のカートリッジに400ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

**\*ULTRIUM4**

このテープの形式はULTRIUM4です。これは、標準長のカートリッジに800ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

**\*VRT32K**

ボリュームの形式はVRT32Kです。これは、32KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、サポートされるすべてのテープ装置に複製することができます。

**\*VRT64K**

ボリュームの形式はVRT64Kです。これは、64KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、64KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

**\*VRT240K**

ボリュームの形式はVRT240Kです。これは、240KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、240KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

**\*VRT256K**

ボリュームの形式はVRT256Kです。これは、256KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、256KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

**\*VXA1**

このテープの形式はVXA1です。これは、標準長のカートリッジに33ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

**\*VXA2**

このテープの形式はVXA2です。これは、標準長のカートリッジに80ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

**\*VXA3**

このテープの形式はVXA3です。これは、標準長のカートリッジに160ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

注: セルフ構成テープ装置は、密度パラメーターに有効な追加の値を定義することがあります。特定の装置に有効な追加の密度値を見つけるには、System i5ナビゲーター（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（テープ・ライブラリー）（テープ資源）（特性）または（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（独立型装置）（特性）を使用するか、あるいは接続されたテープ装置に有効なすべての密度値のリストを参照するには、CLコマンドの「テープ密度」フィールドのF4=プロンプト・キーを使用してください。

上

---

## データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。指定された装置が短縮をサポートしていない場合には、このパラメーターは無視されます。

### \*FROMFILE

装置データの短縮は、**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターで指定された装置から読み取られるファイルが装置データの短縮を使用して書き出されている場合、またはFROMDEVパラメーターに仮想テープ装置が指定されている場合に実行されます。

\*YES 装置データの短縮は、**受け取り装置 (TODEV)**パラメーターで指定された装置に書き出されたすべてのファイルで実行されます。

\*NO 装置データの短縮は実行されません。

上

---

## 複製するファイル (FILES)

期限切れのデータ・ファイルを、**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターで指定された装置に入っているテープ・ボリュームから、**受け取り装置 (TODEV)**パラメーターで指定された装置に入っているテープ・ボリュームにコピーするかどうかを指定します。

\*ALL テープ・ボリューム上のすべてのデータ・ファイルがコピーされます。既存のファイル順序番号はすべて保管されます。

### \*ACTIVE

現在のシステム日付より後の満日を持つデータ・ファイルだけがコピーされます。期限切れになったファイルを除いて、データ・ファイルは、ボリューム上の最初のファイルの番号から始まる連続した番号で再番号付けされます。

上

---

## ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)

ユーザー・テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムの名前およびライブラリーを指定します。**受け取り装置 (TODEV)**パラメーターに指定された装置の場合には、ユーザー・ラベル・プログラムはテープへ書き出されるユーザー・ラベルを送信します。**取り出し装置 (FROM DEV)**パラメーターに指定された装置の場合には、ユーザー・ラベルはユーザー・ラベル・プログラムに送信されます。

単一値

### **\*SYSCOPY**

システム/36の保管および復元テープの適切な複写を可能にするために、ユーザー・テープ・ラベルが処理されます。FROMDEVパラメーターに指定されたテープ・ボリウムにユーザー見出しラベルがある場合には、これらはTODEVパラメーターに指定されたテープ・ボリウムにコピーされます。ファイルの終わりのユーザー・トレーラー・ラベル、またはファイル・セクションの終わりトレーラー・ラベルの場合も同様です。

FROMDEVパラメーターで指定された装置で論理的なテープの終わりが見つかる前に、TODEVパラメーターで指定された装置でボリウム終わり条件が起こった場合には、ユーザー・トレーラー・ラベルおよびユーザー見出しラベルが作成されて、ファイルの始めて読み取られたユーザー見出しラベルからデータを複製する現行および次のテープ・ボリウムに書き込まれます。

### **\*NONE**

ユーザー・プログラムはユーザー・テープ・ラベルを処理しません。ユーザー・ラベルはテープ・ボリウムに書き込まれません。

#### **修飾子1: ユーザー・ラベル・プログラム**

**名前** ユーザー・テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムの名前を指定してください。

#### **修飾子2: ライブラリー**

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### **\*CURLIB**

ユーザー・ラベル・プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

**名前** ユーザー・ラベル・プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## **FROM装置終了オプション (FROMENDOPT)**

取り出し装置 (FROMDEV)パラメーターで指定された装置に入っているテープ・ボリウムを巻き戻すか、あるいは操作の完了後に巻き戻してアンロードするかを指定します。

### **\*REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

### **\*UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

### **\*LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。これはテープ駆動機構で現在位置に留まります。

上

---

## TO装置終了オプション (TOENDOPT)

受け取り装置 (TODEV)パラメーターで指定された装置に入っているテープ・ボリュームを巻き戻すか、あるいは操作の完了後に巻き戻してアンロードするかを指定します。

### **\*UNLOAD**

操作の完了後にテープが巻き戻されアンロードされます。

### **\*REWIND**

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

### **\*LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。これはテープ駆動機構で現在位置に留まります。

上

---

## 活動ファイルの検査 (CHECK)

受け取り装置 (TODEV)パラメーターでマウントされたボリューム上のテープ・ファイルで、その上書き前に活動データの有無が検査されるかどうかを指定します。受け取り装置にラベルなしボリュームがある場合には、このパラメーターは無視されます。

**\*YES** 上書きされるファイルは活動データの有無を検査されます。上書きされる最初のファイルだけが活動データの有無を検査され、後続のファイルは検査されません。活動ファイルが見つかった場合には、操作は終了し、エラー・メッセージが送られます。

**\*NO** テープの複写は活動ファイルの検査なしで続行されます。

上

---

## ファイル満了日 (EXPDATE)

コピーされる時にすべてのファイルに割り当てられる満了日を指定します。このパラメーターは、標準ラベル・テープにのみ適用されます。

### **\*FROMFILE**

コピーされるファイルに現在指定されている満了日を使用されます。

### **\*PERM**

コピーされたすべてのファイルに永続的に有効が割り当てられます。

**日付** コピーされる時にすべてのファイルに割り当てられる満了日を指定してください。

上

---

## 例

### 例1:単一のボリュームから単一のボリュームへの複写

```
DUPTAP FROMDEV(TAPE01) TODEV(TAPE02)
```

このコマンドは、装置TAPE01にマウントされたテープ・ボリュームを装置TAPE02にマウントされたテープ・ボリューム上に複写します。



## 例2:単一のボリューム終わりへのボリューム・セットの追加

```
DUPTAP FROMDEV(TAPE01) TODEV(TAPE02) FROMVOL( VOL001 VOL002)  
TOVOL(VOLABC) FROMSEQNBR(*ALL) TOSEQNBR(*END)
```

このコマンドは、テープ・ボリュームVOL001およびVOL002のすべてのファイルを装置TAPE02上の宛先ボリュームVOLABCに複写します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF516D

データの上書きは許されません。

#### CPF67E6

ボリューム&2が正しくない。

#### CPF67FA

ボリュームの互換性が正しくない。

#### CPF67FD

ボリューム&2にファイル順序番号&3は正しくない。

#### CPF67FE

ボリューム&2でファイルが見つからない。

#### CPF67F7

継続ボリュームを複写することはできない。

#### CPF67F8

ボリューム&2に対してTOSEQNBRは正しくない。

#### CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

#### CPF671C

装置&2にすべてのファイルは複写されていない。

#### CPF6714

TOVOL(\*FROMVOL)が正しくない。

#### CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

#### CPF6720

装置&1で間違ったボリューム&2が見つかった。

#### CPF6721

装置&1はテープ装置でない。

#### CPF6722

装置&1にテープの終わりが見つかった。

#### CPF6725

終了ファイル順序番号が開始順序番号より小さい。

**CPF6734**

ファイル順序番号&3がボリューム&2に見つからなかった。

**CPF6740**

TODEVとFROMDEVは異なるものでなければならない。

**CPF6751**

装置&4でロードの障害が起こった。

**CPF6754**

ボリューム&2に活動ファイル&4が見つかった。

**CPF676B**

装置&4のボリュームは書き込み保護されている。

**CPF6760**

装置&1の準備ができていない。

**CPF6761**

ファイルの処理時にラベルが見つからない。

**CPF6768**

装置&1のボリュームは書き込み保護されている。

**CPF6772**

装置&1のボリュームを処理することができない。

**CPF9814**

装置&1が見つかりません。

**CPF9825**

装置&1は認可されていない。

上



---

## 権限リスト編集 (EDTAUTL)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

権限リスト編集(EDTAUTL)コマンドは、ユーザーおよびその権限のリストを表示します。この画面から、ユーザーはユーザーを追加および除去でき、権限リストでユーザーの権限を変更することができます。

制約事項: 指定された権限リストに対する権限リスト管理(\*AUTLMGT)権限または所有権が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
AUTL	権限リスト	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 権限リスト	名前	

上

---

## 権限リスト (AUTL)

編集する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

**名前** 編集する権限リストの名前を指定してください。

上

---

## 例

EDTAUTL AUTL(MYLIST)

このコマンドは、権限リストMYLISTを表示し、それを変更することができます。

上

---

## エラー・メッセージ

**\*ESCAPE** メッセージ

**CPF22B9**

権限の変更は認可されていない。

**CPF2204**

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

**CPF2207**

ライブラリー&3のタイプ\*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

**CPF2208**

ライブラリー&3のタイプ\*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

**CPF2209**

ライブラリー&1が見つかりません。

**CPF2211**

&3のオブジェクト&1タイプ\*&2を割り振ることができない。

**CPF2216**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF2217**

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

**CPF2283**

権限リスト&1が存在していない。

**CPF9843**

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

上

---

## バックアップ・リストの編集 (EDTBCKUPL)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

バックアップ・リスト編集(EDTBCKUPL)コマンドにより、ユーザーはバックアップするライブラリーおよびフォルダーを選択することができます。バックアップの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
BCKUPL	バックアップ・リスト	*LIB, *FLR	オプション、定位置 1

上

---

### バックアップ・リスト (BCKUPL)

変更するバックアップ・リストを指定します。

**\*LIB** ライブラリー・バックアップ・リストが変更されます。

**\*FLR** フォルダー・バックアップ・リストが変更されます。

上

---

### 例

EDTBCKUPL BCKUPL(\*LIB)

このコマンドは、ライブラリーQUSRSYS中のユーザー索引QEZBACKUPLに保管されたライブラリー・バックアップ・リストを表示し、これを変更できるようにします。

上

---

### エラー・メッセージ

#### \*ESCAPEメッセージ

##### CPF1EEA

ライブラリー・バックアップ・リストが認可されていない。

##### CPF1E6B

フォルダー・バックアップ・リストは使用中である。

**CPF1E6D**

フォルダー・バックアップ・リストに損傷があったので、新しいリストが作成された。

**CPF1E65**

ライブラリー・バックアップ・リストは使用中である。

**CPF1E67**

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

**CPF1E99**

予期しないエラーが起こった。

**CPF7D41**

発注援助要求のロギング時にエラーが起こりました。

**CPF7D42**

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上

---

## CHKPND制約の編集 (EDTCPCST)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

検査保留制約編集(EDTCPCST)コマンドは、制約違反の可能性のあるレコード（検査保留）をもつ確立された制約のリストを表示します。この画面からは、初期プログラム・ロード(IPL)中に再作成される制約の順序を検査して、選択または変更することができます。

検査保留制約がある場合には、このコマンドは在席IPLの実行中に呼び出されます。この画面からは、選択された制約の検査中にシステムがIPLを続行するか、あるいは選択された制約を検査した後にIPLを続行するかを選択することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

上

---

### パラメーター

なし

上

---

### 例

#### 例1:制約のリストの編集

EDTCPCST

このコマンドは、検査保留となっている参照制約を表示します。この画面から制約の検査のために順序を編集できます。

上

---

### エラー・メッセージ

\*ESCAPEメッセージ

CPF325C

データベース・オブジェクト&1にエラーがある。

上



---

## DLファイル属性の編集 (EDTDLFA)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

データ・リンク・ファイル属性の編集(EDTDLFA)コマンドによって、データ・リンクの状況を表示および変更することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

上

---

### パラメーター

なし

上

---

### 例

データ・リンクのリストの編集

EDTDLFA

このコマンドは、保留中のデータ・リンク要求があるデータ・リンクを表示します。この画面から保留中のリンク要求またはリンク解除要求を試みるために順序を編集できます。

上

---

### エラー・メッセージ

なし

上





---

## DLO権限編集 (EDTDLOAUT)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)権限編集(EDTDLOAUT)コマンドは、文書またはフォルダー・オブジェクトに対するユーザー認可を変更するために使用されます。

指定した文書またはフォルダーについて次の情報が表示されます。

- 文書またはフォルダーの名前。
- 文書またはフォルダーの所有者。
- 文書またはフォルダーを保護している権限リスト（存在する場合）の名前。
- 文書またはフォルダーの個人状況。
- 文書またはフォルダーに対して認可されている特定のユーザーのリスト。
- 特定権限をもたず(\*PUBLIC)、権限リスト上になく、またそのユーザー・グループが文書またはフォルダーに対して何の権限ももっていないユーザーに与えられている権限。

### 制約事項:

1. 権限を変更するには、ユーザーは、その文書またはフォルダーに対して全(\*ALL)権限または全オブジェクト(\*ALLOBJ)特殊権限をもっていなければなりません。
2. このコマンドを使用するには、DLO権限の追加 (ADDDLOAUT)、DLO権限の変更 (CHGDLOAUT)、および DLO権限の除去 (RMVDLOAUT)コマンドを使用する権限が必要です。
3. \*ROOTフォルダー共通権限を変更するためには、ユーザーは\*ALLOBJ特殊権限をもっていなければなりません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ROOT	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプションル
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプションル

上

---

## 文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

ユーザー権限を変更する文書またはフォルダーの名前を指定します。

### \*SYSOBJNAM

ユーザー権限は、システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名をもつ文書またはフォルダーに対して変更されます。

## \*ROOT

\*ROOTフォルダーの共通権限值が変更されます。

文字 ユーザー権限を変更する文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

上

---

## フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定されたオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。

### \*NONE

フォルダー名は指定されません。名前がDLOパラメーターに指定されて、オブジェクトがフォルダーに入っている場合には、\*NONEを指定することはできません。

文字 オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、この名前を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

上

---

## システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

フォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに\*SYSOBJNAMが指定されている場合だけです。

名前 ユーザー権限を変更するフォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。10桁を指定しなければなりません。

上

---

## 例

```
EDTDLOAUT DLO(DOCA) FLR(MYFLR)
```

このコマンドによって、このコマンドのユーザーは、許可ユーザーおよびその権限のリストをフォルダーMYFLR内のDOCAという名前の文書ライブラリー・オブジェクトに変更することができます。このコマンドのユーザーは、そのオブジェクトに対する\*ALL権限が必要か、あるいはそのオブジェクトの所有者でなければなりません。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

**CPF8A78**

フォルダー&1は使用中である。

**CPF8A79**

フォルダー&1は論理的に損傷している。

**CPF8A80**

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

**CPF8A82**

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

**CPF8A88**

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

**CPF8A89**

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

**CPF89C0**

指定した値が正しくない。

**CPF90BA**

文書ライブラリー・オブジェクトの権限要求が正常に実行されなかった。

**CPF90B6**

間違った入力値が指定された。

**CPF9073**

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

**CPF9079**

ユーザー・プロファイル&1の文書記述のGET要求は正常に行なわれなかった。

**CPF908A**

要求元&1は登録されていない。

**CPF908B**

文書ライブラリー・オブジェクトが見つからない。

**CPF909A**

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

**CPF9095**

フォルダー&1に損傷がある。

**CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上



---

## 文書編集 (EDTDOC)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

THE EDIT DOCUMENT (EDTDOC) COMMAND ALLOWS YOU TO EDIT A DOCUMENT.

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DOC	文書	文字値, *PRV	オプションル, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *PRV	オプションル, 定位置 2
EXITPNL	出口表示画面	*YES, *NO	オプションル, 定位置 3

上

---

## 文書 (DOC)

SPECIFIES THE NAME OF THE DOCUMENT TO BE EDITED.

\*PRV THE NAME USED IN THE PREVIOUS SESSION IS USED.

### **DOCUMENT-NAME**

SPECIFY THE NAME OF THE DOCUMENT TO BE EDITED.

上

---

## フォルダー (FLR)

SPECIFIES THE NAME OF THE FOLDER THAT CONTAINS THE DOCUMENT TO BE EDITED.

\*PRV THE NAME USED IN THE PREVIOUS SESSION IS USED.

### **FOLDER-NAME**

SPECIFY THE NAME OF THE FOLDER THAT CONTAINS THE DOCUMENT TO BE EDITED.

上

---

## 出口表示画面 (EXITPNL)

SPECIFIES WHETHER THE EXIT DOCUMENT DISPLAY IS SHOWN WHEN F3(EXIT) OR F12(CANCEL) IS PRESSED TO END THE EDITING.

**\*YES** THE EXIT DOCUMENT DISPLAY IS SHOWN WHEN F3(EXIT) OR F12(CANCEL) IS PRESSED TO END THE EDITING.

**\*NO** THE EXIT DOCUMENT DISPLAY IS NOT SHOWN WHEN F3(EXIT) OR F12(CANCEL) IS PRESSED TO END THE EDITING.

上

---

## 例

EDTDOC DOC(TASK4) FLR(INSTTXT)

THIS COMMAND DISPLAYS THE DOCUMENT TASK4 OF THE FOLDER INSTTXT, AND ALLOWS YOU TO EDIT THE DOCUMENT TASK4.

上

---

## エラー・メッセージ

**\*ESCAPE** メッセージ

**OFCFFFC**

ユーザーの記憶容量を超えた。

**OFCFFFD**

損傷のあるオブジェクトが見つかった。

**OFC8EA3**

OFFICEVISION AS/400用エディターは、画面に展開するために使用可能でない。

**OFC80B5**

OS/400用OFFICEVISIONエディターがシステムで使用可能でない。

**OFC800A**

フォルダーは使用中である。

**OFC800B**

文書&1は使用中である。

**OFC800F**

表示装置はテキストをサポートしていない。

**OFC8006**

フォルダーが見つからない。

**OFC8007**

文書&1がフォルダー中に見つからない。

**OFC8008**

フォルダーについての要求は認められない。

- OFC8009**  
文書&1についての要求は認められない。
- OFC801A**  
文書はディスク、テープ、または保管ファイルに保管されている。
- OFC801D**  
最大数のテキスト・セッションが活動状態である。
- OFC801E**  
DWエディターまたはテキスト援助機能をロードすることができない。
- OFC8010**  
文書&1を処理することができない。
- OFC8011**  
文書&1は回復する必要がある。
- OFC8016**  
文書&1のチェックが終了した。
- OFC8018**  
文書&1が空である。
- OFC8019**  
必要なモジュールがシステム上にない。
- OFC802E**  
P Cエディターの要求が正常に実行されなかった。
- OFC821B**  
文書&1を再利用する必要がある。
- OFC8951**  
データ名を指定しなければならない。
- OFC8952**  
タイプは&9または&10でなければならない。
- OFC8953**  
データ&9が存在していない。
- OFC8954**  
表示端末装置にグラフィックス機能がない。
- OFC8955**  
イメージを表示するためには、P Cテキスト援助機能が必要である。
- OFC903A**  
文書&1は最終形式である。
- OFC9811**  
フォルダーを再利用する必要がある。

上





---

## ファイル編集 (EDTF)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ファイル編集(EDTF)コマンドにより、ストリーム・ファイルまたはデータベース・ファイルを編集することができます。このコマンドはファイルまたはディレクトリーをブラウズするために使用することもできます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
STMF	ストリーム・ファイル, または	パス名	オプション, 定位置 1
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	ファイル・メンバー	名前, *FIRST	オプション

上

---

## ストリーム・ファイル, または (STMF)

編集するファイルの名前を指定します。

### ストリーム・ファイル名

編集するオブジェクトの名前と一致するオブジェクトのパス名またはパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名かあるいはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(\*)は任意の数の文字に対応します。指定した文字と一致するすべてのファイルまたはサブディレクトリーのリストが表示されます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。指定したファイル名がディレクトリーである場合には、ファイルおよびサブディレクトリーのリストが表示されます。このリストから、ディレクトリー中のファイルを編集または表示することができます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクション の「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

上

---

## データベース・ファイル (FILE)

編集するデータベース・ファイルの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### **\*CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## ファイル・メンバー (MBR)

編集するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

### **\*FIRST**

データベース・ファイル中の最初のメンバーが編集されます。

**メンバー名**

編集するメンバーの名前を指定してください。

上

---

## 例

### 例1: ストリーム・ファイルの編集

```
EDTF STMF('/MYDIR/MYFILE.TXT')
```

このコマンドは、ルート・ディレクトリーの下のディレクトリーMYDIRに入っているファイルMYFILE.TXTの編集セッションを開始します。

### 例2: データベース・ファイル・メンバーの編集

```
EDTF FILE(MYLIB/MYFILE) MBR(MYMBR1)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに入っているファイルMYFILE のメンバーMYMBR1の編集セッションを開始します。

上

---

## エラー・メッセージ

### **\*ESCAPE** メッセージ

#### **CPFB601**

表示装置ファイルQDZRUEDTが脱落しているか、あるいは損傷があります。

**CPF604**

行コマンドの処理時にエラー。

**CPF605**

行コマンドが正しくありません。

**CPF609**

ワークスペースを割り振ることができません。

**CPF610**

コマンドが正しくない。

**CPF611**

&3の&1個のオカレンスに変更された。&2は変更されていません。

**CPF612**

検索または置き換えストリングが指定されていません。

**CPF613**

印刷装置ファイルのオープン中のエラー。

**CPF614**

ファイル名が指定されていません

**CPF615**

ターゲット行が指定されていない。

**CPF617**

CCSIDが正しくない。

**CPF618**

CCSID &1およびジョブのCCSID間の変換はサポートされていない。

**CPF619**

ファイルは空です。

**CPF620**

&2

**CPF621**

ファイルの表示または編集, あるいはその両方ができない。

上



---

## DBCS変換辞書編集 (EDTIGCDCT)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

DBCS変換辞書編集(EDTIGCDCT)コマンドによって、英数字項目およびこれらに関連した2バイト文字セット(DBCS)の語句を指定されたDBCS変換辞書に対して追加、変更、および削除することができます。システムはDBCS変換の実行時に、DBCS変換辞書を参照します。システムは、このコマンドを指定した時に編集される項目を表示します。

注: 中国語および韓国語の2バイト文字セットの場合には、DBCS変換機能の使用はお奨めできません。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
IGCDCT	DBCS変換辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DBCS変換辞書	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ENTRY	辞書項目	X'40'-X'FE', *ALL	オプション

上

---

### DBCS変換辞書 (IGCDCT)

編集される2バイト文字セット(DBCS)変換辞書および辞書が保管されているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、ライブラリー・リストの検索時に最初に見つかった辞書が編集されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### **\*CURLIB**

辞書を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

#### ライブラリー名

辞書が入っているライブラリーを指定してください。

上

---

## 辞書項目 (ENTRY)

関連した2バイト文字セット(DBCS)の語句と一緒に編集される英数字項目を指定します。

**\*ALL** 辞書中の任意の項目を編集することができます。システムは最初に、辞書中のすべての英数字項目を表示するDBCS変換辞書の処理画面を表示します。この画面から、編集する特定の項目を選択します。

### 総称\*ストリング

1つまたは複数の文字の文字ストリングとそれに続くアスタリスク(\*)を指定してください。指定したストリングで始まるすべての項目を編集することができます。システムは、最初にDBCS変換辞書の処理画面を表示します。この画面から、編集する特定の項目を選択します。アスタリスクを含めない場合には、システムは特定のストリングを編集するものと見なします。

ストリングは、12文字より長くすることはできません。

### 特定ストリング

文字ストリングを指定してください。システムは、単一の英数字およびそれに関連したDBCSの語句を表示するDBCS関連語句の編集表示画面を表示します。指定した項目を編集することができます。

ストリングは、12文字より長くすることはできません。この画面で、関連語を編集することができます。

上

---

## 例

### 例1: 「DBCS変換辞書の処理」画面の表示

```
EDTIGCDCT IGCDCT(DBCSLIB/QUSRIGCDCT) ENTRY(123*)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIBに保管されている辞書QUSRIGCDCT中の123で始まるすべての英数字項目を示す「DBCS変換辞書の処理」画面を表示します。

### 例2: 「関連ワードの編集」画面の表示

```
EDTIGCDCT IGCDCT(DBCSLIB/QUSRIGCDCT) ENTRY(WORDS)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIBに保管されている辞書QUSRIGCDCTから英数字項目WORDSおよびその関連ワードを示す「関連ワードの編集」画面を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

#### CPF8138

&9のDBCS変換辞書&4に&8の損傷がある。

#### CPF8440

項目をシステムのDBCS変換辞書に追加することはできない。

**CPF8451**

入力値&1が正しくない。

**CPF8455**

ワークステーションがDBCS装置でない。

**CPF8461**

DBCS変換辞書の項目&1が論理的に損傷している。

**CPF9801**

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

**CPF9802**

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

**CPF9803**

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

**CPF9810**

ライブラリー&1が見つかりません。

**CPF9820**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF9845**

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

**CPF9846**

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

**CPF9847**

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上





---

## ライブラリー・リスト編集 (EDTLIBL)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ライブラリー・リスト編集(EDTLIBL)コマンドは入力画面を表示し、これによって、ユーザーはライブラリー・リストのユーザー部分に変更を加えることができます。「ライブラリー・リストの編集」画面によって、ライブラリー・リストのユーザー部分にライブラリーを追加し、ライブラリー・リストのユーザー部分からライブラリーを除去し、さらにライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーの順序を変更することができます。このコマンドは対話式コマンドです。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

---

### パラメーター

なし

上

---

### 例

EDTLIBL

このコマンドは、ライブラリーを追加し、ライブラリーを除去し、さらにライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーの順序を変更することができる「ライブラリー・リストの編集」画面を表示します。

上

---

### エラー・メッセージ

\*ESCAPEメッセージ

**CPF2106**

ライブラリー・リストが使用可能でない。

**CPF2184**

ライブラリー・リストは置き換えられなかった。

**CPF2207**

ライブラリー&3のタイプ\*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

**CPF2255**

コマンド&1の権限テストが正常に実行されなかった。

上



---

## オブジェクト権限編集 (EDTOBJAUT)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

オブジェクト権限編集(EDTOBJAUT)コマンドは、オブジェクトの認可されたユーザーおよびその関連したユーザーの権限のリストを表示します。ユーザーがオブジェクトを所有しているか、または\*ALLOBJ特殊権限を持っている場合には、ユーザーはオブジェクトの権限の追加、変更、または除去を行なうことができます。オブジェクトに対してオブジェクト管理権限がある場合には、特定権限を除去するか、他のユーザーに対して特定権限を認可または除去することができます。

指定したオブジェクトについて次が表示されます。

- オブジェクト名
- オブジェクトが入っているライブラリーの名前
- オブジェクトの所有者の名前
- オブジェクトのタイプ
- オブジェクトの使用が認可されているすべてのユーザーのリスト
- 各ユーザーがオブジェクトに対して持っている権限
- オブジェクトが権限リストによって保護されている時には、権限リスト名が表示されます。

オブジェクトに対応した所有者名がない場合には、そのオブジェクトに対する権限は表示されません。

### 制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、オブジェクトに対するオブジェクト管理権限が必要です。
2. オブジェクトがファイルの場合には、ユーザーにはオブジェクト操作権限およびオブジェクト管理権限が必要です。
3. 補助記憶域プール装置を指定する場合は、その補助記憶域プール装置に対する\*USE権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCTBL, *IGCSRT, *IMGCLG, *IPXD, *JOBBD, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWSL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQRV, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, * *SYSBAS	オプション

上

## オブジェクト (OBJ)

認可ユーザーおよびその権限を表示するオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

**名前** オブジェクトの名前を指定してください。

### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

### \*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

**名前** 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

認可ユーザーとその権限を表示する、コマンド(\*CMD)、ファイル(\*FILE)、またはプログラム(\*PGM)などのオブジェクトのオブジェクト・タイプ。このコマンドのプロンプトが出されたときに、オブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付けて、F4（プロンプト）を押してください。

これは必須パラメーターです。

上

---

## ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター)を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

- \* 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1)、定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32)、さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

### \*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

**名前** オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

上

---

## 例

```
EDTOBJAUT OBJ(ARLIB/PROG1) OBJTYPE(*PGM)
```

このコマンドにより、PROG1という名前のオブジェクトに対する許可ユーザーおよびその権限のリストが表示されることとなりますが、そのユーザーがそのオブジェクトに対するオブジェクト管理権限をもっている場合だけです。PROG1は、ARLIBという名前のライブラリー内にあるプログラム(\*PGM)です。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF22B8

権限の変更は認可されていない。

**CPF22B9**

権限の変更は認可されていない。

**CPF2204**

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

**CPF2207**

ライブラリー&3のタイプ\*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

**CPF2208**

ライブラリー&3のタイプ\*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

**CPF2209**

ライブラリー&1が見つかりません。

**CPF2211**

&3のオブジェクト&1タイプ\*&2を割り振ることができない。

**CPF2216**

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

**CPF2217**

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

**CPF2283**

権限リスト&1が存在していない。

**CPF9843**

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

上

---

## 質問・回答の編集 (EDTQST)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

質問・回答編集(EDTQST)コマンドによって、認可されたユーザーは指定したデータベース内で公表するための質問・回答を編集することができます。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションで入手することができます。

### 制約事項:

1. このコマンドは、共通\*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーは、このコマンドに対する権限をもち、このコマンドで参照されるすべてのQ&AデータベースのQ&Aデータベース回答担当者でなければなりません。
3. このコマンドは、対話式でのみ使用することができます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, * <u>SELECT</u>	オプションル, 定位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, * <u>QSTLIB</u>	オプションル, 定位置 2

上

---

## Q/Aデータベース (QSTDB)

質問・回答を編集するQ&Aデータベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

### \*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

### 質問データベース

質問・回答を編集するQ&Aデータベースの名前を指定してください。

上

---

## Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

Q&Aデータベースの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

### **\*QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに\*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

### ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに\*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

上

---

## 例

EDTQST

このコマンドは、候補質問処理画面を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上



---

## アクセス・パスの再作成の編集 (EDTRBDAP)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

アクセス・パス再作成編集(EDTRBDAP)コマンドは、アクセス・パス再作成編集メニューを表示し、このメニューからアクセス・パス情報を表示または変更できます。

### 制約事項:

- このコマンドを使用するには、QSYSOPRとしてサインオンするか、すべてのオブジェクト(\*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

---

## パラメーター

なし

上

---

## 例

EDTRBDAP

このコマンドは、再作成されたアクセス・パスを編集する時に使用可能な制御を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

\*ESCAPEメッセージ

**CPF325C**

データベース・オブジェクト&1にエラーがある。

上



---

## アクセス・パスの回復の編集 (EDTRCYAP)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

アクセス・パス回復編集(EDTRCYAP)コマンドは、システムASPおよび現在システム上で活動状態の補助記憶域プール(ASP)のアクセス・パス回復時間のリストを表示します。このリストから、目標アクセス・パス回復時間を変更し、更新された回復状況情報を検討することができます。さらに、このコマンドでは、システム管理対象アクセス・パス保護に適合でない、最大概算アクセス・パス回復時間を持つ最大500のアクセス・パスと、それらが適合でない理由が示されます。また、このコマンドでは、現在システム管理対象アクセス・パス保護によって保護されている最大概算アクセス・パス回復時間を持つ最大500のアクセス・パスも示されます。

システムは異常終了後の初期プログラム・ロード(IPL)中または独立ASPのオンへの変更中にアクセス・パスを回復する場合には、システムは指定された目標アクセス・パス回復時間より多くを使用することはありません。アクセス・パス回復時間は目標であるため、パフォーマンスはその目標に近い範囲となります。

ファイル・コピー(CPYF)、物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)、またはオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドの実行時に表示されるアクセス・パスを再作成するための時間は、このコマンドを使用して保護されるアクセス・パスの目標アクセス・パス回復時間には含まれません。

このコマンドまたはアクセス・パス回復変更(CHGRCYAP)コマンドは、ジャーナル処理によってまだ保護されていないアクセス・パスの保護を管理するために使用することができます。

このコマンドの使用法の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」のトピックを参照してください。

このコマンドにはパラメーターはありません。

### 制約事項:

- このコマンドを使用するには、ジョブ制御(\*JOBCTL)特殊権限が必要です。
- このコマンドは共通\*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMRおよびQSYSOPRユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用する専用権限を持ちます。
- 現在のアクセス・パス回復状態が\*OFFの場合には、目標アクセス・パス回復時間値を指定してシステム管理アクセス・パス保護を活動化するためには、ユーザーは制限された状態になければなりません。
- ユーザー補助記憶域プール(ASP)がシステム上に存在しない場合には、ASP 1のアクセス・パスの回復時間を指定することはできません。システム・アクセス・パスの回復時間を指定しなければなりません。

上

---

## パラメーター

なし

上

---

## 例

EDTRCYAP

このコマンドは、ユーザーのシステムおよび構成済みユーザー補助記憶域プール(ASP)のターゲット・アクセス・パス回復時間を表示または変更できる「アクセス・パス回復の編集」画面を表示します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### **CPF70FA**

変更の完了前に回復時間がリセットされた。

#### **CPF70FB**

コマンドを使用する権限がない。

#### **CPF70FC**

システム時間\*OFFでASPの時間の変更は正しくない。

#### **CPF70FE**

システム時間が\*OFFの時にASPの時間変更は正しくない。

#### **CPF70F4**

エラーが起きました。

#### **CPF70F7**

回復時間を変更するためには制限状態のシステムが必要である。

#### **CPF70F9**

回復時間の変更をすべて活動化することができない。

#### **CPF700F**

&1のアクセス・パス回復時間は\*NONEに設定された。

#### **CPF701C**

システムのアクセス・パスの回復時間に対する変更が取り消された。

#### **CPF701D**

回復時間の変更中にエラーが起こった。

#### **CPF701E**

アクセス・パスの保護を\*OFFにできない。

#### **CPF702E**

アクセス・パスの回復時間がシステムの省略時の値に設定された。

#### **CPF9814**

装置&1が見つかりません。

#### **CPF9825**

装置&1は認可されていない。

#### **CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

**CPF8ED**

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

上



---

## S/36プログラム属性編集 (EDTS36PGMA)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

システム/36プログラム属性編集(EDTS36PGMA)コマンドは、指定されたプログラムのプログラム属性を変更できるように画面に表示します。指定されたプログラムの属性、または指定したライブラリーのすべてのプログラムの属性を変更することができます。指定されたプログラムの属性、または指定したライブラリーのすべてのプログラムの属性を変更することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PGM	S/36プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: S/36プログラム	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

---

### S/36プログラム (PGM)

属性を更新するプログラムの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

**\*ALL** ライブラリー中のすべてのプログラムの属性が、更新のために表示されます。指定したライブラリーが\*LIBLである場合には、\*ALLを指定することはできません。

#### プログラム名

プログラムの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

**\*LIBL** プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

#### \*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

#### ライブラリー名

プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

上

---

## 例

EDTS36PGMA PGM(RPGLIB/\*ALL)

このコマンドは、RPGLIB内のプログラムすべてのプログラム属性を表示し、それらのプログラムを変更できるようにします。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2C01

プログラム&1属性は変更されなかった。

#### CPF2C02

SSPプログラム&1の属性の変更は認められない。

#### CPF2C03

MRTMAXパラメーターの値&3が正しくない。

#### CPF2C05

ライブラリー\*LIBLでプログラム名\*ALLを使用することができない。

#### CPF7D41

発注援助要求のロギング時にエラーが起きました。

#### CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

#### CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

#### CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

#### CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

#### CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

#### CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

上



---

## S/36 プロシージャー属性編集 (EDTS36PRCA)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

システム/36プロシージャー属性編集(EDTS36PRCA)コマンドは、指定されたプロシージャーの属性を変更するために画面に表示します。指定したプロシージャーの属性または指定したライブラリーのすべてのプロシージャーの属性を変更することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
<b>MBR</b>	S/36 プロシージャー・メンバー	名前, *ALL	必須, 定位置 1
<b>FILE</b>	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QS36PRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	

上

---

### S/36 プロシージャー・メンバー (MBR)

属性を更新するプロシージャー・メンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

**\*ALL** ファイル中のすべてのプロシージャー・メンバーの属性が、更新のために表示されます。

#### プロシージャー・メンバー名

プロシージャー・メンバーの名前を指定してください。

上

---

### ソース・ファイル (FILE)

プロシージャー・メンバーの入っている物理ファイルの名前を指定します。

#### QS36PRC

これは省略時の物理ファイルの名前です。

#### ソース・ファイル名

物理ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

**\*LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

### \*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

### ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

上

---

## 例

```
EDTS36PRCA MBR(RPGPROC) FILE(RPGLIB)
```

このコマンドは、ライブラリーRPGLIB内のファイルQS36PRC中のプロシージャRPGPROCの属性を表示し、それらのプロシージャを変更できるようにします。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2C0A

メンバー&3の属性は変更されなかった。

#### CPF2C0B

SSPメンバー&3の属性の変更は認められない。

#### CPF2C08

ファイル&1がソース・ファイルでない。

#### CPF7D41

発注援助要求のロギング時にエラーが起きました。

#### CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

#### CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

#### CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

#### CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

#### CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

#### CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

#### CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上



---

## S/36ソース属性編集 (EDTS36SRCA)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

システム/36ソース属性編集(EDTS36SRCA)コマンドは、変更のために指定されたソース・メンバーの属性を画面上に表示します。指定されたソース・メンバーの属性、あるいは指定したライブラリーのすべてのソース・メンバーの属性を変更することができます。

上

---

### パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MBR	S/36ソース・メンバー	名前, *ALL	必須, 定位置 1
FILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QS36SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	

上

---

### S/36ソース・メンバー (MBR)

属性を更新するソース・メンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

\*ALL ファイル中のすべてのソース・メンバーの属性が、更新のために表示されます。

**ソース・メンバー名**

ソース・メンバーの名前を指定してください。

上

---

### ソース・ファイル (FILE)

ソース・メンバーが入っている物理ファイルの名前を指定します。

QS36SRC

省略時の物理ファイルQS36SRCが使用されます。

**ソース・ファイル名**

物理ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

\*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

## \*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

## ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

上

---

## 例

```
EDTS36SRCA MBR(*ALL) FILE(SDALIB/QS36SRC)
```

このコマンドは、ライブラリーSDALIB内のファイルQS36SRC中のソース・メンバーのすべてソース属性を表示し、それらのソース・メンバーを変更できるようにします。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF2C0A

メンバー&3の属性は変更されなかった。

#### CPF2C0B

SSPメンバー&3の属性の変更は認められない。

#### CPF2C08

ファイル&1がソース・ファイルでない。

#### CPF7D41

発注援助要求のロギング時にエラーが起きました。

#### CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

#### CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

#### CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

#### CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

#### CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

#### CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

#### CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

**CPF9871**

処理中に、エラーが起こった。

上





---

## ワークステーション・オブジェクト権限編集 (EDTWSOAUT)

実行可能場所: 対話環境 (\*INTERACT \*IPGM \*IREXX \*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ワークステーション・オブジェクト権限編集(EDTWSOAUT)コマンドは、指定されたワークステーション・オブジェクトに対して認可されたユーザーおよび対応する権限のリストを表示します。ワークステーション・オブジェクトは、I5/OSグラフィックス操作プログラムによって使用されます。オブジェクトの所有者または機密保護担当者は、オブジェクトに対する権限の認可、変更、または取り消しを行なうことができます。オブジェクトのオブジェクト管理権限を持っている場合には、他のユーザーに権限を認可しあるいは権限を取り消すことができます。

指定されたオブジェクトについて、次が表示されます。

- オブジェクト名
- オブジェクトが入っているライブラリーの名前
- オブジェクト所有者の名前
- オブジェクト・タイプ
- オブジェクトの使用が認可されているすべてのユーザーのリスト
- 各ユーザーがオブジェクトに対して持っている権限
- 権限リスト名 (オブジェクトが権限リストによって保護されている場合)

オブジェクトに対応する所有者名がない場合には、そのオブジェクトの権限は表示されません。

### 制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、オブジェクトに対するオブジェクト管理権限が必要です。
2. オブジェクトがファイルの場合には、ユーザーはこのコマンドを使用するためにオブジェクト操作権限およびオブジェクト管理権限を持っていないければなりません。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
WSOTYPE	ワークステーション・オブジェクト・タイプ	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1:	*TPLWRKARA, *WRKARA, *TPLPRTOL, *PRTOL, *TPLPRTL, *PRTL, *TPLOUTQ, *TPLOUTQL, *OUTQL, *TPLJOB, *JOB, *TPLJOBQ, *TPLJOBLOG, *JOBLOG, *TPLJOBQL, *JOBQL, *TPLMSG, *MSG, *TPLMSGQ, *TPLMSGSD, *MSGSD, *TPLSGNUSL, *SGNUSL, *TPOBJL, *OBJL, *TPLLBSL, *LIBSL, *TPLLIB, *LAUNCH, *TPLLAUNCH, *PRSET	

上

## ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)

権限を編集するワークステーション・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

### \*TPLWRKARA

作業域テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

### \*WRKARA

作業域オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

### \*TPLPRTOL

印刷装置出力リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

### \*PRTOL

印刷装置出力リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

### \*TPLPRTL

印刷装置リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

### \*PRTL

印刷装置リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

### \*TPLOUTQ

出力待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

### \*TPLOUTQL

出力待ち行列リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

### \*OUTQL

出力待ち行列リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

- \*TPLJOB**  
ジョブ・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*JOB**  
ジョブ・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLJOBQ**  
ジョブ待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLJOBLOG**  
ジョブ・ログ・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*JOBLOG**  
ジョブ・ログ・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLJOBQL**  
ジョブ待ち行列リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*JOBQL**  
ジョブ待ち行列リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLMSGL**  
メッセージ・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*MSG**  
メッセージ・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLMSGQ**  
メッセージ待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLMSGSEND**  
メッセージ送信元テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*MSGSEND**  
メッセージ送信元オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLSGNUSL**  
サインオンしたユーザー・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*SGNUSL**  
サインオンしたユーザー・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLOBJL**  
オブジェクト・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*OBJL**  
オブジェクト・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLLIBSL**  
ライブラリー・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*LIBSL**  
ライブラリー・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLLIB**  
ライブラリー・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。
- \*TPLLAUNCH**  
ジョブ送信者テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

**\*LAUNCH**

ジョブ送信者オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

**\*PRSET**

個人設定オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

上

---

**例**

```
EDTWSOAUT  WSOTYPE(*TPLMSGQ)
```

このコマンドは、メッセージ待ち行列テンプレートに対する許可ユーザーのリストを表示します。

上

---

**エラー・メッセージ**

不明

上

---

## エミュレーション出力排出 (EJTEMLOUT)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

エミュレーション出力排出(EJTEMLOUT)コマンドは、印刷装置ファイルをクローズすることによって、ホスト・システムから受信した最後のデータを強制的にスプール・ファイルまたは印刷装置に送り出します。印刷装置エミュレーション開始(STRPRTEML)コマンドに\*IMMEDを指定した場合には、このクローズの後に別の印刷装置ファイルがオープンされるので、さらに多くのデータをスプールまたは印刷することができます。印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドのスプール出力のスケジュール (SCHEDULE)パラメーターに\*FILEENDを指定した場合には、この後で印刷が開始されます。

注: エミュレーション印刷装置出力が排出された場合には、ページ排出も実行されます。

装置エミュレーションの詳細は、3270 DEVICE EMULATION SUPPORT (SC41-5408)にあります。

### 追加の考慮事項

このコマンドを実行する時には注意が必要です。 コマンドを入力する前に印刷出力を調べるか (SPOOL(\*NO)が指定されている場合) , あるいはスプール・ファイル表示(DSPSPLF)コマンドを使用してスプール・ファイルを調べて(SPOOL(\*YES)が指定されている場合) , 印刷装置データが論理的な中断点にあるかどうかを判別してください。 印刷装置エミュレーションがホスト・システムからの印刷データの処理の途中である時にこの機能が要求された場合には、グループがシステム上で別個の印刷装置ファイルに分割されます。

印刷装置エミュレーション出力でのこのコマンドの効果は、印刷装置ファイルのSPOOLおよびSCHEDULEパラメーターに指定された値によって異なります。

指定できる値およびその条件は次の通りです。

- SPOOL(\*NO): ホスト・システムから受信されたすべてのデータが印刷され、印刷装置は次のページの先頭に進みます。
- SPOOL(\*YES)およびSCHEDULE(\*IMMED): 書き出しプログラムが出力待ち行列に対して活動状態であり、このファイルを印刷中である場合には、ホスト・システムから受信されたすべてのデータが印刷され、印刷装置は次のページの先頭に進みます。書き出しプログラムが活動状態 (このファイルを印刷中) でない場合には、効果は、SCHEDULE(\*FILEEND)が指定された場合と同じです。 出力待ち行列上で別の印刷装置ファイルがオープンされます。
- SPOOL(\*YES)およびSCHEDULE(\*FILEEND):出力待ち行列上での印刷装置ファイルの状況はオープンから印刷可能に変わります。 書き出しプログラムが活動状態である場合には、データを印刷することができます。 出力待ち行列上で別の印刷装置ファイルがオープンされます。
- SPOOL(\*YES)およびSCHEDULE(\*JOBEND):出力待ち行列上での印刷装置ファイルの状況はオープンからクローズに変わります。 ジョブの終わりに達するまで、ファイルは印刷可能になりません。 出力待ち行列上で別の印刷装置ファイルがオープンされます。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
EMLDEV	エミュレーション装置または	名前	オプションル, 定位置 1
EMLLOC	エミュレーション・ロケーション	通信名	オプションル, 定位置 2
PRTDEV	印刷装置	名前	オプションル, 定位置 3

上

---

### エミュレーション装置 (EMLDEV)

ホスト・システムからデータを受け取る印刷装置エミュレーション装置の名前を指定します。この装置は3287印刷装置(EMLDEV(3287))または3289印刷装置(EMLDEV(3289))でなければならず、さらにLU1装置として現在作動中でなければなりません。この装置を使用しようとする印刷装置エミュレーション・ジョブまたはセッションは要求を通知されます。LU1セッションがブラケット間である場合には、印刷装置エミュレーションはブラケットを開始して、方向転換(CD)要求でPAキー信号をホスト・システムに送信します。LUセッションが受信状態になっている場合には、信号(CDのための要求)がホスト・システムに送信されて、印刷装置エミュレーションはCDを待ちます。CDを受信すると、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。LUセッションが送信状態になっている場合には、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。

このパラメーター、あるいは **エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)**パラメーターおよび**印刷装置 (PRTDEV)**パラメーターが必要です。

上

---

### エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)

このセッションと関連したリモート・ロケーション名を指定します。ロケーション名は装置記述の構成時に定義され、通信が行なわれるリモート・ロケーションを示します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRT EML)コマンドのエミュレーション・ロケーション(EMLLOC)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。

このパラメーターと**印刷装置 (PRTDEV)**パラメーター、または**エミュレーション装置 (EMLDEV)**パラメーターのいずれかが必要です。

上

---

### 印刷装置 (PRTDEV)

スプール出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRT EML)コマンドの印刷装置(PRTDEV)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。EMLLOCパラメーターが指定されているときには、このパラメーターを指定しなければなりません。

このパラメーターと **エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)**パラメーター、あるいは**エミュレーション装置 (EMLDEV)**パラメーターが必要です。

上

---

## 例

EJTEMLOUT EMLDEV(HOSTPRT1)

このコマンドは、エミュレーション装置HOSTPRT1を使用してホスト・システムから最新データをプール・ファイルまたは印刷装置に強制的に出力して、印刷装置エミュレーション・ジョブ内の印刷装置ファイルをクローズします。

上

---

## エラー・メッセージ

\*ESCAPEメッセージ

**CPF8595**

エミュレーション出力カプジェクト機能は実行されない。

上





## 要素定義 (ELEM)

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

要素(ELEM)コマンド定義ステートメントは、コマンド上の混合リスト・パラメーターの要素を定義するために使用されます。リスト・パラメーターとは、1つのパラメーターによって示される連続した値として一緒に渡される複数の値を受け入れるパラメーターです。値の前には、パラメーターに定義された要素の数を示す2バイトの2進数が付いています。

リスト項目とは、リスト中の特定の順序で並べられたいくつかの値のグループの中の1つの値を表す値です。タイプの異なるリスト要素がある場合には、定義しているリストの各要素にそれぞれ1つのELEMステートメントを使用しなければなりません。すべての要素が同じタイプのものである(単純リスト)場合には、個別にELEMステートメントを使用する必要はありません。単純リストの場合には、PARMステートメントの許される最大値 (MAX)パラメーターにリストの要素の数を指定するだけで十分です。

リスト中における各ELEMステートメントの位置的順序は、それらがソース・ファイルに入力される順序によって決まります。最初のELEMステートメント(最初のリスト項目に対するもの)には、同じリストに対するPARMまたはELEMステートメントの値のタイプ (TYPE)パラメーターのステートメント・ラベルと一致するステートメント・ラベルが必要です。リスト中の残りのELEMステートメントはラベルなしでなければなりません。異なる値をもつ要素のリストのネストは、最高位のレベルを含めて、3レベルの深さまで可能です。1つのリストには最大300個の要素を含めることができます。

注: ELEMステートメントには、定義中のコマンドによって弊社提供コマンド処理プログラム(CPP)が呼び出される場合にだけ使用できる一定のパラメーターおよび事前定義の値が含まれます。一部の高水準言語では制限があるので、このような値は、ユーザー定義コマンドの定義ステートメントでは有用でない場合があります。パラメーター全体が弊社提供コマンド専用である場合には、このようなパラメーターおよび値は、弊社提供コマンド用という語句によって識別されますが、その語句は適用されるパラメーター・キーワードまたは事前定義値の直後に続きます。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TYPE	値のタイプ	単純名, *DEC, *CHAR, *LGL, *NAME, *VARNAME, *INT2, *GENERIC, *INT4, *DATE, *TIME, *ZEROELEM, *HEX, *SNAME, *PNAME, *UINT2, *UINT4, *X, *CNAME	必須, 定位置 1
LEN	値の長さ	値 (最大 3 回の繰り返し): 整数	オプション, 定位置 2
CONSTANT	定数値	文字値	オプション
RSTD	制約された値	*YES, *NO	オプション
DFT	省略時の値	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
VALUES	有効な値	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
REL	比較式	要素リスト	オプション
	要素 1: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 2: 値	文字値	
RANGE	値の範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 下限値	文字値	
	要素 2: 上限値	文字値	
SPCVAL	特殊値	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 取り出し値	文字値	
	要素 2: 受け取り置き換え値	文字値	
SNGVAL	単一値	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 取り出し値	文字値	
	要素 2: 受け取り置き換え値	文字値	
MIN	許される最小値	0-300, <u>0</u>	オプション
MAX	許される最大値	整数, <u>1</u>	オプション
ALWUNPRT	印刷不能文字使用可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ALWVAR	変数名使用可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PGM	ELEMはプログラムである	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DTAARA	ELEMはデータ域である	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FILE	ファイル・パラメーターの場合 の使用法	<u>*NO</u> , *IN, *OUT, *UPD, *INOUT, *UNSPFD	オプション
FULL	全桁入力必須	*YES, <u>*NO</u>	オプション
EXPR	式の評価	<u>*NO</u> , *YES	オプション
VARY	可変の長さ	単一値: <u>*NO</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 長さ値の戻し	*YES	
	要素 2: 値の長さ	<u>*INT2</u> , *INT4	
PASSATR	属性バイト受け渡し	*YES, <u>*NO</u>	オプション
CASE	値のケース	<u>*MONO</u> , *MIXED	オプション
CCSID	値のCCSID	<u>*JOB</u> , *UTF16	オプション
DSPINPUT	画面入力	<u>*YES</u> , *PROMPT, *NO	オプション
CHOICE	テキスト選択	文字値, <u>*VALUES</u> , *NONE, *PGM	オプション
CHOICEPGM	プログラム選択	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: プログラム選択	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
INLPMTLEN	初期プロンプト長	<u>*CALC</u> , *PWD, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 17, 25, 32, 50, 80, 132, 256, 512	オプション
PROMPT	プロンプト・テキストまたはメ ッセージID	文字値, <u>*NONE</u>	オプション

---

## 値のタイプ (TYPE)

定義中のリスト項目のタイプを指定します。この要素は、整数、10進数値、または論理値とするか、あるいは名前、ラベル、日付、または時刻となることができる引用符付きまたは引用符なしの文字ストリングとすることができます。

**\*DEC** リスト項目はパック10進数値です。

**\*LGL** リスト項目は論理値(1('1')またはゼロ('0')のいずれか)です。

### \*CHAR

リスト項目は（任意に）アポストロフィで囲むことができる文字ストリングです。文字ストリングに特殊文字（アスタリスク(\*)以外）がある場合には、それをアポストロフィで囲まなければなりません。文字ストリングの最大バイト数は、CCSIDパラメーターに\*JOBを指定する場合は5000で、CCSIDパラメーターに\*UTF16を指定する場合は10000です。

### \*NAME

リスト項目は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256バイトです。最初の文字は英字か、または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。また、名前は始めと終わりを二重引用符(")で囲むか、あるいは括弧で囲まれた文字のストリングとすることもできます。特殊値(\*LIBLまたは\*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

### \*SNAME

リスト項目は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256バイトです。最初の文字は英字か、または特殊文字の1つの¥, @,または#でなければなりません。残りの文字は英数字、下線、あるいは特殊文字の1つの¥, @,または#とすることができます。文字ストリングは括弧で囲むことができます。特殊値(\*LIBLまたは\*NONEなど)を使用する場合には、SPCVALパラメーターに指定しなければなりません。

### \*CNAME

リスト項目は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256バイトです。最初の文字は英字か、または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。特殊値(\*LIBLまたは\*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

### \*PNAME

リスト項目はパス名ストリングを表す文字ストリングです。任意選択で、パス名ストリングをアポストロフィで囲むことができます。パス名ストリングに（アスタリスク(\*)以外の）特殊文字が入っている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。パス名ストリングの最大長は、CCSIDパラメーターに\*JOBを指定する場合は5000バイトで、CCSIDパラメーターに\*UTF16を指定する場合は10000バイトです。

### \*GENERIC

リスト項目は総称名を表す文字ストリングです。総称名には後にアスタリスク(\*)を付けて1文字以上が使用できますが、総称名の規則に従った名前ではなければなりません。総称名は、アスタリスクに先行する文字で始まる名前をもつ1グループのオブジェクトを識別します。アスタリスクを含めなかった場合には、システムは、総称名を1つの完全なオブジェクト名と見なします。

### \*DATE

リスト項目は日付を表す文字ストリングです。コマンドを入力する時に、年は2桁または4桁のいずれかで指定することができます。年を2桁で指定する場合には、その日付は1940年1月1日から

2039年12月31日までの範囲内になっていると見なされます。年を4桁で指定する場合には、その日付は1928年8月24日から2071年5月9日までの範囲内になっていると見なされます。これは、CPPに渡される時に、常にCYMMDDの形式で渡されます。ここで、C =世紀、YY =年、MM =月、およびDD =日です。世紀桁は、年が19XXである場合には0 (ゼロ) に、年が20XXである場合には1に設定されます。このELEMステートメントに日付の値を指定する時には、引用符なしの次の形式の1つで指定しなければなりません。MMDDYY、MMDDYYYY、またはCYMMDDです。コマンドの実行時にユーザーが日付を入力する場合には、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。日付を入力する時は、ジョブ日付区切り文字を使用することができます。区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲む必要があります。

#### \*TIME

リスト項目は時刻を表す文字ストリングです。これは、HHMMSSとして6バイトの文字ストリングでコマンド処理プログラムに渡されます。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。このステートメントに指定する値はHHMMSSの形式でなければなりません。コマンドの実行時にユーザーが時刻を入力する場合には、HHMMSSの形式で指定しなければなりません。時刻を入力する場合には、ジョブ時刻区切り記号を使用することができます。区切り文字を使用する場合には、時刻をアポストロフィで囲む必要があります。

\*HEX リスト項目値は16進形式です。指定する文字は0からFでなければなりません。これらの文字は16進(EBCDIC)文字(1バイトが2桁の16進数字)に変換され、右寄せにされ、ゼロが埋め込まれます。値をアポストロフィで囲んだ場合には、偶数桁が必要です。アポストロフィで囲まない場合には、桁数は奇数でも偶数でもかまいません。

#### \*ZEROELEM

リスト項目は常に、コマンドで値を指定できないゼロ要素のリストと見なされます。これは、CPPが値を必要としても、リストである要素に値が入力されないようにするために使用されます。\*ZEROELEMの指定された要素についてはプロンプトは表示されません。パラメーター中のその他の要素はプロンプトが表示され、リストとしてCPPに渡されます。

\*X (弊社提供コマンドの場合) リスト項目値は、文字ストリング、変数名、または数値です。値に数字、+または-符号、あるいは小数点だけが入っている場合には、値は数字として渡され、そうでない場合には、文字ストリングとして渡されます。

\*INT2 リスト項目は2バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

\*INT4 リスト項目は4バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

#### \*UINT2

リスト項目は2バイトの符号なし2進数として渡される整数です。

#### \*UINT4

リスト項目は4バイトの符号なし2進数として渡される整数です。

#### \*VARNAME

(弊社提供コマンドの場合) リスト項目値は文字ストリングとして渡されるCL変数名です。

#### ステートメント・ラベル

リスト項目には、修飾リスト名または値の混合リストを使用することができます。TYPEパラメーターによってここで指定するステートメント・ラベルは、定義中の修飾リスト名または混合リストをより詳しく記述する一連のQUALまたはELEMステートメントの最初のを識別するステートメント・ラベルです。このラベルは、このリストに対するPARMステートメントの値のタイプ(TYPE)パラメーターのステートメント・ラベルによって指定するラベルと同じでなければなりません。

上

## 値の長さ (LEN)

コマンド処理プログラム(CPP)に渡されるリスト項目値の長さを指定します。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに指定される値に従って、LENパラメーターは最大3つの長さの値を指定できるようにすることがあります。

- \*INT2, \*INT4, \*UINT2, \*UINT4, \*DATE, \*TIME, \*ZEROELEM,またはステートメント・ラベルがTYPEパラメーターに指定されていると、LENパラメーターは許可されません。
- \*DECがTYPEパラメーターに指定される場合、LEN値1は値の合計桁数を指定し、LEN値2は小数点以下の桁数を指定します。LEN値2に値が指定されない場合は、値はゼロと見なされます。
- TYPEパラメーターに\*HEXを指定した場合に指定できるのはLEN値1のみです。この長さは、16進桁が文字桁に変換された後で渡されるバイト数を指定します。2桁の16進数が1バイトに変換されるので、許可される16進桁数はLEN値1の値の2倍になります。
- TYPEパラメーターに\*Xを指定した場合には、LENパラメーターは次のように使用されます。
  - 文字データの場合には、LEN値1は、渡される最小桁数を指定します。それより長い値が入力された場合は、その値全体が渡されます。
  - 10進データの場合には、LEN値2およびLEN値3により、定数値の桁数および小数点以下の桁数を指定します。10進CL変数が入力された場合には、その変数は変数属性に従って渡されます。
  - 論理値の場合には、LEN値1に値の桁数を指定しますが、これは常に1です。
- TYPEが\*DEC, \*HEX,または\*X以外の場合は、LEN値1によってCPPに受け渡されたストリングの最大長が指定され、LEN値2および3を指定することができません。
  - TYPEパラメーターに\*PNAMEまたは\*CHARを指定し、また**値のCCSID (CCSID)**パラメーターに\*UTF16を指定すると、CPPに受け渡されるバイト数はLEN値1に指定されるバイト数の2倍になります。UTF16形式では、ほとんどの文字で2バイトが必要なため、LEN値1はUTF16文字で許可されている最大数に近くなります。UTF16ストリングがLEN値1に指定された値の2倍よりも小さければ、CPPに受け渡される値はUTF16ブランク文字によって右側が埋められます。

UTF16形式での値の処理に関する詳細については、CCSIDおよび**可変の長さ (VARY)**パラメーターの説明を参照してください。

- それ以外の場合では、LEN値1に指定される値は、コマンド処理プログラムに受け渡されるバイトの数になります。短い方の値はCPPへ受け渡される前にブランクがその値の右側に埋め込まれます。

LENパラメーターが許可されていても指定されない場合は、TYPEパラメーターに指定される値に基づいて省略時の長さが使用されます。以下のテーブルは、各TYPEの省略時の長さの値とLENパラメーターに指定できる最大値を示しています。

TYPE	省略時の長さ	最大長
*DEC	(15 5)	(24 9)
*LGL	1	1
*CHAR	32	5000
*NAME	10	256
*GENERIC	10	256
*SNAME	10	256



*CNAME	10	256
*PNAME	32	5000
*HEX	1	256
*X	(1 15 5)	(256 24 9)
*VARNAME	11	11

上

## 定数値 (CONSTANT)

定義中のコマンドの処理時にリスト項目の値が定数としてCPPに渡されることを指定します。この要素は外面的にはコマンド上に現れません。指定する場合には、値は次のパラメーターによって指定された要件を満たすものでなければなりません。

- 値のタイプ (TYPE)
- 値の長さ (LEN)
- 有効な値 (VALUES)
- 比較式 (REL)
- 値の範囲 (RANGE)
- 特殊値 (SPCVAL)
- 全桁入力必須 (FULL)

このパラメーターに文字定数を指定する場合には、32バイトより長くすることはできません。次の場合には、このパラメーターは無効です。

- 値のタイプ (TYPE)パラメーターに\*ZEROELEMを指定した場合。
- 式の評価 (EXPR)パラメーターに\*YESを指定した場合。
- 許される最大値 (MAX)パラメーターに1より大きい値を指定した場合。
- 省略時の値 (DFT)パラメーターに値を指定した場合。

定義中の要素に定数を指定する場合には、プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT)パラメーターにプロンプト・テキストを指定することはできません。ただし、その場合でも、(このリスト項目がその一部である) リスト・パラメーターのその他の要素についてはプロンプトが出され、それらの要素の値はこの定数値と一緒にリストとしてCPPに渡されます。

このパラメーターには変数をコーディングすることはできません。

上

## 制約された値 (RSTD)

リスト項目(ELEMステートメントで指定) に入力する値を有効な値 (VALUES)パラメーター、特殊値 (SPCVAL)パラメーター、または単一値 (SNGVAL)パラメーターで指定する値の1つだけに限定するかどうか、あるいは次のパラメーターによって指定される要件を満たす値ならどんな値でもよいかどうかを指定します。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)

- 値の長さ (LENパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)
- 単一値 (SNGVALパラメーター)
- 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

**\*NO** このELEMステートメントによって定義されたリスト項目に入力する値は、次のパラメーターによって指定される要件に合ったものであればどんな値でもかまいません。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)
- 値の長さ (LENパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)
- 単一値 (SNGVALパラメーター)
- 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

**\*YES** このELEMステートメントのリスト項目に入力される値は、**有効な値 (VALUES)**パラメーターの値の1つ、または**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターの比較値の1つ、または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに限定されます。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターでステートメント・ラベルまたは**\*ZEROELEM**を指定する場合には、**\*YES**を指定することはできません。

上

---

## 省略時の値 (DFT)

ユーザーが値を指定しない場合にリスト項目に割り当てられる省略時の値を指定します。すなわち、この省略時の値は、ユーザーがコマンドのコーディングまたは入力時に、このリスト項目を表すパラメーターを省略したか、あるいは要素に\*Nを指定した場合に、このリスト項目の値として使用されます。省略時の値は、次のいずれかを満たすものでなければなりません。

- 省略時の値は、次のパラメーターによって指定されている要素の要件を満たすものでなければなりません。
  - 値のタイプ (TYPEパラメーター)
  - 値の長さ (LENパラメーター)
  - 比較式 (RELパラメーター)
  - 値の範囲 (RANGEパラメーター)
  - 全桁入力必須 (FULLパラメーター)
- この値は、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーター、または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターの中の取り出し値の1つでなければなりません。
- 省略時の値が文字定数である場合には、32バイトを超えることはできません。
- **制約された値 (RSTD)**パラメーターに**\*YES**を指定する場合には、省略時の値が、**有効な値 (VALUES)**パラメーターの中の値のリスト、または**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターもしくは**単一値 (SNGVAL)**パラメーター中の比較値のリストに含まれていなければなりません。

- このELEMステートメント自体が1つのリストを定義するものである場合には、**単一値 (SNGVAL)**パラメーターで省略時の値を指定しなければなりません。

このパラメーターが有効となるのは、**許される最小値 (MIN)**パラメーターが0（これはこのリストについてのこのELEMステートメントによって定義される要素が任意選択であることを意味します）の場合だけです。**定数値 (CONSTANT)**パラメーターを指定した場合には、このパラメーターを使用することはできません。また、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに\*ZEROELEMを指定した場合には、省略時の値を指定することはできません。その場合には、システム想定 of 省略時の値が渡されます。

システム想定 of 省略時の値は、コマンド・プロンプトによって表示されません。かわりにブランクの入力フィールドが表示されます。このパラメーターに省略時の値を指定した場合には、指定通りにプロンプト機能によって表示されます。

**値** 指定した要件を満たす省略時の値、あるいは、**有効な値 (VALUES)**パラメーター、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーター、または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに指定した値の1つである省略時の値を指定してください。

この値には変数をコーディングすることはできません。

上

---

## 有効な値 (VALUES)

最大300個の定数（固定値）から成るリストを指定します。このリストからリスト項目の値として1つの定数を指定することができます。このパラメーターが有効なのは、次のすべての要件が満たされた場合だけです。

- \*YESが制約された値 (**RSTD**)パラメーターに指定されている。
- **値の範囲 (RANGE)**パラメーターと**比較式 (REL)**パラメーターが両方とも指定されていない。
- 各固定情報が、次のパラメーターにより指定されている属性に一致していること。
  - 値のタイプ (TYPEパラメーター)
  - 値の長さ (LENパラメーター)
  - 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

このパラメーターに指定する文字定数は、32バイトより長くすることはできません。リスト項目の値として指定できる定数（最大300個）を指定してください。TYPEパラメーターにステートメント・ラベルまたは\*ZEROELEMを指定した場合には、このパラメーターは無効です。

このELEMステートメントが1つのリストの中の最初の要素を定義するものである場合には、このパラメーターに指定する値は、このELEMステートメントを指し示す**PARM**ステートメントまたはELEMステートメントの**単一値(SNGVAL)**パラメーターに指定した値と同じであってははいけません。

上

---

## 比較式 (REL)

リスト項目値と別のパラメーターの値または定数との関係を指定します。参照されるキーワードと関連した値は、ユーザー指定の値ではなく、CPPに渡される値です。関係を指定するためには、次の比較演算子のどれかの後に、固定情報または他のパラメーターの値を入力してください。

\*LT より小さい



- \*LE 小さいか等しい
- \*EQ 等しい
- \*GE 大きいか等しい
- \*GT より大きい
- \*NL 小さくない
- \*NE 等しくない
- \*NG 大きくない

値のタイプ (TYPE)パラメーターに\*LGL, \*VARNAME, \*ZEROELEM,またはステートメント・ラベルを指定した場合,あるいは値の範囲 (RANGE)パラメーターまたは有効な値 (VALUES)パラメーターを指定した場合には,このパラメーターは無効です。値のタイプ (TYPE)パラメーターによって\*CHAR (文字タイプ)を指定した場合には,文字ストリングのEBCDIC値は比較では符号のない整数として使用されます。このパラメーターに文字定数を指定する場合には,32バイトより長くすることはできません。

上

---

## 値の範囲 (RANGE)

リスト項目の値の範囲 (下限および上限)を指定します。リスト項目の値は,指定された下限値以上で,指定された上限値以下でなければなりません。テストされる値は,ユーザー指定の値ではなく, CPPに送られる値です。

\*CHARなどの非数字データ・タイプの場合には,値の範囲および指定されたデータは,右寄せにされ,左側にブランクを埋め込まれます。先行ゼロが指定されていないか,あるいはデータ長が1文字しかないかぎり,非数字データの間隔を定義するのに数値範囲は使用しないでください。

比較式 (REL)パラメーターまたは有効な値 (VALUES)パラメーターを指定した場合,あるいは値のタイプ (TYPE)パラメーターに\*LGL, \*VARNAME, \*ZEROELEM,またはステートメント・ラベルを指定した場合には,このパラメーターは無効です。このパラメーターに指定する文字定数は,32バイトより長くすることはできません。

上

---

## 特殊値 (SPCVAL)

このELEMステートメントによって定義される要素に入力できる特殊値を定義する最大300個の項目からなるリストを指定します。各項目は,すべての妥当性検査の要件を満たしていなくても入力できる文字ストリング (比較値)を指定します。入力された文字ストリングが1つの項目の比較値に一致していて,置き換え値を指定した場合には,ストリングは置き換え値によって置き換えられてから,それ以上の検査なしにコマンド処理プログラム(CPP)に渡されます。置き換え値を省略した場合には,比較値がCPPに渡されます。値のタイプ (TYPE)パラメーターにステートメント・ラベルまたは\*ZEROELEMを指定した場合には,このパラメーターは無効です。

\*CURLIBの置き換え値が指定されている場合には,値\*CURLIBではなく,現行ライブラリーの名前がCPPに渡されます。比較値が\*CURLIBで,置き換え値を指定しなかった場合,あるいは置き換え値が\*CURLIBで,アポストロフィで囲まれている場合には,値\*CURLIBがCPPに渡されます。

比較値は文字ストリングですが、置き換え値は、渡すことができればどのようなものでもかまいません。ただし、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに\*DATEを指定した場合には、置き換え値を引用符なしの次の形式の1つで指定しなければなりません。MMDDYY, MMDDYYYY, またはCYMMDD。比較値にCL変数を使用する場合には、そのタイプは\*CHARでなければなりません。このELEMステートメントがリスト中の最初の要素を定義している場合には、比較値に指定する値はこのELEMステートメントを指示するPARMまたはELEMステートメントのいずれかの**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに指定された値と同じにすることはできません。

置き換え値は、**値の長さ (LEN)**パラメーターに指定されたものより長くはいけません。また、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに\*DEC, \*INT2, \*INT4, \*UINT2, または\*UINT4を指定した場合には、置き換え値のタイプはそれと同じでなければいけません。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに文字タイプ(\*CHAR, \*LGL, \*DATEなど)を指定した場合には、置き換え値は文字ストリングでなければなりません。このパラメーターに指定する文字定数は、32バイトより長くすることはできません。置き換え値を指定しない場合には、比較値は渡すことができる値でなければなりません。

この要素には変数をコーディングすることはできません。

上

---

## 単一値 (SNGVAL)

ステートメント・ラベルとして定義中の要素に指定できるか、あるいはネストされたリストに2つ以上のリスト項目(許される**最大値 (MAX)**パラメーターで定義)をもつことになる単一値(最大300個)のリストを指定します。要素が受け入れるように定義されているネストされた値のリストまたは修飾名の代わりに、これらの単一値の1つを使用することができます。各項目は入力できる文字ストリング(比較値)を指定します。入力された文字ストリングが1つの項目の比較値に一致していて、置き換え値を指定した場合には、データは置き換え値によって置き換えられてから、それ以上の検査なしでコマンド処理プログラム(CPP)に渡されます。置き換え値を省略した場合には、比較値がCPPに渡されます。このELEMステートメントがリスト中の最初の要素を定義している場合には、比較値に指定する値はこのELEMステートメントを指示するPARMまたはELEMステートメントのいずれかの**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに指定された値と同じにすることはできません。

置き換え値(置き換え値を省略した場合には比較値)は、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定された通りに渡すことができるものでなければなりません。このパラメーターに指定する文字定数は、32バイトより長くすることはできません。このパラメーターを指定できるのは、**許される最大値 (MAX)**パラメーターが1より大きい場合、または**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベルが指定されている場合だけです。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに\*ZEROELEMが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。各単一値は値のリストまたは修飾名と置き換わることができるだけで、リスト項目または修飾子とすることはできません。単一値はリストの最初の要素として渡されます。

\*CURLIBの置き換え値が指定されている場合には、値\*CURLIBではなく、現行ライブラリーの名前がCPPに渡されます。比較値が\*CURLIBで、置き換え値を指定しなかった場合、あるいは置き換え値が\*CURLIBで、アポストロフィで囲まれている場合には、値\*CURLIBがCPPに渡されます。

この要素には変数をコーディングすることはできません。

上

---

## 許される最小値 (MIN)

定義中の要素について入力しなければならない値の最小数を指定します。複数の類似値を指定できない要素については、任意指定の場合は0,必須の場合は1を、値の最小数として指定することができます。

複数の類似値を使用できる要素の場合には、**許される最大値(MAX)**パラメーターに1より大きい値を指定しているので、ゼロ(0)は、値を入力する必要がないことを示します。したがって、これはオプションの要素です。1以上の値は、要素に入力しなければならない値の最小数を示します。したがって、要素が必要です。このパラメーターに指定する値は、**許される最大値 (MAX)**パラメーターに指定する値を超えることはできません。指定された数は別のリストで必要なリスト項目の数を示します。このパラメーターを指定しない場合には、ゼロ(0)と見なされます。これは要素が任意指定であることを意味します。

**0** リスト項目は任意指定であり、入力しなくてもかまいません。

**最小数** ネストされたリストの中で指定しなければならない要素の最小数を指定してください。この値として1を割り当てた場合には、それは、その要素について値が1つは必要であるということを示します。1より大きい数を指定した場合には、その要素には、少なくとも指定した数だけの要素のリストが入ります。

上

---

## 許される最大値 (MAX)

このELEMステートメントが単純リスト項目を定義する場合に、このリスト項目のネストされたリストに入れることができる要素の最大数を指定します。1より大きい値を指定した場合には、要素は複数の類似の値（すなわち、ネストされた単純リスト）を受け入れることができます。この要素に対して（コマンドの実行時に）入力されるすべての値は、このELEMステートメントの他のパラメーター値で指定される妥当性検査要件を満たさなければなりません。

注: ネストされたリストの値は、ユーザーがリスト項目に入力した値の数を示す2バイトの2進値を先頭にして、連続的に渡されます。CLプログラムでは、変数の中での2進数値の取り扱いをサポートされていません。

**1** リスト項目は値を1つしか受け入れられません。したがって、ネストされたリストはありません。

**最大数** リスト項目が受け入れることのできる要素の最大数を指定してください。指定する最大値は、**許される最小値 (MIN)**パラメーターで指定された値以上、300以下でなければなりません。最大値が1より大きく、QUALステートメントまたは別のELEMステートメントを識別するステートメント・ラベルが**値のタイプ(TYPE)**パラメーターに指定されていない場合には、パラメーター（これも要素です）は類似の値の単純リストです（すなわち、リストの各要素はタイプや長さなど同じ要件をもちます）。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベルが指定されていて、しかもそのラベルがQUALステートメントまたは別のELEMステートメントのラベルを指している場合には、リストのリストまたは修飾名のリストを受け入れる場合にだけ、このパラメーターに1より大きい値を指定するようにしてください。**定数値 (CONSTANT)**パラメーターも指定されている場合には、1より大きい最大値は無効です。

上

---

## 印刷不能文字使用可能 (ALWUNPRT)

このELEMステートメントが16進値のX'FF'およびX'00'からX'3F'の範囲の16進値を受け入れるかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに\*CHARまたは\*Xを指定した場合だけです。

**\*YES** 表示装置または印刷装置にどのような16進値でも送ることができます。

**\*NO** 印刷不能文字をコマンド処理プログラムに渡すことはできません。

上

---

## 変数名使用可能 (ALWVAR)

要素に変数名を指定できるかどうかを指定します。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに\*VARNAME, \*ZEROELEM, \*NULL,またはステートメント・ラベルを指定した場合には、\*NOを指定することはできません。

**\*YES** 変数名を要素として使用することができます。

**\*NO** 変数名を要素として使用することはできません。

上

---

## ELEMはプログラムである (PGM)

この要素がプログラム名であるかどうかを指定します。**\*YES**が有効となるのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベル, \*CHAR, \*NAME, \*SNAME, \*CNAME,または\*GENERICを指定した場合だけです。このパラメーターに\*YESを指定しても、ELEMステートメントによって定義している要素には影響はなく、この要素の値がプログラム名であることをコンパイラーに示すだけです。この情報は、プログラム参照表示(DSPPGMREF)コマンドの出力に含めることができるように記憶されます。

**\*NO** 要素（このELEMステートメントで定義中の）はプログラム名ではありません。

**\*YES** この要素はプログラム名です。

上

---

## ELEMはデータ域である (DTAARA)

この要素がデータ域名であるかどうかを指定します。**\*YES**が有効となるのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベル, \*CHAR, \*NAME, \*SNAME, \*CNAME,または\*GENERICを指定した場合だけです。このパラメーターに\*YESを指定しても、ELEMステートメントによって定義している要素には影響はなく、この要素の値がデータ域名であることをコンパイラーに示すだけです。この情報は、プログラム参照表示(DSPPGMREF)コマンドの出力に含めることができるように記憶されます。

**\*NO** 要素（このELEMステートメントで定義中の）はデータ域名ではありません。

**\*YES** この要素はデータ域名です。

上

---

## ファイル・パラメーターの場合の使用法 (FILE)

リスト項目がファイル名であるかどうか、またそうである場合にはファイルの予定されている用途を指定します。コンパイル時にファイルの名前を使用してファイルの使用状況に関するファイル参照情報を入手できるように、特定の用途をもつファイルの名前として要素を使用することができます。このパラメーターが有効なのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベル、\*CHAR, \*NAME, \*SNAME, \*CNAME,または\*GENERIC値を指定した場合だけです。このパラメーターに指定しても、ELEMステートメントによって定義しているリスト項目に影響しません。単にこの要素の値がファイル名であること、およびそのファイルのタイプをコンパイラーに指示だけです。この情報は、DSPPGMREF (プログラム参照表示) コマンドの出力に含めることができるように、記憶されます。次のファイル・タイプの1つを指定することができます。

**\*NO** リスト項目 (このELEMステートメントで定義中の) はファイル名ではありません。

**\*IN** リスト項目は入力ファイル名です。

**\*OUT** リスト項目は出力ファイル名です。

**\*UPD** リスト項目は更新ファイル名です。

**\*INOUT**

リスト項目値は、入力と出力の両方に使用されるファイルの名前です。

**\*UNSPFD**

リスト項目値はファイルの名前ですが、その用途を指定することはできません。

上

---

## 全桁入力必須 (FULL)

リスト項目のバイト数が**値の長さ (LEN)**パラメーターで指定された数 (指定された場合) あるいは省略時の長さ (LENが指定されない場合) と正確に同じでなければならぬかどうかを指定します。

**\*NO** リスト項目値のバイト数をLENパラメーターで指定されたバイト数より少なくすることができます。

**\*YES** リスト項目値のバイト数は、LENパラメーターに指定した数と正確に同じにするか、その値の省略時の長さでなければなりません。正確な長さが有効なのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターのタイプが\*LGL, \*CHAR, \*NAME, \*SNAME, \*CNAME, \*GENERIC, \*VARIABLE,および\*HEXの場合だけです。

上

---

## 式の評価 (EXPR)

要素が文字連結のある式を受け入れることができるかどうかを指定します。

**\*NO** 要素の値として連結式を使用することはできません。

**\*YES** 要素の値として連結式を使用することができます。 **定数値 (CONSTANT)**パラメーターに値を指定した場合には、\*YESは無効です。

上



---

## 可変の長さ (VARY)

CPPに渡されるリスト項目値の前に、要素の値として入力されたバイト数を示す長さ値が先行するかどうかを指定します。

### 単一値

**\*NO** 要素値の前に桁数値を付けません。

### 要素1: 長さ値の戻し

**\*YES** CPPに渡される要素の値の前に、パラメーターに実際に指定されたバイト数を示すフィールドが先行します。**\*YES**を使用できるのは、次のパラメーター・タイプの場合だけです。**\*CHAR**, **\*NAME**, **\*SNAME**, **\*CNAME**, **\*PNAME**, **\*GENERIC**, **\*LGL**, および **\*VARNAME**。PASSATR(**\*YES**) および RTNVAL(**\*YES**) が指定されている場合には、**\*YES**を指定しなければなりません。

注: 長さの値は、リスト項目に入力され、後書きブランクを除去した実際のバイト数です。渡される長さの値は、定義されたパラメーターの長さまたは宣言された変数の長さと異なることがあります。文字ストリング・データが入っているフィールドの長さは、パラメーターについて定義された長さまたはCL変数について宣言されたLENによって決定されます。長さの値は、実際にコマンド・パラメーターに入力された文字ストリング・データ・フィールド中のバイトの数を定義します。TYPEパラメーターに**\*PNAME**または**\*CHAR**を指定し、また**値のCCSID (CCSID)**パラメーターに**\*UTF16**を指定すると、コマンド処理プログラムに受け渡された長さの値は、要素値のバイトの数を表します。この数は、**値の長さ(LEN)**パラメーターに指定した数の2倍が最大です。これは要素値がUTF16形式に変換され、UTF16文字のほとんどで2バイトが必要となるためです。UTF16形式での値の処理に関する詳細については、CCSIDおよびLENパラメーターの説明を参照してください。

### 要素2: 値の長さ

**\*INT2** 要素の長さの値は、2バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

**\*INT4** 要素の長さの値は、4バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

上

---

## 属性バイト受け渡し (PASSATR)

リスト項目データとともに属性バイトがコマンド処理プログラム(CPP)に渡されるかどうかを指定します。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベルまたは**\*ZEROELEM**を指定した場合には、このパラメーターは無効です。

属性バイトは、リスト項目データの前に置かれます。リスト項目で複数の値を指定できる場合には、それぞれの値の前に属性バイトが置かれます。

**\*NO** 属性バイトはリスト項目と一緒に渡されません。

**\*YES** リスト項目と一緒に属性バイトが渡されます。

属性バイトには次の2つのフィールドがあります。

1. 属性バイトの左端のビットは、値が指定されたかどうかを示します。左端のビットが'0'Bである場合は、コマンド処理プログラムに渡される値は省略時の値で、コマンド・ストリングには指定されていません。左端のビットが'1'Bである場合は、コマンド処理プログラムに渡される値はコマンド・ストリングに指定されています。

2. 値のタイプ (TYPE)パラメーターに\*CHARが指定された場合には、残り7つのビットは、コマンド処理プログラムに渡される値を記述します。

属性	説明
'0000010'B	A Bなどの*NAME規則を満たします。
'0000100'B	AB*などの*GENERIC規則を満たします。
'1000101'B	'A B'などの引用符付き文字ストリング
'0000101'B	5Aなどの引用符なし文字ストリング
'1001000'B	'0'または'1'の論理定数
'0001100'B	X'C1C2'などの16進値
'0100001'B	5などの符号なし数値
'0101001'B	5.2などの小数点付き符号なし数値
'0110001'B	-5などの符号付き数値
'0111001'B	-5.2などの小数点付き符号付き数値

上

---

## 値のケース (CASE)

CPPに渡される値を小文字から大文字に変更するか、あるいはコマンド・パラメーターに指定された大文字・小文字で保存するかどうかを指定します。

### \*MONO

要素の値は、小文字から大文字に変更されます。アポストロフィで囲まれたパラメーターでは、この値の指定の有無にかかわらず、大文字・小文字がそのまま保存されます。

### \*MIXED

要素の値は、コマンド・パラメーターに指定された大文字・小文字で保存されます。この値は、\*CHARおよび\*PNAMEパラメーター・タイプの場合にだけ指定することができます。

上

---

## 値のCCSID (CCSID)

要素値をコマンド処理プログラムに渡すときに使用するコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

注: コマンド・ストリングが、1208 (UTF8)のCCSIDで作成されたソース・ファイルからデータベース読み取りプログラム開始(STRDBRDR)コマンドまたはデータベース・ジョブ投入(SBMDBJOB)コマンドを使用してバッチで実行される場合、または1208のCCSIDで作成されたCLソース・ファイルからコンパイルされた場合、またはQCAPCMD APIを使用して実行され、コマンドのCCSIDが1200 (UTF16)または1208のいずれかであると指定する場合、コマンド・ストリングはユニコード形式であると見なされます。

**\*JOB** コマンド・ストリングがユニコード形式である場合は、この要素の値はコマンド処理プログラムに受け渡される前にジョブCCSIDに変換されます。そうでない場合は、このコマンド・ストリングは既にジョブのCCSID内に存在しているから見なされ、この要素に対して変換は行われません。

### \*UTF16

要素値はUTF16ストリングとしてコマンド処理プログラム(CPP)に受け渡されます。UTF16はCCSID 1200と同じユニコード形式です。UTF16形式では、ほとんどの文字で2バイト(16ビット)が必要です。コマンド・ストリングがサポートされたユニコードCCSID (1208または1200)である場合、要素値の変換はほとんどあるいはまったく実行されません。そうでない場合は、このコマンド・ストリングは既にジョブのCCSID内に存在しているから見なされ、要素値はジョブのCCSIDからCCSID 1200 (UTF16)に変換されます。

パラメーターがオプションで、コマンド・ストリングに値が指定されていない場合は、定義された省略時の値は、CPPに受け渡される前にUTF16形式に変換されます。パラメーターが定数である場合は、定義された定数値はCPPに受け渡される前にUTF16形式に変換されます。パラメーター値がコマンド・ストリングで16進リテラルとして指定される場合、16進ストリングはまずジョブのCCSIDを使用して文字ストリングに変換され、その結果生じる文字ストリングはCPPに受け渡される前にUTF16に変換されます。

\*UTF16は、\*CHARまたは\*PNAMEがTYPEに指定された場合にのみ許可されます。

UTF16形式での値の処理に関する詳細については、**値の長さ (LEN)**パラメーターおよび**可変の長さ (VARY)**パラメーターの説明を参照してください。

上

---

## 画面入力 (DSPINPUT)

キーワード値がジョブ・ログに入れられるか、プロンプト画面に表示されるかを指定します。

**\*YES** 省略時の値の\*YESは、パラメーター値がプロンプト画面に表示され、ジョブ・ログに入れられることを示します。

### **\*PROMPT**

応答\*PROMPTは、パラメーター値がプロンプト画面に表示されるが、ジョブ・ログには入れられないことを示します。

**\*NO** 応答\*NOは、パラメーター値がプロンプト画面にも表示されず、ジョブ・ログにも入れられないことを示します。

上

---

## テキスト選択 (CHOICE)

プロンプト画面で入力フィールドの右側に表示される選択項目テキストを指定します。最大30桁のテキストを表示することができます。

### **\*VALUES**

選択項目テキストは、TYPE, RSTD, RANGE, SNGVAL, SPCVAL, およびVALUESパラメーターに指定された値を基にして生成されます。定数をRANGEパラメーターに指定する場合は、選択項目テキストはハイフンで区切られた最小値と最大値で始まります。RANGEを最小値と最大値として定数で指定しないで、RSTD(\*NO)を指定する場合は、選択項目テキストはTYPEパラメーターに指定された値を基にしたパラメーター・タイプの簡略説明で始まります。SNGVALパラメーターに指定した値が、値がコマンド定義ソースに定義されていて、コンマとブランクで区切られている順序で、選択項目テキストに追加されます。選択テキストに追加された最後の項目が、値がコマンド定義ソースに定義されていて、コンマとブランクで区切られている順序で、SPCVALまたはVALUESパラメーターに指定された値です。30桁に入らないほど多くの値がある場合には、最後の値の後にピリオドが3つ続けられます。

以下はCHOICE(\*VALUES)によって生成されることがある選択項目テキストの例です。

- TYPE(\*DEC), RANGE(1.0 999.9), およびSPCVAL((\*NOMAX -1))を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。

1.0から999.9, \*NOMAX



- TYPE(\*NAME), RSTD(\*NO), SNGVAL(\*ALL),およびSPCVL(\*LIBL \*CURLIB)を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。

名前, \*ALL, \*LIBL, \*CURLIB

- RSTD(\*YES), SNGVAL(\*ALL),およびSPCVL(\*ALRTBL \*BNDDIR \*CHTFMT \*CLD \*CLS \*CMD)を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。

\*ALL, \*ALRTBL, \*BNDDIR...

#### \*NONE

値は表示されません。

- \*PGM 呼び出されるプログラムが表示する値を決定します。呼び出されるプログラムはPARMステートメントの**プログラム選択 (CHOICEPGM)**パラメーターで識別されます。

#### メッセージID

使用できる値フィールドのテキストが入っているメッセージの検索に使用されるメッセージのメッセージIDを指定します。コマンド作成(CRTCMD)コマンドの **プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)**パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルは、メッセージの検索に使用されます。

#### '選択項目テキスト'

30文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

## プログラム選択 (CHOICEPGM)

可能な選択項目テキストおよび許される値を入力するためにコマンド・プロンプトが出されている間に、呼び出すプログラムを指定します。**テキスト選択 (CHOICE)**パラメーターに\*PGMを指定した場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。そうでない場合には、指定することはできません。

#### 単一値

#### \*NONE

選択可能項目テキストおよび指定可能な値を表示するために使用するプログラムはありません。

#### 修飾子1: プログラム選択

**名前** 選択可能項目テキストまたは指定可能な値を表示するためにプロンプト表示中に呼び出すプログラムの名前を指定します。プログラムが呼び出される時に例外が起こった場合には、選択可能項目テキストはブランクのままになり、指定可能値のリストはコマンドから取られます。

#### 修飾子2: ライブラリー

**\*LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

#### \*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

**名前** プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

---

## 初期プロンプト長 (INLPMTLEN)

コマンドのプロンプトが出された時に要素に対して最初に表示される入力フィールドの長さを指定します。ユーザーは、このフィールドの先頭位置にアンパーサンド(&)を入力することによって（次の桁は空白にする）、このフィールドを最大長の512バイトまで拡張することができます。INLPMTLENは、TYPEが\*CHAR, \*NAME, \*SNAME, \*CNAME, \*PNAME, \*GENERIC,または\*HEXと指定された場合にのみ有効です。FULL(\*YES), RSTD(\*YES),またはCONSTANTが指定された場合には、INLPMTLEN(\*CALC)を指定するか、あるいはこれを省略時の値として使用しなければなりません。

### \*CALC

プロンプターが、パラメーターのタイプと長さに基づいてプロンプト・フィールドの長さを決定します。

**\*PWD** システム値QPWDLVLの現在の値が'0'または'1'の場合には、プロンプト・フィールドの長さは10バイトになります。そうでない場合には、プロンプト・フィールドの長さはパラメーターの長さによって決定されます。INLPMTLEN(\*PWD)は、TYPEが\*CHAR, \*NAME, \*SNAME, \*PNAME,または\*CNAMEと指定された場合にのみ有効です。

### 初期プロンプト長

初期長をバイト数で指定してください。有効な値は1から12, 17, 25, 32, 50, 80, 132, 256,および512です。

上

---

## プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT)

リスト項目（このELEMステートメントで定義）に使用されるプロンプト・テキストがある場合には、そのテキストを指定します。プロンプト・テキストには、コマンドのプロンプトが出されるときに要素入力フィールドの横に現れる要素の簡略説明が表示されます。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに\*ZEROELEMを指定した場合、または**定数値 (CONSTANT)**パラメーターに定数値を指定した場合には、プロンプト・テキストを指定することはできません。

### \*NONE

このELEMステートメントによって定義されたリスト項目についてプロンプト・テキストは表示されません。このリスト項目のプロンプトは入力フィールドの形で出されますが、入力フィールドと一緒にテキストは表示されません。

### メッセージID

メッセージIDを指定し、これは、プログラムでリスト項目のプロンプトを出す時に表示される最大30バイトのプロンプト・テキストを含むメッセージを識別します。指定されたIDをもつメッセージをコマンド作成(CRTCMD)コマンドの **プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)**パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルに見つけることができない場合には、メッセージIDそのものがプロンプト・テキストとして使用されます。

### 'プロンプト・テキスト'

プログラムがリスト項目のプロンプトを出している時に表示されるプロンプト・テキストを指定してください。このテキストは、アポストロフィで囲んだ30バイト以内の文字ストリングでなければなりません。

上

---

## 例

### 例1:異なる2タイプの要素を指定したパラメーターの定義

```
      PARM  KWD(JOBDESC)  TYPE(L1)  MIN(1)
L1:  ELEM  TYPE(*NAME)  LEN(10)  MIN(1)
      ELEM  TYPE(*DEC)  LEN(2)  MIN(1)  REL(*LE 60)
```

JOBDESCという名前のパラメーターが必要であり、両方とも指定する必要がある2つの要素があります。最初の要素は10文字の名前であり、2番目の要素は60以下の2桁の数値です。

### 例2:類似の要素を指定したパラメーターの定義

```
      PARM  KWD(RANGE)  TYPE(L1)  MIN( DFT(*SAME) +
      SNGVAL((*SAME 101))
L1:  ELEM  TYPE(*DEC)  MIN(1)  REL(*LE 100)
      ELEM  TYPE(*DEC)  MIN(1)  REL(*LE 100)
```

RANGEという名前のパラメーターは省略できますが、存在する場合は、どちらも100より大きくはできない2つの数値のリストとする必要があります。コマンド処理プログラムが受け渡しされた値はユーザー指定の値であるか、\*SAMEプログラムであるかどうかを判別するには、\*SAMEは検査対象の値の正常範囲の外側である101にマップされます。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上



---

## ELSE (ELSE)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (\*BPGM)
- 対話式プログラム (\*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ELSE(ELSE)コマンドは、条件付きで処理される別のコマンドを指定するためにIFコマンドと一緒に使用されます。ELSEコマンドは、前のIFコマンドで論理式評価の結果が偽の場合にだけ処理されます。結果が真の場合には、ELSEコマンドおよび関連したコマンドは処理されません。

ELSEコマンドは、偽条件の場合に処理するために、CLコマンドまたはDOグループを指定することができます。

各IFコマンドの後にELSEコマンドは必要ありませんが、コーディングされる各ELSEコマンドでは、対応するIFコマンドがその前になければなりません。IFコマンドでネストされたレベルを使用した場合には、指定されたELSEは、他のELSEコマンドとまだ一致していない、最も内側のIFコマンドと常に一致しています。ELSEコマンドは任意指定ですが、一致するすべてのELSEコマンドをコーディングすることによって、すべてのネスト・レベルの開始と終了の位置が分かりやすくなります。

**制約事項:** ELSEコマンドはCLプログラムまたはILE CLプロシージャ内でのみ有効です。対応するIFコマンドがその前になければなりません。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CMD	コマンド	コマンド・ストリング	オプション、定位置 1

上

---

## コマンド (CMD)

対応するIFコマンドの式の評価の結果が偽の場合に処理される1つまたは複数のコマンド(DOグループ内で)を指定します。

このパラメーターで指定したコマンドがDOコマンドである場合には、DOグループ内に指定したすべてのコマンドが、パラメーターによって指定したコマンドの一部と見なされます。コマンドが指定されていない場合には、偽条件では処置は取られません。

CMDキーワードによって指定されたコマンドがそのキーワードと同じ行にコーディングされない場合には、同じ行のCMDの後に左括弧をコーディングし、その次に+または-を続けて継続を示す必要があります。次に、そのコマンドと右括弧を次の行にコーディングすることができます。たとえば、次の通りです。

```
ELSE CMD( +
      GOTO C)
```

コマンドの任意の部分を実行する場合には、継続文字(+または-)を指定しなければなりません。

DOコマンドが指定された場合には、DOコマンドだけ(DOグループの一部として指定したコマンドではない)が括弧に入れられます。たとえば、次の通りです。

```
ELSE CMD(DO)
      CMD1
      CMD2
      :
      :
      ENDDO
```

次のコマンドは、CLプログラムまたはILE CLプロシージャ内では有効ですが、ELSEコマンドには指定できません。

- ENDDO (DO終了)
- MONMSG (メッセージ・モニター)
- PGM (プログラム)
- ENDPGM (プログラム終了)
- DCL (CL変数宣言)
- DCLF (ファイル宣言)
- その他のELSEコマンド
- WHEN, OTHERWISE, ENDSELECT

さらに、MONMSGコマンドは、ELSEコマンドの後の次のコマンドとして指定することはできません。

上

---

## 例

### 例1: ELSEおよびIFコマンドの使用

```
IF (&A *GT &B) THEN(CHGVAR VAR(&A) VALUE(&B))
ELSE (CHGVAR &B &A)
```

&Aの値が&Bの値より大きいと、&Aは&Bに等しく設定されます。&Aが&B以下であると、テスト結果は偽になります。ELSEコマンドにあるCHGVARコマンドが処理され、&Bの値は&Aと同じ値に設定されます。(CHGVARコマンドとそのパラメーターについては、CHGVAR (変数変更) コマンドを参照してください。)

### 例2: コマンドのネスト・レベル

```
IF COND(&A *EQ &B) +
THEN(IF (&C *EQ &D) +
THEN(IF (&C *EQ &F) THEN(DO)))
CMD1
CMD2
:
ENDDO
ELSE CMDX
ELSE CMDY
ELSE DO
```

この例は、ELSEコマンドが各IFコマンドと関連付けられている場合の、IFコマンドのネスト・レベルの使用を示しています。 ELSEコマンドを使用すると、IFコマンドのネスト・レベルが識別しやすくなります。

上

---

## エラー・メッセージ

なし

上





## 印刷装置キーのエミュレート (EMLPRTKEY)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

印刷装置キーのエミュレート(EMLPRTKEY)コマンドによって、指定された印刷装置エミュレーション装置を使用している印刷装置エミュレーション・ジョブまたはセッションが、ホスト・システムに対してPA1またはPA2キーの信号のいずれかを送ることになります。

PAキーは、ホスト・システムに信号を送るために使用されるプログラム・アクセス・キーです。ホスト・システム・プログラムが、これらのキーの機能方法を決定します。このコマンドは、LUタイプ1セッションとして機能している3287または3289のエミュレートされた印刷装置でしか使用することができません。さらにPAキーは、ホスト・システムに送られますが、即時に受信されないことがあります。

上

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
EMLDEV	エミュレーション装置または	名前	オプションル, 定位置 1
EMLLOC	エミュレーション・ロケーション	通信名	オプションル, 定位置 2
PRTDEV	印刷装置	名前	オプションル, 定位置 3
PRTKEY	エミュレート印刷装置キー	*PA1, *PA2	オプションル

上

## エミュレーション装置 (EMLDEV)

ホスト・システムからデータを受け取る印刷装置エミュレーション装置の名前を指定します。この装置は3287印刷装置(EMLDEV(3287))または3289印刷装置(EMLDEV(3289))でなければならず、さらにLU1装置として現在作動中でなければなりません。この装置を使用しようとする印刷装置エミュレーション・ジョブまたはセッションは要求を通知されます。LU1セッションがブラケット間である場合には、印刷装置エミュレーションはブラケットを開始して、方向転換(CD)要求でPAキー信号をホスト・システムに送信します。LUセッションが受信状態になっている場合には、信号(CDのための要求)がホスト・システムに送信されて、印刷装置エミュレーションはCDを待ちます。CDを受信すると、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。LUセッションが送信状態になっている場合には、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。

このパラメーター、あるいは **エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)**パラメーターおよび**印刷装置 (PRTDEV)**パラメーターが必要です。

上

---

## エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)

このセッションと関連したリモート・ロケーション名を指定します。ロケーション名は装置記述の構成時に定義され、通信が行なわれるリモート・ロケーションを示します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRTMPL)コマンドのエミュレーション・ロケーション(EMLLOC)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。

このパラメーターと印刷装置 (PRTDEV)パラメーター、またはエミュレーション装置 (EMLDEV)パラメーターのいずれかが必要です。

上

---

## 印刷装置 (PRTDEV)

スプール出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRTMPL)コマンドの印刷装置(PRTDEV)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。EMLLOCパラメーターが指定されているときには、このパラメーターを指定しなければなりません。

このパラメーターと エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)パラメーター、あるいはエミュレーション装置 (EMLDEV)パラメーターが必要です。

上

---

## エミュレート印刷装置キー (PRTKEY)

ホスト・システムに送信されるPAキー信号を指定します。ホスト・システム・プログラムが、これらのキーの機能方法を決定します。

**\*PA1** PA1キー信号がホスト・システムに送信されます。

**\*PA2** PA2キー信号がホスト・システムに送信されます。

上

---

## 例

```
EMLPRTKEY EMLDEV(HOSTPRT2) PRTKEY(*PA2)
```

このコマンドによって、エミュレーション装置HOSTPRT2を使用した印刷装置エミュレーション・セッションが、PA2キー信号をホスト・システムに送信することになります。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPEメッセージ

#### CPF8598

印刷キー・エミュレート機能は実行されない。

上

---

## エージェント・サービスの終了 (ENDAGTSRV)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

エージェント・サービスの終了 (ENDAGTSRV) コマンドは、このシステム上で、設定ファイルで定義されているエージェント・サービスのすべてを終了します。サービスの終了方法の定義を助けるために、別の設定ファイルも使用されます。この設定ファイルは、設定ファイル・ディレクトリー (PREFDIR) に指定されたディレクトリー内にある *ABLEPLATFORM.PREFERENCES* および *ABLE.PREFERENCES* という名前のストリーム・ファイルです。

エージェント・サービスは、エージェント・サービスの開始 (STRAGTSRV) コマンドを実行することによって再始動することができます。

### 制約事項:

- このコマンドを実行するには、全オブジェクト (\*ALLOBJ) およびジョブ制御 (\*JOBCTL) 特殊権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PREFDIR	設定ファイル・ディレクトリー	パス名, *DFT	オプション

上

---

## 設定ファイル・ディレクトリー (PREFDIR)

終了するエージェント・サービスおよびその終了方法が定義されている設定ファイルが入っているディレクトリーを指定します。設定ファイルは *ABLEPLATFORM.PREFERENCES* および *ABLE.PREFERENCES* という名前にする必要があります。

**\*DFT** /QIBM/PRODDATA/OS400/ABLE/にある設定ファイルを使用してください。

**パス名** エージェント・サービスを終了するために使用される設定ファイルが入っているディレクトリーを指定してください。

上

---

## 例

例1: 出荷された省略時の値を使用した終了

ENDAGTSRV

このコマンドは、'/QIBM/PRODDATA/OS400/ABLE/'内のABLEPLATFORM.PREFERENCES省略時ファイル中に定義されたエージェント・サービスのすべてを、'/QIBM/PRODDATA/OS400/ABLE/'内のABLE.PREFERENCES省略時ファイル中に定義された方法で終了します。

## 例2:ユーザー指定値を使用した

```
ENDAGTSRV PREFDIR('/QIBM/USERDATA/OS400/ABLE/TEST/')
```

このコマンドは、'/QIBM/USERDATA/OS400/ABLE/TEST/'内のABLEPLATFORM.PREFERENCESファイル中に定義された実行中のエージェント・サービスのすべてを、'/QIBM/USERDATA/OS400/ABLE/TEST/'内のABLE.PREFERENCES省略時ファイル中に定義された方法で終了します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF1890

要求された操作には\*ALLOBJ権限が必要である。

#### CPF90FF

要求された操作を実行するためには、\*JOBCTL特殊権限が必要である。

#### 投入されたジョブからのエラー・メッセージ:

このコマンドは、エージェント・サービスが実行中のバッチ・ジョブを終了します。次のエラー・メッセージがこのバッチ・ジョブに対して出されることがあります。

#### CPF4B03

JAVA仮想マシン(JVM)例外が起きました。

#### CPF4B04

エージェント・サービスの終了を完了できません。理由コードは&1です。

上

---

## ASPバランス化終了 (ENDASPBAL)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

ASPバランス終了(ENDASPBAL)コマンドにより、ユーザーはASPバランス開始(STRASPBAL) CLコマンドを使用して開始されたASPバランス機能を終了することができます。各ASPのASPバランス機能が終了すると、システム・ヒストリー(QHST)ログにメッセージが送信されます。

ASPバランス化の詳細については、AS/400階層記憶管理(HSM) (SD88-5071)を参照してください。

### 制約事項:

- このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(\*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ASP	ASP番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 1-32	オプションル、定位置 1
ASPDEV	ASP装置	単一値: *ALLAVL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプションル

上

---

## ASP番号 (ASP)

ASPバランス化機能が終了する補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

注: **ASP番号 (ASP)**パラメーターまたは**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。両方のパラメーターを指定することもできます。

### 単一値

**\*ALL** システムASP (ASP番号1)およびシステムに定義されているすべての基本ASP (ASP番号2から32)のASPバランス化機能が終了します。

### その他の値 (最大32個指定可能)

#### 1から32

ASPバランス化を終了するASPの番号を指定してください。

上

---

## ASP装置 (ASPDEV)

ASPバランス化を終了する補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: **ASP番号 (ASP)**パラメーターまたは**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。両方のパラメーターを指定することもできます。

### 単一値

#### \*ALLAVL

現在「使用可能」の状態になっているすべてのASP装置のASPバランス化が終了します。

### その他の値 (最大32個指定可能)

**名前** ASPバランス化を終了する独立ASP装置の名前を指定してください。

上

---

## 例

### 例1: ASP 1のASPバランス化を終了する

```
ENDASPBAL ASP(1)
```

このコマンドにより、ユーザーは、ASP 1 に対するASPバランス化機能を終了することができます。

### 例2: ASP 1から32のASPバランス化を終了する

```
ENDASPBAL ASP(*ALL)
```

このコマンドは、現在バランス化が行われているシステムASP (ASP番号1)および各基本ASP (ASP番号2から32)に対するASPバランス化機能を終了します。

### 例3: ASP装置のASPバランス化を終了する

```
ENDASPBAL ASPDEV(MYASP1)
```

このコマンドは、ASP装置MYASP1に対するASPバランス化機能を終了します。

### 例4:すべてのASPのASPバランス化を終了する

```
ENDASPBAL ASP(*ALL) ASPDEV(*ALLAVL)
```

このコマンドは、状況が「使用可能」であるASP番号1から32およびすべてのASP装置で活動している可能性があるASPバランス化機能を終了します。

上

---

## エラー・メッセージ

### \*ESCAPE メッセージ

#### CPF18AC

ASP &1に対するASPバランス化は活動状態になっていません。

#### CPF18AD

ASP &1には複数の単一装置が含まれていなければなりません。

**CPF1890**

要求された操作には\*ALLOBJ権限が必要である。

**CPF9829**

補助記憶域プール&1が見つからない。

上





---

## バッチ・ジョブ終了 (ENDBCHJOB)

実行可能場所:

• バッチ・ジョブ (\*BATCH)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

バッチ・ジョブ終了(ENDBCHJOB)コマンドは、ジョブの終わりを示すバッチ入力ストリームの区切り文字です。また、インライン・ファイルの処理中にこのコマンドを検出した場合には、バッチ・ジョブ終了(ENDBCHJOB)コマンドはインライン・データ・ファイルの終わりを示すこともできます。

**制約事項:**このコマンドはワークステーションで入力することはできません。バッチ・ジョブ終了(ENDBCHJOB)コマンドは、データ・レコードの1桁目および2桁目に2つのスラッシュを先行させなければなりません。例えば、//ENDBCHJOB となります。スラッシュとコマンド名とをブランクで区切る(//ENDBCHJOB)ことができます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

---

### パラメーター

なし

上

---

### 例

```
//ENDBCHJOB
```

このコマンドは、BCHJOBコマンドで始まったジョブの終わりを指示します。

上

---

### エラー・メッセージ

**\*ESCAPE** メッセージ

CPF1753

コマンドを実行することができない。

上



---

## CHTサーバーの終了 (ENDCHTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (\*ALL)  
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター  
例  
エラー・メッセージ

クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバー終了(ENDCHTSVR)コマンドは、NODEパラメーターに指定されたクラスター・ノードで指定のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーを終了するために使用されます。これで、指定のノードがクラスター化ハッシュ・テーブル・ドメインから除去されます。クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメイン内に定義されたクラスター・ノードのすべてがNODEパラメーターに指定されると、サーバー・ジョブは全クラスター・ノードで終了し、クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーがそのクラスターから削除されます。

クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーはクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバー開始(STRCHTSVR)コマンドを使用して開始されていました。クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーに活動状態接続がある場合は、それらの接続からのそれ以上の要求はすべて失敗します。

### 制約事項:

- クラスター資源サービスはローカル・ノードで活動状態になっていなければなりません。
- NODEパラメーターに指定された全ノードには活動状態のクラスター資源サービスが必要です。
- サーバーの開始時に権限リストが指定されていた場合は、サーバーを終了するには、要求側ユーザーには、権限リストに対する変更(\*CHANGE)権限が必要です。

上

---

## パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SERVER	サーバー	通信名	必須, 定位置 1
NODE	ノード	単一値: *ALL その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 通信名, *LOCAL	オプション

上

---

## サーバー (SERVER)

終了するクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

**名前** 終了するクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーの名前を指定してください。

上

---

## ノード (NODE)

どのノードがクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーを終了するかを指定します。指定されたノードは、クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメインから除去されます。クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメイン内の全ノードが指定されると、そのサーバーはクラスター内にはもう存在しなくなります。このリスト中のノードは固有でなければなりません。このノードはクラスター内で活動状態になっていなければなりません。

### **\*LOCAL**

クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーはローカル・ノードのみで開始されます。 \*LOCALを指定できるのは、指定されたノードのリスト中で一度だけです。

**\*ALL** クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーは、クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメイン内の全クラスター・ノードで終了します。指定する場合は、\*ALLがこのリスト中のただ1つの値でなければなりません。

**名前** 終了要求を処理するノードの名前を指定してください。最大20個までのクラスター・ノードを指定することができます。

上

---

## 例

**例1: ローカル・ノード上のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーの終了**

```
ENDCHTSVR  SERVER(CT0)
```

このコマンドは、ローカル・ノードのみでクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーCT0を終了します。

**例2: クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメイン中の2つのノードの1つのクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーの終了**

クラスター化ハッシュ・テーブルCT1のドメインはFREDおよびBARNEYです。

```
ENDCHTSVR  SERVER(CT1)  NODE(FRED)
```

このコマンドは、クラスター・ノードFRED上のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバー CT1を終了します。クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーは、BARNEY上ではまだ活動状態です。

**例3: すべてのノード上のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーの終了**

クラスター化ハッシュ・テーブルCT2のドメインはFREDおよびBARNEYです。

```
ENDCHTSVR  SERVER(CT2)  NODE(*ALL)
```

このコマンドは、ローカル・ノード（すなわち、BARNEY)およびノードFRED上のCT2の名前のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーを終了します。このコマンドの実行後は、クラスター化ハッシュ・テーブルはクラスター中に存在しません。

上

---

## エラー・メッセージ

### **\*ESCAPEメッセージ**

**CPFBD03**

クラスター・ハッシュ・テーブル・サーバーの終了が失敗しました。

上



---

## 付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711  
東京都港区六本木3-2-12  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## プログラミング・インターフェース情報

本書 (i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。



---

## 商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing  
AFP  
AS/400  
CICS  
COBOL/400  
C/400  
DataPropagator  
DB2  
Distributed Relational Database Architecture  
Lotus Domino  
DRDA  
IBM  
Infoprint  
InfoWindow  
i5/OS  
iSeries  
Integrated Language Environment  
Lotus  
LPDA  
OfficeVision  
Print Services Facility  
RPG/400  
System i  
System x  
SystemView  
System/36  
TCS  
Tivoli  
WebSphere  
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

---

## コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。





Printed in Japan